

HP Client Automation

Application Manager および

Application Self-service Manager

Windows® オペレーティング システム用

ソフトウェア バージョン: 7.50

インストールおよび設定ガイド

製造パート番号: なし

ドキュメントのリリース日: 2009 年 5 月

ソフトウェアのリリース日: 2009 年 5 月



法定の通知

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

権利の制限

コンピュータ ソフトウェアの機密保持。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権

© Copyright 1998–2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows[®] XP は、Microsoft Corporation.の米国における登録商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

謝辞

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER

Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar
Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

ドキュメントの更新

本書のタイトル ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェア バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
 - ピリオドの前の番号は、メジャー リリースの番号を識別します。
 - ピリオドの後の最初の番号は、マイナー リリースの番号を識別します。
 - ピリオドの後の 2 番目の番号は、マイナー-マイナー リリースの番号を示します。
- ドキュメントのリリース日。ドキュメントが更新されるごとによります。
- ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日を示します。

最近の更新がないか確認したり、最新版を使用していることを確認したりするには、次の URL に移動してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport に登録し、サインインする必要があります。HP Passport ID に登録するには、次のサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインインのページの **[New users - please register]** のリンクをクリックしてください。

適切な製品サポート サービスを購読している場合にも、更新版および新版を受け取ることができます。詳細については、HP 営業担当者までご連絡ください。

下記の表 1 は、このドキュメントに追加された変更をリストします。

表 1 ドキュメントの変更点

章	バージョン	変更点
なし	5.10	Application Manager ガイドと Application Self-Service Manager ガイドが、このリリースで統合されました。
なし	5.10	Administrator のインストールならびにパッケージ化およびパブリッシュについての情報が、Application Manager ガイドおよび CM Application Self-Service Manager ガイドから削除され、『HP Client Automation Administrator ガイド』に追加されました。
なし	5.10	付録「命名規則」が削除されました。 この付録に含まれる情報は、『HP Client Automation Administrator ガイド』に移りました。
なし	5.10	付録「CM Configuration Server Database にクラスおよび属性を追加する」が削除されました。 この付録に含まれる情報は、『HP Client Automation Administrator ガイド』に移りました。
すべてに	7.50	HPCA Portal ユーザー インターフェイスへのすべての参照が削除

章	バージョン	変更点
適用		されました。管理タスクは、 Enterprise Manager ユーザー インターフェイスおよび CSDB Editor で実行されます。
すべてに適用	7.50	全ディレクトリパスの変更。 HP Client Automation (HPCA) - 旧 HP Configuration Management (CM) - Agent 製品のデフォルトディレクトリパスは、次に変更されました。 Program Files\Hewlett-Packard\HPCA
第 1 章	5.10	Proxy Server (以前は、「ユーザー インターフェイス」の章) および Reporting Server (以前はディレクトリおよびオブジェクトの章) のセクションは、「インフラストラクチャ」のセクションに移りました (23 ページ)。
第 1 章	7.50	21 ページ、 PRIMARY ファイルドメインのリストが更新されました。
第 2 章	5.00	28 ページ、 システム要件 がこのバージョン用に変更されました。
第 2 章	5.00	29 ページ、「 Agent のインストール プロセス 」、Radia401.msi ファイルが CM-MgmtApps50.msi という名前に変更されました。
第 2 章	7.50	31 ページ、表 3: Agent のインストールに使用できるコマンドライン引数のリストに NVDINSTALLPBR が追加されました。
第 2 章	5.00	33 ページ、 Default_catalog 、 Default_catalog_only 、および Root_catalog_name は、args.xml ファイルで利用可能な新しい属性です。
第 2 章	5.10	「 MSI リダイレクタのローカル AIP サポート 」 および 「 インターネット プロキシの使用 」 のセクションが「ユーザー インターフェイス」の章からこの「 Agent のインストール 」の章に移りました。後者は、 インターネット プロキシ に名前が変更されました。
第 2 章	7.20	28 および 39 ページ、 Windows Terminal Server エージェントに関する注意が挿入されました。
第 2 章	5.00	29 ページ、「 Agent のインストール プロセス 」、ファイル CM-MgmtApps50.msi が HPCA-E-MgmtApps75.msi に名前が変更されました。
第 2 章	7.20	48 ページ、 HPCA Agent の Windows XPE および Windows シンクライアントでの RALF インストール 上のシンクライアントへのインストールに関する新情報。
第 2 章	7.50	26 および 39 ページ、 HPCA Agent の下位機能に関する情報が追加されました。
第 2 章	7.50	39 ページ、 HPCA Agent の下位機能を参照する: HPCA Agent の下位機能に関する情報が改訂されました。
第 2 章	7.50	46 ページ、コマンドラインを使用して HPCA Agent を削除する:

章	バージョン	変更点
		HPCA Agent の下位機能に関する情報が改訂されました。
第 2 章	7.50	47 ページ、HPCA Agent のインストール時の最小空き容量の要件が修正されました。
第 2 章	7.50	53 ページ、コマンドラインを使用して HPCA Agent のインストールを変更する: HPCA Agent の下位機能に関する情報が改訂されました。
第 3 章	5.10	この章「Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ」の場所が第 8 章から移されました。 追加の変更点: 「ユーザー インターフェイス」の章にある「Agent ログ」セクションは、この章の終わりの「CM Agent ログ」情報と統合されました。この章は、「ログ」を含めるように名前が変更されました (以前は、「CM Agent ディレクトリとオブジェクト」)。
第 3 章	7.50	この章「Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ」の場所が第 3 章から移されました。 後続の章は、それぞれ順番に番号が付け直されています。
第 3 章	7.50	64 ページ、表 14、属性 LASTUSER に関する情報が追加されました。
第 3 章	7.50	71 ページ、表 18、SMINFO の新しい属性が挿入されました。
第 5 章	7.20	110 ページ、表 28、SETTINGS クラスの 2 つの新しい属性である NETSPEED および FLUSHU に関する情報が挿入されました。
第 5 章	7.20	115 ページ、ダイナミック スキャンのネームスペースの制限に関する注意が挿入されました。
第 5 章	7.50	116 ページ、通知セキュリティ (NTFYSEC) は HPCA の通知セキュリティ機能の詳細に関する新しいセクションです。
第 5 章	7.50	90 ページ、CLIENT ドメインクラスのリストが更新されました。
第 5 章	7.50	103 ページ、警告管理 (RADALERT)CLIENT ドメインのクラスに関する情報が追加されました。
第 5 章	7.50	104 ページ、接続の延期設定 (CDFCFG)CLIENT ドメインのクラスに関する情報が追加されました。
第 6 章	5.00	152 ページ、「ZBITARCH」は、ZSERVICE クラスの新しい属性です。
第 7 章	5.10	155 ページ、「タイマーを設定する」のセクションが改定および更新され、「制限時間」パラメータについての情報と ZSCHFREQ=RANDOM 設定の影響についての情報が追加されました。

章	バージョン	変更点
第 7 章	5.10	157 ページ、別個のリモート ターミナル セッションから同じマシンへの同時 CM Agent 接続についての注意が追加されました。
第 7 章	7.50	164 ページ、接続の延期機能に関して、新しい RADSKMAN 設定である cdf に関する情報が追加されました。
第 8 章	7.20	215 ページ、「バックアップと復元機能」セクションが追加されました。
第 8 章	7.50	218 ページ、「必須サービスに対するユーザー アクション」セクションが追加されました。

サポート

次の HP Software Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトには、問い合わせ先の情報と、製品、サービス、および HP ソフトウェアで提供されるサポートの詳細が掲載されています。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートでは、お客様がご自身で問題を解決するのに役立つ機能を用意しています。また、ビジネスの運営で求められる、対話型の技術サポート ツールにすばやく効率的にアクセスする方法を用意しております。サポートを受けるお客様は、サポートサイトを使って以下のことができます。

- 関心がある分野のドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア ユーザーとのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

多くのサポート分野では、HP Passport のユーザー登録とサインインが必要になります。アクティブなサポート契約が必要な分野もあります。サポートのアクセス レベルに関する詳細については、次の URL を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

目次

1	ご紹介	15
	このマニュアルについて	16
	このマニュアルの Core Server および Satellite Server での使用	17
	HP Client Automation ソリューション	17
	用語	18
	要求ステート	19
	HPCA Configuration Server Database	21
	HPCA Infrastructure	23
	Configuration Server	23
	Portal	23
	Proxy Server	24
	Reporting Server	24
	HPCA Administrator	24
	HPCA Agent	25
2	HPCA Agent をインストールする	27
	HPCA Agent のインストール	28
	システム要件	28
	プラットフォーム サポート	29
	HPCA Agent のインストール プロセス	29
	Install.ini を準備する	30
	Install.ini の [Properties] セクション	30
	Install.ini の [Args] セクション	33
	Install.ini の [Objects] セクション	37
	HPCA Agent をインストールする	39
	コマンドラインから HPCA Agent をインストールする	39
	HPCA Agent の下位機能を参照する	39
	インストールする HPCA Agent 下位機能を指定する	40
	追加のコマンドライン引数	40
	例	41

ログオンスクリプトから HPCA Agent のインストールを開始する	42
HPCA Agent インストール ウィザードを使用する	43
HPCA Agent を削除する	45
インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を削除する	45
コマンドラインを使用して HPCA Agent を削除する	46
HPCA Agent を手動でインストールする	47
HP シンクライアントで HPCA Agent をインストールする	47
HP シンクライアント デバイスへ HPCA Agent を手動でインストールする	48
Windows XPE	48
Windows CE	49
HPCA Registration and Loading Facility	49
RALF の設定と操作	50
Windows シンクライアントでの RALF インストール	50
RALF コマンドラインパラメータ	51
HPCA Agent を修復する	51
インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を修復する	52
コマンドラインを使用して HPCA Agent を修復する	52
HPCA Agent のインストールを変更する	53
インストール ウィザードを使用して HPCA Agent インストールを変更する	53
コマンドラインを使用して HPCA Agent のインストールを変更する	53
プレインストール スクリプトを使用する	54
ポストインストール スクリプトを使用する	55
MSI リダイレクタのローカル AIP のサポート	56
インターネット プロキシ	58

3 HPCA Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ 59

HPCA Agent ディレクトリ	60
HPCA Agent バージョン	60
HPCA Agent オブジェクト	61
HPCA Admin Agent Explorer を使用して HPCA Agent オブジェクトを表示する	63
ZCONFIG (ハードウェアの設定情報)	63
SYNOPSIS (クライアント オペレーション プロファイルの概要)	67
SAPSTATS (サービス アクセス プロファイルのステータス)	68
PREFACE (RADSKMAN 実行)	70

SMINFO (システム管理情報).....	71
PROFILE ファイル.....	72
HPCA Agent ログ.....	73
診断モジュール (RADSTATE).....	74
利用状況.....	74
4 エンタイトルメント ポリシーを実装する.....	77
HPCA とポリシー管理.....	78
既存の外部ポリシー情報にアクセスする.....	78
ディレクトリ ベースのエンタイトルメント.....	80
POLICY ドメイン.....	81
POLICY ドメインに含まれるクラス.....	82
ユーザーやグループを作成する.....	83
ユーザーをグループに割り当てる.....	84
グループにサービスを接続する.....	86
5 クライアント オペレーション プロファイルを設定する.....	89
クライアント オペレーション プロファイル.....	90
CLIENT ドメイン.....	90
クライアント オペレーション プロファイルを実装する.....	91
サーバーのタイプおよびロールについて.....	91
サーバーのタイプ.....	92
サーバーのロール.....	92
URI (Universal Resource Identifier) の作成.....	96
HPCA Configuration Server で COP を有効化する.....	100
HPCA Agent で COP を有効にする.....	100
クライアント オペレーション プロファイルの例.....	101
想定環境.....	102
CLIENT ドメインのその他のクラス.....	103
警告管理 (RADALERT).....	103
接続の延期設定 (CDFCFG).....	104
Core 設定 (SETTINGS).....	106
診断 (DIAGS).....	111

ハードウェア スキャン オプション (RADHWCFG).....	112
ダイナミック スキャン	115
通知セキュリティ (NTFYSEC).....	116
使用上の注意.....	117
追加のドキュメント.....	117
ユーザー インターフェイス プロパティの設定 (RADUICFG).....	117

6 サービスを準備する..... 123

マシン コンテキストおよびユーザー コンテキストでアプリケーションを設定する	124
コンポーネントのコンテキスト (ZCONTEXT) を設定する	124
サービス モード (ZSVCMODE) を設定する.....	126
HPCA Application Self-service Manager の拡張マシン/ユーザー サービス	128
マシン/ユーザー サービスを配布する.....	129
サービス グループ	129
システム アカウント (ZSYSACCT) でサービスをインストールする	130
ローカルのカタログ処理.....	131
HPCA agent コンピュータを再起動する	132
リポート タイプ.....	133
リポート修飾子: 警告メッセージのタイプ.....	133
リポート修飾子: マシンとユーザーのオプション.....	134
リポート修飾子: 即時再起動	135
複数のリポート イベントの指定	135
バージョン管理されたアプリケーションを準備する	135
バージョン管理されたアプリケーションとバージョン管理されていないアプリ ケーション.....	136
バージョン グループ エディタ.....	137
バージョン グループを作成する.....	138
Version インスタンスを作成する.....	138
Version インスタンスをバージョン グループに割り当てる.....	139
バージョン グループの配布の準備をする	140
バージョン グループを編集する.....	142
Version Group (VGROUP) クラス	143
Versions (VERSION) クラス.....	144
アプリケーション (ZSERVICE) の属性	145
ZSERVICE の属性をレポートする.....	152

7 サービスを配布する	155
配布方法.....	156
配布をテストする.....	157
接続パラメータ (RADSKMAN).....	157
Core.....	158
オペレーション.....	160
マシン/ユーザー.....	161
クライアント オペレーション プロファイル.....	163
プロセス.....	164
RADSKMAN の例.....	165
配布方法.....	167
HPCA スケジューラ.....	167
スケジュールによる配布戦略.....	169
タイマーを作成する.....	169
タイマーを設定する.....	174
タイマーをサービスに接続する.....	180
タイマーの配布をテストする.....	181
タイマー オブジェクトを削除する.....	182
タイマー オブジェクトを表示する.....	182
タイマーの動作を実験する.....	183
タイマー ログ.....	184
HPCA 通知.....	184
通知を使用する際の要件.....	185
ZSERVICE インスタンスから通知を開始する.....	186
ドラッグ アンド ドロップ通知コマンドを作成する.....	187
通知を再試行する.....	190
通知の結果を参照する.....	190
Wake-On-LAN クライアントに対するドラッグ アンド ドロップ通知.....	193
DDN を使用して HPCA Agent を割り当てる.....	194
8 HPCA Application Self-service Manager のユーザー インターフェイス	197
HPCA Application Self-service Manager のユーザー インターフェイス.....	198
ユーザー インターフェイスにアクセスする.....	198
HPCA 管理者の機能.....	198
ユーザー インターフェイスを使用する.....	198

グローバル ツールバー	199
サイドバー	199
カタログ リスト	200
サービス リスト	201
全般オプション	202
サービス リスト オプション	203
接続オプション	206
履歴	208
バンド幅	208
ステータス	208
ユーザー インターフェイスからソフトウェアをインストールする	209
ユーザー インターフェイス カatalogをリフレッシュする	210
ユーザー インターフェイスで情報を表示する	210
イベントの時間をスケジュールする	210
ソフトウェアを検証する	212
ソフトウェアを修復する	212
ソフトウェアを再設定する	212
ソフトウェアを削除する	213
HPCA Agent のセルフ メンテナンス	213
使用上の注意	213
バックアップと復元機能	215
HPCA システム トレイ	216
必須サービスに対するユーザー アクション	218
[接続の延期] ウィンドウ	219
接続の延期のユーザー アクション	219
アプリケーション: 警告メッセージと延期	220
Configuration Server Database における警告メッセージと延期インスタンス	222
作成	222
設定	222
接続	224
用語集	226
索引	238

1 ご紹介

この章は以下を目的としています。

- HP Client Automation 製品のコンポーネントについて理解する。
- HP Client Automation Configuration Server Database (CSDB) の構造を理解する。
- HPCA Agent の構造に理解する。
 - HP Client Automation Application Manager (Application Manager) および
 - HP Client Automation Application Self-service Manager (Application Self-service Manager)
- 推奨される配布戦略を理解する。

このマニュアルについて

このマニュアルでは、次の **HPCA Agent** の推奨される実装について説明します。
Application Manager および **Application Self-service Manager**。

HP では、HPCA 管理者がこのマニュアルを読み、**HPCA Agent** の使用方法と機能についてよく理解することをお勧めします。

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- **第 2 章、HPCA Agent をインストールする**
では、**HPCA Agent** をインストールする方法について説明します。
- **第 3 章、HPCA Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ**
では、**HPCA** 実装の結果を表示して検証する方法について説明します。
- **第 4 章、エンタイトルメント ポリシーを実装する**
では、ユーザーやグループを定義する方法、およびこれらを適切なアプリケーションに接続する方法について説明します。
- **第 5 章、クライアントオペレーションプロファイルを設定する**
では、最も適切な **Configuration Server** および **Proxy Server** を使用して **HPCA Agent** を設定し、フェールオーバー機能の準備をし、**HPCA Agent** を設定する方法について説明します。
- **第 6 章、サービスを準備する**
では、**HPCA agent** コンピュータの再起動や、マシン固有コンポーネントおよびユーザー固有コンポーネントを持つアプリケーションの実装など、さまざまなサービス オプションについて説明します。
- **第 7 章、サービスを配布する**
では、**HPCA** で使用できる配布方法、タイマーを使用してサービスを配布する方法、および通知機能を使用してアプリケーションを更新および削除し、サブスクリバに電子メール メッセージを送信する方法について説明します。
- **第 8 章、HPCA Application Self-service Manager のユーザーインターフェイス**
では、**Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスの使い方を説明します。

このマニュアルの Core Server および Satellite Server での使用



お客様の環境で Core および Satellite サーバーを使用している場合は、まず『Core および Satellite Server 入門ガイド』を読んでください。そこに含まれるインストール、設定、およびトラブルシューティングに関する情報は、このマニュアルよりも優先される場合があります。

HP Client Automation ソリューション

Client Automation ソリューションは、企業内のターゲット デバイスに格納されているデータの管理を自動化します。これらのソリューションでは、ユーザーが設定したパラメータに基づいてデバイスが管理されます。

HPCA ソリューションの主な特徴は以下のとおりです。

- **要求ステートアプローチ**

デバイスのオペレーティング システム、アプリケーション、および設定の要求ステートは、設定および管理できます。デバイスの要求ステートと現在のステートに差異がある場合、HP の差異分析テクノロジーより、必要となるコンポーネント レベルの変更部分が正確に判別され、管理対象デバイスには、それらの変更のみが送信されます。

- **ポリシー ベースの管理**

許可されるユーザーまたはターゲット デバイスへのデータの配布を制御するエンタイトルメントを定義できます。たとえば IT 管理者は、特定の財務データベースへのアクセスを、組織の財務部内の選択されたワークグループのみに許可するようなポリシーを実装することができます。後でエンタイトルメントに変更を加えると、影響を受けるユーザーまたはデバイスに対して、データがインストール、変更、または削除されます。

- **適応クライアント オートメーション**

ポリシーが変更されると、現在のステートに要求ステートとの差異が生じ、要求ステートに対応するように再設定されます。

- **エンド ツー エンドなライフサイクル管理**

配布ライフサイクルを通して、ポリシー ベースのデータ管理を自動化できます。HPCA ソリューションを使用すると、次のことが可能になります。

- アプリケーションのパッケージ化
- 配布前のパッケージによる影響の分析
- ハードウェアおよびソフトウェア情報の探索、収集、およびレポート

- ポリシーの割り当てを設定し、適切なデバイスまたはユーザーにデータを割り当て
- 企業内のネットワーク全体にわたるデータの配布および実装
- 要求ステート プロセスを通じた、データおよび設定の修復
- パッチ、サービス、サービス パック、ホット フィックス、およびアプリケーション更新の配布
- エンタイトルメント ポリシーを変更することにより、管理対象デバイスからデータを削除

HPCA 製品を使用すると、データの管理と継続的なデバイスの設定が可能になります。

用語

以下の用語は、このマニュアル全体を通して使用されます。**HP** では、このマニュアル内で説明するコンセプトについて理解を深めるために、これらの用語を確認して理解しておくことをお勧めします。

Configuration Server

Configuration Server Database と連動して、アプリケーション パッケージを格納、管理、および配布し、ポリシー関係と管理対象デバイスの情報を管理するサーバー。このサーバーは、**HPCA** 環境で唯一の必須製品です。これがないとインフラストラクチャは機能しません。

要求ステート

Configuration Server Database に設定されている設定パラメータによって定義されるデバイスの条件。

デバイス

このマニュアルにおける「デバイス」は、管理対象デバイス または ターゲットデバイス のいずれかとなるコンピュータや **ATM** などのハードウェア要素です。

HPCA Agent

管理対象デバイス上で動作し、**Configuration Server** と通信するソフトウェア (**Application Manager** および **Application Self-service Manager** など)。

HPCA Agent 接続

HPCA が管理するデバイスが **Configuration Server** と通信するためのプロセス。

管理対象デバイス

HP Client Automation ソリューションによって管理されるコンピュータ、ATM またはその他のハードウェア。

パッケージ

(名詞) CSDB にパブリッシュ可能なソフトウェアまたはデータのユニット。

(動詞) CSDB にパブリッシュ可能なユニットへのデータのグループ化。

ポリシー

ユーザー、ターゲット デバイス、または管理対象デバイスがアクセスできるサービスの指定。

解決

管理対象デバイスのオブジェクト属性の値を、要求ステートを実現するために必要となる値に置き換えるプロセス。

サービス

管理可能なユニットにまとめられた関連のあるパッケージ、メソッド、または動作のグループ。

ターゲット デバイス

そのソフトウェアをインストール、置換、または更新するワークステーションまたはサーバー。

ユーザー

HPCA ソリューションでは、管理されている デバイスまたはサブスクリイバの **ID**。

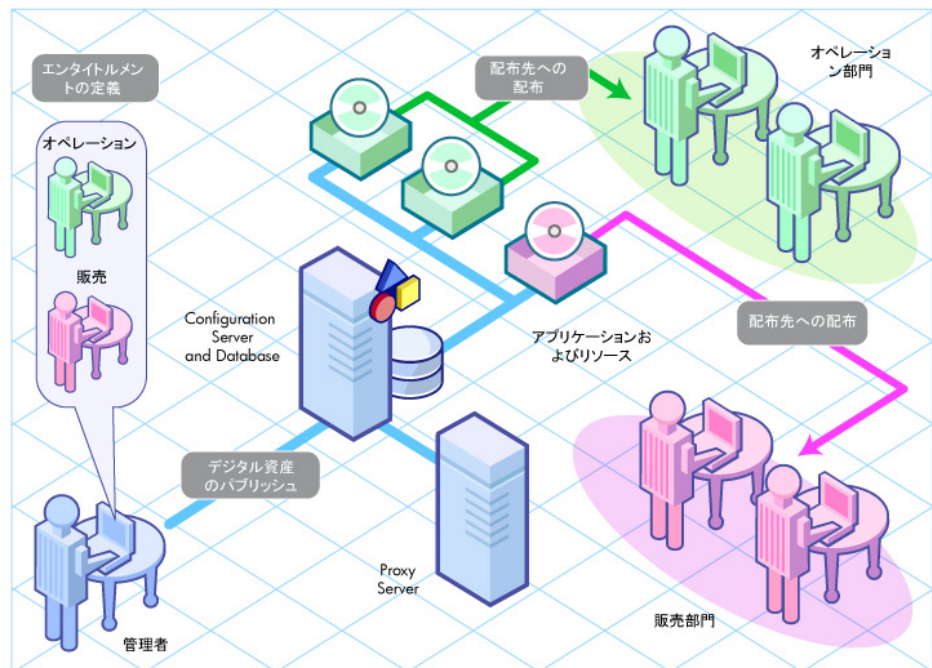
要求ステート

Client Automation では、**要求ステート**に基づいて資産の配布を管理します。要求ステートには、管理対象デバイスの **ID** と、目標とすべき設定が記録されています。要求ステートは簡単にも複雑にもできます。

要求ステートには、少なくとも以下の **5** つの要素が含まれます。

- **ユーザー**：管理されているデバイスを特定するための ID。コンピュータ名またはユーザー名のいずれでもかまいません。
- **アプリケーション**：管理対象のソフトウェア。
- **アプリケーション リソース**：アプリケーションを構成するコンポーネント。
- **配布元**：ユーザーに配布できるように、アプリケーション コンポーネントを格納するロケーション。配布元の例として、HP Client Automation Proxy Server (Proxy Server) および HP Client Automation Configuration Server (Configuration Server) が挙げられます。
- **配布先**：アプリケーションおよびそのファイルを配布するロケーション (デスクトップコンピュータ、サーバー、PDA、ラップトップなど)。

図 1 要求ステートの構成要素。



これらすべてのコンポーネントを HPCA を使用して管理します。デジタル資産のパッケージをパブリッシュし、エンタイトルメント ポリシーを決定して、パッケージを配布する方法を定義します。

▶ パッケージは、配布可能なソフトウェアやデータのユニットです。

HPCA Configuration Server Database

HP Client Automation Configuration Server (Configuration Server) にある HP Client Automation Configuration Server Database (Configuration Server Database, CSDB)は、企業の要求ステート モデルを記録します。このモデルは、配布されるデータ、ユーザーおよびデバイスがアクセスできるサービスを定義するポリシー、ならびに管理者用セキュリティおよびアクセス規則から構成されています。CSDB クラスの構造と使用方法については、『HP Client Automation Configuration Server Database リファレンス ガイド』（『CSDB リファレンス ガイド』）を参照してください。

CSDB は、以下のような階層構造になっています。

- **ファイル**は、類似したドメインをグループ化するために使用します。**PRIMARY** ファイルは、要求ステートを定義および維持するために使用します。
- **ドメイン**は、類似のクラスをグループ化するために使用するファイルの論理パーティションです。たとえば、**POLICY** ドメインには、ユーザーおよびグループの作成に必要なクラスが含まれます。
- **クラス**は、インスタンスを作成するために必要な属性を含むテンプレートです。1 つのクラスは、要求ステートの 1 つのカテゴリを表します。たとえば、**POLICY** ドメインの **USER** クラスは、管理されるアプリケーションのユーザーを定義します。管理対象デバイスを識別するために必要なすべての属性を定義します。
- **インスタンス**は、クラスのオカレンスです。クラス インスタンスの属性には、そのクラスの特定のエンティティを記述するデータが含まれます。たとえば、**USER** インスタンスには、ターゲット デバイスまたはユーザーの特定に必要な情報が含まれています。
- **属性**は、クラスのデータ要素です。クラスには、そのクラスに属する各属性の定義（名前、データ タイプ、説明、長さなど）が含まれています。そのクラスから作成される各クラス インスタンスには、そのクラスで定義される各属性の値が含まれます。たとえば、**USER** クラスの **NAME** 属性には、ユーザーの名前が含まれています。

デフォルトのファイルおよびドメイン

Configuration Server をインストールしたとき、使用できるファイルは、**LICENSE** と **PRIMARY** の 2 つだけです。**Client Automation** を使用すると、一部の管理インフラストラクチャ製品によりその他のドメインが追加されるので **CSDB** が変更されます。たとえば、**Patch Manager** によって **PATCHMGR** ドメインが追加され、**Application Usage Manager** によって **USAGE** ドメインが追加されます。

- **LICENSE** ファイルは読み取り専用で、**Configuration Server** の処理で使用されます。このファイルは **HP** 専用で、変更をしないでください。
- **PRIMARY** ファイルでは、ソフトウェア管理に関する多くの情報が見つかります。そのデフォルト ドメインは、このセクションで説明します。
 - **ADMIN** ドメイン。クラスを接続するための規則および管理権限を定義します。
 - **APPMGMT** ドメイン。**HPCA Application Management Profiles (AMPs)** で作業します。詳細については、『**HP Client Automation Application Management Profiles ユーザー ガイド**』（『**HPCA AMPs ガイド**』）を参照してください。
 - **AUDIT** ドメイン。デバイスの資産の一覧を作成するタスクを設定します。
 - **CLIENT** ドメイン。クライアント オペレーション プロファイル (COP) を設定します。この設定には、管理対象デバイスが使用できる **Configuration Server** および **Proxy Server** の定義が含まれます。詳細については、第 5 章の「**クライアント オペレーション プロファイルを設定する**」を参照してください。
 - **PATCH** ドメインを使用します。このドメインは、**HPCA Application Manager** の差異計算機能に特有のものです。
 - **POLICY** ドメイン。ユーザーとグループを作成し、ユーザーをグループに割り当てます。第 4 章(**エンタイトルメント ポリシーを実装する**)を参照してください。
 - **PRDMAINT** ドメイン。セルフメンテナンス用のパッケージを格納します。**HPCA agent** ソフトウェアは、このドメインを使用して自己修復および自己更新を行います。
 - **SOFTWARE** ドメイン。管理対象のソフトウェアや、ソフトウェアの配布に使用するメソッドに関する情報が含まれます。第 6 章(**サービスを準備する**)を参照してください。
 - **SYSTEM** ドメイン。管理制御およびプロセス制御の定義が含まれます。

Client Automation の使用を開始し、**Configuration Server** に最初のデバイスを登録すると、**PROFILE** ファイルが作成されます。このファイルには、管理対象デバイスから収集される情報が格納されます。この情報は、**HPCA** で管理されるデータを配布するためにデバイスに接続する際や、管理対象デバイスの設定を確認する際に使用されます。**PROFILE** ファイルについては、第 3 章の「**HPCA Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ**」で説明します。

NOIFY ファイルには、サブスクリイバの更新、削除、またはサブスクリイバへの電子メール送信を、通知機能を使用して試行した際の情報が含まれます。このファイルは、最初に通知を試行した後に作成されます。

HPCA Infrastructure

HPCA Infrastructure コンポーネントを使用して、会社のコンピューティング環境を管理します。これらのコンポーネントを様々な組み合わせることで、設定に応じてインフラストラクチャを拡張することができます。**HPCA** コンポーネントは、以下の 4 つのカテゴリに分類することができます。

- 管理アプリケーション
- 管理インフラストラクチャ
- 拡張インフラストラクチャ
- 管理拡張

このセクションでは、基本的な **HPCA** インフラストラクチャ コンポーネントについて説明します。すべての **HPCA** 製品の詳細については、**HP** サポート Web サイトの『**HP Client Automation Configuration Server**、**Portal** および **Enterprise Manager 入門ガイド**』（『**入門ガイド**』）を参照してください。

Configuration Server

Configuration Server は **HPCA** 管理インフラストラクチャの一部であり、1 つのサーバーのみに常駐させるか、または複数サーバーから成るネットワーク上に常駐させます。アプリケーション、およびサブスクリバや **HPCA agent** コンピュータについての情報は、**CSDB** に格納されます。**Configuration Server** は、**HPCA** 管理者が設定したポリシーに基づいてパッケージを配布します。詳細については、『**HP Client Automation Configuration Server ユーザー ガイド**』（『**Configuration Server ガイド**』）を参照してください。

Portal

Portal には、ゾーンベースのディレクトリ サービス内の環境に含まれるターゲット デバイスに関する情報を保存し、**HPCA** ジョブおよび管理機能がこれらのディレクトリ オブジェクトを利用できるように **Web** サービスを提供します。**Portal** は、**HPCA** 「拡張インフラストラクチャ」の一部です。詳細については、『**HP Client Automation Portal ガイド**』（『**Portal ガイド**』）を参照してください。

Proxy Server

HP Client Automation Proxy Server (Proxy Server) は、HPCA Agent にアプリケーションを配布するのに必要な作業の一部を処理することで、Configuration Server に対する「サポート」機能を果たします。

HPCA Agent に配布されるソフトウェアは、ネットワーク上で HPCA Agent により近い場所にある Proxy Server にコピーされ、保存されます。Proxy Server は、ソフトウェアに関連付けられた、Configuration Server からソフトウェアを取得する必要のない HPCA Agent にソフトウェアを提供します。

Proxy Server は、HPCA「拡張インフラストラクチャ」の一部です。詳細については、『HP Client Automation Proxy Server インストールおよび設定ガイド』（『Proxy Server ガイド』）を参照してください。

Reporting Server

HPCA「拡張インフラストラクチャ」の一部として、Web ベースの Reporting Server を使用すると、複数の CSDB に含まれるデータをクエリしたり、詳細なレポートを作成したりすることができます。また、既存の LDAP ディレクトリをマウントすることもできます。これにより、LDAP ディレクトリ レベルを使用してデータをフィルタリングできます。

Reporting Server のインターフェイスでは、レポートや全体的な環境の評価を行うために HPCA SQL データを使用できるようになっています。詳細については、『HP Configuration Management Reporting Server インストールおよび設定ガイド』（『Reporting Server ガイド』）を参照してください。

HPCA Administrator

HPCA には、ソフトウェア管理機能を実行するために使用するツール群である HPCA Administrator が搭載されています。これは、HPCA「管理インフラストラクチャ」の一部です。各ツールの詳細については、『HP Client Automation Administrator ユーザー ガイド』（『Administrator ガイド』）を参照してください。HPCA Administrator ツールは、以下のとおりです。

- **HPCA Administrator Packager: Admin Packager** を使用すると、「パッケージ」と呼ばれるコンポーネントのグループを作成したり、これらを Configuration Server に転送したりすることができます。
- **HPCA Administrator Configuration Server Database Editor: Admin CSDB Editor** を使用すると、Configuration Server Database (CSDB) を表示したり操作したりすることができます。

- **HPCA Administrator Agent Explorer:** Admin Agent Explorer を使用すると、HPCA Agent デバイス上の HPCA オブジェクトを表示したり操作したりすることができます。
- **HPCA Administrator Screen Painter:** Admin Screen Painter を使用すると、カスタムのダイアログ ボックスを作成できます。
- **HPCA Administrator Publisher:** Admin Publisher を使用すると、Windows Installer ファイルをパブリッシュできます。

HPCA Agent

HPCA Agent は、エンドユーザーのコンピュータにインストールされ、HPCA 管理者は次のことを実行できます。

- 自動配布
- アプリケーションの更新、修復、および削除
- ソフトウェアとハードウェアの検査

HPCA Agent には、さまざまな機能を果たす、複数の下位機能があります。表 2 に、HPCA Agent の下位機能のリストおよび説明を示します。

表 2 HPCA Agent の下位機能

下位機能	説明
Application Manager	この下位機能を使用して、企業全体に必須アプリケーションを配布します。 この下位機能については、このマニュアルで説明します。
Application Self-service Manager	この下位機能を使用すると、サービス リスト内で利用可能なオプションのアプリケーションをサブスクライバがインストール、削除、および更新できます。 この下位機能については、このマニュアルで説明します。
Inventory Manager	この下位機能を使用すると、ハードウェア情報を収集し、それを収集とレポートのために Inventory Manager に送信できます。 詳細については、『HP Configuration Management Inventory Manager ガイド』（『Inventory Manager ガイド』）を参照してください。
Local AIP Extension	この下位機能については、「MSI リダイレクタのローカル AIP のサポート」（56 ページから始まる）を参照してください。
OS Manager	この下位機能は、オペレーティング システムのプロビジョニングを制御します。 詳細については、『HP Client Automation OS Manager ガイド』

下位機能	説明
	(『OS Manager ガイド』)を参照してください。
Patch Manager	この下位機能は、セキュリティ パッチを分析および管理します。詳細については、『HP Client Automation Patch Manager ガイド』(『HPCA Patch Manager ガイド』)を参照してください。
Personality Backup and Restore Utility	この下位機能には、個々の管理対象デバイスにあるアプリケーションとオペレーティング システムのユーザー ファイルや設定をバックアップおよび復元できるユーザー インターフェイスが含まれます。 この下位機能については、このマニュアルで説明します。
PlusHP	この下位機能には、次のものが含まれます。SMART Drive Alert Monitoring、HP Hardware Alert Monitoring、および HP Hardware BIOS 設定サポート。 この下位機能については、このマニュアルで説明します。

Application Self-service Manager と Application Manager をインストールする場合、アプリケーションが必須かオプションかを決定し、アプリケーションのインストールを誰が制御するのかを指定します。Inventory Manager を追加すると、HPCA agent コンピュータのハードウェアとソフトウェアの設定を検索できます。

2 HPCA Agent をインストールする

この章は以下を目的としています。

- HPCA Agent をインストールするためのシステム要件について理解する。
- インストールプロセスをカスタマイズする方法を習得する。
- インストール プロセスの動作をカスタマイズするために、Install.ini ファイルの [Properties] セクションを変更できるようになる。
- HP Client Automation Application Self-service Manager (Application Self-service Manager) の動作をカスタマイズするために、Install.ini ファイルの [Args] セクションを変更できるようになる。
- HPCA agent コンピュータで作成する HPCA オブジェクトを指定するために、Install.ini ファイルの [Objects] セクションを変更できるようになる。
- インストール ウィザードを使用する方法を習得する。
- インストール ウィザードおよびコマンド ラインを使用して、HPCA Agent を削除および修復する方法を習得する。
- インストール ウィザードおよびコマンドラインを使用して、HPCA Agent のインストールを変更する方法を習得する。
- インストールに影響する MSI プロパティをカスタマイズするために、プレインストールスクリプトを使用する方法を習得する。
- HPCA Agent のインストール後にプロセスを実行するために、ポストインストールスクリプトを使用する方法を習得する。



お客様の環境で Core および Satellite サーバーを使用している場合は、まず『Core および Satellite Server 入門ガイド』を読んでください。そこに含まれるインストール、設定、およびトラブルシューティングに関する情報は、このマニュアルよりも優先される場合があります。

HPCA Agent のインストール

HPCA Agent インストール プログラムでは、Microsoft Windows インストーラを使用します。インストールは、表 2 (25 ページ) のにリストされている HPCA Agent の下位機能をインストールする 1 つの MSI パッケージで構成されています。



ライセンスを取得している HPCA Agent の下位機能のみをインストールしてください。ライセンスを取得していない場合、この HPCA Agent は Configuration Server で認証されません。



HPCA の Windows Terminal Server エージェント コンポーネントは、以前はこのインストール プログラム中の「Server Management Agent」に含まれる選択可能な機能でした。Server Management Agent は廃止され、Windows Terminal Server エージェント コンポーネントは Application Manager エージェントのインストールに組み込まれました。

HPCA を使用して Windows Terminal Server にアプリケーションを配布する HPCA 管理者は、

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals> の HPCA ライブラリから入手できる『HP Configuration Management Windows Terminal Server および Citrix サポートガイド』を参照してください。

システム要件

- 30 MB の空きディスク領域。
- Microsoft .NET ランタイムのバージョン 1.1 以上 (Application Self-service Manager でのみ必須) 。.NET インストール プログラムは、HPCA Agent メディアの \dotnet フォルダにあります。.NET が HPCA agent コンピュータにインストールされていない場合は、.NET インストール プログラムが自動的に実行されます。Microsoft .NET では、Microsoft Internet Explorer 5.01 以上が必要です。
- Configuration Server が動作しているコンピュータへの TCP/IP 接続。
- Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP、および Windows Vista の場合、HPCA Agent をインストールするには、コンピュータの管理者権限が必要です。

プラットフォーム サポート

本リリースでサポートされているプラットフォームについての情報は、付属のリリースノートを参照してください。

HPCA Agent のインストール プロセス

HPCA Agent インストール プログラムが実行可能ファイル (setup.exe) として配布されていても、Windows インストーラの**管理インストール ポイント (AIP)** として配布されていても、インストール プロセスは同じです。インストールする HPCA Agent、インストール ファイルのコピー先ディレクトリなど、インストールのさまざまな側面をカスタマイズできます。インストール プロセスをカスタマイズする場合は、次のファイルについて理解しておく必要があります。

- **setup.exe:** HPCA Agent メディアの \win32 ディレクトリに格納されています。このファイルは、標準の Windows インストーラの**管理インストール ポイント (AIP)** として配布されていても、インストール プロセスは同じです。インストールする HPCA Agent、インストール ファイルのコピー先ディレクトリなど、インストールのさまざまな側面をカスタマイズできます。インストール プロセスをカスタマイズする場合は、次のファイルについて理解しておく必要があります。



管理インストール ポイント (AIP) は、管理制御ポイント (ACP: Administrative Control Point) とも呼ばれます。

指定のターゲット ディレクトリに Windows インストーラの **AIP** を作成するには、次のように入力します。

```
setup.exe /a TARGETDIR=drive:\targetdirectory /qb
```

ターゲット ディレクトリには、HPCA-MgmtAppsxx.msi、インストール フォルダ、setup.exe、および setup.exe と同じディレクトリに格納されるファイル (Install.ini または **Visual Basic** スクリプトなど) が含まれています。次に、ターゲット ディレクトリに \dotnet および \MSI フォルダをコピーします。

- **HPCA-MgmtAppsxx.msi:** この MSI データベース ファイルは、HPCA Agent メディア上の \win32 ディレクトリに格納されており、インストールに関するデフォルトの設定情報が含まれています。
- **Install.ini:** Install.ini を使用すると、インストールまたは HPCA Agent の引数ファイルをカスタマイズしたり、HPCA オブジェクトの属性を作成または設定したりすることができます。Install.ini 内の設定は、HPCA-MgmtAppsxx.msi に格納されているデフォルトよりも優先されます。

サンプルの Install.ini は、HPCA Agent メディア上の \win32 ディレクトリから利用できます。

- **args.xml:** Install.ini の [ARGS] セクションに格納されている情報から作成された **Application Self-service Manager** の引数ファイルです。HPCA agent コンピュータ上の IDMLIB に格納されているこのファイルは、**Application Self-service Manager** の動作を制御します。IDMLIB のデフォルトディレクトリは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib\ です。
- **プレインストール スクリプト:** (Visual Basic のカスタム スクリプトを使用して、インストールに適用する MSI プロパティをカスタマイズします。簡単なスクリプトの例については、「**プレインストール スクリプトを使用する**」(54 ページ)を参照してください。
- **ポストインストール スクリプト:** (経験のあるユーザーのみを対象) Visual Basic、REXX、または Tel のカスタム スクリプトを使用して、最初のエージェント接続などのプロセスを実行します。例については、「**ポストインストール スクリプトを使用する**」(55 ページ)を参照してください。



HPCA では、REXX は HPCA 処理のさまざまな側面をカスタマイズするための簡単な方法を提供するインタープリタ型言語です。

HPCA 環境での REXX の使用の詳細については、『HP Configuration Management Application Manager および Configuration Server REXX プログラミング ガイド』(『REXX プログラミング ガイド』)を参照してください。

Install.ini を準備する

インストール ファイル Install.ini を作成します。このファイルは次の用途で使用します。

- インストールをカスタマイズする。
- HPCA Agent をカスタマイズする。
- HPCA オブジェクトの属性を作成または設定する。

以下のセクションには、Install.ini ファイルの 3 つのセクション (**Properties**、**Args**、および **Objects**) の説明が含まれています。

Install.ini の [Properties] セクション

[Properties] セクションを使用して、Windows インストール プロパティまたは HP 固有のプロパティを変更し、インストール プログラムの動作をカスタマイズできます。このセクションに設定する値は、HPCAE-MgmtAppsxx.msi データベース ファイルに格納されているデフォルト値より優先されます。



INSTALLDIR などのプロパティは、すべて大文字で入力する必要があります。

表 3 Install.ini の [Properties] セクション

引数	説明
ADDLOCAL	<p>ローカル ハード ドライブにインストールする HPCA Agent の下位機能を指定します。この引数にはデフォルト値はありません。</p> <p>下位機能を参照するのに利用できる方法は、「HPCA Agent の下位機能を参照する」(39 ページ)で説明されています。</p>
ARPNOREMOVE	<p>1 に設定すると、コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] を使用してコンピュータから HPCA Agent を削除する機能が無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 以降のオペレーティング システムの場合は、[削除] ボタンが無効になります。 Windows 2000 より前のバージョンのオペレーティング システムの場合は、コントロール パネルの [アプリケーションの追加と削除] の一覧に HPCA Agent が表示されなくなります。 <p>注意：0 に設定しても、Windows インストーラの問題により、このオプションは無効にはなりません。[プログラムの追加と削除] を使用してサブスクリバがコンピュータから HPCA Agent を削除できるようにするには、Install.ini の ARPNOREMOVE 引数の前にセミコロン (;) を挿入してください。</p>
INSTALLDIR	<p>HPCA Agent のインストール先ディレクトリを指定します。デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent です。</p> <p>HPCA Agent インストール ウィザードの [保存先フォルダ] ウィンドウで新しいディレクトリを指定した場合、この値は上書きされます。</p>
NVDENABLEUSER	<p>インストール ウィザードで [ユーザーの設定] ウィンドウを表示するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Y (デフォルト) を指定すると、ウィンドウが表示されます。 N を指定すると、ウィンドウは表示されません。 D を指定すると、ウィンドウは表示されますが、[ユーザー名] フィールドは無効になります。[HPCA Application Self-service Manager のアイコンをデスクトップに作成します] チェック ボックスは使用できます。 <p>注意：ウィンドウを表示しない場合、サブスクリバは [HPCA Application Self-service Manager のアイコンをデスクトップに作成します] チェック ボックスを使用できなくなります。</p>
NVDENABLEIP	<p>インストール ウィザードで [Configuration Server] ウィンドウを表示するかどうかを指定します。デフォルトは Y です。</p>

引数	説明
NVDENABLE PROXY	<p>インストール ウィザードで [プロキシ情報] ウィンドウを表示するかどうかを指定します。デフォルトは N です。</p> <p>HPCA Agent 接続の実行時に Proxy Server を使用するには、このウィンドウを表示します。</p> <p>デフォルトでは、[プロキシ情報] ウィンドウで情報を指定すると、HPCA Agent コンピュータの IDMLIB ディレクトリの PROXYINF オブジェクトに格納されます。</p>
NVDENABLE SHORTCUT	<p>[ユーザーの設定] ウィンドウに [HPCA Application Self-Service Manager のアイコンをデスクトップに作成します] チェック ボックスを表示するかどうかを指定します。デフォルトは Y です。</p> <p>このチェック ボックスをオンにすると、サブスクリバのデスクトップに Application Self-service Manager へのショートカットが作成されます。</p>
NVDSHORTCUT	<p>サブスクリバのコンピュータに Application Self-service Manager へのデスクトップ ショートカットを作成するかどうかを指定します。デフォルトは Y です。</p>
NVDSTART MENUICON	<p>サブスクリバのコンピュータの [スタート] メニューに Application Self-service Manager のアイコンを作成するかどうかを指定します。デフォルトは Y です。</p>
NVDSTARTWMI CFGMGR	<p>WMI へのショートカットをインストールするかを指定します。デフォルトは Y です。</p>
NVDDRAMSHORT CUT	<p>サブスクリバのコンピュータに Application Manager へのデスクトップ ショートカットを作成するかどうかを指定します。デフォルトは N です。</p>
NVDDRAMSTART MENUSHORTCUT	<p>サブスクリバのコンピュータの [スタート] メニューに Application Manager のアイコンを作成するかどうかを指定します。デフォルトは N です。</p>
NVDDRAMCONNECT	<p>デスクトップまたは [スタート] メニューに Application Manager のショートカットを作成した場合に、ショートカットから実行するコマンドラインを指定します。この引数にはデフォルト値はありません。</p>
NVDMAINTDIR	<p>HPCA Agent メンテナンス ファイルを格納するディレクトリを指定します。デフォルト値は、setup.exe を格納するフォルダの MAINT サブディレクトリです。</p> <p>注意：デフォルト値以外のディレクトリにメンテナンス ファイルを格納する場合にのみ、値を入力してください。</p> <p>このディレクトリ内のファイルがインストール ファイルより新しい場合、既存のファイルが HPCA Agent の IDMSYS ディレクトリにコピーされます。</p>

引数	説明
NVDLOCAL NOTIFYONLY	Y に設定すると、 HPCA Agent は HPCA 通知の発信元をローカルホストに限定できます。デフォルトは N です。
NVDRADTRAY START	Y に設定すると、 HPCA Agent のインストール プロセスで Application Manager を選択した場合に、 HPCA システム トレイが自動的に起動します。デフォルトは N です。
NVDNOTIFY INTERACT	Y に設定すると、 HPCA 通知デーモンが有効になり、デスクトップと対話できるようになります。デフォルトは N です。
NVDREDIRECT ORINTERACT	Y に設定すると、 MSI リダイレクタが有効になり、デスクトップと対話できるようになります。デフォルトは N です。
NVDSCHEDULER INTERACT	Y に設定すると、 HPCA スケジューラが有効になり、デスクトップと対話できるようになります。デフォルトは N です。
NVDPRECAPATH	Visual Basic のプレインストール カスタム スクリプトのフルパスおよびファイル名を指定します。この引数にはデフォルト値はありません。 注意：新しいオブジェクトまたはプロパティは、 Install.ini で定義する必要があります。 プレインストール スクリプトを使用して、オブジェクトまたはプロパティの値を上書きできます。ただし、プレインストール スクリプトで新しいオブジェクトまたはプロパティを指定しようとしても無視されます。 簡単なスクリプトの例については、「 プレインストール スクリプトを使用する 」(54 ページ)を参照してください。
NVDPOSTCAPATH	Visual Basic または REXX のポストインストール カスタム スクリプトのフルパスおよびファイル名を指定します。この引数にはデフォルト値はありません。 例については、「 ポストインストール スクリプトを使用する 」(55 ページ)を参照してください。

Install.ini の [Args] セクション

[Args] セクションでは、**Application Self-service Manager** の動作を制御できます。このセクションの情報は、**Application Self-service Manager** の引数ファイルである **args.xml** の作成に使用されます。これは、**HPCA agent** コンピュータの **IDMLIB** に格納されます。**IDMLIB** のデフォルト ディレクトリは、**C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib** です。

以下に、**args.xml** の例を示します。

```
<?xml version="1.0" ?>
<RADIO_ARGUMENTS>
<ARGUMENTS><CHANNELNAME>software</CHANNELNAME>
```

```

<IDENTIFICATION>jsmith</IDENTIFICATION>
<PROVIDERNAME>radia</PROVIDERNAME>
<RESOLUTIONMANAGER>10.10.10.1</RESOLUTIONMANAGER>
<LOG>connect.log</LOG>
<RESOLUTIONPORT>3464</RESOLUTIONPORT>
<ROOT_CATALOG_NAME>All Software</ROOT_CATALOG_NAME>
</ARGUMENTS>
</RADIA_ARGUMENTS>

```



ここで説明する **XML** タグ (引数) は、Install.ini に入力する際は 大文字と小文字が区別されません。args.xml ではすべて大文字に自動変換されます。

Application Manager を使用している場合は、[Args] セクションの任意のパラメータを **RADSKMAN** コマンドラインに追加できます。

表 4 Install.ini の [Args] セクション

引数	必須またはオプション	説明
askconfirm	オプション	サブスクリバへの確認メッセージを表示するかどうかを指定します。たとえば、次のような状況で確認メッセージを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> リポートが必要である。 配布時にディスク容量が不足している。 データのダウンロードが中断される。 デフォルトは Y です。
channelname	必須	アプリケーションの取得先となる CSDB のドメイン。デフォルトは、 SOFTWARE です。
default_catalog	オプション	Application Self-service Manager を起動すると選択されるデフォルト カタログを設定します。この引数にはデフォルト値はありません。
default_catalog_only	オプション	Application Self-service Manager の起動時に default_catalog のみを使用可能にするには、 Y に設定します。デフォルトは N です。
identification	オプション	ZMASTER オブジェクトの ZUSERID 変数の値を定義することにより、 Configuration Server の HPCA Agent を識別します。デフォルトは、 \$USER です。

引数	必須またはオプション	説明
		<p>HPCA Agent インストール ウィザードの [ユーザーの設定] ウィンドウで別のユーザー名を指定した場合、この値は上書きされます。この値を変更したくない場合は、INSTALL.INI の [PROPERTIES] セクションで NVDENABLEUSER=N と設定します。</p> <p>\$MACHINE: HPCA ユーザー ID は、サブスクリバのコンピュータ名になります。</p> <p>\$USER: HPCA ユーザー ID は、現在ログオンしているサブスクリバのログオン ID になります。</p> <p>CUSTOM: リテラルによるカスタム指定。</p>
log	オプション	<p>IDMLOG に格納されるログの名前を指定します。IDMLOG は、NVD.INI で指定します。デフォルトは connect.log です。</p> <p>NVD.INI のデフォルト ロケーションは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib です。</p>
logsize	オプション	<p>ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。デフォルトは 1000000 です。</p> <p>logsize の値に達すると、バックアップ ファイル (.bak) が作成されます。デフォルトでは、このファイルは connect.bak です。バックアップ ファイルが既に存在する場合は、上書きされます。</p>
logonpanel	オプション	<p>ログオン パネルを表示するかどうかを指定します。デフォルトは Y です。</p>
managerurl	オプション	<p>HTTP オブジェクト転送に使用する Configuration Server のアドレスを指定します (http://hostname:port/nvdurl の形式)。この引数にはデフォルト値はありません。</p>
providername	必須	<p>インストール時に設定された Configuration Server の名前。デフォルトは radia です。</p> <p>HPCA Agent コンピュータの STARTDIR のサブフォルダの名前を付けるのに使用されます。詳細については、startdir (37 ページ) を参照してください。</p>
redirect	オプション	<p>Application Self-service Manager のみに使用します。代替の起動ファイル (filename.xml) を指定します。</p>

引数	必須またはオプション	説明
		<p>このファイルには、ネットワークパスまたは URL でアクセスできます。この引数にはデフォルト値はありません。</p> <p>args.xml で redirect タグを設定した場合は、代替ファイルに指定したプロパティが Application Self-service Manager で使用されます。</p>
resolutionmanager	必須	<p>Configuration Server の IP アドレス。Configuration Server 名も使用できます。この引数にはデフォルト値はありません。</p> <p>HPCA Agent インストールウィザードの [Configuration Server] ウィンドウで別の IP アドレスを指定した場合、この値は上書きされます。</p> <p>この値が変更されないようにするためには、Install.ini の [PROPERTIES] セクションに NVDENABLEIP=N と設定します。</p>
resolutionport	必須	<p>Configuration Server のポート。この引数にはデフォルト値はありません。</p> <p>HPCA Agent インストールウィザードの [Configuration Server] ウィンドウで別のポートを指定した場合、この値は上書きされます。</p> <p>この値が変更されないようにするためには、Install.ini の [PROPERTIES] セクションに NVDENABLEIP=N と設定します。</p>
root_catalog_name	必須	<p>これを使用して、ルート カタログの表示名をカスタマイズします。デフォルトは All Software です。</p>
sslmanager	オプション	<p>SSL 通信に使用する Configuration Server のアドレス。この引数にはデフォルト値はありません。</p> <p>セルフメンテナンスで SSL 通信を使用する場合は、指定の IP アドレスまたはホスト名の末尾に :SM を付加します (たとえば、sslmanager=hostname::SM)。</p> <p>警告 : SM スイッチを使用する場合、CA ルート証明書を保持するファイル (cacert.pem) はメンテナンスできないことに注意してください。Configuration Server で使用している証明書に対応する CA ルート証明書が期限切れまたは取り消しになっていたり、</p>

引数	必須またはオプション	説明
		破損したりした場合、 Configuration Server への SSL 通信は無効になります。
sslport	オプション	SSL マネージャがリスンしている TCP/IP ポート (通常は 443)。この引数にはデフォルト値はありません。 sslport は、 <i>sslport=port</i> の形式で指定します。
startdir	オプション	開始 IDMLIB ディレクトリ (デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib)。 startdir=foldername を入力します。フォルダ名にスペースが含まれている場合は、名前全体を引用符 (") で囲みます。
uioption	オプション	ステータス ウィンドウを表示するかどうかを指定します。デフォルトは N です。

Install.ini の [Objects] セクション

[Objects] セクションを使用して、エージェント コンピュータで作成する HPCA オブジェクトを指定し、そのデフォルト値を設定します。フォーマットは *clientobject_attribute* です。たとえば、**Configuration Server** の IP アドレスを設定するには、**ZMASTER_ZIPADDR** と設定します。

表 5 Install.ini の [Objects] セクション

引数	説明
ZMASTER_ZDSTSOCK	Configuration Server のポート設定。デフォルトは 3464 です。
ZMASTER_ZIPADDR	Configuration Server の IP アドレス。この引数にはデフォルト値はありません。
ZMASTER_ZNTFPORT	HPCA Agent の通知デーモンがリスンしているポート。デフォルトは 3465 です。
ZMASTER_ZNTFYSEC	この属性では、通知処理で実行するプログラムのディレクトリが IDMSYS ディレクトリに限定できます。これは、通知処理でのセキュリティのために使用されます。デフォルトは Y です。

引数	説明
ZMASTER_ZTIMEO	HPCA Agent プログラムがタイムアウトになる前に Configuration Server からの応答を待機する時間 (秒単位)。デフォルトは 240 です。 有効な値は 0 から 3200 までの数字です。
ZMASTER_ZTRACE	通信バッファの情報をログに記録するかどうかを指定します。また、作成メソッドの一意的ログを生成します。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y: 通信とメソッドのトレースを有効にします。 • S: 通信の要約情報を有効にしますが、メソッドのトレースは無効になります。 • N: 通信のトレースとメソッドのトレースを無効にします。
ZMASTER_ZTRACEL	HPCA Agent ログ ファイルに生成されるトレースのレベル。デフォルトは 040 です。 有効な値は 0 から 999 です。ここで、 0 は最低のトレース レベル、 40 は大部分のアクティビティで許容されるレベル、 999 は最大のトレース レベルです。
ZMASTER_ZUSERID	サブスクリバのユーザー ID。デフォルトは、コンピュータに現在ログオンしているサブスクリバのユーザーの名前です。
ZMASTER_ZVRFYUID	Y を指定すると、Configuration Server の通知コマンドによって送信されたユーザー ID が検証されます。この検証では、HPCA Agent の ZMASTER オブジェクトの ZUSERID フィールドが使用されます。デフォルトは N です。
PROXYINF_USEPROXY	Y または N によって、Configuration Server への接続にプロキシサーバーを使用するかどうかを指定します。デフォルトは N です。
PROXYINF_DISCOVER	Microsoft Internet Explorer のみに当てはまります。 Internet Explorer のプロキシ設定を検出するには、 Y を指定します。デフォルトは N です。
PROXYINF_PROXADDR	プロキシ サーバーの IP アドレスおよびポート番号。デフォルトは xxx.xxx.xxx.xxx:1080 です。
RADSETUP_COP	Y に設定すると、クライアント オペレーション プロファイルが有効になります。デフォルトは N です。

HPCA Agent をインストールする

HPCA Agent のインストールは、次のいずれかの方法で開始できます。

- コマンドライン：下記の「[コマンドラインから HPCA Agent をインストールする](#)」から始まるを参照してください。
- ログオン スクリプト：「[ログオン スクリプトから HPCA Agent のインストールを開始する](#)」(42 ページから始まる)を参照してください。

インストールを開始すると、HPCA Agent インストール プログラムが実行されます。



HPCA の Windows Terminal Server エージェント コンポーネントが、このセクションで記述されている Application Manager エージェントのインストール時に自動的にインストールされます。

HPCA 管理者は、Windows Terminal Server エージェントの使用に関して『[HP Configuration Management Windows Terminal Server および Citrix サポート ガイド](#)』を参照してください。

このセクションでは、HPCA Agent のインストールを開始する方法と、標準の HPCA Agent インストール ウィザードについて説明します。

コマンドラインから HPCA Agent をインストールする

コマンドラインからインストールを実行する前に、次の事項について決定します。

- どの HPCA Agent をインストールするか（「[HPCA Agent の下位機能を参照する](#)」(39 ページ)を参照）
- サブスクリバに HPCA Agent のインストール プログラムを配布する方法。Web ページ、FTP サイト、マップされたドライブ、CD-ROM、または電子メールを使用することができます。

その後、必要な引数をコマンドラインに渡します。引数は、下記の「[インストールする HPCA Agent 下位機能を指定する](#)」から始まるのセクションや、下記の「[表 7](#)」および「[表 8](#)」(41 ページ)で詳細が説明してあります。

HPCA Agent の下位機能を参照する

下記の [表 6](#) には、コマンドラインで HPCA Agent の下位機能を参照するのに使用する必要のある、公認の有効な簡略表現がリストされています。

表 6 HPCA Agent 下位機能のコマンド ライン簡略表現

下位機能	簡略表現
Application Manager	NVDINSTALLRAM
Application Self-service Manager	NVDINSTALLRSM
Inventory Manager	NVDINSTALLRIM
Local AIP Extension	NVDINSTALLRLAE
OS Manager	NVDINSTALLROM
Patch Manager	NVDINSTALLPATCH
Personality Backup and Restore Utility	NVDINSTALLPBR
plusHP	NVDINSTALLPLUSHP

インストールする HPCA Agent 下位機能を指定する

インストールする下位機能を指定するには、下記の「表 7」で説明するように、適切な機能状態引数を使用します。

表 7 HPCA Agent 下位機能の機能状態引数

次を指定します。	アクション
ADDLOCAL	[ローカル ハード ドライブにインストールします] に設定する機能のカンマ区切りのリストを入力します。
REMOVE	[機能全体が使用できなくなります] に設定する下位機能のカンマ区切りのリストを入力します。 この場合、削除されるのは下位機能のみであり、製品は削除されません。したがって、 REMOVE プロパティを使用して各下位機能名を入力しても、 Core の製品はコンピュータにインストールされたままとなります。 HPCA Agent を削除するには、 REMOVE=ALL と入力します。

追加のコマンド ライン引数

下記の「表 8」では、コマンド ラインでインストール プログラムに渡すことができる追加の引数について説明します。

表 8 コマンドライン引数

例	アクション
<code>/qn</code>	サイレント インストールを実行します。 注意：サイレント インストールとは、ユーザーが介在せずに実行されるインストールのことです。これは、「自動実行インストール」、または「無人インストール」と表現する場合があります。
<code>/qb</code>	インストール時に進行状況バーのみを表示します。
<code>/L*v</code> <code>drive:\install.log</code>	Windows インストーラの詳細なログを作成します。 注意：このオプションを使用すると、インストールのパフォーマンスに影響が生じる可能性があります。
<code>/a TARGETDIR=drive:</code> <code>\targetdirectory</code>	指定のターゲット ディレクトリに Windows インストーラの AIP を作成します。 注意：Windows Installer AIP は、別名 ACP と呼ばれます。 ターゲット ディレクトリには、RADIO.MSI、インストール フォルダ、setup.exe、および setup.exe と同じディレクトリに格納される Install.ini や Visual Basic スクリプトなどのファイルが格納されます。 AIP の作成後は、setup.exe を実行して、適切なコマンドラインパラメータを渡すことができます。これにより、Windows インストーラが起動し、指定したパラメータがインストーラに渡されます。
<code>NVDINIFILE=</code> <code>path</code> <code>\INIfilename</code>	インストール INI ファイルの名前を変更する場合は、このパラメータをコマンドラインに渡します。必ずフルパスで指定してください。 デフォルトでは、インストール プログラムは、カレント ディレクトリにある Install.ini を参照します。
<code>INSTALLDIR=</code>	インストール ディレクトリを指定します。パスにスペースが含まれる場合は、二重引用符を使用します。

サイレント インストールの引数 (`/qn`) を指定せずに、コマンドラインで HPCA Agent のインストールを開始すると、HPCA Agent インストール プログラムが表示されます。詳細については、[HPCA Agent インストール ウィザードを使用する](#) (43 ページ) を参照してください。

例

次のコマンドラインの例では、Application Self-service Manager をサイレントインストールし、Windows インストーラの詳細なログを作成します。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLRSM /qn /L*v C:\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\install.log
```

次のコマンド ラインの例では、**Application Manager** および **Application Self-service Manager** をインストールします。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLLRAM,NVDINSTALLRSM
```

このコマンド ラインの引数およびその他の引数については、「[インストールする HPCA Agent 下位機能を指定する](#)」(40 ページ) および「[表 8](#)」(41 ページ) で説明します。

ログオン スクリプトから HPCA Agent のインストールを開始する

Windows マシンでログオン スクリプトを使用して、**HPCA agent** のインストールを自動化できます。

▶ **HPCA Agent** をサブスクリイバの Windows マシンに自動インストールするには、ローカル コンピュータの管理者権限がサブスクリイバに必要です。また、ドメイン コントローラで各サブスクリイバのログオンを認証する必要があります。

以下に、**HPCA Agent** をインストールするログオン スクリプトに追加できるサンプル コードを示します。サブスクリイバがサーバーにログオンするときに、**HPCA Agent** が事前にインストールされていない場合には、このログオン スクリプトによって **HPCA Agent** のインストールプログラムが実行されます。

ログオン スクリプトのサンプル


```
:begin
@echo off
if exist C:\progra~1\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\LIB\
zmaster.edm goto skipinst
    start setup.exe /qn
:skipinst
if exist C:\progra~1\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\lib\
zmaster.edm goto skipinst
```

HPCA Agent が既に存在するかどうかを判別するために、スクリプトでは **ZMASTER** オブジェクト (**ZMASTER.EDM**) がコンピュータのデフォルトのロケーションに存在するかどうかをチェックします。次のような動作になります。

- **ZMASTER.EDM** が存在する場合は、スクリプトによりインストールがスキップされます。
- **ZMASTER.EDM** が存在しない場合は、**HPCA Agent** のインストール プログラムが起動します。

▶ **ZMASTER** オブジェクトは、解決プロセスを開始し、**HPCA Agent** の接続中に交換される最初のオブジェクトになります。

サンプルのログオン スクリプトの中で、**start setup.exe /qn** というコマンドは、プログラムに **HPCA Agent** のサイレント インストールを実行するように指示します。

 このスクリプトは、組織のニーズに合わせて変更してください。


コマンドラインにサイレント インストールの引数が含まれていない場合は、**HPCA Agent** のグラフィカルなインストール プログラムが開きます。詳細については、下記の **HPCA Agent** インストール ウィザードを使用するを参照してください。

HPCA Agent インストール ウィザードを使用する

サイレント インストールの引数を指定せずに **HPCA Agent** のインストールを開始すると、**HPCA Agent** インストール ウィザードが開きます。以下では、標準的なインストール手順について説明します。これらの手順は、Install.ini や、インストール実行時に渡される任意の引数に応じて異なる場合があります。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent をインストールするには

- 1 **HPCA Agent** のインストール ファイルが格納されているフォルダの **setup.exe** を実行します。**HPCA Agent** インストール ウィザードが開きます。

 **setup.exe** は、コマンドライン、ログオン スクリプト、から起動できます。詳細については、この章の冒頭を参照してください。

- 2 **[次へ]** をクリックします。[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが表示されます。
- 3 ライセンス契約を読み、ライセンス契約に同意したら、**[次へ]** をクリックします。[デスティネーション フォルダ] ウィンドウが表示されます。

HPCA Agent のデフォルト ロケーションは次のとおりです。

C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent。

HPCA Agent に別の保存先を選択するには、**[ブラウズ]** をクリックして適切なデスティネーション フォルダを指定します。この場合、Install.ini の **INSTALLDIR** に設定されている値は上書きされます。

- 4 **[OK]** をクリックして続行します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[ユーザーの設定] ウィンドウが表示されます。
- 6 [ユーザー名] テキストボックスに、**HPCA Agent** をインストールするサブスクライバの名前を入力します。この場合、Install.ini の **IDENTIFICATION** に設定されている値は上書きされます。
- 7 必要に応じて、**[HPCA Application Self-service Manager のアイコンをデスクトップに作成します]** チェック ボックスをオンにします。






- 8 **[次へ]** をクリックします。[Configuration Server]ウィンドウが表示されます。
 - 9 [IP アドレス] ボックスに **Configuration Server** の IP アドレスを入力します。この場合、Install.ini の **RESOLUTIONMANAGER** に設定されている値は上書きされます。
 - 10 [ポート] テキスト ボックスにポート番号を入力します。この場合、Install.ini の **RESOLUTIONPORT** に設定されている値は上書きされます。
 - 11 **[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ウィンドウが表示されます。
 - 12  をクリックして、インストールする機能を選択します。
 をクリックするたびに、その下位機能のショートカット メニューが表示されます。
-  ライセンスを取得している **HPCA Agent** の下位機能のみをインストールしてください。
- 13 ショートカット メニューから、インストール オプションを選択します。これらのオプションについては、「表 9」(44 ページ)で説明します。

表 9 HPCA Agent 下位機能の選択

オプション	説明
ローカル ハード ドライブにインストールします	選択された下位機能のみをインストールします。
機能全体をローカル ハード ドライブにインストールします	すべての下位機能も含め、機能全体をインストールします。 注意 : HPCA Agent のすべての下位機能をインストールするには、[機能の選択] ウィンドウの上部で [HPCA Agent] を選択します。 Application Self-service Manager 、 Application Manager 、または Inventory Manager の場合、このインストール プログラムでこのオプションを選択しても、[ローカル ハード ドライブにインストールします] オプションを選択しても、インストール結果は同じになります。
機能全体が使用できなくなります	下位機能はインストールされません。以前にインストールした下位機能は削除されます。

-  すべての下位機能に同じオプションを設定する場合、 **[HPCA Agent]** をクリックして適切なオプションを選択し、すべての機能に設定を適用します。
- インストールに必要なディスク容量を確認するには、**[必要ディスク容量]** をクリックします。

- 14 **[次へ]** をクリックします。

ターゲット コンピュータに **.NET** がインストールされていない状態で **Application Self-service Manager** のインストールを選択した場合は、**HPCA Agent** のインストール時に **.NET** がインストールされます。ただし、コンピュータにコピーしたインストール プログラムに `\DotNet` フォルダが含まれていない場合は、**[DotNet の設定]** メッセージが表示されます。

15 **[OK]** をクリックします。

16 必要な場合は、**[次へ]** を再度クリックします。

.NET がコンピュータにインストールされていない場合は、**[.NET のインストール]** ウィンドウが表示されます。

17 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションをインストールする準備ができました] ウィンドウが表示されます。



.NET ベータをインストールしている場合は、これを必ず削除してから **.NET** をインストールしてください。

18 **[インストール]** をクリックしてインストールを開始します。

必要な場合は、**.NET Framework** セットアップ ウィザードが表示されます。表示される指示に従って、ターゲット コンピュータに **.NET** をインストールします。**.NET** が正常にインストールされたら、**HPCA Agent** のインストールが開始されます。

インストールが完了すると、正常にインストールされたことを示すウィンドウが表示されます。

19 **[完了]** をクリックしてインストール ウィザードを閉じます。

HPCA Agent を削除する

Windows インストーラのインストール プログラムは、**HPCA Agent** を削除する機能を備えています。ここでは、インストール ウィザードおよびコマンド ラインを使用して **HPCA Agent** を削除する方法について説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を削除する

ここでは、インストール ウィザードを使用して **HPCA Agent** を削除する方法について説明します。



HPCA Agent の下位機能を削除するには、[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウの **[変更]** オプションを使用します。これについては、「**HPCA Agent のインストールを変更する**」(53 ページ)で説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を削除するには

- 1 HPCA Agent のインストール ファイルが格納されているフォルダの **setup.exe** をダブルクリックします。[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[削除]** オプションを選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[HPCA Agent のアンインストール] ウィンドウが開きます。
- 4 **[削除]** をクリックします。すべての HPCA Agent のファイルがコンピュータから削除されます。
[HPCA Agent は正常にアンインストールされました] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[完了]** をクリックします。

コマンド ラインを使用して HPCA Agent を削除する

ここでは、コマンドラインを使用して HPCA Agent を削除する方法について説明します。

コマンドラインを使用して HPCA Agent を削除する

- HPCA Agent のインストール ファイルが格納されているフォルダから次のコマンドラインを入力します。

```
SETUP.EXE REMOVE=ALL
```

追加の引数については、「[コマンドラインから HPCA Agent をインストールする](#)」(39 ページ)を参照してください。

または

HPCA Agent の個別の機能を削除する場合は、削除する下位機能のカンマ区切りのリストをコマンドラインで入力します。

例

Application Self-service Manager および Application Manager をサイレント削除するには、次のように入力します。

```
SETUP.EXE REMOVE=NVDINSTALLRSM,NVDINSTALLLRAM /qn
```



この場合、削除されるのは下位機能のみであり、製品全体は削除されません。したがって、**REMOVE** 引数 を使用して各機能の名前を入力しても、**Core** の製品はコンピュータにインストールされたままとなります。

HPCA Agent を手動でインストールする

一方、ネットワークに常時接続されているとは限らないクライアント デバイスを管理する場合、HPCA Agent は手動でインストールできます。そのために、HPCA メディアには別のインストール ファイルが収録されています。

HPCA Agent を手動でインストールするには

- 1 ターゲット デバイスで、HPCA メディアを挿入します。
- 2 コマンドラインを使用して、
Media\client\default\win32 ディレクトリに移動します。
- 3 「**setup-standard.cmd host**」と入力します。この場合の host は HPCA Server のホスト名または IP アドレスです。
- 4 **[Enter]** キーを押します。


HPCA Agent がインストールされ、これでデバイスが HPCA で管理できるようになります。

HP シン クライアントで HPCA Agent をインストールする s


HP Registration and Loading Facility (RALF) (「**HPCA Registration and Loading Facility**」(49 ページ)を参照) がインストール済みで、HPCA インフラストラクチャに登録されている場合は、HPCA Agent を通常の方法でシン クライアント デバイスに配布できます。

HPCA Agent を手動でインストールする場合は、HPCA Agent をインストールした後に、(RALF がない場合には) HPCA メディアに収録されているファイルを使用して RALF をインストールする必要があります。

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF が自動的にインストールされます。その他のシン クライアント デバイスでは、HPCA Agent をインストールしてから RALF をインストールします。次のセクションで手順について詳しく説明します。

 RALF のインストールでは、「**hpcaserver**」または RALF インストール パラメータを使用して定義したホスト名を、DNS に含める必要があります。HPCA Agent を HPCA Console からインストールする場合は、HPCA Server のホスト名も DNS に含める必要があります。

HPCA Agent のインストールには、最低 30 MB の空き容量が必要です。

 シン クライアント デバイス上の HPCA Agent インストールのデフォルト ポートは **3466** です。

HP シンクライアント デバイスへ HPCA Agent を手動でインストールする

Windows XPE で HPCA Agent をインストールすると、RALF が自動的にインストールされます。Agent のインストールが完了したら、別個に RALF をインストールする必要はありません。

デバイスに RALF がすでにある場合は、HPCA Agent のインストールを実行する前に RALF サービスを停止します。

サイレント モードで Windows XPE に Agent をインストールするには、次のコマンドを使用します。

Windows XPE

HPCA Agent をインストールするには

- 1 Windows XPE シンクライアント デバイスから HPCA メディアにアクセスします。
- 2 Media\client\default\win32xpe へ移動します。
- 3 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 4 インストールの手順に従ってください。
 - HPCA Server の IP アドレスとポート番号のプロンプト画面が表示されたら、それらを入力します。

HPCA Agent がインストールされます。

サイレント モードで HPCA Agent をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
Setup.exe NVDOBJZMASTER_ZIPADDR=<server_ip>  
NVDOBJZMASTER_ZDSTSOCK=<server_port> /qn
```

任意で次のログ パラメータを追加できます。

```
/1*v <log file>
```

HPCA Agent を削除するには

HPCA Agent を削除するには、インストール プログラム setup.exe を使用します。

- 1 **setup.exe** をダブルクリックします。
- 2 **[削除]** を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

HPCA Agent が削除されます。

Windows CE

HPCA Agent をインストールするには

- 1 Windows CE シン クライアント デバイスから HPCA メディアにアクセスします。
- 2 Media\client\default\win32ce へ移動します。
- 3 **Standard.X86.CAB** をダブルクリックします。
- 4 HPCA Server のホスト名または IP アドレスを指定します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

HPCA Agent がインストールされます。

- デバイスに RALF がすでにある場合は、HPCA Agent のインストールが完了したらデバイスを再起動します。
- RALF がない場合は、「[RALFをインストールするには: Windows CE 6.0](#)」(50 ページ) で説明されているように、Windows CE デバイスに RALF をインストールします。

HPCA Agent を削除するには

- Windows のコントロール パネル アプレット **[プログラムの追加と削除]** を使用して、HPCA Agent を Windows CE から削除します。



これらのデバイスの管理には、BIOS に有効なシリアル番号とマシン UUID が含まれている必要があります (アセット タグの設定も推奨します)。これらの設定を行わないと、OS の配布が正しく実行されない場合があります。

HPCA Registration and Loading Facility

HPCA Registration and Loading Facility (RALF) は、HPCA Core インフラストラクチャで管理されるシン クライアント デバイスに使用できる Agent のコンポーネントです。RALF によって、HPCA インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン コンソールから開始される HPCA Agent のインストールの管理が行われます。RALF は HPCA Agent の一部ですが、HP シン クライアントの出荷時イメージにプレインストールされているので、起動時に登録が行われます。使用している出荷時イメージに含まれていない場合は、次回の OS 配布で使用されるゴールド イメージでインストールおよび設定ができます。RALF をインストールする場合は、OS 配布の前に HPCA Agent もインストールする必要があります。

RALF の設定と操作

RALF は最新の HP シン クライアント イメージにプレインストールされて出荷されています (ThinConnect を実行しているものを除く)。「hpcaserver」と定義されたデフォルトの HPCA Server のホスト名を使用して設定されます。この名前に合わせて HPCA Server をインストールできますが、実際の HPCA Server ホスト名の定義では、この名前を DNS エイリアスとして使用することの方が一般的です。また、このセクションで説明するコマンド ライン オプションを使用して RALF を再設定し、異なるホスト名を定義することもできます。

インストールすると、RALF は HPCA Server を定期的にプローブするデーモンとして動作します。このプローブは 24 時間行われ、その後に RALF はシャットダウンします。この 24 時間プローブは、再起動後にまた開始されます。Server に接続すると、RALF により HPCA インフラストラクチャにデバイスが登録され、HPCA Agent をインストールするリクエストが受け入れられるまで待機の状態になります。Agent がインストールされると、RALF により定期的に Server に接続され、デバイス登録属性の確認が行われます。

Windows シン クライアントでの RALF インストール

このセクションでは、Windows シン クライアントでの RALF インストールについて説明します。

RALF を手動でインストールするには: XPE および WES (Windows Embedded Standard)

Windows XPE では、HPCA Agent をインストールすると RALF も同時にインストールされるため、別個に RALF をインストールする必要はありません。

- 1 HPCA メディアで、media\client\default\win32xpe\HPCARALF ディレクトリに移動します。
- 2 HPCARalf75.msi ファイルを使用して、Windows XPE デバイ스에 RALF をインストールします。

サイレント モードで HPCA Agent をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /i HPCARalf75.msi RALF_HOST=<HOSTNAME>  
RALF_PORT=<portnumber> /qn
```

RALF をインストールするには: Windows CE 6.0

- 1 HPCA メディアで、media\client\default\win32ce\HPCARALF ディレクトリに移動します。
- 2 ralf.X86.cab ファイルを使用して、Windows CE デバイ스에 RALF をインストールします。
- 3 HPCA Server の IP アドレスとポート番号のプロンプト画面が表示されたら、それらを指定します (デフォルトは「hpcaserver」と「3466」)。

HPCA Agent がインストールされます。

RALF コマンド ライン パラメータ

RALF では、次のコマンド ライン オプションがサポートされます。これらはほとんどが内部的に使用されるものなので、ここには参照用として記載します。

```
ralf.exe [-probe] [-host <host>] [-port <port>] [-debug]
[-trace] [-version]
[-reginit]
[-help]
```

表 10 RALF コマンド ライン オプション

オプション	説明
probe	HPCA プローブを起動します。
host	プローブおよび登録に使用する任意の HPCA Server ホストを指定します。
port	プローブおよび登録に使用する任意の HPCA Server ポートを指定します。
debug	デバッグ ログ レベルを指定します。
trace	トレース ログ レベルを指定します。
version	ralf.exe のバージョンが表示されます。
reginit	テスト環境の RALF アプリケーション設定ファイルを定義します。
help	RALF についての情報が表示されます。

HPCA Agent を修復する

Windows インストーラのインストール プログラムは、HPCA Agent を修復する機能を備えています。たとえば、HPCA Agent モジュールが足りない場合、このツールを使用してインストールを修復することができます。このツールでは、エージェント コンピュータに存在するモジュールの方がインストールで提供されているモジュールより新しい場合には、エージェント コンピュータのモジュールを上書きしません。

ここでは、インストール ウィザードおよびコマンドラインを使用して HPCA Agent を修復する方法について説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を修復する

ここでは、インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を修復する方法について説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent を修復するには

- 1 HPCA Agent のインストール ファイルが格納されているフォルダの **setup.exe** をダブルクリックします。[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[修復]** オプションを選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションを修復する準備ができました] ウィンドウが表示されます。
- 4 **[次へ]** をクリックします。修復が完了すると、[HPCA Agent は正常にインストールされました] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[完了]** をクリックします。

コマンドラインを使用して HPCA Agent を修復する

ここでは、コマンドラインを使用して HPCA Agent を修復する方法について説明します。

コマンドラインを使用して HPCA Agent を修復する

- HPCA Agent のインストール ファイルが格納されているフォルダから次のコマンドラインを入力します。

```
msiexec /f HPCAIE-MgmtAppsxx.msi
```



上のコマンドラインで、xx は管理アプリケーションのソフトウェア リリースのバージョンのプレースホルダです。適切なバージョン番号に必ず置き換えてください。

このコマンドラインと共に、追加のパラメータを使用することができます。詳細については、Windows インストーラのマニュアルを参照してください。

HPCA Agent のインストールを変更する

Windows インストーラのインストール プログラムは、個別の下位機能を追加または削除して **HPCA Agent** のインストールを変更する機能を備えています。ここでは、インストール ウィザードおよびコマンド ラインを使用して **HPCA Agent** のインストールを変更する方法について説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent インストールを変更する

ここでは、インストール ウィザードを使用して **HPCA Agent** のインストールを変更する方法について説明します。

インストール ウィザードを使用して HPCA Agent のインストールを変更するには

- 1 **HPCA Agent** のインストール ファイルが格納されているフォルダの **setup.exe** をダブルクリックします。[アプリケーションのメンテナンス] ウィンドウが表示されます。
- 2 **[変更]** オプションを選択します。
- 3 **[次へ]** をクリックします。[機能の選択] ウィンドウが表示されます。このウィンドウの使用方法については、「**HPCA Agent インストール ウィザードを使用する**」(43 ページ)を参照してください。
- 4 **[次へ]** をクリックします。[アプリケーションを変更する準備ができました] ウィンドウが表示されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[**HPCA Agent** は正常にインストールされました] ウィンドウが表示されます。
- 6 **[完了]** をクリックしてインストール プログラムを終了します。

コマンド ラインを使用して HPCA Agent のインストールを変更する

ここでは、コマンド ラインを使用して **HPCA Agent** のインストールを変更する方法について説明します。

コマンド ラインを使用して HPCA Agent のインストールを変更するには

- **HPCA Agent** のインストール ファイルが格納されているフォルダから次のコマンドラインを入力します。

```
SETUP.EXE FeatureStateArgument=feature1,feature2
```

表 11 HPCA Agent 下位機能の機能状態引数

次を指定します。	アクション
ADDLOCAL	[ローカル ハード ドライブにインストールします] に設定する HPCA Agent 下位機能のカンマ区切りのリストを入力します。
REMOVE	[機能全体が使用できなくなります] に設定する下位機能のカンマ区切りのリストを入力します。 この場合、削除されるのは下位機能のみであり、HPCA Agent 全体は削除されません。したがって、REMOVE プロパティを使用して各下位機能名を入力しても、Core の HPCA Agent 製品はコンピュータにインストールされたままとなります。 HPCA Agent を削除する場合は、REMOVE=ALL と入力します。

「表 6」(40 ページ) セクションの [HPCA Agent の下位機能を参照する](#) にリストされている、HPCA Agent 下位機能を参照してください。

例

次のコマンドの例は、Application Self-service Manager をインストールし、Inventory Manager と Application Manager を利用不可能にします。

```
SETUP.EXE ADDLOCAL=NVDINSTALLRSM
REMOVE=NVDINSTALLRIM,NVDINSTALLRAM
```

追加の引数については、「[コマンド ラインから HPCA Agent をインストールする](#)」(39 ページ) を参照してください。

プレインストール スクリプトを使用する

Visual Basic のスクリプトを使用して、インストールに影響する MSI プロパティをカスタマイズすることができます。いかに、ごく簡単な Visual Basic スクリプトの例を示します。これは、あくまでサンプルに過ぎません。



Install1.ini またはコマンド ラインでは、必ず NVDPRECAPATH 引数を使用して、Visual Basic のプレインストール スクリプトのフルパスとファイル名を指定してください。「表 3」(31 ページ) にある NVDPRECAPATH の説明を参照してください。

サンプルのプレインストール スクリプト:

```
` The following sample demonstrates fetching an MSI property,
then setting the same property.
```

` The property values are displayed in message boxes for debugging purposes.

Option Explicit

```
msgbox Session.Property("ALLUSERS")
```

```
Session.Property("ALLUSERS") = "1"
```

```
msgbox Session.Property("ALLUSERS")
```

プレインストール スクリプトを使用して、**Application Self-service Manager** の動作を制御する引数 (Install.ini の [ARGS] セクションで指定した引数など) のプロパティ設定や、**HPCA** オブジェクトの属性値 (Install.ini の [OBJECTS] セクションで指定した属性値など) を上書きできます。



新しいオブジェクトまたはプロパティは、Install.ini で定義する必要があります。

プレインストール スクリプトを使用して、オブジェクトまたはプロパティの値を上書きできます。ただし、プレインストール スクリプトで新しいオブジェクトまたはプロパティを指定しようとしても無視されます。

オブジェクトのプロパティ設定または属性を上書きするには



プロパティ名またはオブジェクト名、およびそれらの属性は、すべて大文字で入力してください(たとえば、NVD OBJMASTER_ZDSTSOCK)。

- プロパティ設定を上書きするには、プレフィックス NVDARG を使用します。たとえば、**identification** プロパティ (Configuration Server へのサブクライアント セッションを識別するプロパティ) に設定されている値を上書きする場合は、次のように入力します。

```
Session.Property("NVDARGIDENTIFICATION")="jenns"
```

- オブジェクトの属性を上書きするには、プレフィックス NVDOBJ を使用します。たとえば、**ZMASTER** オブジェクトの **ZDSTSOCK** 属性 (Configuration Server のポート設定) に設定されている値を上書きする場合は、次のように入力します。

```
Session.Property("NVDOBJMASTER_ZDSTSOCK")="3462"
```

ポストインストール スクリプトを使用する

Visual Basic、REXX、または Tcl のカスタム スクリプトを使用して、HPCA Agent のインストール後にプロセスを実行することができます。たとえば、必須アプリ

ケーションを処理するために、ポストインストール スクリプトで **Configuration Server** への接続を開始することができます。



Install.ini またはコマンドラインでは、必ず **NVDPOSTCAPATH** 引数を使用して、**Visual Basic** または **REXX** のポストインストール スクリプトのフルパスとファイル名を指定してください。「表 3」(31 ページ)にある **NVDPOSTCAPATH** の説明を参照してください。たとえば、radstart.rex というスクリプトを実行する場合、コメントを解除して

```
「NVDPOSTCAPATH=C:\Progra~1\Hewlett-  
Packard\HPCA\Agent\radstart.rex」と設定します。
```



HPCA 環境での **REXX** の使用の詳細については、『**REXX** プログラミングガイド』を参照してください。

スクリプトは、**HPCA Agent** のインストール先の \maint フォルダに格納します。格納されたスクリプトは、IDMSYS に自動的にコピーされます。以下に、スクリプトの例を示します。

ポストインストール スクリプトの **REXX** のサンプル

```
/** RADSTART.REX                                     **/  
/**                                                 **/  
/** DESCRIPTION:                                     **/  
/** Client REXX will perform a CM connection to a CS defined in the **/  
/** install.ini to process all mandatory applications. **/  
/**                                                 **/  
/** AUTHOR:HP                                       **/  
/** LANGUAGE:REXX                                   **/  
/**                                                 **/  
/*****  
/* trace i */
```

```
fullcmd = 'HIDE radntfyc localhost wait radskman context=m,log=connect_initial.log'  
call edncmd fullcmd;
```

MSI リダイレクタのローカル AIP のサポート



Windows 2000、Service Pack 4 注記

ローカル AIP ドライバを機能させるためには、Microsoft Windows 2000 Rollup 1 累積パッチをインストールする必要があります。

Client Automation MSI リダイレクタは、特別なローカルホスト HTTP サーバーであり、MSI インストールの過程で作成されたファイル リクエストを受け付けて処理します。リダイレクタは MSI から HTTP リクエストを受信すると、ローカル キャッシュ (存在する場合) からファイルを取得します。ファイルがローカル キャッシュにない場合は、上位の Configuration Server または Proxy Server にファイルを要求します。このプロセスでは、MSI のインストールで HTTP をサポートしている必要があります。ただし、Microsoft を含む一部のベンダー製品のインストールでは、HTTP がサポートされなくなりました。HTTP がサポートされていない場合、MSI インストールの過程で MSI リダイレクタから直接ファイルを要求できなくなります。

MSI リダイレクタを引き続き使用するために、リダイレクトのレベルはローカル ファイル システム レベルに存在するようになりました。このメソッドを使用する場合は、Application Installation Point (AIP) がローカルであることを MSI に伝え、ファイル システムから直接ファイルを要求します。このリクエストは、MSI リダイレクタに収集および転送され、通常の方法で処理されます。その後、MSI で処理が可能な定義済みローカル AIP にファイルが配置されます。ローカル AIP は、一時的に作成されるものであり、インストールが完了すると削除されます。

ローカル AIP を使用できるようにするには

- 1 Admin CSDB Editor を使用して、SOFTWARE ドメインの MSI Resources (MSI) クラスに移動します。

各 MSI アプリケーションには、MSI インスタンスと IDX インスタンスがあります。

- 2 MSI インスタンスを右クリックし **[インスタンス編集]** をクリックします。
- 3 **[MSIDRVR] (Use Local AIP [Y/N])** を **Y** に設定します。



データベースに MSIDRVR がない場合は、「Use Local AIP [Y/N]」という説明を付けて、MSIDRVR をシングルバイトの変数として MSI Resources (MSI) クラスで作成します。

クラス テンプレートを変更する前に、データベースをバックアップしておくことをお勧めします。

クラス テンプレートの編集の詳細については、『Admin ユーザーガイド』を参照してください。

- 4 **[OK]** をクリックします。
- 5 **[はい]** をクリックして、変更を確定します。
- 6 COP の SETTINGS.LOCALAIP 変数を設定して、HPCA Agent デスクトップのローカル AIP フォルダの送信先を指定します。たとえば、**C:\localaip** とします。



深いディレクトリ構造の AIP に対応できるよう、LOCALAIP は可能な限り短くすることをお勧めします。

インターネット プロキシ

インターネット プロキシは、様々な理由で企業によって設置されます。HP Client Automation は、インターネット プロキシが使用されているかどうかを検出できます。HP Configuration Management は、プロキシのアドレスを HPCA Agent コンピュータの IDMLIB ディレクトリ内にある PROXYINF.EDM に格納することにより、プロキシを通過する権限を HPCA Agent に与えます。

次のように設定することにより、HPCA Agent がインターネット プロキシを検出および使用できるようにする必要があります。

USEPROXY=Y および **DISCOVER=Y**

この設定は、HPCA Agent の PROXYINF.EDM オブジェクトで行います。



これらの **USEPROXY** および **DISCOVER** プロパティは、インストール前か任意のタイミングで Install.ini の中で設定できます。

インストール後にインターネット プロキシの検出を設定して使用するには、PROXYINF.EDM を手動で編集する必要があります。これは、**HPCA Administrator Agent Explorer** を使用したり、カスタムの **REXX** スクリプトを作成したりするなど、複数の方法で実行できます。

詳細については、『Admin ユーザー ガイド』を参照してください。

HPCA Agent コンピュータが次に **Configuration Server** に接続するときは、指定されたインターネット プロキシが使用されます。

3 HPCA Agent ディレクトリ、オブジェクト、およびログ

この章は以下を目的としています。

- HPCA Agent のディレクトリ構造を理解する。
- HPCA Agent の Core オブジェクトに理解する。
- HPCA Agent オブジェクトの格納場所を理解する。

HPCA Agent ディレクトリ

HPCA Agent の初期設定は、HPCA agent コンピュータ上の NVD.INI ファイルの [NOVAEDM] セクションにあります。デフォルトでは、NVD.INI は IDMLIB ディレクトリにあります。

表 12 NOVAEDM パラメータ

パラメータ	説明
IDMDATA	HPCA がソフトウェアをインストールすると、HPCA Agent は Configuration Server から受信した圧縮ファイルを一時的にこのディレクトリに格納します。ファイルが解凍されて HPCA agent コンピュータにインストールされると、圧縮ファイルは削除されます。 デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib\Data です。
IDMLIB	現在管理されているサービスのオブジェクトを格納するダイナミック ディレクトリ。 デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib です。
IDMSYS	.EXE ファイルや .DLL ファイルのような、HPCA Agent の実行ファイルを格納するディレクトリ。 デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent です。
IDMROOT	IDMLIB のベース ディレクトリ。 デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib です。
IDMLOG	HPCA Agent のログを格納するディレクトリ。 デフォルトは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Log です。

HPCA Agent バージョン

このマニュアルで説明されているオブジェクトの一部は、HPCA Agent のバージョン 3.1 以降のみで利用できます。次の手順で、HPCA Agent のバージョンを検証するか、問い合わせてください。

- ホストシステムの IDMLOG ディレクトリにある connect.log ファイルをテキストエディタで開き、「version」という語句を検索します。
- あるいは、IDMSYS ディレクトリにある RADSKMAN の [プロパティ] で [バージョン情報] タブを確認することもできます。

HPCA Agent オブジェクト

HPCA Agent のオブジェクトは、エージェント コンピュータの IDMLIB ディレクトリに格納されます。HPCA Agent が Configuration Server に接続すると、情報の交換（「解決」）が行われます。この過程で、HPCA はサービスの状態を確認し、Configuration Server に HPCA Agent オブジェクトからの最新情報を更新します。

HPCA Agent オブジェクトを使用して、次のような質問への回答を知ることができます。

- HPCA agent コンピュータのハードウェア 設定はどうなっているか。
- サービスは正常にインストールされたか。
- サービスはいつインストールされたか。
- HPCA Agent コンピュータは何という名前で、最後にログオンしたユーザーは誰か。
- この HPCA Agent コンピュータで考えられるデータの送信元は何か。

HPCA Agent コンピュータには、常に複数の HPCA Agent オブジェクトが存在しますが、現在の HPCA Agent 接続の状態に関する情報を提供する HPCA Agent オブジェクトには、Core となるグループがあります。これらのCore オブジェクトは下記のとおりで、「表 13」(62 ページ) で説明しています。表の後の各セクションで、これらについて詳しく説明しています。

- ZCONFIG、(63 ページ) から開始
- SYNOPSIS、(67 ページ) から開始
- SAPSTATS、(68 ページ) から開始
- PREFACE、(70 ページ) から開始
- SMINFO、(71 ページ) から開始

表 13 (62 ページ) には、オブジェクトが作成または更新されるタイミングについての情報と、オブジェクトの内容についての簡単な説明が示されています。

表 13 HPCA Agent のオブジェクト

オブジェクト	説明
ZCONFIG	<p>このオブジェクトは、HPCA Agent 接続プロセスの開始時に作成され、プロセッサ、オペレーティング システム、ドライブなどの基本的なハードウェア情報が含まれます。</p> <p>注意：接続とは、解決を実行し、要求ステートを達成するために Configuration Server に接続する HPCA Agent のことです（「要求ステート」(236 ページ)、このマニュアルの「用語集」を参照）。</p> <p>詳細については、「表 14」(63 ページ)を参照してください。</p>
SYNOPSIS	<p>このオブジェクトは、ジョブの概要を格納し、HPCA Agent 接続の最後に Configuration Server に転送されます。RADSKMAN コマンドラインのパラメータの一部と、追加、削除、および修復されたファイルの数とバイト数がレポートされます。</p> <p>注意：クライアント オペレーション プロファイルを有効にしないと、このオブジェクトを利用することができません。</p> <p>詳細については、表 15 (67 ページ)を参照してください。</p>
SAPSTATS	<p>このオブジェクトは、サーバー アクセス プロファイル (SAP) にアクセスする必要があるネットワーク モジュール (RADCONCT、RADSTGRQ、RADSTGMS) によって更新されます。HPCA agent コンピュータの SAP ごとに 1 つのインスタンスがあります。それぞれの SAP について、速度、送受信したファイル数、SAP のロールなどの情報を要約します。RADSKMAN は、ジョブの開始時に SAPSTATS オブジェクトを削除します。</p> <p>注意：クライアント オペレーション プロファイルを有効にしないと、このオブジェクトを利用することができません。</p> <p>詳細については、表 16 (68 ページ)を参照してください。</p>
PREFACE	<p>このオブジェクトは、RADSKMAN の各実行に関する Core 情報を格納し、RADSKMAN プロセスの各段階で Configuration Server に送信されます。</p> <p>詳細については、「表 17」(70 ページ)を参照してください。</p>
SMINFO	<p>このオブジェクトは、クライアント オペレーション プロファイルの解決の過程で作成されますが、クライアント オペレーション プロファイルは必要ではありません。コンピュータにインストールされているハードウェアとソフトウェアとは関係のない情報と、一部のネットワーク情報を収集します。</p> <p>詳細については、表 18 (71 ページ)を参照してください。</p>

HPCA Admin Agent Explorer を使用して HPCA Agent オブジェクトを表示する

Client Automation Administrator Agent Explorer は、HP Client Automation Administrator (HPCA Administrator) の一部としてインストールされています。IDMLIB ディレクトリのオブジェクトを表示するために使用します。HPCA Agent コンピュータの IDMLIB ディレクトリへのアクセス権があるユーザーであれば、どのオブジェクトでも表示できます。アクセス権がなければ、手動でオブジェクト ファイルを取得してそれを HPCA 管理者のコンピュータに格納する必要があります。必要がある場合もあります。

Admin Agent Explorer を使用してオブジェクトを表示するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、Client Automation Administrator Agent Explorer を起動します。Admin Agent Explorer が表示されます。
- 2 必要に応じて、[ファイル] メニューの **[ディレクトリを変更]** をクリックして、HPCA Agent コンピュータの IDMLIB ディレクトリ、またはオブジェクトの格納先のディレクトリを表示します。
- 3 リスト ビューでオブジェクトの名前をダブルクリックします。選択したオブジェクトが Admin Agent Explorer に表示されます。
- 4 **[保存/終了]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

ZCONFIG (ハードウェアの設定情報)

ZCONFIG オブジェクトは、エージェント コンピュータからのハードウェア設定情報を保持します。ZCONFIG オブジェクトを表示するには、HPCA Admin Agent Explorer を使用します。次の表は、ZCONFIG の属性をアルファベット順で説明しています。これらの属性は、HPCA agent コンピュータの設定によって異なる場合があります。

▶ ZCONFIG オブジェクトは、Admin CSDB Editor で表示できるように自動的に Configuration Server に送信されます。このオブジェクトが Configuration Server に送信されないようにするには、`_BASE_INSTANCE_` で POLICY.USER.ZCONFIG 属性を **N** に設定します。このように設定すると、すべてのユーザーからの収集が停止されます。その場合でも、HPCA agent コンピュータにオブジェクトは存在します。

表 14 ZCONFIG 属性

属性	説明
BOOTDRV	ブート ドライブ

属性	説明
BOOTDRVI	ブート ドライブのタイプ (IDE など)
DHCPSR0 _n	LADAPT0 _n アダプタの DHCP サーバーの IP アドレス
DHCPSVR	LAN アダプタの DHCP サーバーの IP アドレス
DNSDMN01	LADAPT0 _n アダプタの HPCA Agent コンピュータで使用されるドメインの名前
DNSDOMN	現在使用されているドメインの名前
DNSHNM01	LADAPT0 _n アダプタの HPCA Agent コンピュータで使用されるホスト名
DNSHOSTN	現在使用されているホスト名
GATEWY01	ネットワーク アダプタ 1 のゲートウェイ アドレス
HALCOMP	HAL.DLL の会社名
HALDATE	HAL.DLL の日付と時刻
HALFNAME	HAL.DLL の元の名前
HALFVER	HAL.DLL の内部バージョン
HALINAME	HAL.DLL の名前
HALLANG	HAL.DLL の言語
HALPNAME	HAL.DLL の製品名
HALPVER	HAL.DLL の製品バージョン
HALSIZE	HAL.DLL のサイズ
IPADDR01	ネットワーク アダプタ 1 の IP アドレス
LADAPT01	LAN アダプタ 1
LASTUSER	システムに最も最近ログオンしたユーザーの名前
REBOOTD	再起動日
REBOOTT	再起動時刻
SCANTYPE	ハードウェア スキャンのタイプ
SUBNET01	LADAPT01 のサブネット マスク
ZGATEWAY	ゲートウェイ アドレス
ZHDWARCH	オペレーティング システムのアーキテクチャ

属性	説明
ZHDWBIOS	BIOS のタイプ
ZHDWCDDR	CD-ROM ドライブのドライブ名
ZHDWCOMP	コンピュータ名
ZHDWCPU	CPU のタイプ
ZHDWCPUN	インストールされている CPU の数
ZHDWCPUS	CPU の速度
ZHDWCTYP	コンピュータのタイプ (デスクトップまたはラップトップ)
ZHDWD00	ドライブ 00 のドライブ名
ZHDWD00C	ドライブ 00 のドライブ分類
ZHDWD00F	ドライブ 00 の現在の空き容量
ZHDWD00S	ドライブ 00 のファイル システムのタイプ
ZHDWD00T	ドライブ 00 の総容量
ZHDWD01	ドライブ 01 のドライブ名
ZHDWD01C	ドライブ 01 のドライブ分類
ZHDWD01F	ドライブ 01 の現在の空き容量
ZHDWD01S	ドライブ 01 のファイル システム
ZHDWD01T	ドライブ 01 の総容量
ZHDWDF_A	フロッピー ドライブ A の情報
ZHDWDLST	割り当てられているドライブ名のリスト
ZHDWDNUM	割り当てられているドライブ数の数
ZHDWFPU	現在の FPU のタイプ
ZHDWIPAD	IP アドレス
ZHDWKYBD	キーボードのタイプ
ZHDWLANA	LAN アダプタ
ZHDWLANG	言語
ZHDWMEM	物理メモリ (RAM) の総容量
ZHDWMEMF	空きメモリ (RAM) の現在の総容量
ZHDWMOUS	マウス (ポインティング デバイス) のタイプ

属性	説明
ZHDWNET1	ネットワーク アダプタ 1 の情報
ZHDWNET	インストールされているネットワーク アダプタの数
ZHDWOS	オペレーティング システムとバージョン
ZHDWOSCL	オペレーティング システムの分類 (ワークステーションまたはサーバー)
ZHDWOSDB	オペレーティング システムのビルド
ZHDWOSOG	オペレーティング システムの組織
ZHDWOSOW	オペレーティング システムの所有者
ZHDWPA00	プリンタ 00 の情報
ZHDWPA01	プリンタ 01 の情報
ZHDWPPAR	パラレル ポートの数
ZHDWPPRN	利用可能なプリンタの数
ZHDWPSE	シリアル ポートの数
ZHDWSVCP	適用されているサービス パック
ZHDWVIDEO	ビデオのタイプ
ZHDWXPAG	ページ サイズ
ZHWCPU01	第 1 CPU のタイプ
ZHWFPU01	第 1 FPU のタイプ
ZHDWVIE	Microsoft Internet Explorer のバージョン
ZHDWVMSI	MSI バージョン
ZHDWVRES	ビデオの解像度
ZMODEM	モデムがあるかどうか
ZOBJRRC	解像度のリターン コード
ZOBJRSTY	解像度のタイプ
ZUSERID	ユーザー ID またはコンピュータ名

SYNOPSIS (クライアント オペレーション プロファイルの概要)

SYNOPSIS オブジェクトは、クライアント オペレーション プロファイルを使用して HPCA Agent 上で作成されます。SYNOPSIS オブジェクトは、最新の HPCA Agent 接続を要約します。また、HPCA Agent 接続プロセスの成功/失敗を確認するために使用できます。

表 15 SYNOPSIS 属性

属性	説明
STARTIME	ISO8601 時刻形式の開始時刻。例：1997-08-15T11:12:00-0400
ENDTIME	ISO8601 時刻形式の終了時刻
EXITCODE	ジョブからの終了コード
ERRORMSG	『HP Configuration Management Management Applications メッセージおよびコードガイド (メッセージおよびコードガイド)』で説明されている EXITCODE に対応するテキスト メッセージ
PRIORAPP	このジョブが開始される前にサービス リストに含まれていたアプリケーションの総数 (インストール済み/未インストール)
PRIORINS	このジョブが開始される前にサービス リストに含まれていたインストール済みアプリケーションの総数
PRIORERR	このジョブが開始される前にサービス リストに含まれていたエラーのあるアプリケーションの総数
CURRAPP	ジョブが完了した後にサービス リストに含まれているアプリケーションの数
CURRINS	サービス リストに含まれているインストール済みアプリケーションの数
UPDNUM	サービス リストで見つかった更新の数
UPDSKIP	スキップされた更新の数
UPDDONE	処理された更新の数
UPDFAIL	失敗した更新の数
ADDNUM	サービス リストで見つかった新しいアプリケーションの数
ADDSKIP	スキップされたインストールの数 (おそらくはオプション アプリケーション)
ADDONE	処理されたインストールの数
ADDFAIL	失敗したインストールの数
DELNUM	サービス リストで見つかった削除の数
DELSKIP	スキップされた削除の数

属性	説明
DELDONE	処理された削除の数
DELFAIL	失敗した削除の数
VERNUM	検証されたアプリケーションの数
VERSKIP	スキップされた検証の数
VERDONE	処理された検証の数
VERFAIL	失敗した検証の数
REPNUM	修復されたアプリケーションの数
REPSKIP	スキップされた修復の数
REPDONE	処理された修復の数
REPFAIL	失敗した修復の数
CREFRESH	カタログのリフレッシュ (Y/N)
JOBID	通知によってコマンドラインに渡されたジョブ ID
ZUSERID	このジョブのユーザー ID
ZCONTEXT	このジョブの (マシンまたはユーザー) コンテキスト
MACHNAME	これが実行された起点の HPCA agent コンピュータのマシン名
USEREXEC	ジョブを実行したユーザー
CMDLINE	このジョブの実行に使用されたコマンドラインパラメータ

SAPSTATS (サービス アクセス プロファイルのステータス)

SAPSTATS オブジェクトはクライアント オペレーション プロファイルを使用して HPCA Agent 上で生成され、HPCA Agent からサーバー アクセス プロファイル (SAP) のステータスと使用状況の統計をレポートするために使用します。SAPSTATS オブジェクトは、CSDB の SAP クラスで定義されているすべての変数を、使用状況に関連する以下の変数と一緒に保持します。

表 16 SAPSTATS オブジェクト属性

属性	説明
BANDWIDTH	使用するバンド幅の割合 (1 ~ 99)
BYTERCVD	受信したバイト数

属性	説明
BYTESENT	送信したバイト数
ENABLED	SAP は有効化か (Y N)
ERRCOUNT	エラー数
FILEMISS	見つからないファイルの数
FILERCVD	受信したファイル数
FILESENT	送信したファイル数
LASTAXSD	最後にアクセスされた日付と時刻 (ISO 形式)
NAME	SAP の簡略名
OBJRCVD	受信したオブジェクト数
OBJSEND	送信したオブジェクト数
PRIORITY	この SAP の優先度 (CLIENT.LOCATION クラスのインスタンスから取得)
PROXY	HPCA Agent が SAP に接続する際に使用するインターネット プロキシ URI。この値は HPCA Agent によって管理されます。
ROLE	SAP のロール。有効な値は次のとおりです。 O (クライアント オペレーション プロファイル)、 M (セルフ メンテナンス) S (サービス)、 D (データ)、 A (すべてのロール)。
SPEED	HPCA Agent コンピュータから SAP までの速度 (バイト/秒)
STATUS	この SAP のステータス。 <ul style="list-style-type: none"> • 000 = SAP は正常にアクセスされました • 920 = SAP にはアクセスできませんでした • 999 = SAP は使用されませんでした
STREAM	ストリーミングが使用されるかどうかを指定します。ここで設定した値により、ZMASTER.ZNORSPNS の HPCA agent 設定が上書きされます。
THROTYPE	使用されるバンド幅スロットリングのタイプ。有効な値は、 NONE 、 ADAPTIVE 、および RESERVED です。
TIMEOUT	通信のタイムアウト (秒単位)
TYPE	SAP のタイプ。有効な値は次のとおりです。 RCS (Configuration Server) および DATA (Proxy Servers、 Staging Servers または CD-ROM)。
URI	SAP の URI (Universal Resource Identifier)

PREFACE (RADSKMAN 実行)

PREFACE オブジェクトには、RADSKMAN の各実行に関する情報が含まれます。PREFACE は、RADSKMAN のプロセスの各段階で Configuration Server に送信されます。

HPCA Agent 接続の新しい各段階で、PREFACE オブジェクトは更新されます。PREFACE オブジェクトの変数は、解決とレポートに利用できます。解決については、ZSTOP 式、シンボリック置換、およびメッセージのディスパッチに PREFACE オブジェクトの属性を使用します。レポートについては、MACHNAME、ZUSERID、ZCONTEXT、JOBID、および CTYPE を結合して、HPCA Agent 接続を実行したユーザー、接続のタイプ、および接続のコンテキストを確認することができます。

表 17 PREFACE オブジェクト属性

属性	説明
CMDLINE	現在の HPCA Agent 接続で使用された RADSKMAN コマンドラインのパラメータ
COMPDN	Active Directory 形式のコンピュータの識別名。このフィールドは、システムが Active Directory またはドメイン環境に属していない場合は空白です。Active Directory に対して認証を行わない Windows オペレーティングシステムは、この識別名をそのドメイン名またはマシン名として示します。 例 : CN=ALEE、CN=Computers、DC=usa、DC=asdfoods、DC=com
CTYPE	HPCA Agent のタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• RSM: Application Self-service Manager• RAM: Application Manager• RPS: Proxy Server または Staging Server (アプリケーションリソースのプレロード用)
JOBID	この接続でコマンドラインに指定されたジョブ ID
LOCALUID	エージェント コンピュータの IDMROOT の下にある開始ディレクトリ。値は、STARTDIR RADSKMAN パラメータから派生します。たとえば、STARTDIR = \$USER の場合、LOCALUID はユーザーの ID を保持します。STARTDIR = SYSTEM の場合、LOCALUID は SYSTEM を保持します。 注意 : UID は、ユーザーの ID ではなく、ユーザーの初期ディレクトリです。
MACHNAME	HPCA Agent コンピュータのマシン名

属性	説明
USEREXEC	現在ログオンしていて、コマンドを実行したユーザー。通知やタイマーの場合は SYSTEM です。ログオン スクリプトの場合は、サブスクライバのネットワーク アカウント名になります。
ZCONTEXT	RADSKMAN コマンドラインに渡される ZCONTEXT の値 <ul style="list-style-type: none"> ● M は、RADSKMAN がマシン コンテキストで実行されたことを示します。 ● U は、RADSKMAN がユーザー コンテキストで実行されたことを示します。 ● 空白は、RADSKMAN コマンド ラインにコンテキストが指定されなかったことを示します。コンテキストは HPCA Agent 接続が起動されたコンテキストにデフォルト設定されます。
ZDOMNAME	RADSKMAN コマンドラインの DNAME パラメータで指定された CSDB のドメイン。デフォルトは SOFTWARE です。
ZMGRNAME	RADSKMAN コマンドラインの MNAME パラメータで指定された Configuration Server 名
ZUSERID	このフィールドは、HPCA Agent の ZMASTER.ZUSERID と同じ値を保持します。ほとんどのシナリオでは、HPCA agent コンピュータのマシン名を示しますが、現在のユーザー名や別の値を保持する場合があります。このフィールドの値は、ポリシーの解決やレポートの鍵として使用されることがよくあります。UID RADSKMAN パラメータによって、この値が設定されます。

SMINFO (システム管理情報)

SMINFO (システム管理情報) オブジェクトは、すべての HPCA agent コンピュータで作成されます。SMINFO オブジェクトは、HPCA Agent コンピュータにインストールされているオペレーティング システムやソフトウェアとは関係のないハードウェア固有の情報を要約します。HPCA は、SMBIOS 規格を使用して BIOS に関するデータにアクセスします。SMINFO は、ネットワークやユーザー ID の情報も保持します。



このセクションで説明する他のオブジェクトとは異なり、このオブジェクトは、RADSETUP の下にある 1 つレベルの低いオブジェクトです。

表 18 SMINFO 属性

属性	説明
ASSETTAG	BIOS から取得した HPCA Agent コンピュータの一意のアセットタグ番号
BIOSDATE	コンピュータの BIOS の日付

属性	説明
BIOSVEND	コンピュータの BIOS のベンダー
BIOSVERS	コンピュータの BIOS のバージョン
COMPDOMN	コンピュータのドメイン
COMPNAME	コンピュータ名
FLASHMEM	マシン上のフラッシュメモリの容量
IPADDR	HPCA Agent コンピュータの IP アドレス
MACADDR	HPCA Agent コンピュータの MAC アドレス
MACHUID	一意のマシン ユーザー ID
SNENCLOS	システム エンクロージャ構造のシリアル番号 (BIOS から取得)
SNSYSTEM	システム構造のシリアル番号 (BIOS から取得)
SUBMASK	サブネット マスク
SUBNET	サブネット
SYSMANUF	システム製造メーカーの情報 (BIOS から取得)
SYSPROD	システム製造メーカーの製品情報 (BIOS から取得)

PROFILE ファイル

ZCONFIG や ZMASTER などの一部の HPCA agent コンピュータは、HPCA Agent 接続の過程で Configuration Server に送信され、CSDB の PROFILE ファイルに格納されます。各 HPCA Agent はドメインとして格納され、これらのオブジェクトはインスタンスとして格納されます。

デフォルトでは、各 HPCA Agent コンピュータは現在ログオンしているサブスクリバによって識別されます。サブスクリバは、コンピュータ名またはユーザー名のいずれかにできます。

下記の表 19 では、PROFILE ファイル内のオブジェクトの一部を説明します。これらのオブジェクトは CSDB に応じて異なります。これは、設定がそれぞれ異なるためです。

表 19 PROFILE ファイル内のオブジェクト


インスタンス	記録される情報
ZCONFIG	このインスタンスには、HPCA Agent コンピュータの基本的なハードウェア情報 (プロセッサ、オペレーティングシステム、ドライブなど) が格納されます。

インスタンス	記録される情報
ZMASTER	このインスタンスには、HPCA Agent を実行するために使用される情報 (ユーザー ID やオペレーティング システムなど) が格納されます。
ZSVCSTAT	このインスタンスには、HPCA Agent コンピュータにインストールされた後のサービスの情報が格納されます。どのユーザーがサービスを所有しているのか、そのサービスがいつインストールされたのかの確認など、レポート機能で便利です。サービスごとに 1 つのインスタンスが作成されます。
ZSTATUS	このインスタンスには、最新の HPCA Agent 接続についての情報 (HPCA Agent コンピュータが送受信するオブジェクトの数など) が格納されます。

各ドメインには、HPCA Agent コンピュータから受信したオブジェクトを示す複数のクラスが格納されます。PROFILE ファイルを表示するには、Admin CSDB Editor を使用します。

HPCA Agent ログ

HPCA Agent は、RADSKMAN、RADPINIT、および RADCONCT という 3 つの主要モジュールで構成されています。ただし、これら 3 モジュールのアクティビティ レポートは、connect.log (デフォルト名) という 1 つのログ ファイルで共同管理されます。

 デフォルトの connect.log のロケーションは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\log です。

connect.log のサイズが 1 MB に達すると、バックアップ ログ (connect.bak) が作成されます。

説明のとおり、connect.log および connect.bak は、これらのログのデフォルト名です。会社のニーズに合う書式にログの名前を変更できます (パラメータ **log** を使用)。(たとえば、日付と時刻に基づいてログに名前を付けることができます。このようにすると、特定の日付に問題が発生した場合に、調査する必要のあるログだけを取り出すことができます。) さらに、パラメータ **alog** を使用して、ログに情報を追加するオプションもあります。**log** パラメータと **alog** パラメータについては、「表 20」(74 ページ) で説明しています。

3 つの主な HPCA Agent モジュールはそれぞれ、コマンドラインで **log** パラメータを追加することで、特定のログ ファイルを使用するように指定することができます。3 つの主要 HPCA Agent モジュールでは、次の形式のコマンドラインパラメータが許可されます。

Keyword = value (カンマ区切り形式)

ログ ファイルに名前を付けたり、既存のログ ファイルに情報を追加したりするには、コマンドラインで **log** パラメータと **alog** パラメータをオプションで使用します。たとえば、次のように通知で **RADSKMAN** コマンドラインに **log** パラメータを追加することで、特定のログ名を生成することができます。

radskman log=notify10012003.log

表 20 ログ ファイルのパラメータ

パラメータ	説明
log	作成されるログ ファイルの名前。デフォルトでは connect.log。 有効なファイル名を指定します。パスは指定しません (デフォルトでは、ログは IDMLLOG フォルダに格納されます)。 同じ名前のログ ファイルが既に存在する場合は、そのファイルのバックアップが logname.bak という名前で作成されます。logname.bak が既に存在する場合は、このファイルは上書きされます。
alog	情報の追加先とするログ ファイルの名前。たとえば、 alog=Application1.log 有効なファイル名を指定します。パスは指定しません (デフォルトでは、ログは IDMLLOG フォルダに格納されます)。 このパラメータにデフォルト値はありません。指定しない場合は、 log パラメータで指定した名前のログ ファイルに情報が追加されます。

log パラメータの値は、**catalog** および **application** ディレクトリの **ZMASTER** オブジェクトにある **LOGNAME** 属性に格納されます。

診断モジュール (RADSTATE)

RADSTATE は、**HPCA Agent** の現在の状態についての概要を示す診断モジュールです。**RADSTATE** の出力情報は、数多くの **HPCA Agent** オブジェクトから取得されたデータに基づきます。

利用状況

以下は、**RADSTATE** 構文の例です。

RADSTATE mode=<abcdeimorsuv>, USERNAME=UserJoe, UID=UserID, MNAME=<ConfigServer>, DNAME=<DB_domain>, SNAME=<service>

- **IDMROOT:** IDMROOT (オプション、デフォルトは現在の IDMROOT 設定) を設定するのに使用
- **moed:** 下記の「表 21」を参照
- **USERNAME:** ユーザー名、レポートに使用
- **UID:** ユーザー ID (オプション)
- **MNAME:** HPCA Configuration Server の名前 (オプション)
- **DNAME:** HPCA Configuration Server Database ドメイン (オプション)
- **SNAME:** サービスの名前 (オプション)

表 21 では、mode パラメータ用の有効な値をリストし、内容を説明します。

表 21 RADSTATE モード

モード	説明
a	ZVERLIST オブジェクトを表示
b	インスタンス データを検証 (現時点では無効)
c	FILE オブジェクト内の重複と衝突をチェック
d	ネイティブ エディタの出力ログを表示
e	EDM の 重複と衝突をチェック (c モードを選択した場合のみ有効)
i	ユーザー/マシン コンテキスト レポート
m	モジュール情報を表示
o	オブジェクトを作成
r	すべてのリソースを表示
s	サービスの詳細を表示
u	サービス ユーザーの要約を表示
v	冗長モード
?	このヘルプ メッセージを印刷

冗長モードを使用して RADSTATE を実行すると、HPCA Agent 環境に関連する次のような基本的な情報が提供されます。包括的なオブジェクトの統計、現在の日付と時刻、環境、エミュレータ、タイムアウト設定、トレース レベル、サービス ステータス、IDMSYS、IDMLIB、および IDMLOG ディレクトリのロケーション。

各 HPCA Agent 接続の終了時など、いつでも RADSTATE を実行して、HPCA Agent の設定を確認できます。モード オプション **o** で RADSTATE を実行すると、ZRSTATE オブジェクトと ZRSTATES オブジェクトが構築され、Configuration Server に送信することができます。

次の場合に、RADSTATE を実行する必要があります。

- HPCA Agent 固有の情報が必要なとき。
- 一部のファイルが正しく配布されていない疑いがある場合。
- デスクトップの更新が行われていない場合。

RADSTATE を手動で実行すると、IDMLOG ディレクトリに書き込まれる要約形式のレポート radstate.log が作成されます。ここでは、HPCA Agent のデスクトップにインストールされているサービスやリソースの現在の状態が記載されています。RADSTATE は、カンマで区切られた適切なパラメータを使用してコマンドラインから実行します。次に例を示します。

```
radstate mode=vo, IDMROOT=C:\Program Files\Hewlett-Packard\  
HPCA\Agent\Lib
```

4 エンタイトルメント ポリシーを実装する

この章は以下を目的としています。

- 既存のポリシー情報を **HPCA** に統合する方法について理解する。
- **POLICY** ドメインについて理解する。
- 単純な環境で使用するためのユーザーを新規作成し、グループに割り当てることができるようになる。
- サービスをグループに接続することができるようになる。

HPCA とポリシー管理

HPCA 管理者は HP Client Automation (HPCA) 製品を使用すると、環境内のデータを管理しながら既存のポリシー情報を使用することができます。

HPCA では、以下のリアルタイム ポリシー情報を使用することができます。

- Active Directory
- NDS
- iPlanet
- ISOCOR
- SQL Server、Oracle、または Sybase
- SQL 92 準拠の (ODBC) データソース
- LDAP 準拠のディレクトリ

これまでポリシー管理に使用してきたツールを、そのまま使い続けることができます。また、グループの割り当てを変更した場合でも、データのサブスクリプションは最新の状態に保たれます。

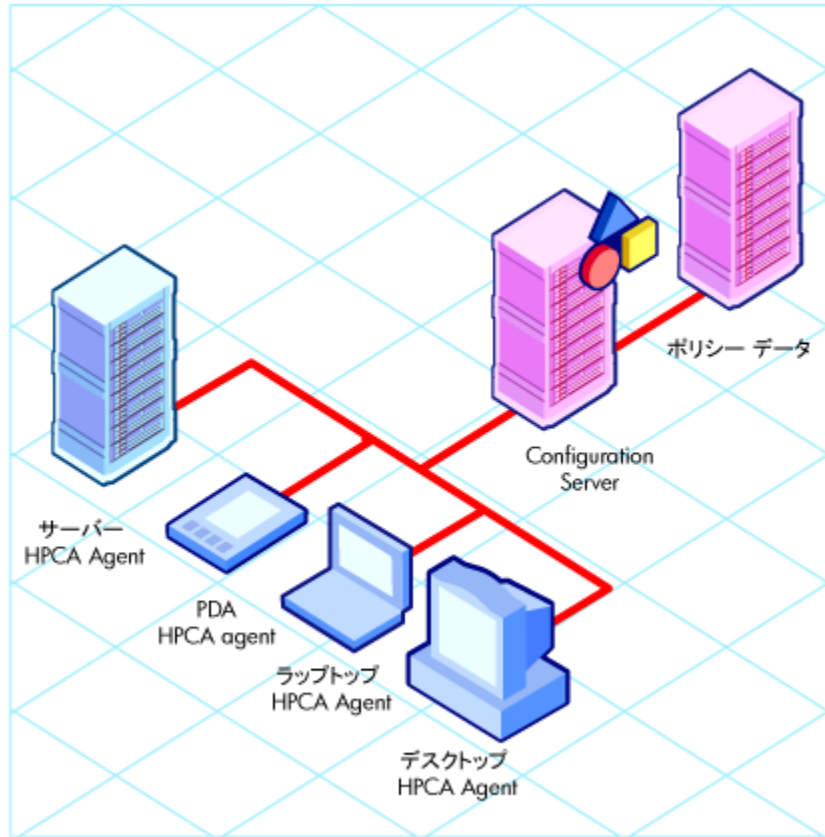
既存の外部ポリシー情報にアクセスする

HPCA Agent が Configuration Server に接続すると、HPCA は適切なデータソースからポリシー情報をリアルタイムに取得します。非常に簡単な環境（たとえば、テスト用の環境）であれば、HPCA を使用して CSDB でこの情報を検索することができます。外部ポリシー ストアが既に存在する大規模環境では、HPCA は既存情報を活用することができます。外部ポリシー情報は Configuration Server に送り返され、ユーザー、グループ、コンピュータに対してどのデータを管理するかを判別するために使用されます。



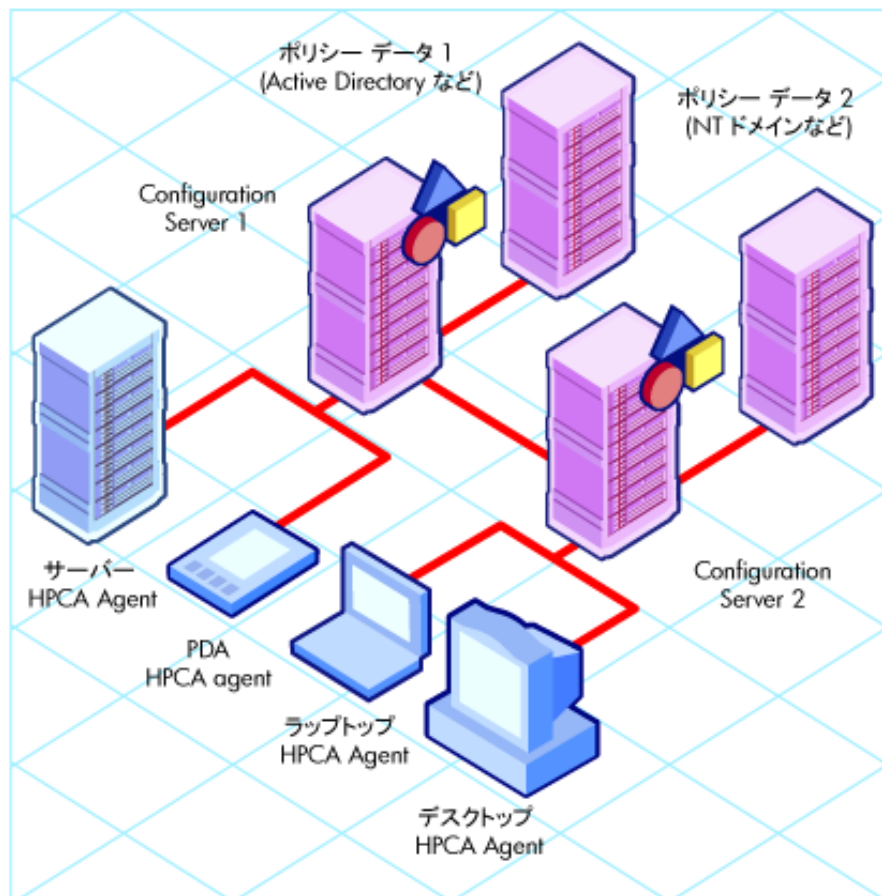
Policy Server を使用して既存のポリシーを統合するための技術的な情報の詳細については、HP のサポート Web サイトおよび『HP Client Automation Policy Server インストールおよび設定ガイド』（『Policy Server ガイド』）を参照してください。

図 2 外部ソースからのポリシー情報の取得



HPCA では、複数の CM Configuration Server で複数のタイプの外部ポリシーストアを使用することもできます。この方法は、一定の期間にわたって複数の外部ポリシー ストアを結合する移行シナリオなどで特に便利です。この期間中も、必要に応じて既存の様々なポリシー ストアを引き続き使用することができます。

図3 複数の外部ソースからのポリシー情報の取得



ディレクトリ ベースのエンタイトルメント

(Active Directory、NDS など)

LDAP ベースのディレクトリ サービスや SQL ベースのデータベースを引き続き活用したいお客様のために、HP では HP Client Automation Policy Server (Policy Server) を提供しています。Policy Server は HPCA Integration Server のプラグインで、ディレクトリ ツリー内のユーザーやコンピュータへのサービスのマッピングなど、管理目的で使用します。Configuration Server は設定に

より、**Policy Server** にクエリを行って、エージェントのために配布・管理すべきサービスを調べることができます。



Policy Server は、**HP** が提供するオプション機能です。詳細については、**HP** 営業担当者までご連絡ください。

詳細については、『**Policy Server** ガイド』を参照してください。

HPCA に既存のポリシーを統合することで、データを **HPCA** で管理しつつ引き続き既存のリポジトリからポリシーを管理でき、お使いの環境の総所有コストを大幅に削減することができます。

POLICY ドメイン

NT ドメインなどの外部ソースからリアルタイム ポリシー情報を使用している場合、データを管理するには、外部ポリシー ストアから **CSDB** の **POLICY** ドメインへの接続を設定する必要があります。この設定は、ポリシー ストアによって異なります。

このセクションでは、**POLICY** ドメインの概要について説明します。中規模から大規模の組織のほとんどでは、既存のポリシー情報を使用して、ドメインの利用も限定的になります。一方、非常に単純な環境では、ソフトウェアを配布する準備段階として、**CSDB** の **POLICY** ドメインを使用して、サブスクライバを論理グループにまとめることができます。

このセクションでは、以下について説明します。

- **POLICY** ドメインに含まれるクラス
- ユーザーやグループを作成する方法
- ユーザーをグループに割り当てる方法

POLICY ドメインを理解し、**HPCA** でのポリシー情報管理の基本を理解すると、これらの知識を応用して、既存のポリシー情報を **HPCA** に統合する方法を学ぶことができます。これらの情報は、データ管理のテストのための簡単な環境を作成する際にも役に立ちます。

POLICY ドメインにアクセスするには

- 2 **[スタート]** メニューを参照し、**Client Automation Administrator CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor のセキュリティ情報]** ダイアログ ボックスが表示されます。

必要に応じて、ユーザー **ID** とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 3 **[POLICY]** をダブルクリックします。

POLICY ドメインに含まれるクラス

POLICY ドメインには、下記の「表 22」で説明する 8 つのデフォルト クラスがあります。

表 22 POLICY ドメインに含まれるクラス

クラス	説明	インスタンスの例
Country/Region (COUNTRY)	Configuration Server との時刻の同期化に使用します。このクラスには、サービスを割り当てないでください。	フランス、日本
Departments (DEPT)	サブスクライバを部門別にグループ化するために使用します。	財務、製造
Mobile Device Config (MBLCONFIG)	Mobility Server を使用する場合に、モバイル デバイス設定のパラメータを定義します。	RmmUser
Multicast (MULTICAST)	マルチキャストが使用できるように HPCA Agent コンピュータを設定するために使用します。	MCast1、Mcast2
PDACONFIG (PDACONFIG)	PDA 設定のパラメータを定義します。	PDAUser
Server Stagers (STAGER)	配布ネットワーク内に Proxy Server または Staging Server を定義します。	CDROM、RPS
Users (USER)	個別のサブスクライバを定義します。ユーザー名またはコンピュータ名のいずれかにできます。	William、SSampson

クラス	説明	インスタンスの例
Workgroups (WORKGRP)	サブスライバを機能グループ別にグループ化するために使用します。	プロジェクト企画、プロジェクトチーム

組織のニーズに合わせて、**POLICY** ドメインに他のクラスを追加することもできます。たとえば、保険会社であれば、**AGENTS** クラスと **OFFICES** クラスを追加することができます。また、銀行であれば、**BRANCHES** や **TELLERS** などのクラスを追加してサブスライバを整理することも考えられます。



クラスの新規作成については、『**Administrator** ガイド』を参照してください。

ユーザーやグループを作成する

HPCA で個別のユーザーまたはグループを作成する必要がある場合があります。たとえば、データの配布および管理をテストするテスト環境が必要になる場合があります。単純な環境を作成する場合には、数人のユーザーを作成してグループに割り当て、それらのグループにサービスを割り当てます。

ここでは、**POLICY** ドメインの **USER** クラスにユーザーを作成する方法について説明します。ここで説明する手順は、**WORKGRP** インスタンスや **DEPT** インスタンスを作成する場合にも使用します。その場合は、適切なクラス名に読み替えてください。

次の例では、**Admin CSBD Editor** を使用して、**USER** クラスに新しいユーザー (**SSampson**) を作成します。

新しいユーザーを作成するには

- 3 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor]** のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。

- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[POLICY]** をダブルクリックします。
- 5 **[Users (USER)]** を右クリックします。
- 6 **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。
- 7 [インスタンスの作成] ダイアログ ボックスで、表示名とインスタンス名を入力します(どちらも半角 25 文字以内または全角 12 文字以内)。
- 8 **[OK]** をクリックします。

これで、ユーザー インスタンス **SSampson** が作成されました。

ユーザーをグループに割り当てる

数人のユーザーを作成したら、それらを 1 つまたは複数のグループに割り当てることができます。次の例では、**Admin CSBD Editor** を使用して、ユーザー **SSampson** を **Sales** 部門に割り当てます。



Departments (DEPT) クラスに表示されている **Sales** インスタンスは、使用している **Configuration Server Database** に表示されない場合があります。このインスタンス (または組織に適した他のインスタンス) を追加するには、「**新しいユーザーを作成するには**」(83 ページ) から始まるの手順に従ってください。ただし、この手順の **USER** を右クリックする部分では、**Departments (DEPT)** など適切なクラス名を右クリックしてください。

ユーザーをグループに割り当てるには

- 4 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor]** のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[POLICY]** をダブルクリックします。

- 5 **[Users (USER)]** をダブルクリックして、すべてのユーザー インスタンスのリストを表示します。
- 6 ユーザー インスタンス (この例では **SSampson**) を右クリックして表示されるメニューで、**[接続の表示]** をクリックします。

[POLICY.USER 接続] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、選択したインスタンスを接続できるクラスのリストが表示されます。




- 7 **[Departments (DEPT)]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
リスト ビューに **DEPT** クラス インスタンスが表示されます。このリストを使用することで、**DEPT** クラスのインスタンスと **USER** クラスのインスタンスを簡単に接続することができます。
- 8 リスト ビューで **Sales** インスタンスをクリックし、適切な **USER** インスタンス (この例では **SSampson**) にドラッグします。カーソルがペーパー クリップの形になったらマウス ボタンを離します。**[接続属性の選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
- 9 **Users.SSampson** から **Department.Sales** への接続を作成するには**[コピー]** をクリックします。
- 10 **[はい]** をクリックして接続を確定します。
- 11 「**SSampson** が既に、**Sales** に接続されています」という確認メッセージが表示されたら**[OK]** をクリックします。

SSAMPSON ユーザー インスタンスの下に **SALES** が表示されます。これで、SSampson は Sales 部門の一部になります。

グループにサービスを接続する

外部ポリシーのソースを使用する場合にも、HPCA でポリシーを管理する場合にも、サブスクリバが受信するサービスを定義する必要があります。

 Policy Server を使用している場合は、『Policy Server ガイド』で詳細を確認してください。

ここでは、HPCA で管理するサービスにユーザーおよびグループを接続する方法について説明します。次の例では、Admin CSBD Editor を使用して、Sales 部門のすべてのサブスクリバに WinZip アプリケーションを許可します。

WinZip アプリケーションを Sales 部門に接続するには

- 5 **[スタート]** メニューを参照し、CSDB Editor を起動します。[Admin CSDB Editor] のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、[新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[POLICY]** をダブルクリックします。
- 5 **[Departments (DEPT)]** をダブルクリックして Departments クラスを開きます。
- 6 ツリー ビューで **Sales** インスタンスを右クリックし、**[接続の表示]** をクリックします。

[POLICY.DEPT 接続] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、選択したインスタンスを接続できるクラスのリストが表示されます。

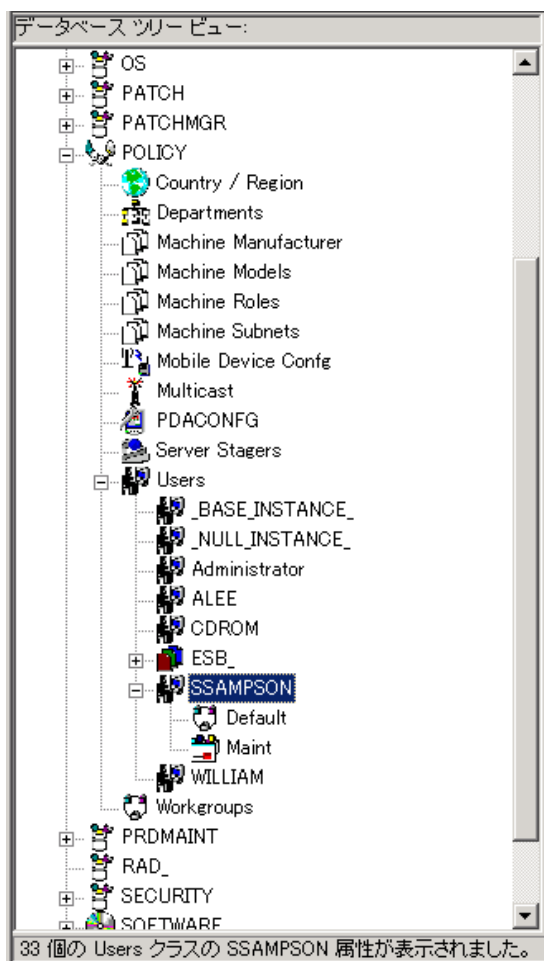
- 7 [接続可能なクラスを表示するドメイン] ボックスの一覧の **[SOFTWARE]** をクリックします。

- 8 **[Application (ZSERVICE)]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。リストビューに **ZSERVICE** クラスのインスタンスが表示されます。
- 9 リストビューで **WinZip** インスタンスをクリックし、適切な **Departments** インスタンス (この例では **Sales**) にドラッグします。カーソルがペーパークリップの形になったらマウス ボタンを離します。**[接続属性の選択]** ダイアログボックスが表示されます。
- 10 **DEPT.SALES** から **Application.WinZip** への接続を作成するには**[コピー]** をクリックします。
- 11 **[はい]** をクリックして接続を確定します。
- 12 「Sales が既に、WinZip に接続されています」という確認メッセージが表示されたら **[OK]** をクリックします。

下の図で、次のことを確認してください。

- **DEPT.SALES** の下に **WinZip** が表示されます。これで、**WinZip** アプリケーションの受信を **Sales** 部門全体に認可することができました。
- **USER** クラスの下に **SSampson** が表示されます。これで、**SSampson** が **Sales** 部門の一部になります。

したがって、これら 2 つの条件に基づき、**HPCA** は **SSampson** のコンピュータで **WinZip** アプリケーションを管理するようになります。



外部ポリシー ストアを使用する場合や、**HPCA** でポリシーを管理する場合は、サービスとグループの接続を操作したり、グループにユーザーを追加したり、グループからユーザーを削除したりすることで、各サブスクリバに認可するサービスをすばやく修正することができます。

5 クライアント オペレーション プロファイルを設定する

この章は以下を目的としています。

- クライアント オペレーション プロファイルの長所について理解する。
- クライアント オペレーション プロファイルを実装する方法を習得する。
- **CLIENT** ドメインについての理解を深め、**HPCA Agent** へのサーバーの指定や、トラブルシューティング設定、ハードウェア スキャン設定、およびユーザー インターフェイス設定の管理についても理解する。
- 簡単な実装例を見る。

クライアント オペレーション プロファイル

複数の Configuration Server や Proxy Server が存在する場合や、アプリケーションを管理するファイルをローカル CD-ROM に保存したい場合は、Configuration Server に接続する前に HPCA Agent の再設定が必要になることがあります。この再設定には、**【クライアント オペレーション プロファイル】**を使用します。クライアント オペレーション プロファイルは、HPCA オブジェクト指向スキーマに基づく機能で、特定のエージェントの動作をエージェント オブジェクトの属性に基づいて制御するものです。クライアント オペレーション プロファイルを使用する利点はさまざまですが、以下にその一部を紹介します。

- HPCA サーバーのフェールオーバー機能を実現することができる。
- ネットワークのロケーションや速度などさまざまな基準に基づいて、使用可能なサーバーを各エージェント コンピュータにダイナミックに割り当てたり、エージェント コンピュータをダイナミックに選択したりすることができる。
- 使用する Configuration Server を、機能的な役割 (ロール) に基づいて選択することにより、Configuration Server 間での負荷分散を実現することができる。
- 詳細な診断機能を利用することができる。



クライアント オペレーション プロファイルを使用するには、バージョン 3.1 以降の HPCA Agent および CSDB を使用する必要があります。

CLIENT ドメイン

クライアント オペレーション プロファイルは、CSDB の CLIENT ドメインで管理されます。そのクラスには、HPCA agent コンピュータのオペレーションの設定に使用できるサンプル インスタンスが含まれています。たとえば、ZCONFIG オブジェクトに格納されているエージェント コンピュータのネットワーク ロケーションを基に、各エージェント コンピュータに対するアプリケーション データのダウンロード元に優先度を設定するサンプルなどが用意されています。クラスは以下のとおりです。

- **警告管理 (RADALERT)**
このクラスを使用すると、警告を管理できます。
- **接続の延期設定 (CDFCFG)**
このクラスを使用すると、ユーザーに表示される [接続の延期] ダイアログボックスの外観と動作を制御できます。
- **Core 設定 (SETTINGS)**
SETTINGS このクラスを使用すると、Server Access Profile の使用方法の指定、使用するスクリプトの定義、およびその他のグローバル パラメータの設定を行うことができます。
- **診断 (DIAGS)**
このクラスを使用すると、HPCA Agent に設定されているトレース レベルを上書きできます。

- **ハードウェア スキャン設定 (RADHWCFG)**
このクラスを使用すると、HPCA Agent が実行するハードウェア スキャンのタイプを制御できます。
- **ネットワーク ロケーション (LOCATION)**
このクラスを使用すると、サブネットなどのロケーションに基づいてユーザーをグループに分割することができます。
- **通知セキュリティ (NTFYSEC)**
このクラスを使用すると、COP を使用して、RADEXECD が Portal に内部認証を使用するように設定できます。
- **RSM UI 設定 (RADUICFG)**
このクラスを使用すると、Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスの表示を管理できます。
- **サーバー アクセス プロファイル (SAP)**
このクラスを使用すると、Configuration Server や HPCA 管理対象サービスのデータ アクセス ポイントを定義できます。

クライアント オペレーション プロファイルを実装する

クライアント オペレーション プロファイルを実装し、Configuration Server Database の CLIENT ドメインの環境でプロファイルをカスタマイズします。実装には、主に5つのタスクがあります。

- 1 HPCA Server を識別する、93 ページを参照してください。
- 2 サーバー アクセス プロファイル (SAP) インスタンスの作成、93 ページを参照してください。
- 3 各 SAP インスタンスの基準の設定、97 ページを参照してください。
- 4 各 SAP の優先度の設定 (ロケーション別)、97 ページを参照してください。
- 5 クライアント オペレーション プロファイルの有効化、99 ページを参照してください。

各タスクの詳細については、以降の各セクションで説明します。実装の作業を始める前に、まずはサーバーのタイプとロールについて説明しておきます。

サーバーのタイプおよびロールについて

サーバー アクセス プロファイル (SAP) は、あるサービスで使用可能なすべてのデータ アクセス ポイントを定義する手段として、一般的に用いられます。SAP として使用できるのは、Configuration Server、Proxy Server、または CD-ROM ドライブのいずれかです。クライアント オペレーション プロファイルを使用することにより、カスタマイズされた追加のスクリプトを使用することなく、データ アクセス ポイントを指定して、優先度を設定することができます。

このプロセスを始める前に、サーバーの**タイプ**および**ロール**を理解することが重要です。それらは、それぞれが **SAP** クラスの **TYPE** 属性および **ROLE** 属性に反映されます。

サーバーのタイプ

サーバーのタイプは、**RCS** または **DATA** のいずれかです。


- **RCS**
RCS タイプは、**Configuration Server** のみに割り当てられます。
- **DATA**
DATA タイプは、**Configuration Servers**、**Proxy Servers**、および **CD-ROM** ドライブに割り当てられます。このタイプは、**HPCA Agent** にとってアプリケーションのダウンロード元となるサーバーのみに使用します。

サーバーのロール

各サーバーは、タイプが割り当てれるのに加えて、**SAP** クラスの **ROLE** 属性の中で指定されているロール（機能）を持っています。ロールについては、このセクションで説明します。

Proxy Server および **CD-ROM** ドライブは、**データ ダウンロード (D)** のみのロールを果たすことができるのに対し (**データ ダウンロード (93 ページ)**、を参照)、**Configuration Server** は次のことを実行できます。

- 以下のすべてのロールを果たす。
- 固有のロールを果たす。
- 複数のロールを果たす。

 **HPCA Proxy Server-OS Manager** の操作に特有であるために、このセクションにはリストされないロールがあります。

この追加のロールについては、『**HP Client Automation Enterprise OS Manager** システム管理者ユーザー ガイド』（『**OS Manager** ガイド』）を参照してください。

- **クライアント オペレーション プロファイル (O)**
このロールを設定した **Configuration Server** を使用すると、**HPCA Agent** コンピュータのクライアント オペレーション プロファイルを取得できます。
- **サービス解決 (S)**
このロールを設定した **Configuration Server** を使用すると、**HPCA Agent** コンピュータのサービスを解決できます。
- **エージェント セルフ メンテナンス (M)**
このロールを設定した **Configuration Server** を使用すると、エージェントセルフ メンテナンスを実行できます。

- **レポート (R)**
このロールを設定した **Configuration Server** を使用すると、**HPCA Agent** コンピュータのレポート オブジェクトを格納できます。これらのオブジェクトは **CSDB** の **PROFILE** ファイルに格納されています。
- **データ ダウンロード (D)**
このロールを設定した **Configuration Server**、**Proxy Server**、または **CD-ROM** ドライブを使用すると、**HPCA Agent** コンピュータにアプリケーションデータをダウンロードできます。
- **すべて (A)**
このロールを設定した **Configuration Server** は、上記のすべてのロールを実行することができます。

ファイルをダウンロードする準備ができた **HPCA Agent** は、**LOCATION** クラスで設定されている優先度に従い、**TYPE** 属性が **DATA** であるサーバーから順にアクセスします。**TYPE** 属性が **DATA** であるサーバーの **ROLE** 属性に **D** が設定されていない場合は、そのサーバーはスキップされ、データのダウンロードには使用されません。

TYPE 属性が **DATA** であるすべてのサーバーを処理した段階で、必要なファイルをすべてダウンロードできない場合は、エージェントは **LOCATION** クラスの中で規定されている優先度に従って **TYPE** 属性が **RCS** であるサーバーの処理を開始します。**Configuration Server** をデータのダウンロードに使用するには、次の 2 つの条件が満たされている必要があります。

- エージェント コンピュータの **SETTINGS.RCSDATA** 属性が **y** に設定されていること。
- **Radia Configuration Server** の **SAP.ROLE** 属性が、**D** または **A** のいずれかに設定されていること。

Task 1 HPCA Server を識別する

HPCA Server を指定して、各サーバーにタイプとロールを設定します。タイプは **SAP** クラスの **TYPE** 属性で定義します。ロールは **SAP** クラスの **ROLE** 属性で定義します。**HPCA Server** は、**Configuration Server**、**Proxy Server**、または **CD-ROM** にすることができます。**TYPE** 属性が **DATA** である **HPCA Server** のロールには、データ ダウンロード (**D**) を指定する必要があります。**TYPE** 属性が **RCS** である **Configuration Server** のロールには、さまざまな選択肢があります。そのため、**Configuration Server** が実行できるロールを決定する必要があります。



データ ダウンロード以外のロールを指定できるのは、**Configuration Server** に限られます。その他すべての **SAP** インスタンスにデータ ダウンロード以外のロールを指定すると、その **SAP** は無効になります。

Task 2 サーバー アクセス プロファイル (SAP) インスタンスの作成

Configuration Server Database の **SAP** クラスには、各タイプのサーバー アクセス プロファイル (**SAP**) のサンプルが含まれています。**CM Admin CSDB Editor** を使用して、これから作成する **SAP** インスタンスにサーバーのタイプとロールが最も近いインスタンスをコピーします。**SAP** クラスの属性については、「表 23」(94 ページ) で説明しています。

インスタンスをコピーしたら、表 23 を参考に、企業のニーズに合わせてインスタンスの設定を変更できます。



SAP クラスのインスタンスは、RADSKMAN コマンド ラインで指定される IP よりも優先的に使用されます。

表 23 SAP クラスの属性

属性	説明
ZSTOP00n	一定の条件が満たされている場合にプロセスを中止するために使用します。たとえば、ラップトップ コンピュータからはこの SAP を使用できないようにすることができます。
NAME	SAP インスタンスの簡略名を指定します。
TYPE	<p>HPCA Server のタイプを指定するために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Configuration Server を使用する場合は RCS に設定します。 • Proxy Server または CD-ROM の場合は DATA に設定します。 <p>どのサーバー アクセス プロファイルにもアクセスできなかった HPCA Agent コンピュータは、デフォルトで、最後にアクセスした Configuration Server にアクセスします。例については、「表 24」(97 ページ)を参照してください。</p> <p>注意：HPCA Proxy Server および HPCA OS Manager での Z ロールの使用に関しては、『OS Manager ガイド』を参照してください。</p>
URI	Configuration Server または Proxy Server を指定するための URI (Universal Resource Identifier) を作成します。例については、「表 24」(97 ページ)を参照してください。
ROLE	<p>SAP のロールを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A = すべて (デフォルト) • O = クライアント オペレーション プロファイル • D = データ • R = レポート • M = HPCA Agent セルフ メンテナンス • S = サービス解決 <p>デフォルトは A です。値が設定されていない場合、または無効な値が設定されている場合は、“すべてのロール”が設定されていると見なされます。複数の値を指定できますが、値はそれぞれが隣接する必要があります (スペースやカンマで区切らないでください)。</p> <p>注意：D 以外の属性値を指定できるのは Configuration Server のみです。TYPE 属性が DATA であるサーバーに対してタイプ D 以外を指定すると、その SAP インスタンスはスキップされます。</p> <p>注意：HPCA Proxy Server および HPCA OS Manager での Z ロールの使用に関しては、『OS Manager ガイド』を参照してください。</p>
ENABLED	この SAP を有効にする (Y) か無効にするか (N) を指定します。デフォルトは Y です。値が設定されていない場合、または Y または N 以外の値が設定されている場合、SAP は有効になります。

属性	説明
TIMEOUT	<p>通信がタイムアウトになる時間を秒単位で指定します。有効な値は 0 から 3200 までの数字です。</p> <p>この値が有効な数値であれば、HPCA Agent タイムアウト値 (ZMASTER.ZTIMEO に設定) がこの値で上書きされます。空白の場合は、HPCA Agent の ZMASTER.ZTIMEO の値が使用されます。</p>
PUSHBACK	<p>Configuration Server によってプッシュバックされた場合に HPCA Agent が Configuration Server への接続を再試行する回数を指定します。デフォルトは 0 で、この Configuration Server はスキップされます。</p> <p>有効な値は 1 から 999 までの数字です。</p>
THROTYPE	<p>バンド幅スロットリング オプションを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ADAPTIVE: 使用するバンド幅は、ネットワーク上に共存するその他のサービスと同じになります。 ● RESERVED: バンド幅を個別に予約することができます。この場合、ネットワーク バンド幅に占める割合が最大になるバンド幅が使用されます。 ● NONE: バンド幅スロットリングは行われず、使用できる最大のバンド幅が使用されます。 <p>この属性に有効な値が含まれている場合、HPCA Agent のバンド幅スロットリングの値が上書きされます。この属性が空白の場合は、HPCA agent コンピュータの既存の属性値が使用されます。</p>
BANDWDTH	<p>使用するバンド幅の割合を指定します。有効な値は 1 から 99 までの数字です。</p> <p>この属性に有効な値が含まれている場合、HPCA Agent のバンド幅設定が上書きされます。この属性が空白である場合または存在しない場合は、すべてのバンド幅が使用されます。</p>
STREAM	<p>ストリーミングを有効にする場合は y を指定します。デフォルトは N です。</p> <p>この値により、ZMASTER.ZNORSPNS にある HPCA Agent 設定が上書きされます。</p> <p>警告：ネットワーク環境によっては、ストリーミングに対応していないものもあります。ストリーミングを有効にする前に、ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>
PROXY	<p>この属性の値は変更しないでください。</p> <p>HPCA Agent が SAP に接続する際に使用するインターネットプロキシ URL。</p>
PRIORITY (&(LOCATION. SAPPRI))	<p>この属性の値は変更しないでください。</p> <p>SAP は、LOCATION クラスに指定されている優先度の値についてクエリを行うことによって優先度を取得します。</p>

属性	説明
PRODUCT	<p>この SAP インスタンスを使用できる HPCA Agent を指定します。複数の HPCA Agent を指定できますが、それぞれの値はカンマで区切る必要があります。デフォルトはすべての HPCA Agent であり、空白にすることで表現できます。</p> <p>次に示すのは、各 HPCA Agent に対して推奨される識別子です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Application Manager: AM • Inventory Manager: IM • Application Self-service Manager: ASM • OS Manager: OSM • Patch Manager: PATCH <p>RADSKMAN コマンド ラインでこのパラメータを使用して、フィルタリングの対象とする製品を指定します。</p>
FILTER	<p>この属性を使用すると、使用可能なオブジェクトの基に SAP のフィルタリングを行うことができます。たとえば、この SAP を特定のサービスに使用する場合は、APPINFO.ZOBJNAME=サービス名 と指定します。</p> <p>注意：インストール中は ZSERVICE オブジェクトを使用できません。代わりに、APPINFO オブジェクトを使用します。APPINFO はサービスの LIB ディレクトリにあり、ASERVICE オブジェクトからコピーしたサービスのインスタンスです。</p>
NETTTL	<p>HPCA Agent コンピュータが ICMP 速度チェックで使用する「ホップ」数を指定します。デフォルトは 3 です。</p>



SAP オブジェクトの使用を上書きする場合は、RADSKMAN コマンド ラインに **RCSURI** パラメータを追加してください。**RCSURI** は、URI (Universal Resource Identifier) と同じフォーマットにする必要があります。このパラメータの構文については、「表 24」(97 ページ)を参照してください。

URI (Universal Resource Identifier) の作成

SAP クラスのインスタンスごとに、サーバー アクセス プロファイル (SAP) の URI (Universal Resource Identifier) を設定する必要があります。RFC 1630 で提案されているフォーマットは次のとおりです。

<スキーム>:<スキーム別フォーマット>

ここで、スキームとは通常、HTTP や TCP などのネットワーク プロトコルです。スキーム別フォーマットにスラッシュが含まれる場合、階層パスを示します。URI のスキーム別フォーマットを次のように定義したものが Universal Resource Locator (URL) です。

//<ユーザー>:<パスワード>@<ホスト>:<ポート>/<URL パス>

URL パスには、指定されたリソースへのアクセス方法の詳細が定義されています。最も一般的な形式は次のようになります。//ホスト:ポート/URL パス。
URI の指定の具体的を、下記の「表 24」で示します。

表 24 URI の例

SAP のタイプ	URI 属性および TYPE 属性の設定内容
デフォルト ポート 3464 を使用して TCP/IP 上で動作する Configuration Server	URI = tcp://ovcmcs:3464 TYPE = RCS
ポート 7800 を使用して TCP/IP 上で動作する Configuration Server	URI = tcp://ovcmcs:7800 TYPE = RCS
ポート 443 の SSL を使用する Configuration Server	URI = tcps://ovcmcssl:443 TYPE = RCS
HTTP を使用する Proxy Server	URI = http://ovcmps:3466 TYPE = DATA
CD-ROM	URI = file://&(ZCONFIG.ZHDWCDDR) /DATA/ TYPE = DATA

Task 3 各 SAP インスタンスの基準の設定

SAP インスタンスを作成したら、企業内のネットワークをどのようにセグメント化するか決めます。1 つの例としては、エージェント コンピュータにそのサブネットに基づいて SAP を割り当てる方法です。Admin CSDB Editor を使用して、サブネットごとに 1 つの LOCATION インスタンスを作成します。

エージェント コンピュータの ZCONFIG オブジェクトには、NETLOC という属性があります(この値では、ピリオドの代わりにアンダースコア (_) を使用してエージェント コンピュータのサブネットを識別します)。エージェント コンピュータのサブネットに基づいて LOCATION インスタンスに名前を付けることにより、それぞれのサブネットに基づいて適切な LOCATION インスタンスにユーザーを簡単に接続できるようになります。たとえば、10.10.10.1 というサブネットがある場合、10_10_10_0 という LOCATION インスタンスを作成します。エージェント コンピュータの ZCONFIG.NETLOC 変数を使用して、サブスクライバを適切な LOCATION クラスに接続する方法については、「クライアント オペレーション プロファイルの有効化」(99 ページ)で説明します。

Task 4 各 SAP の優先度の設定 (ロケーション別)

LOCATION クラスのインスタンスを使用して、ロケーション基準に基づいてサーバー アクセス プロファイルの優先度を設定します。サーバー アクセス プ

ロファイルの優先度は、接続先を示す SAP インスタンスの真上にある SAPPRI 属性で定義します。

番号が小さいほど、優先度は高くなります。そのため、インスタンス SAP.SAMPLE_RCS_EAST の優先度が 10 で、インスタンス SAP.SAMPLE_DATA_RPS_EAST の優先度が 40 であれば、SAP.SAMPLE_RCS_EASTの方が SAP.SAMPLE_DATA_RPS_EAST より先に使用されます。



SAPPRI には、01 から 99 までのいずれかの整数を指定することができます。LOCATION インスタンス内の SAP は、優先度の順に表示する必要はありません。

下記の表 25 では、LOCATION クラスのインスタンスの属性を説明しています。

表 25 LOCATION クラスの属性

属性	説明
NAME	インスタンスの簡略名を指定します。
ALWAYS	SETTINGS クラスのインスタンスを指定します。デフォルトの接続は、SETTINGS.DEFAULT_SETTINGS です。
ALWAYS	DIAGS クラスのインスタンスを指定します。デフォルトの接続は、DIAGS.DEFAULT_DIAGS です。
ALWAYS	RADUICFG クラスのインスタンスを指定します。
ALWAYS	RADHWCFG クラスのインスタンスを指定します。
ALWAYS	この LOCATION インスタンスに接続するクラスのインスタンスを指定します。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 10 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 10 です。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 20 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 20 です。

属性	説明
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 30 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 30 です。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 40 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 40 です。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 50 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 50 です。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 60 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 60 です。
SAPPRI	この属性の下の _ALWAYS_ クラスが参照する SAP インスタンスの優先度を指定します。このインスタンスの下で接続先として参照される SAP のデフォルトは、優先度 70 です。
ALWAYS	この属性の上にある SAPPRI で指定された優先度を適用する SAP インスタンスを指定します。デフォルトの優先度は 70 です。

Task 5 クライアントオペレーション プロファイルの有効化

この手順は、2つの段階に分けることができます。

- 1 クライアント オペレーション プロファイルに関連付けられているオブジェクトを解決するために、**Configuration Server** 上にプロセスを作成します (「**HPCA Configuration Server** で COP を有効化する」(100 ページ)を参照)。

- エージェント コンピュータでクライアント オペレーション プロファイルを有効にします(下記の「**HPCA Agent** で **COP** を有効にする」を参照)。

HPCA Configuration Server で COP を有効化する

クライアント オペレーション プロファイルを有効化するには、**SYSTEM** ドメインの **PROCESS** クラスにある **RADSETUP** インスタンスを使用します。このインスタンスは、**CSDB** にすでに存在するはずでず。

CLIENT.LOCATION.&(ZCONFIG.ZNETLOC へのクラス接続を作成します。この接続により、**HPCA agent** コンピュータの **ZCONFIG** オブジェクトにある **ZNETLOC** 属性に基づき、適切な **LOCATION** インスタンスにユーザーがマッピングされます。**ZNETLOC** 属性は、**HPCA agent** コンピュータのサブネットを指定するもので、4 つの 10 進数を区切る記号にはピリオドの代わりにアンダースコアを使用します。**LOCATION** クラスのインスタンスは、環境内の各サブネットに対応するように定義する必要があります。これは、**COP** の設定を、ネットワーク内のロケーションに基づいてダイナミックに割り当てることを可能にするためです。

HPCA Agent で COP を有効にする

デフォルトでは、**HPCA** の以前のバージョン (**HP Configuration Management**) との下位互換性を保つために、**COP** は **HPCA agent** コンピュータ上で無効になっています。エージェント コンピュータ上で **COP** を有効にするには、3 つの方法があります。**HPCA Agent** が既にインストールされているかどうかに基づき、最適な方法を選択してください。

HPCA Agent がまだインストールされていない場合

- **Install.ini** をカスタマイズして、**COP** 変数を **RADSETUP** に追加できるようにします。そのためには、**Install.ini** の **[Objects]** セクションに新たに 1 行追加します(下記の太字の行)。詳細については、「**Install.ini** の **[Objects]** セクション」(37 ページ)を参照してください。

```
[Objects]
; Set HPCA object attribute values
; A value of _NONE_ will set the attribute to blank
;
RADSETUP_COP=Y
;ZMASTER_ZDSTSOCK=
;ZMASTER_ZIPADDR=
;ZMASTER_ZNTFPORT=3465
```

既存の **HPCA Agent** で **COP** を有効にするには

- **REXX** メソッドである `initmeth.rex` を使用して **RADSETUP** オブジェクト内に **COP** 変数を追加し、設定します。`Initmeth.rex` は、“最初にカタログをリフレッシュ” が呼び出されるごとに実行され、**COP** 変数を **Y** に設定して **RADSETUP** オブジェクトを構築し、**COP** を有効にします。



`initmeth.rex` メソッドは、**HPCA Agent** によってはインストールされません。**HPCA** 管理者が作成し、**HPCA Agent** フォルダに配布できます。スクリプトが **Agent** のフォルダに存在する場合は、**HPCA Agent** はこのセクションで説明するように `initmeth.rex` を実行します。

REXX メソッドの詳細については、『**REXX** プログラミング ガイド』を参照してください。

`initmeth.rex` に、以下の行を追加します。

```
/* Sample INITMETH.REX to Enable the COP */
call edmgr('RADSETUP',0)
RADSETUP.COP = 'Y'
call edmsset 'RADSETUP'
```

更新した `initmeth.rex` は必ず配布してください。

- **RADSKMAN** の **COP** パラメータを使用して、クライアント オペレーション プロファイルの有効/無効を切り替える方法もあります。有効にする場合は、**RADSKMAN** のパラメータ リストに **COP=Y** を追加します。この方法を用いてクライアント オペレーション プロファイルの有効/無効を切り替えることができるのは、この **HPCA Agent** 接続に対してのみです。すべてのエージェント接続に対してクライアント オペレーション プロファイルを有効にするには、上記のように `initmeth.rex` を使用するか、**CLIENT.SETTINGS** 内に **COP** という変数を作成して、その値を **Y** に設定します。どちらの方法でも最終的には、**RADSETUP** オブジェクト内に **COP** 属性を作成した上で、その値を **Y** に設定することになります。一方、クライアント オペレーション プロファイルを有効にしてから無効にする必要がある場合は、**COP=N** を設定して `radskman` を実行し、そのエージェント接続に対してのみ無効にします。

クライアント オペレーション プロファイルの例

ここでは簡単な例を基にして、実際にクライアント オペレーション プロファイルを設定する方法を説明します。**HPCA Agent** コンピュータを最適な **Configuration Server** に接続することが目的です。通常の作業では、ネットワーク アドレスに基づいて **HPCA agent** コンピュータを **Configuration Server** に割り当てる作業が必要になります。

想定環境

企業内を **EAST** と **WEST** という 2 つの地域に分割すると想定します。**EAST** 地域のエージェント コンピュータはすべて **192.111.111.0** ネットワークに、**WEST** 地域のエージェント コンピュータはすべて **193.111.111.0** ネットワークに属します。さらに、**Configuration Server** が 2 台存在し、**EAST** 地域のプライマリ **HPCA Server** は **RCS_EAST**、**WEST** 地域のプライマリ **HPCA Server** は **RCS_WEST** だとします。

想定環境を基に設定するには

- 1 サーバー アクセス プロファイル (**SAP**) インスタンスを、**CS_EAST** と **RCS_WEST** のそれぞれに対して 1 つずつ、合計 2 つ作成します。

サーバー アクセス プロファイル (**SAP**) クラスでは、**TYPE** 属性を使用してサーバーのタイプを **DATA** または **RCS** に指定します。この例で設定を行うのは、**Configuration Server** のみです。したがってどちらのサーバーに対しても、**SAP.TYPE** を **RCS** に設定します。

また、各サーバー アクセス プロファイル インスタンスに対して、ロールを設定する必要があります。ここでも便宜上、**SAP.ROLE** を **A** (すべて) に設定します。つまりこの **Configuration Server** は、クライアント オペレーション プロファイル、サービス解決、メンテナンス、データ、およびレポーティングのロールを実行できます。

必ず値を指定しなければならないのは、**URI (Universal Resource Identifier)** 属性のみです。それ以外の変数は、必要に応じてカスタマイズします。

- 2 **EAST** と **WEST** のそれぞれに対して、ロケーション インスタンスを 1 つずつ作成します。

ここでは、**192_111_111_0** および **193_111_111_0** という 2 つのロケーション インスタンスを作成し、それぞれに、**Sample_Location East**、**Sample_Location West** という簡略名を付けます。

- 3 **LOCATION** インスタンスを適切なサーバー アクセス プロファイル (**SAP**) インスタンスに接続します。

- **LOCATION.Sample_Location East** インスタンスには、**SAP.Sample_RCS EAST** への接続を定義します。

- **LOCATION.Sample_Location West** インスタンスには、**SAP.Sample_RCS WEST** への接続を定義します。

- 4 ここで、次のそれぞれの場合について、**EAST** に属するクライアントの対処方法を検討します。

- **RCS_EAST** が使用できない場合。対処方法は次のいずれかです。
 - 接続を中止する

または

- RCS_WEST への接続を試みる
- あなたが EAST 地域のエージェントで、RCS_EAST が使用できないとします。つまり、**Configuration Server** の設定ファイルに定義されているタスク数の上限に達している場合です。対処方法は次のいずれかです。
 - 接続が確立されるまで RCS_EAST への再試行を繰り返す

または

- RCS_WEST への接続を試みる

関連概念を理解し、このプロセスに習熟した上で、その他の構成要素をクライアント オペレーション プロファイルに追加する作業を開始できます。**TYPE** 属性に **RCS** が指定されたサーバーの設定が完了したら、**TYPE** 属性に **DATA** が指定されたサーバーの設定を行います。さらに、**TYPE** 属性に **RCS** が設定された個別のサーバーに、それぞれのロールを設定することができます。

CLIENT ドメインのその他のクラス

SAP および **LOCATION** クラスに加えて、さまざまなカスタマイズや診断に **CLIENT** ドメイン内の次のクラスを使用できます。

- 警告管理 (**RADALERT**)
- 接続の延期設定 (**CDFCFG**)
- Core 設定 (**SETTINGS**)
- 診断 (**DIAGS**)
- ハードウェア スキャン オプション (**RADHWCFG**)
- 通知セキュリティ (**NTFYSEC**)
- ユーザー インターフェイス プロパティの設定 (**RADUICFG**)

これらのクラスについては、以下のセクションで説明します。

警告管理 (**RADALERT**)

このクラスを使用して、警告イベントの表示およびレポートを設定します。

表 26 RADALERT クラスの属性

属性	説明
WMIALRT	y を指定すると、WMI BIOS イベントを監視します。
ALRTDISP	y を指定すると、WMI イベントをローカルに表示します。
DISPSEV	表示する最低の警告重大レベルを指定します。
DISPCTG	どの CSV イベント カテゴリを表示するか指定します。
REPSEV	報告する最低の警告重大レベルを指定します。
REPCTG	どの CSV イベント カテゴリを報告するか指定します。
TIMEOUT	表示するローカル イベントのタイムアウトを指定します。
SMRTMON	y を指定すると、SMART イベントを監視します。
SMRTDISP	y を指定すると、SMART イベントをローカルに表示します。
SMRTREP	y を指定すると、SMART イベントを報告します。

接続の延期設定 (CDFCFG)

このクラスを使用すると、ユーザーに表示される [接続の延期] ダイアログボックスを設定できます。接続の延期は、管理者が必須のサービス関連のアクションのダウンロードおよびインストールのためのオプション（ユーザーがこれらのアクションをいつ実行するかを制御できるオプションなど）を設定できる機能です。接続の延期の詳細については、「[必須サービスに対するユーザー アクション](#)」(218 ページ) から始まるを参照してください。

表 27 CDFCFG クラスの属性

属性	説明
NAME	インスタンスの簡略名を指定します。
ENABLE	y (デフォルト) を指定すると、接続の延期機能を有効化できます。 注意：この機能の有効/無効を切り替える、コマンド ラインの新しいオプションである cdf=y/n を含むように RADSKMAN が更新されました。RADSKMAN の設定は、CDFCFG 設定に優先します。
ABORT	y (デフォルト) を指定すると、 [キャンセル] ボタンを有効化できます。 n を指定すると、 [キャンセル] ボタンが無効になり、キャンセル機能を説明するテキスト（「再スケジュールなしにこのプロセスをキャンセルするには、 [キャンセル] をクリックします」）が非表示になります。

属性	説明
DESCTEXT および DESCTXT2	<p>[接続の延期] ダイアログの上部に表示される、説明テキストにカスタマイズされた代替テキストを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> DESCTEXT は、テキストの最初の 2 文を置換します。 DESCTXT2 は、「これらのアクションを続行するには…」というテキストを置換します。
DOMAINS	<p>これは、ドメインのカンマ区切りのリストです。これらのドメインで機能を使用できます。デフォルト値は、SOFTWARE, PATCHMGR, OS です。たとえば、SOFTWARE, OS が指定されると、PATCHMGR 接続は、この機能を使用できません。</p> <p>注意：HPCA Configuration Server Database 内のカスタム ドメインをこのリストに追加して、ユーザーがこれらのドメイン内のサービスを延期することもできます。</p>
TIMEOUT	<p>[接続の延期] ダイアログに対して、保留になっているアクションが自動的に起動するまでに待機する時間の長さ(分)を指定します。</p>
SOFTWARE, PATCHMGR, および OS 属性	<p>サポートされているドメインごとにユーザーが接続を延期できる最大日数を指定します。たとえば、SOFTWARE が 5 に設定されると、ユーザーは SOFTWARE 接続を最大 5 日間延期でき、その後、保留されているアクションがユーザー マシンに強制実行されます。PATCHMGR および OS は、それらのドメインに対する接続が延期できる最大日数を指定するためのものです。</p> <p>ユーザーがいつ延期を開始したか決定するために、ローカル値が IDMROOT の中の CDFDEFER オブジェクトに保存されます (ユーザーが [許可] をクリックすると、この日にちが 0 にリセットされます)。次の接続時に、「延期」日は何日残っているかを決定するためにこの値がクエリされます。たとえば、アクションが月曜に延期され、SOFTWARE が 5 に設定されている場合は、火曜日に「延期」日が 4 日残っているというメッセージが表示され、残りの日数がゼロになるまでそのようなメッセージが表示されます。「延期」日数が残っていない場合、[キャンセル] および [延期] は無効になり、ユーザーは接続を許可する必要があります。</p> <p>注意:</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの値は、[延期期間] リストに影響します。この設定よりも大きな期間は、ドロップダウン リストでは使用できません。 ウィンドウの右側に、ユーザーがアクションを延期できる残りの日数を示すメッセージが表示されます。 接続の延期では、dname= をチェックし、CDFCFG 内のどの値を使用するか決定します。 HPCA Configuration Server Database 内のカスタム ドメインをこのリストに追加して、ユーザーがこれらのドメイン内のサービスを延期することもできます。 dname が指定されていない場合、デフォルトは SOFTWARE です。

Core 設定 (SETTINGS)

SETTINGS クラスのインスタンスは、サーバー アクセス プロファイルの使用方法を指定する場合、事前設定処理で使用するスクリプトを定義する場合、およびその他のグローバル パラメータを設定する場合に使用します。


 **SETTINGS** クラスと **SAP** クラスに同じような属性が存在する場合は、**SAP** クラスの属性の値が使用されます。

表 28 **SETTINGS** クラスの属性

属性	説明
NAME	インスタンスの簡略名を指定します。
SAPPING	Y に設定すると、HPCA Agent はすべての SAP に対して ping を実行するようにするようになります。 EQUISORT が s の場合、これは、 Y に設定する必要があります。接続の速度を反映する結果が返され、 SAPSTATS オブジェクトの SPEED 属性に格納されます。デフォルトは N です。
PUSHBACK	初回の HPCA Agent 接続で Configuration Server がプッシュ バックした場合に HPCA Agent が Configuration Server への接続を再試行する回数を、0 から 999 の数値で指定します。0 (デフォルト) に設定すると、HPCA Agent 接続に対してプッシュ バックを行う Configuration Server はスキップされます。
EQUISORT	優先度が同じ SAP インスタンスが複数ある場合のアクションを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• s に設定すると、ネットワーク速度が最も速い SAP が使用されます。SAPPING が Y である必要があります。• r (デフォルト) に設定すると、使用する SAP インスタンスがランダムに選択されます。作業負荷を分散する場合、これが推奨されます。
USELSAP	デフォルトの Y を設定すると、あるサービスが HPCA Agent 接続中に優先度の低い SAP を使用してデータのダウンロードを完了しなければならない場合に、残りのサービスもこの SAP から続行しなければならないかどうかを指定できます。 USELSAP が N の場合、HPCA Agent はサービスごとに、優先度に従って SAP に順次アクセスします。
RCSDATA	Y を指定すると、 TYPE が DATA である SAP をすべて使用しても必要なデータの一部をダウンロードできなかった場合に、 TYPE が RCS である SAP を使用できます。HPCA Agent コンピュータが Configuration Server を使用することを防ぐには、 N を指定します。デフォルトは Y です。

属性	説明
ADINFO	y (デフォルト) を指定すると、 HPCA agent コンピュータのアクティブ ディレクトリ情報を収集することができます。この情報は、RADSETUP ディレクトリ (デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib にある) の ADINFO オブジェクトに格納されます。この情報は、すべての解決プロセスにおいて、 Configuration Server に送信されます。
ZGRPINFO	y (デフォルト) を指定すると、 HPCA agent コンピュータのユーザー グループ情報を収集することができます。この情報は、RADSETUP ディレクトリ (デフォルトでは C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib にある) の NTGROUPS オブジェクトに格納されます。この情報は、すべての解決プロセスにおいて、 Configuration Server に送信されます。
LSCRIPT	サービスが即時再起動を実行するように設定しており、 RADSKMAN をログイン スクリプトから起動する場合、 y (デフォルト) を指定します。 サービスが即時再起動を実行するように設定しており、ユーザーのログイン時に RADSKMAN をユーザー コンテキストで再起動したい場合、この属性を n に設定します。 再起動オプションの詳細については、「 HPCA agent コンピュータを再起動する」(132 ページ) を参照してください。
ALWAYS D	y (デフォルト) を指定すると、事前設定オブジェクトが常にダウンロードされるようになります。これにより、 SAP や永続オブジェクトは、内容に変更がない場合でも必ずダウンロードされます。何らかの理由で破損した SAP クライアント オブジェクトは、要求ステートに変更がない場合でも再ダウンロードされます。さらに、変数の 1 つが置換変数である場合も、置換によって変数の値が変わっても要求ステートは変更されず、オブジェクトは新しい値でダウンロードされます。
ALWAYS S	y (デフォルト) を指定すると、RADSETUP ディレクトリにあるすべてのオブジェクトが Configuration Server に常にアップロードされます。
EXBSETUP	事前設定処理前に実行するスクリプトを指定します。このスクリプトは、 HPCA Agent コンピュータの IDMSYS ディレクトリに格納する必要があります。デフォルト スクリプトは PRESETUP.REX です。
EXASETUP	事前設定処理後に実行するスクリプトを指定します。このスクリプトは、 HPCA Agent コンピュータの IDMSYS ディレクトリに格納する必要があります。
CMETHOD	カタログ解決後、サービス処理の前に実行されるスクリプトを指定します。
EXBOUTBX	サービスの処理後、アウトボックス内のオブジェクトが Configuration Server ヘフラッシュされる前に実行されるスクリプトを指定します。

属性	説明
EXBEXIT	<p>RADSKMAN が終了する前に実行されるスクリプトを指定します。カスタマイズされた再起動プロセスを実行している場合、ここにスクリプトを指定します。このスクリプトは、HPCA Agent コンピュータの IDMSYS ディレクトリに格納する必要があります。デフォルトのロケーションは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent です。</p> <p>注意：HPCA Agent でクライアント オペレーション プロファイルを有効にしなければ、EXBEXIT を使用することはできません。</p>
TIMEOUT	<p>サーバー アクセス プロファイル (SAP) のタイムアウト時間を秒単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有効な数値 (0 ~ 3200) が含まれている場合、HPCA Agent タイムアウト値 (ZMASTER.ZTIMEO) がこの値で上書きされます。 ● 空白の場合、HPCA Agent は ZMASTER.ZTIMEO の値を使用します。
THROTYPE	<p>使用するバンド幅スロットリングのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ADAPTIVE: 使用するバンド幅は、ネットワーク上に共存するその他のサービスと同じになります。 ● RESERVED: バンド幅を個別に予約することができます。この場合、ネットワーク バンド幅に占める割合が最大になるバンド幅が使用されます。 ● NONE: バンド幅スロットリングは行われず、使用できる最大のバンド幅が使用されます。これがデフォルトとなります。
BANDWIDTH	<p>使用するバンド幅の割合 (1 ~ 99) を指定します。この属性を空白にするか、属性に値が存在しない場合は、バンド幅全体が使用されます。</p>
RADTRAY	<p>HPCA システム トレイで使用するコマンドライン引数を指定します。</p> <p>最初の引数は Y にして、システム トレイを有効にします。その後、残りのパラメータをカンマ区切りで指定できます。</p> <p>/C = HPCA システム トレイを、起動と同時にコンソール モードで表示します。</p> <p>/NOCANCEL = [キャンセル] ボタンを非表示にします。</p> <p>/NOPAUSE = [停止] ボタンを非表示にします。</p> <p>/D = トラブルシューティング用のログにデバッグ メッセージを追加します。</p> <p>例：RADTRAY=Y, /C, /NOPAUSE は、システム トレイをコンソール モードで有効化しますが、[停止] ボタンが非表示になります。</p>
USEDEFS	<p>Y を指定すると、必要な ROLE に SAP が見つからない場合、コマンドラインで設定された Configuration Server がデフォルトとして使用されます。</p>

属性	説明
DEFROLE	<p>コマンド ラインで指定された Configuration Server に対してロールを指定します。ROLE のデフォルト値は A (すべてのロール) であり、Configuration Server ですべてのロールを実行できるようになります。</p> <p>注意 : DEFROLE を使用するには、USEDEFS を Y に設定する必要があります。</p>
RAD2XUI	<p>Y を指定すると、旧式の Radia ユーザー インターフェイス ダイアログ ボックスを表示できます。HPCA システム トレイを使用していない場合、または HPCA システム トレイに加えてメッセージをポップ アップ表示させたい場合に、これを使用します。</p>
RSTROPT	<p>あるファイルに対してチェックポイントの再開を有効にするための条件を、計算されたネットワーク バンド幅に基づいて指定します。この値は、この HPCA Agent 接続でダウンロードされるすべてのファイルに適用されます。ファイル サイズの加減、ネットワークしきい値、ファイル サイズの上限 という形式にします。</p> <p>そのため、RSTROPT = 100KB, 86KB, 10MB とすると、HPCA Agent はまずネットワーク幅を計算し、続いて次の 2 つのシナリオのいずれかが実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク バンド幅が 86KB 未満の場合、ファイル サイズは 100KB と比較されます。ファイル サイズが 100KB より大きい場合は、そのファイルに対してチェックポイントの再開が有効になります。 • ネットワーク バンド幅が 86KB より大きい場合、ファイル サイズは 10MB と比較されます。ファイル サイズが 10MB より大きい場合は、そのファイルに対してチェックポイントの再開が有効になります。
DISKFREE	<p>HPCA で最低限確保する必要があるディスク スペースの空き容量を指定します。この制限を超えるサービスはインストールされません。</p>
REMUNINS	<p>Y を指定すると、リモート マシンからの通知があっても、サービスがアンインストールされないようにすることができます。ただし、リモート通知により通常の HPCA Agent 接続が開始される場合、ポリシーの変更に伴うアプリケーションのアンインストールは、ここで指定した値に関係なく行うことができます。アンインストール通知には必ず、req="Un-install" という文字列が含まれます。</p>
DETPROXY	<p>N を指定すると、HPCA Agent 接続の開始時にインターネット プロキシ検出の実行はスキップされます。</p>
ACTMAINT	<p>HPCA メンテナンス モジュールである UPGRDMAINT により、すべてのメンテナンス アクティビティが処理されます。メンテナンスのステージング直後に、または個別のスケジュールに従って、RADSKMAN から起動することができます。</p> <p>注意 : メンテナンスを実行する場合は、RADSKMAN の mnt パラメータを Y に設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I (デフォルト) を指定すると、メンテナンス ファイルをダウンロードし、その直後にアクティブ化することができます。 <p>注意 : Application Self-service Manager のユーザーには、[OK] ボタ</p>

属性	説明
	<p>ンしかない [更新する必要があります] というダイアログ ボックスが表示されます。Application Self-service Manager は終了され、メンテナンス ファイルがインストールされてから、再起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • D を指定すると、メンテナンス ファイルのアクティブ化を保留にできません。メンテナンス ファイルはダウンロードされますが、アクティブ化はされません。メンテナンスをアクティブ化するには、radsksm req="Self Maintenance" を呼び出すか、タイマーまたはその他のメソッドを使用して UPGRDMAINT を直接呼び出します。 • P を指定すると、Application Self-service Manager ユーザーに限りプロンプトが表示されます。メンテナンスが実行可能であることを知らせるダイアログ ボックスが表示され、ユーザーにはキャンセル オプションがあります。ファイルはダウンロードされますが、アクティブ化はされません。次回のメンテナンス チェックに際して、Application Self-service Manager インターフェイスにユーザーへのプロンプトが再び表示されます。 <p>注意：これは、Application Manager のユーザーから見れば、I と違いはありません。</p>
SENDRPT	<p>HPCA Agent 接続の最後に Configuration Server にレポート オブジェクトを転送するかどうか指定します。通常、APPEVENT、CLISTATS、および ZSVCSTAT など、各サービスのレポート オブジェクトは、作成直後に Configuration Server に送信されます。この場合、Configuration Server からの切断と再接続を繰り返す必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • D を指定すると、すべてのレポート オブジェクトの送信が延期されます。 • I (デフォルト) を指定すると、レポート オブジェクトが即時に送信されます。
NETSPEED	<p>HPCA Agent が Configuration Server または Proxy Server ICMP (Internet Control Message Protocol) 接続の速度をチェックするのに使用するメソッドを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ICMP チェックを実行するには、C (デフォルト) を指定します。 • ICMP チェックを実行してネットワーク カードの速度を取得し、2 つの値のうち大きいほうを返すには、M を指定します (環境内で ICMP が無効になっている場合に使用) • 2ms 未満の応答時間を示すサーバー間を区別するチェックを有効化するために ICMP チェックをハイパフォーマンス カウンタを使用して実行するには、H を指定します。 • ネットワーク スピード チェックをオフにするには、N を選択します。
NETTTL	<p>HPCA Agent コンピュータが ICMP 速度チェックで使用する「ホップ」数 (0 ~ 999) を指定します。デフォルトは 3 です。</p>

属性	説明
FLUSHU	<p>HPCA Agent 接続時にレポート オブジェクトを (ユーザーのアウトボックス フォルダから) フラッシュするか、後から転送するためにオブジェクトをローカル (HPCA Agent マシン) に保存するか指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● A の値では、ユーザー接続のレポート オブジェクトが保存され、次のマシン接続中に送信されます。 ● HPCA Agent 接続の状況にかかわらず、常にレポート オブジェクトを送信するには、Y (デフォルト) を指定します。 ● ユーザーのアウトボックス フォルダをフラッシュしないようにするには、N を指定します。 <p>注意：いくつかのレポート オブジェクトは、接続ごとに削除され再生成されます。その他のオブジェクトは、接続ごとに新しい情報を蓄積し、レポートが有効になった差異に送信されます。</p> <p>例： ユーザーごとのアウトボックス フォルダ内にレポート オブジェクトを蓄積するには、ユーザー接続に対して FLUSHU=N を指定します。 マシン接続中に、FLUSHU=A を指定すると、すべてのオブジェクトを転送します。</p> <p>FLUSHU=Y は、現在接続中の HPCA Agent のレポート オブジェクトをアウトボックス フォルダから常に送信します。</p>

診断 (DIAGS)

このクラスを使用すると、HPCA agent コンピュータ上にあるトレースのデフォルト設定を上書きできます。また、RADSTATE プログラムの実行に使用するパラメータを設定することもできます。RADSTATE は、HPCA Agent の現在の状態について概要を把握するための診断モジュールです。RADSTATE の出力情報は、数多くの HPCA Agent オブジェクトから取得されたデータに基づいています。RADSTATE に関する追加の情報については、「[診断モジュール \(RADSTATE\)](#)」から始まる(74 ページ)セクションを参照してください。



このクラスのインスタンスを使用すると、ユーザー、マシン、またはユーザー グループごとにトレース レベルや RADSTATE のパラメータを簡単に設定できます。これらの属性は、それぞれの一時クラスに意図的に組み込まれています。これを使用するには、LOCATION._BASE_INSTANCE_ にある _ALWAYS_ 診断クラス接続を **DIAGS.&(ZCONFIG.ZHDWCOMP)** に設定します。次に、トレース レベルを設定する HPCA agent コンピュータのコンピュータ名を使って、DIAGS クラスのインスタンスを作成します。マシン名が DIAGS クラスに存在しない場合は、DEFAULT_DIAGS インスタンス設定が使用されます。

表 29 DIAGS クラスの属性

属性	説明
NAME	インスタンスの簡略名を指定します。
RADSTATE	<p>RADSTATE の実行時のパラメータを指定します。パラメータを指定しないと、RADSTATE は実行されません。</p> <p>注意：RADSTATE が IDMSYS ディレクトリにインストールされている必要があります。</p> <p>DIAGS クラスの <code>_BASE_INSTANCE_</code> は VO に設定されます。これにより RADSTATE が冗長モードで実行され、ZRSTATE オブジェクトと ZRSTATES オブジェクトが作成されます。指定する必要があるのは RADSTATE のパラメータのみです。RADSTATE の実行可能ファイルを指定する必要はありません。</p>
ZTRACE	<p>通信のトレースを HPCA Agent のログ ファイルに記録する必要があるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N (デフォルト) を指定すると、通信バッファのトレースが無効になります。 • S を指定すると、通信バッファの要約情報が HPCA Agent のログに提供されます。この要約情報には、読み出し/書き込みが行われたレコードの数や、処理されたレコードのタイプが含まれています。 • Y を指定すると、通信バッファの詳細情報が HPCA Agent のログに提供されます。HPCA Agent ログ ファイルには、送受信されたすべてのデータが反映されます。 <p>警告：ZTRACE=Y にすると、大量のデータが HPCA Agent のログに書き込まれることになり、HPCA Agent のパフォーマンスに重大な影響を与える可能性があります。HP テクニカル サポートから指示されない限り、Y は指定しないでください。</p>
ZTRACEL	<p>HPCA Agent のログ ファイルに記録されるトレースのレベル (000、040、または 999) を指定します。空白にすると、既存の値が使用されます。</p> <p>警告：ZTRACEL に高い値を設定すると、大量のデータが HPCA Agent のログに書き込まれることになり、HPCA Agent のパフォーマンスに重大な影響を与える可能性があります。HP テクニカル サポートから指示されない限り、Y は指定しないでください。</p>

ハードウェア スキャン オプション (RADHWCFG)

RADHWCFG クラスのインスタンスを使用すると、エージェント デバイス上で実行するハードウェア スキャンのタイプを指定できます。ハードウェア スキャン情報は、ZCONFIG オブジェクトにレポートされます。ハードウェア スキャン オプションを実装するには、RADHWCFG クラスのインスタンスを LOCATION クラスのインスタンスに接続する必要があります。

- ▶ RADHWCFG クラスを使用するには、クライアント オペレーション プロファイルを有効にする必要があります。テストを行う場合、RADHWCFG クラスのすべての属性を備える RADHWCFG オブジェクトをエージェント デバイスに作成し、属性を Y または N に変更して、ZCONFIG オブジェクトで結果を確認することを検討してください。

HP では RADHWCFG クラスに 4 つのサンプル インスタンスを用意しています。

- **ベース インスタンス**
_BASE_INSTANCE_ のコピーを作成し、それを基に独自のハードウェア スキャン オプションを作成することができます。
- **デフォルト ハードウェア スキャン**
このインスタンスを使用すると、要求頻度の最も高い情報をスキャンすることができます。
- **ハードウェア設定 (ネットワークのみ)**
このインスタンスを使用すると、スキャンの対象をネットワーク情報に限定することができます。
- **サンプル ダイナミック スキャン**
このインスタンスは、ダイナミック スキャン変数を使ったスキャンのサンプルです。

下の表は、実行可能な各ハードウェア スキャンの詳細をまとめたものです。スキャン結果として返される ZCONFIG 属性の例も記載されています。

- ▶ 返される属性は、ハードウェアの設定によって異なります。たとえば、エージェント デバイスにプリンタが 1 台だけ接続されている場合、ZCONFIG にレポートされる ZHDWPA0n 属性は 1 つのみです。

表 30 RADHWCFG クラスの属性

属性	説明
NAME	インスタンスの簡略名を指定します。
CPU	Y を指定すると、CPU 情報をスキャンできます。 ZCONFIG の属性: ZHDWBIOS、ZHDWCOMP、ZHDWCPU、ZHDWCPUN、ZHDWCPUS、ZHDWFPU、ZHDWXPAG、ZHWCPU01、ZHDFPU01
OS	Y を指定すると、オペレーティング システム情報をスキャンできます。 ZCONFIG の属性: REBOOTD、REBOOTT、WTSSRVR、ZHDWLANG、ZHDWOS、ZHDWOSDB、ZHDWOSOG、ZHDWOSOW、ZHDWSVCP
MEMORY	Y を指定すると、メモリ情報をスキャンできます。 ZCONFIG の属性: ZHDWMEM、ZHDWMEMF

属性	説明
HDLOCAL	<p>y を指定すると、内部ハードドライブをスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: ZHDWCDDR、ZHDWD00、ZHDW00C、ZHDWD00F、ZHDWD00S、ZHDW00T、ZHDWD01、ZHDW01C、ZHDWDF_A、ZHDWDLST、ZHDWDNUM</p>
HDREMOTE	<p>y を指定すると、外部ハードドライブをスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: ZHDW00、ZHDWD00C、ZHDWD00F、ZHDW00S、ZHDW00T、ZHDWDLST、ZHDWDNUM</p>
NETWORK	<p>y を指定すると、ネットワーク情報をスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: GATEWY01、IPADDR01、LADAPT01、NETLOC01、SUBNET01、ZGATEWAY、ZHDWIPAD、ZHDWLANA、ZHDWNET1、ZHDWNNET、ZNETLOC、ZSUBNET</p>
PERIPHER	<p>y を指定すると、キーボードやマウスなどの周辺機器をスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: ZHDWKYBD、ZHDWMOUS、ZHDWPPAR、ZHDWPSEB、ZHDWVIDEO、ZHDWVRES</p>
PRINTER	<p>y を指定するとプリンタをスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: ZHDWPA00、ZHDWPA01、ZHDWPPRN</p>
HAL_VER	<p>y を指定すると HAL (Hardware Abstraction Layer) のバージョンをスキャンできます。</p> <p>ZCONFIG の属性: HALCOMP、HALDATE、HALFNAME、HALFVER、HALINAME、HALLANG、HALPNAME、HALPVER、HALSIZE</p>
APP_VER	<p>y を指定すると、MSI (ZHDWVMSI) および IE (ZHDWVIE) の各バージョンをスキャンできます。</p>
WMISCAN	<p>y を指定すると、WMI (Windows Management Instrumentation) を使用したスキャンを実行できます。</p>
DSCAN00n	<p>y を指定すると、ダイナミック スキャン変数を使用できます。下記の「ダイナミック スキャン」を参照してください。</p>
ZCFGOBJ	<p>作成したオブジェクトの名前を指定すると、RADHWCFG クラスに定義された任意のダイナミック スキャンの結果を取得できます。デフォルトは ZCONFIG オブジェクトです。RADSETUP ディレクトリに新しいオブジェクトが作成され、HPCA Agent 接続の一環として Configuration Server に送信されます。</p>

ダイナミック スキャン

あらかじめ用意されているスキャンに加え、ダイナミック スキャン (DSCAN00n) インスタンスを使用して独自のスキャンを作成することができます。ダイナミック スキャン インスタンスには、**WMI**、**レジストリ**、**ファイル**の3種類があります。ダイナミック スキャンのフォーマットは、次のとおりです。

```
VariableName = Type(Parm1, Parm2, ...)
```

意味：

- *VariableName* は、**ZCONFIG** に含まれる属性で、情報のレポート先です。
- *Type* は、**WMI**、**レジストリ**、または**ファイル**です。
- *Parmn* は、情報のクエリです。

以下に例を示します。



ZCONFIG のダイナミック スキャンは、`root\cimv2` ネームスペースのみに制限されています。

例 1: WMI

WMI スキャンには、**VariableName = WMI(WQL 文, プロパティ, デフォルト)** というフォーマットを使用します。**WMI** を使用してエージェント デバイスのモデルを収集するには、次のような **DSCAN000** 変数を作成します。

```
HWMODEL=WMI("Select * from Win32_ComputerSystem"; Model; NONE)
```

このスキャンでは、**ZCONFIG.HWMODEL** という変数が作成され、そこにエージェント デバイスのモデルが格納されます。

例 2: レジストリ

レジストリ キーをスキャンして **Adobe 5.0** のインストールされている場所を特定するには、次のような **DSCAN001** 変数を作成します。

```
ADOBEPATH=REG (HKLM\SOFTWARE\Adobe\Acrobat_Reader\5.0\InstallPath)
```

収集された結果は、**ZCONFIG.ADOBEPATH** にレポートニングされます。



デフォルトのレジストリ値をスキャンする場合、レジストリ キーへのパスの末尾には必ずバックスラッシュを付けるようにします。たとえば、**Installer** キーのデフォルト値を読み込むには、**ADOBEPATH=REG ("HKLM\SOFTWARE\Adobe\Acrobat Reader\6.0\Installer\")** のように入力します。

また **Installer** キーの **Path** 値を読み込むには、**ADOBEPATH=REG ("HKLM\SOFTWARE\Adobe\Acrobat Reader\6.0\Installer\Path")** のように入力します。

例 3: ファイル

ダイナミック ファイル スキャンを実行すると、指定したファイルのサイズ (SIZE)、日付スタンプ (DATE)、ファイル バージョン (FVER)、製品バージョン (PVER)、およびタイム スタンプ (TIME) が返されます。これらのプロパティの任意の組み合わせをスキャンに要求できます。c:\temp\test.exe というファイルのスキャンするには、次のように DSCAN002 を作成します。

```
TEST####=FILE(c:\Temp\Test.exe;SIZE,DATE,FVER,PVER,TIME)
```

には、対応するファイルのプロパティ名が代入されます。ZCONFIG オブジェクトには、スキャンしたファイルのプロパティごとに属性が 1 つ作成されます。この例では、c:\temp\test.exe ファイルについて収集された情報に基づいて、ZCONFIG.TESTSIZE、ZCONFIG.TESTDATE、ZCONFIG.TESTFVER、ZCONFIG.TESTPVER、ZCONFIG.TESTTIME という 5 つの属性が作成されます。

通知セキュリティ (NTFYSEC)

このクラスを使用すると、COP を使用して、RADEXECD が HPCA Portal に内部認証を使用するように設定できます。

- このクラスには、クラスの `_BASE_INSTANCE_` からすべての値を継承する `DEFAULT_NTIFYSEC` インスタンスが含まれています。

デフォルトでは、このインスタンスは

PRIMARY.CLIENT.LOCATION._BASE_INSTANCE_ の SAPPRI (SAP Priority 30) 属性に接続されます。

表 31 NTFYSEC `_BASE_INSTANCE_` の属性

属性	説明
ZNTFYSEC	通知セキュリティ機能を有効にします。有効な値は、 Y (はい)、 N (いいえ)、および L (ロック) です。デフォルトは Y です。
ZVRFYUID	有効な値は、 Y (はい)、 N (いいえ)、および L (ロック) です。デフォルトは N です。 注意：PRIMARY.CLIENT.LOCATION._BASE_INSTANCE_ 内では、この属性に対するデフォルト値は、 I です。
ZVRFYPWD	内部パスワードを検証するかどうか指定します。有効な値は、 Y (はい)、 N (いいえ)、および I (内部) です。デフォルトは N です。 注意：PRIMARY.CLIENT.LOCATION._BASE_INSTANCE_ 内では、この属性に対するデフォルト値は、 I です。
ZEXTSEC	HPCA 拡張セキュリティを有効にします。有効な値は、 Y (はい) および N (いいえ) です。デフォルトは N です。

属性	説明
ZIGNRURI	このなりすまし防止の属性を使用すると、RCSURI ストリッピング (通知デーモンがコマンドを実行する前に値をストリッピングします) を有効にできません。有効な値は、 Y (はい) および N (いいえ) です。デフォルトは N です。 RCSURI の詳細については、「表 43」(163 ページ) セクションにあるクライアント オペレーション プロファイルを参照してください。
ZIGNDURI	このなりすまし防止の属性を使用すると、DATAURI ストリッピング (通知デーモンがコマンドを実行する前に値をストリッピングします) を有効にできません。有効な値は、 Y (はい) および N (いいえ) です。デフォルトは N です。 DATAURI の詳細については、「表 43」(163 ページ) セクションにあるクライアント オペレーション プロファイルを参照してください。

使用上の注意

通知セキュリティ設定を変更してもすぐに有効にはなりません。新しい設定を有効にするには、HPCA Agent 接続を実行する必要があります。これは、単一の接続の一部として起こる他の COP 設定とは異なります。

追加のドキュメント

次の HP サポート マニュアルには、通知セキュリティ、通知デーモン、RCSURI および DATAURI ストリッピング、および NTFYSEC に関する詳細情報が含まれます。

- [Radia Client-Notify Security](#)
- [Configuring an EDM:Client to Receive Notify Messages](#)
- [Enhanced Notify Security for Configuration Manager Agent v5.x](#)

ユーザー インターフェイス プロパティの設定 (RADUICFG)

RADSKMAN クライアント オペレーション プロファイルのパラメータ

RADUICFG クラスを使用すると、CM Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスに関するさまざまな設定を行うことができます。



このクラスを使用するには、Application Self-service Manager のライセンスを取得する必要があります。

表 32 RADUICFG クラスの属性

属性	説明
PNLOUTBR	Y を指定するとサイド バーが表示されます。このバーはパネルの左端に配置され、ここからすべてのインターフェイスにアクセスできます。
BNHOME	Y を指定すると、サイド バーに [ホーム] ボタンが表示されます。
BNMYSOFT	Y を指定すると、サイド バーに [マイ ソフトウェア] ボタンが表示されます。
BNPREFER	Y を指定すると、サイド バーに [設定] ボタンが表示されます。
BNBNDWTH	Y を指定すると、サイド バーに [バンド幅] ボタンが表示されます。
BNHISTRY	Y を指定すると、サイド バーに [履歴] ボタンが表示されます。
BNSTATUS	Y を指定すると、サイド バーに [ステータス] ボタンが表示されます。
SHWMENUS	U を指定すると、メニュー バーの外観をユーザーが制御できるようになります。 Y を指定するとメニュー バーが表示され、 N を指定すると表示されません。いずれの場合も、メニュー バーの外観をユーザーが変更することはできません。
SHWCATLG	U を指定すると、カタログ リストの外観をユーザーが制御できるようになります。 Y を指定するとカタログ リストが表示され、 N を指定すると表示されません。いずれの場合も、メニュー バーの外観をユーザーが変更することはできません。
STRTCHNG	Y を指定すると、ユーザーが [設定] の [全般オプション] にある起動パラメータを変更できるようになります。 N を指定すると、この権限が無効になります。
STRTFILE	[設定] の [全般オプション] に表示される起動パラメータ ファイルのファイル名を指定します。
STRUPMSG	Y を指定すると、起動パラメータ ファイルの内容が変更された際、ユーザーに対して警告メッセージが表示されます。
ASKOFFL	U を指定すると、 Application Self-service Manager をオフラインで使用するときに確認メッセージを表示するかどうかをユーザーが制御できるようになります。 Y を指定するとプロンプトが表示され、 N を指定すると表示されません。いずれの場合も、プロンプトの表示/非表示をユーザーが制御することはできません。
BWSTRTUP	A を指定すると、バンド幅が設定されているサービス进行处理の際に、バンド幅制御用の画面が自動的に表示されます。 Y を指定すると、サービスにバンド幅が設定されているかどうかを問わず、バンド幅制御が常に表示され、 N を指定すると、表示されません。

属性	説明
COLORSET	<p>SYSTEM を選択すると、オペレーティング システムの色が使用されます。</p> <p>DEFAULT を選択すると、HPCA のデフォルトのカラー スキームが使用されます。</p> <p>CUSTOM を選択すると、COLORSEL、COLORBAK、COLORBTN、COLORWK を使用できます。</p> <p>注意：上のいずれかのオプションが選択されている場合、ユーザーが色を変更することはできません。</p> <p>ユーザーが色を制御できるようにするには、USER を選択します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● COLORSEL: 選択領域の色を指定します。 ● COLORBAK: インターフェイスの背景色を指定します。 ● COLORBTN: ボタンの色を指定します。 ● COLORWK: 作業領域の色を指定します。 <p>注意：使用可能な色については、Microsoft の Web サイトを確認してください。</p>
STATSTRT	y を指定すると、起動時にステータス ウィンドウが表示されます。
CUSTIMG	カスタム イメージ ファイルまたはバナーを指定します。指定可能なファイル タイプは JPG/JPEG 、 GIF 、 TIF 、および BMP です。サイズの上限は、縦 60 ピクセル、横 250 ピクセルが目安です。ファイルのロケーションが指定されていない場合のデフォルトは、 IDMLIB (SC:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib) です。
CUSTURL	サブスクライバが CUSTIMG をクリックしたときに、 HPCA agent コンピュータのデフォルトのインターネット ブラウザに表示されるページの URL を指定します。
CUSTTEXT	HPCA Agent コンピュータにおいて、 CUSTIMG の上にマウス カーソルを動かした時に表示されるテキストを指定します。
CUSTTTL	Application Self-service Manager のタイトル バーに表示するテキストを指定します。
COLTYPE	COLNAMES に指定したカラムだけを表示したい場合は、 Forced に設定します。
COLNAMES	表示するカラムを指定します。各カラムはカンマで区切ります。
EXPSITEM	<p>U を指定すると、サービス リストのアクティブなアイテムを展開するかどうかをユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定すると、サービス リストのアクティブなアイテムをユーザーが展開できるようになり、N を指定すると展開できなくなります。</p>

属性	説明
EXPCITEM	<p>U を指定すると、カタログのアクティブなアイテムを展開するかどうかをユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定すると、カタログのアクティブなアイテムをユーザーが展開できるようになり、N を指定すると展開できなくなります。</p>
SHWGRID	<p>U を指定すると、グリッド線の表示/非表示をユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定するとグリッド線は表示され、N を指定すると表示されません。</p>
SHWADVOP	<p>U を指定すると、[詳細オプション] の表示/非表示をユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定すると、[ダウンロードのみ] ボタン、[再設定] ボタン、[元に戻す] ボタンなどの [詳細オプション] が表示されますが、N を指定すると表示されません。</p>
PROXYUSE	<p>U を指定すると、インターネット プロキシを使用するかどうかをユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定すると、インターネット プロキシを使用するかどうかをユーザーが制御できるようになり、N を指定すると、制御できなくなります。</p>
PROXYDSC	<p>U を指定すると、インターネット プロキシの検出をユーザーが制御できるようになります。</p> <p>Y を指定するとプロキシの検出が行われ、N を指定すると行われません。</p>
PROXYADD	インターネット プロキシ サーバーのアドレスを指定します。
PROXYPRT	インターネット プロキシ サーバーのポートを指定します。
BTNINST	Y を指定すると [インストール] ボタンが有効になります。
BTNUPDT	Y を指定すると [更新] ボタンが有効になります。
BTNDWLD	Y を指定すると [ダウンロード] ボタンが有効になります。
BTNRECFG	Y を指定すると [再設定] ボタンが有効になります。
BTNUNDO	Y を指定すると [元に戻す] ボタンが有効になります。
BTNVRFY	Y を指定すると [検証] ボタンが有効になります。
BTNREPR	Y を指定すると [修復] ボタンが有効になります。
BTNDEL	Y を指定すると [削除] ボタンが有効になります。
BTNCANCL	Y を指定すると [キャンセル] ボタンが有効になります。
BTNPAUSE	Y を指定すると [停止] ボタンが有効になります。
SHWCOLEX	Y を指定すると [インストール] ボタンが表示されます。
SHWINFO	Y を指定すると、サービス アイテムが展開されたときに [拡張情報] ボタンが表示されます。

属性	説明
SHWSCHEV	<p>y を指定すると、サービス アイテムが展開されたときに [スケジュールされたイベント] ボタンが表示されます。このボタンは、時計を図案化したものです。</p>
TMNUTXT0 _n	<p>HPCA システム トレイのカスタム メニューを作成します。このメニューは、システム トレイのアイコンを右クリックすると表示されます。セパレータ バーを作成する場合、メニュー テキストとして SEPARATOR と入力します。</p>
TCMDTXT0 _n	<p>HPCA システム トレイのカスタム メニュー アイテムを作成します。システム トレイで TMNUTXT0_n をクリックしたときに実行されるコマンドを指定します。このコマンドは、IDMSYS ディレクトリから実行できるようにしておく必要があります。</p>
NAME	<p>インスタンスの簡略名を指定します。</p>

6 サービスを準備する

この章は以下を目的としています。

- システム アカウントを使用し、マシン コンポーネントとユーザー コンポーネントでサービスをインストールする方法を習得する。
- **HPCA agent** コンピュータを再起動する方法を習得する。
- サービス オプションについて理解する。

マシン コンテキストおよびユーザー コンテキスト でアプリケーションを設定する

企業では、複数のユーザーに対応するようにアプリケーションを設定したい場合や、使用しているユーザーを問わず、あるコンピュータで常に同じアプリケーションを利用できるようにしたい場合があります。マシン コンテキストでインストールするコンポーネントとユーザー コンテキストでインストールするコンポーネントがある場合、サービスはマルチ コンテキストであると見なされます。



この機能は、**Application Manager** エージェント限定の機能です。

マルチ コンテキスト サービスのインストールを完了するためには、**HPCA Agent** コンピュータを **Configuration Server** に 2 回接続する必要があります。**1** 度はマシン コンポーネントをインストールするため、もう一度はユーザー コンポーネントをインストールするためです。最初にインストールするのは、マシン コンポーネントです。マシン コンポーネントのインストールが正常に完了しないと、ユーザー コンポーネントのインストールは実行できません。マシン コンポーネントのインストール部分は、通知またはタイマーで起動できます。ユーザー 部分は、そのユーザーにとってローカルのログオン スクリプト、デスクトップ上のショートカット、またはバッチ ファイルに埋め込む必要があります。マシン インストールまたはユーザー インストール用にサービスを設定するには、以下の手順を行います。

- 1 Admin Publisher** または **Admin CSDB Editor** を使用して、パッケージ コンポーネントがユーザー コンテキストとマシン コンテキストのどちらでインストールされるかを指定します。手順については、「**コンポーネントのコンテキスト**」のセクションを参照してください。
- 2 Admin CSDB Editor** を使用して、システム コンテキストまたはユーザー アカウントのいずれかで配布されるようにサービスを設定します。「**サービス モード**」(126 ページ) から始まるを参照してください。
- 3 Admin CSDB Editor** を使用して、サービスの配布方法を設定します。「**マシン/ユーザー サービスを配布する**」(129 ページから始まる) を参照してください。

コンポーネントのコンテキスト (ZCONTEXT) を設定する

Admin Publisher を使用すると、マシン コンポーネントとユーザー コンポーネントを別々に選択できます。コンポーネントのコンテキストは、パブリッシュ プロセス中に **Admin Publisher** を使用して設定するか、パブリッシュ プロセス後に **Admin CSDB Editor** を使用して設定します。



マシン コンテキストとユーザー コンテキストを活用するには、以前にパッケージ化されているアプリケーションをパッケージ化し直す必要があります。

HPCA Admin Publisher でコンテキストを設定するには

- 1 ファイルまたはディレクトリを右クリックして、**[プロパティを設定]** をクリックします。[インスタンス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 **[エージェント管理]** タブで、コンポーネントの適切なコンテキストを選択します。

パブリッシュ プロセスが既に完了している場合は、**Admin CSDB Editor** を使用してコンポーネントのインスタンスの **ZCONTEXT** 属性を設定してください。

HPCA Admin CSDB Editor でコンテキストを設定するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。[Admin CSDB Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、[新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 要求されたら、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[SOFTWARE]** をダブルクリックします。
- 5 **[Application Packages (PACKAGE)]** をダブルクリックします。
- 6 コンポーネントのクラスをダブルクリックします。
- 7 コンポーネントをダブルクリックします。
- 8 **[ZCONTEXT]** をダブルクリックします。
- 9 表 33 (125 ページ) の情報に基づいて適切な値を入力します。

表 33 コンポーネント コンテキスト (**ZCONTEXT**) のオプション

設定	説明
空白	コンポーネントをコンテキストに依存させない場合は、 ZCONTEXT を空白のままにします。このコンポーネントは、マシン接続時とユーザー接続時にインストールされます。

設定	説明
U	U を指定すると、アプリケーションが最初に配布される際にログオンしているサブスクライバにだけ、このコンポーネントが配布されます。
M	M を指定すると、コンピュータのすべてのユーザーにファイルが配布されます。
ユーザー指定	このオプションは、現時点では利用できません。

10 **[OK]** をクリックして、変更を完了します。

11 **[はい]** をクリックして変更を確定し、**Admin CSDB Editor** に戻ります。



通常、コンポーネントは、その **ZCONTEXT** 属性が **RADSKMAN** コマンドラインのコンテキスト パラメータの値と一致する場合、または **ZCONTEXT** 属性が空白の場合に処理されます。

これでコンポーネントのコンテキストが設定されたので、アプリケーションの **ZSERVICE** インスタンスがマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントの両方を持つように指定します。

サービス モード (ZSVCMODE) を設定する

ZSERVICE クラスの **ZSVCMODE** 属性を使用して、マシン コンテキストまたはユーザー コンテキストがパッケージの配布と関連するかどうかを判別します。**ZSVCMODE** 属性を作成する必要がある場合は、それを **ZSERVICE** クラスのクラス テンプレートに追加します。**ZSVCMODE** 属性は、長さ **3** の変数として作成します。その他のデフォルトのプロパティはそのまま使用します。有効な値は、**M**、**U**、**MU**、空白、および **EMU** です。




クラス テンプレートで変更を行う前に、**CSDB** のバックアップを取っておくことをお勧めします。

表 34 **ZSERVICE** クラスの **ZSVCMODE** の値

値	説明
空白	クライアントがマシン コンテキストとユーザー コンテキストのどちらでログオンしているのかに関係なくコンポーネントをインストールする場合は、空白にします。アプリケーションは、利用可能なコンテキストを使用してのみインストールされます。

値	説明
EMU	<p>拡張マシン/ユーザー サービス。</p> <p>HPCA Agent 接続がユーザー コンテキストで行われているが、アプリケーションのマシン側がまだインストールされていない場合には、マシン接続が強制されます。マシン接続が完了すると、ユーザー コンポーネントをインストールするためにユーザー接続が開始されます。</p> <p>この設定は、ユーザーが Application Self-service Manager を使用して管理するオプションのアプリケーションで使用します。</p>
EMU:AD=N	<p>拡張マシン/ユーザー サービス。</p> <p>HPCA Agent 接続がユーザー コンテキストで行われているが、アプリケーションのマシン側がまだインストールされていない場合には、マシン接続が強制されます。マシン接続が完了すると、ユーザー コンポーネントをインストールするためにユーザー接続が開始されます。</p> <p>この設定は、ユーザーが Application Self-service Manager を使用して管理する共有コンピュータ上のオプションのアプリケーションで使用します。AD=N を追加すると、ユーザーはアプリケーションのマシン コンポーネントを削除できなくなります。エージェント コンポーネントの他のユーザーは、アプリケーションのマシン コンポーネントをまだ必要としている可能性があります。有効なアプリケーション イベントは次のとおりです。</p> <p>AI = アプリケーションのインストール AD = アプリケーションの削除 AU = アプリケーションの更新 AR = アプリケーションの修復 VA = バージョンのアクティブ化 VD = バージョンの非アクティブ化</p> <p>各イベントのデフォルトは Y です。複数のイベントはカンマで区切ります。</p>
M	<p>マシン サービスのみ。</p> <p>サービスにマシン コンポーネントしかない場合は、ZSVCMODE を M に設定します。RADSKMAN コマンド ラインでコンテキストが u に設定されている場合、このサービスは無視されます。</p>
MU	<p>マシン/ユーザー サービス。</p> <p>サービスにマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントが両方ある場合は、ZSVCMODE を MU に設定します。ユーザー接続では、ユーザー コンポーネントのインストール前に、マシン コンポーネントが既にインストールされているかどうかを確認されます。マシン コンポーネントが存在しない場合、ユーザー コンポーネントはインストールされません。</p>

ZSERVICE の ZSVCMODE を設定するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor]** のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。
この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。
- 2 要求されたら、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[SOFTWARE]** をダブルクリックします。
- 5 **[Application (ZSERVICE)]** をダブルクリックします。
- 6 適切なサービスをダブルクリックします。
- 7 リスト ビューで**[ZSVCMODE]** をダブルクリックします。
- 8 「表 34」(126 ページ) の値に基づいて適切な値を入力します。
- 9 **[OK]** をクリックして、変更を完了します。
- 10 **[はい]** をクリックして変更を確定し、**Configuration Server Database Editor** に戻ります。

HPCA Application Self-service Manager の拡張マシン/ユーザー サービス

アプリケーションにマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントがある場合、**Application Self-service Manager** エージェントがマシン コンポーネントをインストールするためには、**HPCA Agent** でより高い権限が必要であり、ユーザー コンポーネントがユーザーの設定にアクセスするためには、ユーザーがログオンしている必要があります。マシン コンポーネントはファイルまたはレジストリ キーで、ユーザー コンポーネントはデスクトップ上のショートカットである場合があります。コンテキストが **U** に設定されている場合、サブスクリイバはアプリケーションのマシン側をインストールすることはできず、ユーザー接続は失敗します。**ZSVCMODE** を **EMU** に設定すると、インストールするアプリケーションをサブスクリイバが選択したときに、マシン コンポーネントが既にインストールされているかどうかをクライアントが確認します。インストールされていない場合、**Application Self-service Manager** はそのサービスのマシン コンポーネントのみをインストールしてから、ユーザー コンポーネントをインストールします。つまり、マシン コンテキストとユーザー コンテキストで 1 回ずつ、合計 2 回の別々の **HPCA Agent** 接続が実行されるということです。

args.xml ファイルで **CONTEXT** タグを **U** に設定すると、**EMU** の動作が強制的に実行されます。



ZSVCMODE は 3 バイトに変更する必要があるため、**EMU** が選択肢の 1 つでなければなりません。

ZSERVICE.ZSVCMODE を **EMU** に設定した場合、**EMU** として設定されているサービスを見つけると、**Application Self-service Manager** クライアントはまずマシン カタログが存在するかどうか、および要求されたサービスがマシン カタログにあるかどうかを確認します。

- サービスが存在し、マシン カタログでインストール済みとされている場合は、そのサービスがユーザー向けにインストールされます。
- サービスがマシン側でインストールされていないが、カタログは同期されている場合、クライアントはまずサービスのマシン側をインストールし、それからサービスのユーザー側をインストールします。
- (マシン接続がまだ実行されていないために) マシン カタログがない場合、クライアントはマシン カタログを取得し、マシン側でサービスをインストールします。次に、サービスのマシン側が正常にインストールされると、ユーザー側がインストールされます。

マシン/ユーザー サービスを配布する

クライアントは **Configuration Server** に 2 回接続しないと、**ZSVCMODE** が **MU** に設定されているサービスのインストールを完了できません。最初の接続は、マシン コンテキストで行います。**RADSKMAN** コマンドラインに **context=M** パラメータを追加します。これにより、**startdir=SYSTEM** がデフォルトで設定されます。これは、タイマーまたは通知コマンドのいずれかを使用して行います。

2 回目の接続では、ユーザー コンポーネントがインストールされます。ユーザーがログオンしている必要があるため、これはログオン スクリプト、バッチファイル、またはデスクトップ上のアイコンで行います。**RADSKMAN** コマンドラインに **context=U** パラメータを追加して使用します。**ZSVCMODE** が **MU** に設定されている場合、マシン接続が正常に終了しているときに限り、ユーザー コンポーネントがインストールされます。

サービス グループ

HPCA は、複数のサービス パッケージを必要とする製品を管理することにより、製品のフル インストールやフル オペレーションを実現します。製品が他のサービス パッケージを必要としている場合、または他のサービスに依存している場合は、サービス グループを使用することができます。

これには、パッケージ化された MSI 製品も含まれます。この場合は、以下のよう
なケースが考えられます。

- 製品が複数の MSI サービス パッケージを使用できる。たとえば、MS Office で、別の言語パックのサービスが必要である場合などです。
- 製品スイートの一部の機能だけをインストールするために、MS Office のよ
うなサイズが大きい製品をいくつかの小さな下位サービスに分割しなければ
ならない場合。

Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスには、マスター
サービスのみが表示されます。

サービス グループ作成の詳細については、『HP Client Automation Administrator
ユーザー ガイド』（『Administrator ガイド』）を参照してください。

システム アカウント (ZSYSACCT) でサービスをイ ンストールする

Windows NT、Windows 2000、または Windows XP が動作しているコン
ピュータでは、システム アカウントとユーザー アカウントのどちらでサービス
をインストールするのかが指定することができます。そのためには、このセク
ションで詳細を説明しているパラメータのいずれかを使用して、Application
(ZSERVICE) インスタンスの ZSYSACCT 属性を変更します。



ZSYSACCT 属性は、サービス単位でインストールにシステム アカウ
ントを使用するかどうかを制御します。

- **Y** に設定すると、アプリケーションがシステム権限でインストールされます。
接続のタイプは無視されます。
- **N** (デフォルト) に設定するか、空白にすると、現在ログオンしているユー
ザーの権限でアプリケーションがインストールされます。接続のタイプは無
視されます。
- **M** に設定すると、現在の接続がマシン コンテキスト (**context=m**) である場
合にアプリケーションがシステム アカウントでインストールされます。
- **U** に設定すると、現在の接続がユーザー コンテキスト (**context=u**) である
場合にアプリケーションがシステム アカウントでインストールされます。

Application インスタンスの ZSYSACCT 属性を編集するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、CSDB Editor を起動します。[Admin CSDB
Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要あ
りません。この設定は、インストールの過程で変更している場合


があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 要求されたら、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **PRIMARY**、**SOFTWARE**、および **Application (ZSERVICE)** をダブルクリックし、**ZSERVICE** クラスへ移動します。
- 4 **Amortize** などの適切なアプリケーション インスタンスをダブルクリックします。
右側のリスト ビューに属性が表示されます。
- 5 **[ZSYSACCT]** をダブルクリックします。
[インスタンス編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 6 **[システム アカウントでのインストール]** を選択してシステム権限を使用するか、チェック ボックスをオフにして、ログオンしているユーザーの権限でインストールを行います。
- 7 **[OK]** をクリックして、[インスタンス編集] ダイアログ ボックスを閉じます。
- 8 **[はい]** をクリックして、変更を確定します。

ローカルのカタログ処理

ローカルでカタログ処理を行うと、**Configuration Server** がアプリケーションを管理するために必要なネットワークのバンド幅と接続数が削減されます。タイマーまたは通知コマンドを使用すると、**RADSKMAN** コマンド ラインで **context = m** と指定してマシン接続を行うことができます。

 アプリケーションの **ZSVCMODE** 属性が **M** または **MU** でないと、この機能は利用できません。

1 台のコンピュータにユーザーが 1 人しかいない場合や、同じエンタイトルメントの複数のユーザーがいる場合には、ローカルでカタログを処理すれば、**Configuration Server** に 1 度接続するだけで、サービスのマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントを処理できます。マシン接続では、必要な設定情報がエージェント コンピュータにダウンロードされ、サービスのマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントが圧縮形式でダウンロードされ、マシン コンポーネントがインストールされます。ユーザー接続では、**RADSKMAN** コマンド ラインで **cat = m**、**local = y**、および **context = u** を設定します。ユーザー接続が行われると、マシンのサービス リストに基づいてユーザーのサービスが解決され、既にダウンロードされているリソースが必要に応じて追加、変更、または削除されます。

1 台の HPCA agent コンピュータを、エンタイトルメントが異なる複数のユーザーが使用している場合は、マシンごとにポリシーを作成する必要があります。これにより、その HPCA agent コンピュータを使用する全ユーザーの全サービスの全コンポーネントがダウンロードされるようになります。実装については、専門サービスにお問い合わせください。

HPCA agent コンピュータを再起動する

HPCA agent コンピュータは、アプリケーション イベントに基づいて再起動することが必要な場合があります。再起動を行うには、**ZSERVICE.REBOOT** 属性でリブート タイプとリブート修飾子を指定します。修飾子を使用して以下のことが行えます。

- 警告メッセージのタイプを設定する
- リブートをマシン接続かユーザー接続のどちらかで実行する
- アプリケーション イベントの直後に再起動する



radskman コマンド ラインに **hreboot** パラメータが指定されていない場合、このパラメータはデフォルトで **Y** に設定されサービス リブートのリクエストを処理するようになります。**hreboot = p** に設定すると、リブートを必要とするサービスがあるかどうかを問わず、HPCA agent コンピュータの電源が切れます。

まず、リブートを必要とするアプリケーション イベントを指定します。下記の表 35 には、発生する可能性のあるすべてのアプリケーション イベントのコードがリストされています。使用する必要があるリブート タイプおよびすべてのリブート修飾子に、アプリケーション イベント コードを設定します。以下のセクションでは、リブートの各タイプおよびすべてのリブート修飾子を説明します。

アプリケーションのインストールおよび修復に関する警告メッセージなしでアプリケーションのハード リブートを直ちに実行する必要がある場合は、**ZSERVICE.REBOOT** を **AI=HQI**, **AR=HQI** に設定します。



リブート属性のパラメータでは、大文字と小文字は区別されません。

表 35 リブート イベントとコード

アプリケーション イベント	コード	説明
インストール	AI	アプリケーション インストール時のリブート動作を指定します。デフォルトは、リブートなしです。
アンインストール	AD	アプリケーション削除時のリブート動作を指定します。デフォルトは、リブートなしです。

アプリケーションイベント	コード	説明
ロック ファイル	AL	ロック ファイルが検出されたときのリブート動作を指定します。ロック ファイルが検出された場合のデフォルトの動作は、[OK] ボタンだけでハードリブートを実行するものです (HY)。
更新	AU	アプリケーション更新時のリブート動作を指定します。デフォルトは、リブートなしです。
修復	AR	アプリケーション修復時のリブート動作を指定します。デフォルトは、リブートなしです。
バージョンのアクティブ化	VA	アプリケーションのバージョンのアクティブ化時のリブート動作を指定します。デフォルトは、リブートなしです。

リブート タイプ

リブートが必要なアプリケーションを決定した後、リブートのタイプを選択します。HPCA は、コンピュータのリブートが必要であることを伝えるメッセージをオペレーティングシステムに送信します。リブートには3つのタイプがあります。

- **ハードリブート (H)**
 - 保存されていないファイルが開いているかどうかに関係なく、すべてのアプリケーションが終了します。サブスクライバには、開いている変更済みファイルの保存を要求する画面が表示されません。
- **ソフトリブート (S)**
 - ユーザーは、アプリケーションで未保存のファイルが開いている場合にデータを保存するよう要求されます。アプリケーションに未保存のデータがある場合、データの保存を求めるアプリケーションのリクエストにユーザーが応答するまで再起動せずに待機します。
- **リブートなし (N) (デフォルトのリブートタイプ)**
 - コンピュータは、指定されたアプリケーション イベントが完了した後に再起動しません。これは、ロック ファイル イベント (AL) を除くすべてのアプリケーション イベントでのデフォルトのリブートタイプです。AL=N を指定した場合、エージェント コンピュータはロックされたファイルに遭遇したときに、[OK] ボタンと [キャンセル] ボタンが表示されるハードリブートを実行しません。アプリケーション イベントに再起動のタイプが指定されない場合、再起動は起こりません。

リブート修飾子: 警告メッセージのタイプ

再起動が起こる前にサブスクライバに送信する警告メッセージのタイプを指定できます。リブートのタイプを指定しても警告メッセージのタイプを指定しない場

合、そのリブート タイプのデフォルトの警告メッセージが表示されます。警告メッセージには 3 つのタイプがあります。警告メッセージは、**Application Self-service Manager** および **Application Manager** では HPCA システム トレイを通して自動的に表示されます。警告メッセージを表示しない場合は、**RADSKMAN** コマンドラインで **ask=N** を指定します。

- **非表示 (Q)**
リブートのパネルは表示されません。
- **[OK] ボタン (A)**
[OK] ボタンのみ警告メッセージが表示されます。**[OK]** ボタンをクリックすると、リブートが開始されます。ユーザーは再起動をキャンセルできません。
- **[OK] ボタンと [キャンセル] ボタン (Y)**
[OK] ボタンをクリックすると、リブートが開始されます。サブスクライバが**[キャンセル]**をクリックすると、リブートが中止されます。



RADSKMAN コマンドラインに **RTIMEOUT** 値を追加することで、[警告メッセージ] ボックスにタイムアウト値を指定できます。**HPCA Agent** がリブート プロセスを続行するまでの待機時間を **RTIMEOUT** に秒数で指定します。

リブート修飾子: マシンとユーザーのオプション

HPCA Agent は、**RADSKMAN** コマンドラインでコンテキスト パラメータを指定することでマシンまたはユーザーとして接続することができます。マシンとユーザーの再起動修飾子を使用して、接続のタイプを基に再起動を完了する必要があるかどうかを指定します。

- **マシン接続での再起動 (空白)**
マシンおよびユーザー再起動修飾子が指定されていない場合、デフォルトで、マシン接続のみで再起動が行われます。このデフォルトの動作は、リブート要件の大多数を満足させます。
- **ユーザー接続のみでの再起動 (U)**
RADSKMAN で **context=u** が指定されているユーザー接続で、またはコンテキスト パラメータが指定されていない場合にのみ、再起動が行われます。**RADSKMAN** で **context=m** が指定されている場合は、再起動は行われません。
- **マシン接続とユーザー接続の両方でのリブート (MU)**
アプリケーションのマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントの両方がインストールされている場合にのみ、リブートが行われます。

リブート修飾子: 即時再起動

I を追加することで、再起動の各タイプを即時に実行するように変更できます。現在のサービスを解決した後、コンピュータを直ちに再起動する場合は、これを使用します。サブスクリイバの残りのサービスは、コンピュータが再起動した後、解決されます。**I** を指定し、再起動のタイプに **H** (ハード) または **S** (ソフト) を指定しない場合、ハードリブートが実行されます。

複数のリブート イベントの指定

同じ HPCA Agent 接続にリブート イベントを必要とする 2 つのサービスがある場合は、最も制限的なリブート タイプとリブート パネルが使用されます。最も制約が少ないリブート タイプはリブートなし (**N**) で、次がソフトリブート (**S**)、最も制約が厳しいのがハードリブート (**H**) です。最も制限の弱いリブートの警告メッセージでは [OK] ボタンと [キャンセル] ボタンの両方が表示され、次に弱いメッセージでは [OK] ボタンのみが表示され (**A**)、最も制限的なメッセージではまったく表示されません (**Q**)。

サブスクリイバは、インストール時に [OK] ボタンだけでソフトリブートすることが必要なアプリケーション **AI=SA** を割り当てられているとします。サブスクリイバは、[OK] ボタンと [キャンセル] ボタンを両方表示して、ハードリブートが必要な (**AI=HY**) 2 番目のアプリケーションも割り当てられています。この場合は、サブスクリイバのすべてのアプリケーション イベントが完了した後で、[OK] ボタンのみが表示される (**A**) ハードリブート (**H**) が実行されます。

バージョン管理されたアプリケーションを準備する

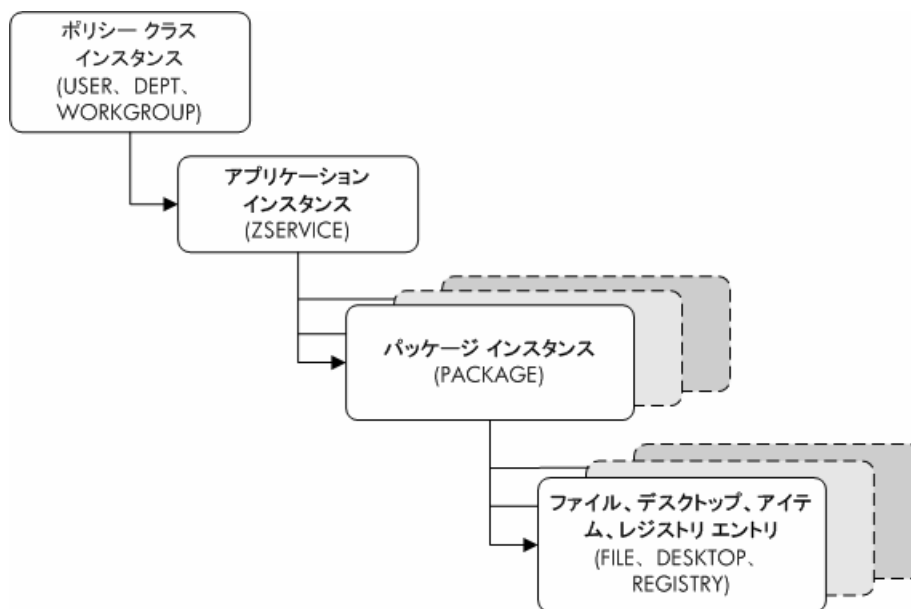
通常、HPCA スケジューラまたは HPCA 通知を介して HPCA Agent コンピュータにアプリケーションを配布すると、そのアプリケーションは直ちにアクティブになります。もう 1 つのオプションであるバージョン グループを使用すると、アプリケーションの新しいバージョンをサブスクリイバに公開することができます。配信と同時にアクティブにすることも、あらかじめ設定された時間にアクティブにしたりすることもできます。新しいバージョンのインストールに失敗した場合は、自動的に以前のバージョンにロールバックされます。インストール後に新しいバージョンに問題が発生した場合には、一部またはすべてのサブスクリイバに対して新しいバージョンを非アクティブにし、以前のバージョンにロールバックすることができます。

バージョンニングの設定後には、HPCA Agent コンピュータに圧縮ファイルが格納され、バージョンニングが実行されます。ロールフォワードおよびロールバックは、完全にローカルで実行することができ、バージョン変更時にデータを転送する必要がなくなります。一部のみをローカルで実行して、転送するデータを最小限に抑えることもできます。

バージョン管理されたアプリケーションとバージョン管理されていないアプリケーション

バージョン管理されたアプリケーションとバージョン管理されていないアプリケーションは、CSDB 内で異なる接続モデルに従います。バージョン管理されていないアプリケーションでは、1 つのアプリケーション インスタンスが 1 つ以上のパッケージ インスタンスに接続します。

図 4 バージョン管理されないアプリケーション配布の CSDB パス

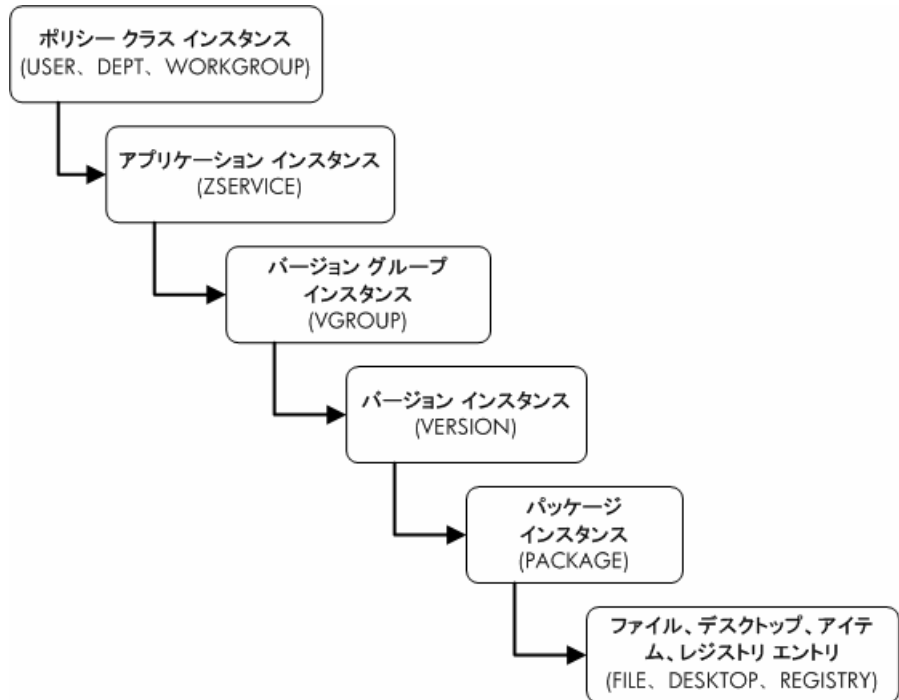


バージョン管理されたアプリケーションは、バージョン管理されていないアプリケーションとは異なる接続モデルに従います。バージョン管理されたアプリケーションでは、Application インスタンス (ZSERVICE) は単独のバージョン グループ (VGROUP) インスタンスに接続します。

▶ 複数のバージョン グループを使用する場合、各バージョン グループに対し 1 つのサービスを作成する必要があります。

Version Group インスタンスは、1 つ以上の package インスタンスに接続する 1 つ以上の Version インスタンスに接続します。ソフトウェア アプリケーションの 1 つのバージョンを表す Version インスタンスには、1 つの HPCA パッケージが格納されます。各 HPCA パッケージは、CSDB 内で PACKAGE クラスのインスタンスによって表されます。

図 5 バージョン管理されたアプリケーション配布の CSDB パス



バージョン管理されたアプリケーションを準備するには

- 1 Admin Publisher を使用してアプリケーションをパッケージ化します。
- 2 ZSERVICE クラスを右クリックし、**[インスタンスを新規作成]** をクリックします。
- 3 [インスタンスの作成] ダイアログ ボックスで、表示名およびインスタンス名を入力し、**[OK]** をクリックします。

バージョン グループの作成を完了するには、下記のバージョン グループ エディタを参照してください。

バージョン グループ エディタ


Admin CSDB Editor のバージョン グループ エディタを使用すると、アプリケーションの各バージョンのインスタンスを作成、編集、削除したり、バージョン グループの配布を管理したりすることができます。バージョン グループには、アプリケーションのすべてのバージョンが含まれます。

バージョン管理されるアプリケーションを管理するには、アプリケーションのバージョンのセットを表すインスタンスを **Version Group** クラスに作成します。次に、バージョン グループ エディタを使用して、アプリケーションの各バージョンのインスタンスを作成します。

バージョン グループを作成する

次の例では、Admin CSDB Editor を使用して Version Group (VGROUP) クラスに新しいインスタンスを作成します。

バージョン グループを作成するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、CSDB Editor を起動します。[Admin CSDB Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。
この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。
- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
- 3 **PRIMARY** ファイルの **SOFTWARE** ドメインに移動し、**[Version Group (VGROUP)]** を右クリックします。
- 4 **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。[インスタンスの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [インスタンスの作成] ダイアログ ボックスのテキスト フィールドに、バージョン グループの名前 (**Amortize** など) を入力し、**[OK]** をクリックします。[バージョン グループ編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

Version インスタンスを作成する

これで Version Group (VGROUP) インスタンスが作成されました。続いて、アプリケーションの各バージョンのインスタンスを作成する方法について理解する必要があります。

Version インスタンスを作成するには

- 1 バージョン グループ エディタで**[追加]** をクリックします。[バージョンの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 バージョンを識別するサフィックスを入力します。たとえば「**Version 1**」と入力します。

- 3 **[OK]** をクリックします。[バージョン エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。

Configuration Server Database に格納されている Application Package (PACKAGE) インスタンスのリストが、[バージョン エディタ] ダイアログ ボックスに表示されます。このダイアログ ボックスを使用して、新しい Version (VERSION) i インスタンスを Application Package (PACKAGE) インスタンスに接続します。この 2 つのインスタンスは 1 対 1 で対応します。

- 4 適切な Application Package (PACKAGE) インスタンスをクリックします。
- 5 **[OK]** をクリックします。[割り当てられていないバージョン] リストに Version インスタンスが表示されます。

このバージョン グループ内でサブスクリイバが利用できるアプリケーションの各バージョンに対応する Version インスタンスを追加します。

Version インスタンスを削除するには

- 1 [バージョン グループのレイアウト] リストで、削除するバージョンをクリックします。
- 2 **[削除]** をクリックします。

[割り当てられていないバージョン] リストにバージョンのインスタンスが表示されます。アイコンは、削除可能な状態を示すグレー表示になります。

インスタンスを復元するには、[割り当てられていないバージョン] リストでインスタンスをクリックし、**[削除の取り消し]** をクリックします。

Version インスタンスは、バージョン グループ エディタを終了するまで削除されません。

- 3 **[OK]** をクリックして、バージョン グループ エディタを終了します。

Version インスタンスをバージョン グループに割り当てる

Version インスタンスを作成したら、バージョン グループに割り当てる必要があります。

Version インスタンスをバージョン グループに割り当てるには

- [割り当てられていないバージョン] リストで任意の Version インスタンスをクリックし、[バージョン グループのレイアウト] リストで <割り当てられたバージョンなし> と表示されている接続の上にドラッグします。

作成した各 Version インスタンスをバージョン グループに割り当てます。

Version インスタンスの割り当てを解除するには

- [バージョン グループのレイアウト] で、**Version** インスタンスをクリックして [割り当てられていないバージョン] 領域にドラッグします。次に、マウス ボタンを離します。

バージョン グループの配布の準備をする

Version インスタンスを作成してバージョン グループに割り当てたら、バージョンを配布する方法を指定する準備をします。バージョン グループ エディタの [バージョン グループ情報] 領域を使用して、バージョンの配布を定義します。

バージョン グループの配布の準備をするには

- 1 [バージョンニングの管理者] ドロップダウン リストで、以下の項目を選択します。
 - **Manager**: 配布するバージョンを管理者が管理する場合。
 - **Client**: 配布するバージョンをサブスクライバに管理させる場合。この設定は **Application Self-service Manager** でのみ使用します。



バージョンの配布を **Configuration Server** でスケジュールしたい場合は、[バージョンニングの管理者] ドロップダウン リストで **[MANAGER]** を選択する必要があります。

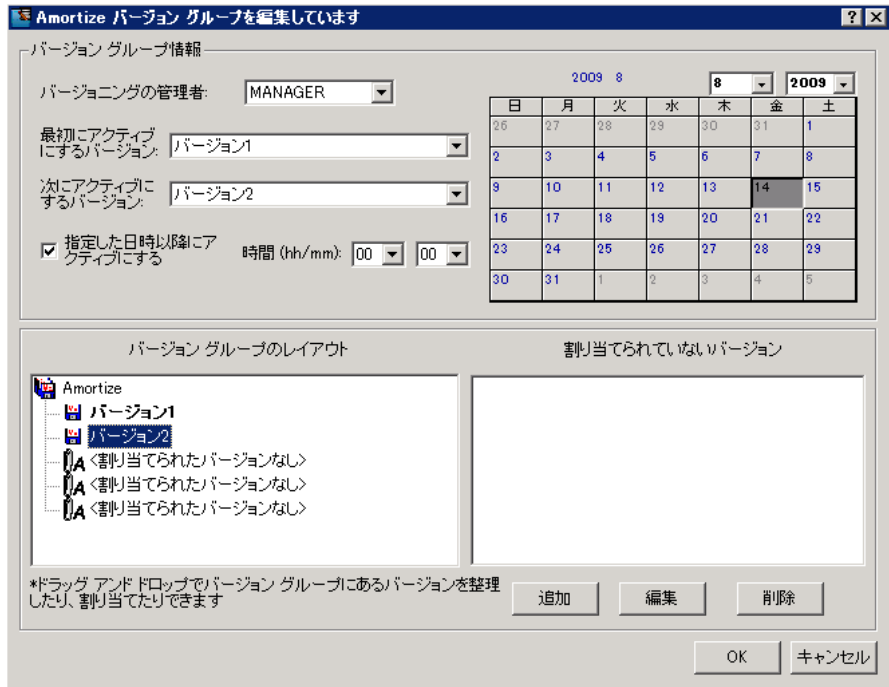
- 2 [最初にアクティブにするバージョン] ドロップダウン リストで、サブスクライバが次回 **Configuration Server** に接続するときに **HPCA agent** コンピュータでアクティブにするバージョンをクリックします。

[バージョン グループのレイアウト] リストに表示されるバージョンから選択することもできます。次の図で示すように、選択したバージョンは [バージョン グループのレイアウト] リストに太字で表示されます。

- 3 **[指定した日時以降にアクティブにする]** チェック ボックスをオンにすると、追加のコントロールにアクセスし、これを使用してバージョンのアクティブ化を特定の日時まで行わないようにすることができます。



[バージョンニングの管理者] ドロップダウン リストで **[MANAGER]** を選択する場合は、**Configuration Server** で次のバージョンをアクティブ化する日時がわかるように、必ず**[指定した日時以降にアクティブにする]** チェック ボックスをオンにしてください。



- 4 [次にアクティブにするバージョン] ボックスの一覧で、最初のバージョンの次にアクティブ化するアプリケーションのバージョンをクリックします。
- 5 [時間 (hh/mm)] ボックスの一覧で、バージョンをアクティブ化する時間を選択します。
- 6 カレンダー コントロールを使用して、次のバージョンの配布の日付を設定します。



時間コントロールおよびカレンダー コントロールを使用してバージョンの配布をスケジュールする場合は、以下の点を考慮します。

- バージョンの配布をスケジュールできるのは、**Configuration Server** でバージョンを管理する場合のみです。
 - [バージョンングの管理者] ドロップダウン リストで **[MANAGER]** を選択する場合は、**Configuration Server** で次のバージョンをアクティブ化する日時がわかるように、必ず**[指定した日時以降にアクティブにする]** チェック ボックスをオンにしてください。
 - **VGROUP** インスタンスを削除すると、関連する **TIMER** インスタンスが削除されます。
- 7 **[OK]** をクリックして、バージョン グループ エディタの情報を保存します。
 - 8 **[はい]** をクリックして、変更を確定します。

Version Group インスタンスが Version Group (VGROUP) クラスに表示されます。次のバージョンのアクティブ化をスケジュールした場合、Scheduling (TIMER) クラスにタイマー インスタンスが作成され、タイマーが自動的にバージョン グループに接続されます。

バージョン グループをサービスに接続するには

- 1 Admin CSDB Editor で [PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE] に移動します。
- 2 適切なサービス (Amortize など) を右クリックし、**[接続の表示]** をクリックします。[SOFTWARE.ZSERVICE 接続] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 **[Version Groups (VGROUP)]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
Admin CSDB Editor のリスト ビューに Version Group インスタンスが表示されます。
- 4 リスト ビューの**[Amortize]** をクリックし、適切な Application (ZSERVICE) インスタンス (Amortize など) にドラッグします。カーソルがクリップの形になったらマウス ボタンを離します。[接続属性の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[コピー]** をクリックします。
- 6 Amortize サービスへの Amortize バージョン グループの接続を確認するメッセージが表示されたら**[はい]** をクリックします。
- 7 確認メッセージが表示されたら**[OK]** をクリックします。



このサービスを配布するサブスクリバの POLICY インスタンスに ZSERVICE インスタンスを接続してください。

HPCA Agent コンピュータが次回 Configuration Server に接続するときは、アプリケーションの最初のバージョンがアクティブ化され、次のバージョンの圧縮ファイルは HPCA Agent コンピュータに格納されます。

バージョン グループを編集する

バージョン グループおよびそのインスタンスを作成した後に、バージョン グループ エディタに戻って変更を行うことができます。

バージョン グループを編集するには

- 1 Admin CSDB Editor で PRIMARY.SOFTWARE.VGROUP にある Version Group インスタンスに移動します。
- 2 適切な Version Group インスタンスを右クリックし、**[バージョン グループ エディタ]** を選択します。バージョン グループ エディタが表示されます。

- 3 必要に応じてバージョン グループを編集します。
- 4 **[OK]** をクリックして、変更を保存します。
 または
[キャンセル] をクリックして、変更を保存せずにバージョン グループ エディタを終了します。

Version Group (VGROUP) クラス

Version Group (VGROUP) クラスの各インスタンスは、アプリケーションのバージョンのセットを定義し、Versions (VERSION) クラスへの接続を格納します。VGROUP クラスの属性については、下記の表 36 で説明します。

表 36 Version Group (VGROUP) クラスの属性

属性	説明
ZSTOP00 _n	ZSTOP 属性では、式が true と評価されると、インスタンスの解決がスキップされます。空白のままの場合、インスタンスはスキップされず、解決処理が続行されます。これは、ユーザーのセットにバージョンを割り当てる場合に便利です。この属性を設定するには、 Admin CSDB Editor を使用します。
CONTROL	<p>HPCA agent コンピュータでアクティブにするバージョンを、HPCA 管理者 (MANAGER) またはサブスクリバ (CLIENT) のどちらかで管理するかを指定します。このオプションを設定するには、バージョン グループ エディタの [バージョンニングの管理者] ドロップダウン リストを使用します。</p> <p>注意：HPCA Agent では、HPCA 管理者 によるバージョンのアクティブ化の管理はサポートしていますが、サブスクリバによるアクティブ化の管理はサポートしていません。</p>
INITIAL	HPCA agent コンピュータでアクティブにするバージョンを指定します。このオプションを設定するには、バージョン グループ エディタの [最初にアクティブにするバージョン] ドロップダウン リストを使用します。
ROLLBACK	新しいバージョンの配布に失敗した場合、以前アクティブ化されたバージョンに自動的にロールバックするかどうかを指定します。デフォルトは Y です。
REQACTDT	任意の HPCA agent コンピュータでこのバージョン グループのバージョンがアクティブになる最も早い日です。これが空白の場合は、 INITIAL 属性で識別されるバージョンが HPCA Agent 接続の最後でアクティブ化され、これによりバージョンが HPCA agent コンピュータに転送されます。バージョン グループ エディタ内のカレンダー コントロールを使用して、 REQACTDT を設定します。

属性	説明
REQACTTM	任意の HPCA agent コンピュータでこのバージョン グループのバージョンがアクティブになる、(REQACTDT 属性で指定された日の) 最も早い時刻です。INITIAL 属性で識別されるバージョンは、次の HPCA Agent 接続時にアクティブになります。REQACTTM を設定するには、バージョン グループ エディタの [時間 (hh/mm)] ドロップダウン リストを使用します。
NAME	VGROUP インスタンスの簡略名。この属性は、Admin CSDB Editor を使用してインスタンスを作成するときに設定します。
ACTDATE	このデータは、HPCA agent コンピュータ上の VGROUP オブジェクトで、HPCA agent コンピュータによって設定および管理されます。この値は変更しないでください。
STATUS	このデータは、HPCA agent コンピュータ上の VGROUP オブジェクトで、HPCA agent コンピュータによって設定および管理されます。この値は変更しないでください。
CURVERS	このデータは、HPCA agent コンピュータ上の VGROUP オブジェクトで、HPCA agent コンピュータによって設定および管理されます。この値は変更しないでください。
NEXTVERS	このデータは、HPCA agent コンピュータ上の VGROUP オブジェクトで、HPCA agent コンピュータによって設定および管理されます。この値は変更しないでください。
SOURCE	このデータは、HPCA agent コンピュータ上の VGROUP オブジェクトで、HPCA agent コンピュータによって設定および管理されます。この値は変更しないでください。
TIMERCON	"次にアクティブにするバージョン" を指定すると、CM Admin CSDB Editor で自動的にタイマーが作成され、この属性にタイマーへの接続が格納されます。
VERCON0n	バージョン グループ内の各バージョンに接続します。各 VERCON0n 属性には、VERSION クラスの 1 つのインスタンスへの接続が含まれます。これは、バージョン グループ エディタでバージョン グループにバージョンを割り当てると設定されます。

Versions (VERSION) クラス

Version Group (VGROUP) クラスの各インスタンスは、アプリケーションのバージョンのセットを定義します。バージョン グループ エディタを使用して VERSION クラス インスタンスを作成し、バージョン グループに割り当てます。VERSION クラスの属性については、表 36 (143 ページ) で説明しています。

表 37 Versions (VERSION) クラスの属性

属性	説明
ZSTOP00n	ZSTOP 属性では、式が true と評価されると、インスタンスの解決がスキップされます。空白のままの場合、インスタンスはスキップされず、解決処理が継続されます。これは、ユーザーのセットにバージョンを割り当てる場合に便利です。この属性を設定するには、Admin CSDB Editor を使用します。
NAME	VERSION インスタンスの簡略名。この属性は、Admin CSDB Editor を使用してインスタンスを作成するときに設定します。
パッケージ	このバージョン用にパッケージ化されたソフトウェアを表す PACKAGE クラスインスタンスに接続します。

アプリケーション (ZSERVICE) の属性

ここでは、CSDB Editor 内の Application (ZSERVICE) インスタンスの属性について説明します。Admin Packager や、Admin CSDB Editor. の新規アプリケーションウィザードなど、これらの属性の多くの値は、HPCA Administrator ツールの使用時に設定されます。Admin CSDB Editor を使用して、SOFTWARE.ZSERVICE クラスのこれらの属性値を変更することもできます。

一部の属性は値を持たなかったり、Admin CSDB Editor に値が表示されなかったりします。そのような属性は、HPCA Agent が使用します。たとえば、INSTDATE 属性は、サービスが HPCA Agent コンピュータにインストールされた日付を記録するために使用されます。この属性の値は、Configuration Server Database の HPCA agent コンピュータの PROFILE ファイルに格納されています。

表 38 変更可能な SOFTWARE.ZSERVICE の属性

属性	説明
ZSTOPnnn	式の評価が TRUE だと解決が停止されます。 例 : WORDPOS (EDMGETV (ZMASTER, ZOSTYPE) , 'WIN32_NT WIN64_NT')=0 このサンプル式では、HPCA Agent コンピュータのオペレーティング システムが Windows 32 ビットまたは Windows 64 ビットのどちらでもない場合に、インスタンスの解決が停止されます (アプリケーションはインストールされません)。

属性	説明
ZSVCNAME	この属性を使用して、 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスに表示されるサービスの名前を設定します。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [簡潔な説明] フィールドで初期設定します。
ZSVCTTYP	このアプリケーションがどの HPCA Agent に対してパッケージされているかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • A: Application Manager • S: Application Self-service Manager この値は、新規アプリケーション ウィザードで初期設定します。
ZSVCMO	この属性を使用して、サービスを必須またはオプションとして指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Application Manager を使用している場合、サービスは通常、必須 (M) として指定します。 • Application Self-service Manager を使用している場合、サービスは通常、オプション (O) として指定します。 両方の HPCA Agent を使用している場合は、必須、オプションの順 (ZSVCMO=MO) またはオプション、必須の順 (ZSVCMO=OM) を指定することもできます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 番目の文字はインストール前のアプリケーションの扱い方を示します。 • 2 番目の文字はインストール後のアプリケーションの扱い方を示します。 注意: ZSVCMO=OM に設定できるようにするには、 ZSERVICE クラス テンプレートを編集する必要があります。クラス テンプレートの編集の詳細については、『 HPCA Admin ユーザー ガイド 』を参照してください。 <p>Application Self-service Manager を使用して必須アプリケーションを処理するには、enterprisemanagement=auto を args.xml ファイルに追加してください。</p> この値は、新規アプリケーション ウィザードでアプリケーションのターゲット タイプ (ZSVCTTYP) に基づいて初期設定します。
ZSVCPRI	この属性を使用して、サービスの優先度を設定します。優先度に基づいてサービスが作成されます。数字が小さいほど、サービスの優先度は高くなります。 <ul style="list-style-type: none"> • ZSVCPRI=01 であるサービスの優先順位が一番高くなります。 • ZSVCPRI=99 であるサービスの優先順位が一番低くなります。
<u>_ALWAYS_</u>	この属性で指定したメソッドは、このインスタンスが解決されるときに無条件で実行されます。
ZCREATE	サービスのインストール時に実行されるメソッド。
ZINIT	サービスの初期化時に実行されるメソッド。

属性	説明
ZDELETE	サービスの削除時に実行されるメソッド。
ZUPDATE	サービスの更新時に実行されるメソッド。
ZVERIFY	サービスの検証時に実行されるメソッド。
ZREPAIR	サービスの修復時に実行されるメソッド。
PUBDATE	将来の使用のために予約されています。
UPDDDATE	将来の使用のために予約されています。
AUTHOR	サービス作成者の名前。これは、 Application Self-service Manager ユーザー インターフェイスの拡張情報領域に表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [作成者] フィールドで初期設定します。
DESCRIPT	サービスの説明。サービス リストにサービスのプロパティとして表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [詳細説明] フィールドで初期設定します。
VENDOR	サービスのベンダーの名前。 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスに表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [ベンダー] フィールドで初期設定します。
URL	サブスクライバがサービスについての詳細情報を入手できる Web ページのアドレス。これは、 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスでサービスのプロパティとして表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [Web URL] フィールドで初期設定します。
CATGROUP	この属性を使用して、アプリケーションのセットをグループ化します。アプリケーションは、 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスでグループに基づいて表示できます。
PRICE	アプリケーションの価格を識別します。これは、 Application Self-service Manager ユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクライバに対して表示されます。
SCHEMOK	Application Self-service Manager 限定の属性。 <ul style="list-style-type: none"> • y を指定すると、サブスクライバは更新スケジュールをローカルで変更することができます。 • n を指定すると、Configuration Server での制御が続けられます。
VERSION	ソフトウェアのバージョン。これは、 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスでサービスのプロパティとして表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [バージョン] フィールドで初期設定します。

属性	説明
NAME	この名前は、 Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスでサービスのプロパティとして表示されます。この値は、新規アプリケーション ウィザードの [簡潔な説明] フィールドで初期設定します。
OWNER	将来の使用のために予約されています。
RUNDLG	Y を指定すると、サービスのインストール時に DIALOG クラスのインスタンスの処理を有効にできます。 N (デフォルト) を指定すると、この処理を無効にできます。
REBOOT	この属性を使用して、アプリケーション イベントに基づいて HPCA agent コンピュータを再起動できます。アプリケーション イベントと再起動の タイプ 、 パネル 、または 接続 を等号で組み合わせることにより、アクションを指定します。 再起動するイベント: AI = インストール、 AD = アンインストール、 AU = 更新、 AR = 修復、 AV = 検証 パネルのタイプ: Q = パネルなし A = [OK] ボタンのみ、 Y = [OK] ボタンと [キャンセル] ボタン 再起動のタイプ: S = ソフト リブート (タイプ Y のパネルのデフォルト)、 H = ソフト リブート (タイプ Y のパネルのデフォルト)、 N = 再起動なし 接続のタイプ: 指定なし = マシン接続での再起動 (context=m)、 U = ユーザー接続での再起動 (context=u)、 MU = サービスのマシン部分とユーザー部分がインストールされている場合に再起動
EVENTS	この属性を設定すると、どのイベントでレポートを行うかを指定できます。アプリケーション イベントとイベント タイプを等号で組み合わせてイベントを指定します。 AI =アプリケーション インストール、 AD =アプリケーション アンインストール AU =アプリケーション更新、 AR =アプリケーション修復、 AV =アプリケーション 検証、 VA =バージョンのアクティブ化、 VD =バージョンの非アクティブ化 レポートする内容: S =成功、 F =失敗 B =両方 (成功と失敗)、 N =なし デフォルト: AI=B,AD=B,AU=F,AR=N,VA=F,VD=F
ERTYPE	この属性を設定すると、 APPEVENT オブジェクトを送信することができます。現時点では、オブジェクト形式のみをサポートしています。そのため、デフォルトは ERTYPE=O です。

属性	説明
ADAPTIVE	<p>この属性を設定することにより、インストールされるパッケージが、定期的にモニタしなければならない HPCA Agent 設定に依存するかどうかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効にする場合は Y を指定します。 依存しない場合は N を指定します。 <p>設定が変更された場合、HPCA Agent は新しいコンポーネントまたは別のコンポーネントを取得するために Configuration Server に再接続する必要があります。</p>
LREPAIR	<p>この属性を設定すると、壊れたアプリケーションをローカルで修復できるようになります。ファイルが足りないためアプリケーションが壊れている場合、（ローカルで保存されている）そのファイルを使用してアプリケーションを修復することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効にする場合は Y を指定します。 無効にする場合は N を指定します（デフォルト）。
REMOVAL	<p>この属性は、サービスが削除される際のアプリケーションの管理方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> REMOVAL=A（放棄）にすると、HPCA Agent 上のサービスのオブジェクトが削除されますが、コンポーネントはそのまま残されます。サービスは HPCA で管理されなくなります。 REMOVAL=D（削除）にすると、サービスのオブジェクトとコンポーネントが削除されます。サービスは HPCA によって引き続き管理されます。 — これがデフォルトとなります。 REMOVAL=U（非管理）にすると、HPCA によるサービスの管理が停止されます。オブジェクトもコンポーネントも削除されません。この設定は、エンタイトルメント ポリシーに基づいて削除されるオプションのアプリケーション (ZVSCMO=O) にのみ適用されます。 <p>注意：サブスクリバがオプションのアプリケーションを削除すると、REMOVAL の設定を問わず、サービスのオブジェクトも削除されます。</p>
RECONFIG	<p>この属性を設定すると、インストール後にアプリケーションを移動できるかどうかを指定できます。たとえば、アプリケーションを削除して再インストールする必要なく、C ドライブ（アプリケーションのインストール先）から D ドライブに移動できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効にする場合は Y を指定します。 依存しない場合は N を指定します。
ZSVCCAT	<p>この属性を設定すると、Application Self-service Manager のカタログにサービスを表示するかどうかを指定できます。オプションのアプリケーションの場合、デフォルトは Y です。必須アプリケーションの場合、デフォルトは N です。これらのデフォルトは上書きできます。</p>

属性	説明
UIOPTION	<p>この属性を設定して、[サービス ステータス] ウィンドウを表示するかどうかを指定できます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● UIOPTION=NONE: インターフェイスは表示されません。 ● UIOPTION=FULL: インターフェイスが表示され、[キャンセル] ボタンが利用可能になります。 ● UIOPTION=INFO: インターフェイスが表示され、[キャンセル] オプションはありません。
CACHE	<p>この属性を使用して、要素のキャッシングを有効にできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有効にする場合は Y を指定します。 ● 無効にする場合は N を指定します (デフォルト)。
CACHELOC	<p>Windows インストーラ アプリケーションのみ。</p> <p>製品で必要になる圧縮アプリケーション ファイルをキャッシュするために使用する、HPCA agent コンピュータ上のフォルダの位置を指定します。デフォルトは _UNDEF_ です。</p> <p>HPCA が Windows インストーラをサポートすることにより、フォルダを作成するために PRODGUID 値がこの値に付け加えられます。次に例を示します。</p> <p>CACHELOC=C:\progra~1\Hewlett-Packard\HPCA\Agent および PRODGUID=12345_XXXX</p> <p>キャッシュ フォルダは次のようになります。</p> <p>C:\progra~1\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\12345_XXXX\cache。</p> <p>注意：フォルダ <code>\cache</code> は、PRODGUID に自動的に追加されます。</p> <p>Windows インストーラ対応アプリケーションを配布しない場合、ファイルは IDMDATA にキャッシュされます。</p>
CACHELIM	<p>Windows インストーラ アプリケーションのみ。</p> <p>000 ~ 100 の数値を指定して、キャッシュの制限を指定します。これは「ドライブの使用済み容量の割合」として定義されます。</p> <p>使用済み容量の割合がキャッシュの制限を超えると、その製品にキャッシュされているすべてのファイルは削除され、キャッシュ フォルダも削除されます。これは、すべてのファイルがディスク上にキャッシュされた後にチェックされます。</p>
ZDISCONN	<p>この属性を設定すると、Configuration Server とのセッションが開いているときに、HPCA Agent がその Configuration Server との接続を切断できるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y を指定すると、HPCA Agent を Configuration Server から切断できます。 ● N (デフォルト) を指定すると、Agent と Configuration Server の接続が維持されます。

属性	説明
ZSYSACCT	<p>この属性を設定すると、システム アカウントとユーザー アカウントのどちらでサービスをインストールするのかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Y を指定すると、アプリケーションがシステム権限でインストールされます。 ● N (デフォルト) を指定すると、ログオンしているユーザーの権限でアプリケーションがインストールされます。
MCELIGBL	<p>アプリケーションでマルチキャストを有効にするかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 有効にする場合は Y を指定します (デフォルト)。 ● 有効にしない場合は N を指定します。
RSTRSIZE	<p>適切な ZSERVICE クラスのインスタンスでこの属性を使用すると、ダウンロードされているデータ量 (バイト単位) に基づくチェックポイントの再開が可能なファイルを制御することができます。</p>
ZSVCMODE	<p>ZSVCMODE は次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● M: サービスにマシン コンポーネントしかない場合。 RADSKMAN コマンド ラインが context=u に設定されている場合、このサービスは無視されます。 ● U: サービスにユーザー コンポーネントしかない場合。 RADSKMAN コマンド ラインが context=u に設定されている場合、または空白になっている場合には、このサービスは無視されます。アプリケーションがユーザーのレジストリ変更またはユーザーのデスクトップ ショートカットのみで構成されている場合は、この設定を使用することができます。 ● MU: サービスにマシン コンポーネントとユーザー コンポーネントの両方がある場合。ユーザー接続では、ユーザー コンポーネントのインストール前に、マシン コンポーネントが既にインストールされているかどうかを確認されます。 context=m と context=u で 1 回ずつ、合計 2 回の RADSKMAN 接続を実行する必要があります。 ● EMU: HPCA Agent 接続がユーザー コンテキストで行われているが、アプリケーションのマシン側がまだインストールされていない場合には、マシン接続が強制されるため、この設定にします。マシン接続が完了すると、ユーザー コンポーネントをインストールするためにユーザー接続が開始されます。この設定は、ユーザーが Application Self-service Manager を使用して管理するオプションのアプリケーションで使用します。 <p>マシンまたはユーザーから独立してインストールできる単一モードでサービスを処理する場合は、ZSVCMODE を空白のままにします。つまり、コンポーネントの ZCONTEXT を無視してサービス全体をインストールするということです。</p>

属性	説明
ZBITARCH	<p>この属性を使用して、サービスの配布先とするビット サイズに基づくアーキテクチャを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 32 ビット アーキテクチャを配布する場合は、32 に設定します。 • 64 ビット アーキテクチャを配布する場合は、64 に設定します。 • 空白にすると、すべてのアーキテクチャに配布されます。

ZSERVICE の属性をレポートिंगする

ZSERVICE クラスの属性の一部は、計算によって決まります。それらの属性は、サービスがインストール、検証、更新、修復、または削除されると更新され、HPCA Agent コンピュータのサービス オブジェクトでレポートされます。



Admin CSDB Editor を使用してこれらの属性を変更しないでください。

表 39 計算される ZSERVICE 属性 - 変更は不可

属性	説明
ZSVCCSTA	このサービスのステータス コードを使用すると、サービスのファイルが正確に配布されない場合にその原因を判別することができます。値は 000 ~ 999 の範囲です。
SIZE	<p>Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクライバに対して表示される、圧縮されていないアプリケーションのサイズ</p> <p>この計算フィールドは、PACKAGE クラスに定義されている SIZE の累積値です。変更はしないでください。</p>
COMPSIZE	<p>Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクライバに対して表示される、圧縮されたアプリケーションのサイズ</p> <p>この計算フィールドは、PACKAGE クラスに定義されている COMPSIZE の累積値です。変更はしないでください。</p>
ZAVIS	<p>HPCA Agent は、アプリケーションのさまざまな状態をカタログで示すためにこの属性を管理します。4 つの状態は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Available は、Configuration Server からサービスを利用できるのかどうかを示します。 • Verified は、サービスが検証済みかどうかを示します。 • Installed は、サービスがインストール済みかどうかを示します。 • Synchronized は、インストールされているサービスに Configuration

属性	説明
	<p>Server からの最新の変更内容がすべて適用されているかどうかを示します。</p> <p>それぞれ状態に有効な値は次のとおりです。 Y (はい)、 N (いいえ)、 および X (不明)</p>
VERDATE	<p>この属性は、HPCA agent コンピュータ上でアプリケーションが最後に検証された日時を示します (ローカル時間、MMM DD,YYYY HH:MM:SS の形式)。これは、Application Self-service Manager ユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクリイバに対して表示されます。この値は、HPCA Agent が管理します。</p>
UPGDATE	<p>この属性は、HPCA agent コンピュータ上でアプリケーションが最後に更新された日時を示します (ローカル時間、MMM DD,YYYY HH:MM:SS の形式)。これは、Application Self-service Manager ユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクリイバに対して表示されます。この値は、HPCA Agent が管理します。</p>
INSTDATE	<p>この属性は、HPCA agent コンピュータにアプリケーションがインストールされた日時を示します (ローカル時間、MMM DD,YYYY HH:MM:SS の形式)。これは、Application Self-service Manager ユーザー インターフェイスの拡張情報領域でサブスクリイバに対して表示されます。この値は、HPCA Agent が管理します。</p>
DELDATE	<p>この属性は、HPCA agent コンピュータからアプリケーションが削除された日時を示します (ローカル時間、MMM DD,YYYY HH:MM:SS の形式)。この値は、HPCA Agent が管理します。</p>

7 サービスを配布する

この章は以下を目的としています。

- **HPCA** で使用可能な配布方法について理解する。
- タイマーを使用して、指定した時刻にサービスを配布することができる。
- 通知機能を使用して、アプリケーションをアップデートまたは削除したり、サブスクライバに電子メールを送信したりする方法を習得する。
- バージョン管理されたアプリケーションが配布できるようになる。
- **HPCA** が **Windows** インストーラ アプリケーションをサポートする方法について理解する。

配布方法

HPCA Administrator でパッケージをパブリッシュしてサービスを作成し、サービスの配布対象となるユーザーまたはグループを決定すると（第 4 章(エンタイトルメント ポリシーを実装する)を参照）、サービスをサブスクライバに配布できるようになります。



他のシステム管理ソフトウェアを使用した経験があれば、「ジョブ」という用語についておそらく理解しているでしょう。ジョブは、パッケージを配布する場合に使います。ジョブには、実行する必要がある一連の手順、ファイルまたはソフトウェアを格納しているパッケージ、ジョブのターゲット、およびジョブを実行するスケジュールが含まれます。

HPCA では、ジョブを使用する必要はありません。パッケージの作成、ターゲットの定義（ユーザーの割り当て）、配布方法の選択などの各手順は、個別に実行できます。1 つのパッケージを複数の配布方法で配布できるので、柔軟に処理を行うことができます。

HP Client Automation には、次の 2 種類の配布方法があります。

- **スケジューラ**
指定した時間にサービスをインストールしたり、一定の間隔で実行されるコマンドラインを設定したりします。
- **通知**
Configuration Server に接続してアプリケーションをインストール、更新、削除するよう 1 つまたは複数のエージェント コンピュータに強制したり、特定のサービスのサブスクライバに電子メールを送信したりします。

配布方法を選択する前に、以下の点を検討します。

- アプリケーションを特定の時刻に配布する必要があるか。
ある場合は、スケジューラ を使用します。
- アプリケーションを配布する際に、電子メールでユーザーに通知するか。
通知する場合は、通知 を使用します。
- 新しいアプリケーションや更新をインストールしたり、アプリケーションを削除したりするか。
する場合は、通知 を使用します。
- アプリケーションに複数のバージョンがあるか。
ある場合は、バージョングループを使用します。第 6 章(サービスを準備する)を参照してください。

スケジューラ メソッドや通知メソッドに加えて、**Application Self-Service Manager**のユーザー インターフェイスを使用してアプリケーションを配布する

こともできます。この場合、ダウンロードやインストールの一部はユーザーが制御することになります。詳細については、次の章の「[HPCA Application Self-service Manager のユーザー インターフェイス](#)」で説明しています。



別個のリモート ターミナル セッションから同じマシンへの同時 HPCA Agent 接続はサポートされません。

これがサポートされるのは、Windows Terminal Services を使用して実行している場合と、HPCA Windows Terminal Server 拡張を使用している場合のみです。

配布をテストする

正常に配布するためには、実装を十分にテストしておく必要があります。

- 実際の環境でソフトウェアが配布できるようにする前に、テスト環境でソフトウェアをパブリッシュおよび配布します。
- 対象となるすべてのオペレーティング システムに対して配布をテストします。
- アプリケーションの更新、サブスクリバのデスクトップからのアプリケーション削除、カスタマイズされたインストールなど、配布対象の主な機能をすべてテストします。また、さまざまなハードウェア設定をテストして、配布に影響を与える可能性があるディスク容量や物理メモリの不足などがいないかを確認します。

接続パラメータ (RADSKMAN)

どの配布方法を選択した場合にも、RADSKMAN コマンド ラインを作成し、実行する必要があります。RADSKMAN コマンドラインは、コマンドプロンプト、Scheduler (TIMER) インスタンス、および通知コマンドから指定できます。

RADSKMAN の使用目的:

- 既存の必須アプリケーションのステータスをすべてチェックします。
- 新しい必須アプリケーションを追加します。
- サブスクリバに割り当てられなくなった必須アプリケーションを削除します。

プロダクション環境で RADSKMAN を使用する前に、コマンド ライン パラメータをテストしてください。RADSKMAN パラメータは、次のカテゴリに分類することができます。

- [Core \(158 ページを参照\)](#)

- オペレーション (160 ページを参照)
- マシン/ユーザー (161 ページを参照)
- クライアント オペレーション プロファイル (163 ページを参照)
- プロセス (164 ページを参照)

以下の表で、RADSKMAN のパラメータについて説明します。これらの表に続く 165 ページで、一般的な状況で使用する RADSKMAN ラインの例を示します。

Core

Core パラメータは、大部分の RADSKMAN コマンドで使用します。これらのパラメータには、Configuration Server のロケーションに加え、ポリシー用の HPCA agent コンピュータを特定する方法が含まれます。

表 40 RADSKMAN Core パラメータ

パラメータ	説明
cat	<ul style="list-style-type: none"> ● cat=prompt と設定すると、セルフメンテナンスを実行し、ログオン パネルを表示し、他のサービスのステータスをチェックすることができます。 ● cat=y と設定すると、サービスのステータスのみをチェックできます。 ● cat=m と設定すると、ローカル マシン カタログを使用してユーザーのサービス リストを解決できます。これは、context=u と使用されます。通常、これは local=y といっしょにも使用されます。 <p>Application Manager のデフォルトは prompt です。</p> <p>Application Self-service Manager のデフォルトは、リクエストのタイプによって異なります。</p>
dname	<p>サービスの CSDB のドメイン名。サービス カタログ (ASERVICE.EDM) が保管されるディレクトリです。たとえば、dname=SOFTWARE とします。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは SOFTWARE です。ただし、preload=y の場合、デフォルト値は RADSTAGE です。</p>
IP	<p>Configuration Server の IP アドレス。</p> <p>注意：IP アドレスを指定しなかった場合、HPCA は、IDMLIB (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\LIB\) 内の ZMASTER オブジェクトで指定した IP アドレスを使用します。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは NOVARCS です。</p>
mname	<p>Configuration Server の名前。たとえば、mname=RADSVR01 のようにします。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは RADSTAGE です。</p>

パラメータ	説明
port	<p>Configuration Server のポート。</p> <p>注意：このパラメータを指定しなかった場合、HPCA は、IDMLIB (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\LIB\) 内の ZMASTER オブジェクトで指定したポートを使用します。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは 3464 です。</p>
sname	<p>処理するサービスの名前を指定します。サービスを指定しなかった場合は、すべての必須サービスが処理されます。</p>
startdir	<p>IDMLIB の開始ディレクトリを指定します。</p> <p>注意：HP では、コマンドラインで uid を指定している場合、startdir も指定することをお勧めします。startdir を指定しなければ、uid と同じ値に設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • startdir=\$MACHINE と指定すると、コンピュータ名が使用されます。 • startdir=\$USER と指定すると、現在ログオンしているユーザーが使用されます。 • startdir=value と指定すると、カスタムの開始ディレクトリが指定されます。<i>value</i> にスペースが含まれている場合は、名前全体を引用符で囲みます。 <p>両方の HPCA Agent のデフォルト: \$USER (ユーザー コンテキストで開始されている場合。つまり、context=u) または SYSTEM (マシン コンテキストで開始されている場合。つまり、context=m)。</p> <p>注意：Application Self-service Manager はデフォルトではコンテキストを渡しません。</p>
uid	<p>現在のセッションを識別するために使用される ID。</p> <p>注意：HP では、コマンドラインで uid を指定している場合、startdir も指定することをお勧めします。startdir を指定しなければ、uid と同じ値に設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • uid=\$MACHINE の場合、コンピュータの名前に基づいて現在のセッションが識別されます。 • uid=\$USER の場合、現在ログオンしているユーザーの名前に基づいて現在のセッションが識別されます。 • uid=custom は、ユーザーが指定したカスタム値を基に現在のセッションを特定する場合に使用します。 <p>両方の HPCA Agent のデフォルト: \$USER (ユーザー コンテキストで開始されている場合。つまり、context=u) または SYSTEM (マシン コンテキストで開始されている場合。つまり、context=m)。</p> <p>注意：Application Self-service Manager のコンテキストを指定しなかった場合、IDMLIB (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib\) 内の ZMASTER オブジェクトで指定した LOCALUID を使用します。</p>

オペレーション

これらのパラメータは、**HPCA Agent** がどのように接続するかを制御します。コンピュータの再起動処理、ログの仕様、ユーザーの表示オプションなどの機能が含まれます。

表 41 **RADSKMAN** のオペレーション パラメータ

パラメータ	説明
ask	<ul style="list-style-type: none">• ask=y と設定すると、コンピュータを再起動する前に、サブスクリバにプロンプトが表示されます。これによりサブスクリバは、再起動前に現在の作業を保存してアプリケーションを終了することができます。• ask=n と設定すると、サブスクリバへのプロンプト表示なしでコンピュータが再起動されます。無人状態のコンピュータには、これが推奨されます。 <p>HPCA システム トレイが実行中の場合、Application Manager のデフォルトは Y です。システム トレイが実行中でない場合やログオンしているユーザーがない場合は N です。</p> <p>Application Self-service Manager のデフォルトは、Y です。</p>
hreboot	<ul style="list-style-type: none">• hreboot=y を指定すると、サービスの要求に応じて RADSKMAN がコンピュータの再起動を処理します。• hreboot=p を指定すると、コンピュータの電源がオフになります。HPCA agent コンピュータは、サービスの再起動設定を問わず、シャットダウンします。 <p>注意：この設定は handle_reboot を置き換えます。</p> <p>Application Manager のデフォルトは Y です。</p> <p>Application Self-service Manager のデフォルトは、N です。</p>
ind	<ul style="list-style-type: none">• ind=n と設定すると、各サービスのステータス インジケータが非表示になります。• ind=y と設定すると、各サービスのステータス インジケータが非表示になります。 <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。</p>
jobid	<p>jobid を使用すると、このコマンド ラインの送信元について詳細な説明を表示することができます。APPEVENT、IDENTITY、PREFACE、SYNOPSIS オブジェクトに JOBID として表示されます。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルト: UserConnect (ユーザー コンテキストで開始されている場合)、MachineConnect (マシン コンテキストで開始されている場合)。</p>
log	<p>IDMLOG ディレクトリに格納されるログの名前を作成します。</p>

パラメータ	説明
logsize	ログ ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。ログ サイズの上限に達すると、バックアップ ファイル (.bak) が作成されます (デフォルトで connect.bak)。バックアップ ファイルが存在する場合は、上書きされます。両方の HPCA Agent のデフォルトは 1000000 です。
rtimeout	サービスが再起動パネルを要求している場合に、HPCA agent コンピュータを再移動するまで待機する秒数を指定します。このタイムアウトにより、再起動前にユーザーがアプリケーションを保存して終了できます。

マシン/ユーザー

これらのパラメータは、同じ HPCA agent コンピュータに複数のユーザーが存在する場合や、マシン コンポーネントとユーザー コンポーネントでアプリケーションを使用する場合に便利です。これらのパラメータを使用して、Configuration Server への接続の頻度、ユーザー ログオン パネルの表示、Configuration Server にオブジェクトを送信するタイミングを制御することができます。

表 42 RADSKMAN マシン/ユーザー パラメータ

パラメータ	説明
cat	<ul style="list-style-type: none"> • cat=prompt と設定すると、ログオン パネルを表示したり、他のサービスのステータスをチェックしたりできます。 • cat=y と設定すると、サービスのステータスのみをチェックできます。 • cat=m と設定すると、ローカル マシン カタログを使用してユーザーのサービス リストを解決できます。これは、context=u と使用されます。通常、これは local=y といっしょにも使用されます。 <p>Application Manager のデフォルトは prompt です。</p> <p>Application Self-service Manager のデフォルトは、リクエストのタイプによって異なります。</p>
catexp	<p>このパラメータを使用すると (<attribute name>:<value>)、ZSERVICE クラスの特定の属性に基づいてアプリケーションを処理できます。</p> <p>注意：複数の「OR」条件は、フォワードスラッシュ (/) を使用して指定します。</p>

パラメータ	説明
context	<p>context=m と設定すると、アプリケーションがマシン コンテキストでインストールされます。context=u の場合、ユーザー コンテキストでインストールされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • context=m の場合は、以下のデフォルトが想定されています。 <ul style="list-style-type: none"> — uid=\$machine — startdir=system — cat=prompt — ulogon=n • context=u の場合は、以下のデフォルトが想定されています。 <ul style="list-style-type: none"> — uid=\$user — startdir=\$user — cat=prompt — ulogon=y <p>Application Manager のデフォルト: ログオンしているユーザーがいる状態で開始された場合は u、ユーザーがいない状態で開始された場合は m です。</p> <p>Application Self-service Manager にはデフォルトはありません。すべてのコンポーネントが処理されます。</p>
flushu	<p>local=y (この表の次のパラメータを参照) の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー接続で y を指定すると、ローカル接続の最後に Configuration Server にレポート オブジェクトを送信し、即時フィードバックを取得することができます。これはユーザー接続のデフォルト動作です。 • flushu=n と指定すると、レポート オブジェクトは Configuration Server に送信されません。ユーザーのオブジェクトは、Configuration Server に送信されるまで増え続けます。 <p>マシン接続では、flushu=a と設定すると、すべてのレポート オブジェクトが Configuration Server に送信されます。</p> <p>両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。</p>
local	<p>y を指定すると、ローカル HPCA Aent コンピュータからユーザーのサービスに対してリソースをインストールできます。これは、context=u とのみ使用してください。通常、これは cat=m と使用されます。</p>
machfreq	<p>このパラメータによって、HPCA を実行するかどうか、実行する場合はその頻度を指定します。これを使用すると、HPCA agent コンピュータの再起動のたびに HPCA が実行されないようにすることができます。</p> <p>整数 (<i>n</i>) に設定すると、最近のマシン接続から <i>n</i> 時間経過しなければマシン接続は実行されません。この値を設定すると、指定した時間枠内で HPCA Agent は一度しか実行されないため、シン エージェント コンピュータでの OS Manager の適用数を軽減することができます。</p>

パラメータ	説明
	machfreq=0 に設定すると、シンクライアントの再起動のたびにマシン接続が実行されます。
mnt	現在の接続で HPCA Agent のセルフメンテナンスを処理するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは N です。
ulogon	このパラメータは、ログオンパネルの表示/非表示を切り替えます。 cat=prompt の場合のみ有効です。 注意： HPCA システムトレイを使用している場合は、 ulogon=n と設定します。このパラメータは、 HPCA ログオンパネルを表示するためのもので、システムトレイではサポートされていません。 Application Manager のデフォルトは N です。 Application Self-service Manager のデフォルトは、 Y です。
userfreq	この変数は、ユーザーがエージェントコンピュータにログインするたびに HPCA が実行されないようにする場合に使用します。 context=u の場合のみ有効です。 整数 (<i>n</i>) に設定すると、最近のユーザー接続から <i>n</i> 時間経過するか、マシン接続が実行されなければユーザー接続は実行されません。 <ul style="list-style-type: none"> • machfreq=0 と設定すると、前回のユーザー接続の後でマシン接続を実行した場合にのみユーザー接続が実行されます。 • userfreq の値を空白にしているか、userfreq の構文自体を入力していない場合、HPCA Agent 接続が context=u で実行されるたびにユーザー接続が実行されます。

クライアントオペレーションプロファイル

これらのパラメータは、クライアントオペレーションプロファイルの使用方法を指定するために使用されます。詳細については、第5章「クライアントオペレーションプロファイルを設定する」(89ページから始まる)を参照してください。

表 43 RADSKMAN クライアントオペレーションプロファイルのパラメータ

パラメータ	説明
cop	<ul style="list-style-type: none"> • Y を指定すると、この HPCA Agent 接続に対してのみクライアントオペレーションプロファイルの解決が有効になります。 • N を指定すると、この HPCA Agent 接続に対してのみクライアントオペレーションプロファイルの解決が無効になります。 両方の HPCA Agent のデフォルトは N です。

パラメータ	説明
<code>cdf</code>	<ul style="list-style-type: none"> ● Y を指定すると、接続の延期機能が有効になります。 ● N を指定すると、接続の延期機能が無効になります。 <p>接続の延期機能の詳細については、必須サービスに対するユーザー アクション (218 ページから始まる) を参照してください。</p>
<code>datauri</code>	datauri を URI 形式で RADSKMAN コマンドラインに追加すると、 DATA タイプに対して SAP オブジェクトの使用を上書きできます。
<code>product</code>	SAP.PRODUCT 属性で、 SAP を特定の製品専用と指定している場合は、このパラメータを使用してその製品を指定します。複数製品フィルタを指定する場合は、各製品をカンマで区切ります。
<code>rcsuri</code>	rcsuri を URI 形式で RADSKMAN コマンドラインに追加すると、 RCS タイプに対して SAP オブジェクトの使用を上書きできます。このパラメータの詳細については、 URI (Universal Resource Identifier) の作成 (96 ページ) を参照してください。

プロセス

プロセスパラメータは、現在の **HPCA Agent** 接続でアプリケーションを修復するか追加するかなど、サービスの処理に関するパラメータです。これらのパラメータでは、サービスの処理条件の指定、**Proxy Server** へのアプリケーションデータの送信、**HPCA Agent** に対する **SSL** セキュリティの処理なども制御できます。

表 44 **RADSKMAN** のプロセスパラメータ

パラメータ	説明
<code>Add</code>	現在の HPCA Agent 接続中にアプリケーションをインストールするかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。
<code>autofix</code>	アプリケーションが壊れているときに自動的に修復するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。
<code>catexp</code>	このパラメータを使用すると (<attribute name>:<value>)、 ZSERVICE クラスの特定の属性に基づいてアプリケーションを処理できます。 注意：複数の「 OR 」条件は、フォワードスラッシュ (/) を使用して指定します。

パラメータ	説明
del	現在の HPCA Agent 接続中にアプリケーションを削除するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。
merge	オブジェクト名を指定すると、そのオブジェクトのすべての変数が ZMASTER オブジェクトに格納され、 Configuration Server に送信されます。
mnt	現在の接続で HPCA Agent のセルフ メンテナンスを処理するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは N です。
preload	Proxy Server のプレロードに使用します。 Y を指定すると、 NVD.INI で指定されている IDMDATA ディレクトリを使用します。この値を指定しない場合は、ファイルがコピーされるディレクトリのロケーションを指定します。
rep	現在の HPCA Agent 接続中にアプリケーションを修復するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。
sendcat	Y を指定すると、接続の終了時に、 HPCA Agent コンピュータの ASERVICE オブジェクトに格納されているサービス リストが Configuration Server に送信されます。これにより、サービス リストに対して追加の分析を実行することができます。
sslmgr	Configuration Server のホスト名または IP アドレスを指定します。 注意：セキュアなチャネル (SSL) で HPCA Agent セルフ メンテナンスを実行する場合は、 SSL マネージャの IP アドレスの末尾に ::sm というフラグを設定します。
sslport	SSL 接続ポート (通常は 443) を指定します。
upd	現在の HPCA Agent 接続中にアプリケーションを更新するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。
ver	現在の HPCA Agent 接続中にアプリケーションを検証するかどうかを指定します (Y N)。 両方の HPCA Agent のデフォルトは Y です。

RADSKMAN の例

以下に、RADSKMAN の一般的な使用例を示します。

カタログ (aservice.edm) を停止する最初のカatalog リフレッシュを実行し、セルフ メンテナンスを実行し、Application Manager を使用している場合はユーザー ログオン パネルを非表示にし、すべての必須アプリケーションを処理します。

```
radskman ip=10.10.10.15,port=3464,mname=HPAgent,  
dname=software,cat=prompt
```

ユーザー ログオン パネルまたは進行状況インジケータ パネルを表示せずに、ユーザー <マシン名> の完全接続をサイレント実行します。これは、日単位のタイマーで一般的に使用されるコマンドです。ip= の値は、DNS 名でも IP アドレスでもかまいません。

```
radskman ip=test.corp.com,port=3464,mname=HPAgent,  
dname=software,cat=prompt,uid=$machine,ulogon=n,ind=n
```

カタログの更新、セルフ メンテナンスの実行、または壊れたアプリケーションの修復なしで必須アプリケーションを検証します。このマシンは、cat=n を使用する前に cat=prompt を使用して最初のカatalog リフレッシュを少なくとも一度実行し、カタログを停止する必要があります。

```
radskman ip=10.10.10.15,port=3464,mname=HPAgent,  
dname=software,cat=n,autofix=n
```

アプリケーション (WinZip) をインストールします。カタログの更新のみが実行されます。Configuration Server はカスタム ポート番号を使用しています。

```
radskman ip=10.10.10.15,port=5004,mname=HPAgent,  
dname=software,cat=y,sname=WinZip
```

すべての必須アプリケーションを処理し、リポート リクエストを処理して、リポート リクエストを確認するメッセージをパネルに表示します。

```
radskman ip=10.10.10.15,port=3464,mname=HPAgent,  
dname=software,cat=prompt,hreboot=Y,ask=Y
```

d:\stager のロケーションを使用してステージャをプレロードし、進行状況インジケータ パネルを表示します。HPCA システム トレイ機能が有効になっている場合は、システム トレイで進行状況インジケータがポップアップ表示されます。システム トレイが無効になっている場合、進行状況インジケータは別のパネルに表示されます。

```
radskman ip=10.10.10.15,port=3464,uid=STAGER,  
preload=d:\stager,ind=Y
```

マシン接続を実行します。

```
radskman context=m
```

— context=m で、他のパラメータは渡されていないので、次のデフォルト値が使用されます。

```
ip=NOVARCS, port=3464, uid=$machine, startdir=system,  
cat=prompt, ulogon=n, mname=HPAgent, dname=software
```

ユーザー接続を実行します。

```
radskman context=u
```

— **context=u** で、他のパラメータは渡されていないので、次のデフォルト値が使用されます。

```
ip=NOVARCS, port=3464, uid=$user, startdir=$user,  
cat=prompt, ulogon=y, mname=HPAgent, dname=software
```

最後のユーザー接続後にマシン接続が発生しており、最後のユーザー接続から 12 時間以上経過している場合に限り、ユーザー接続を実行します。

```
radskman context=u,userfreq=12
```

配布方法

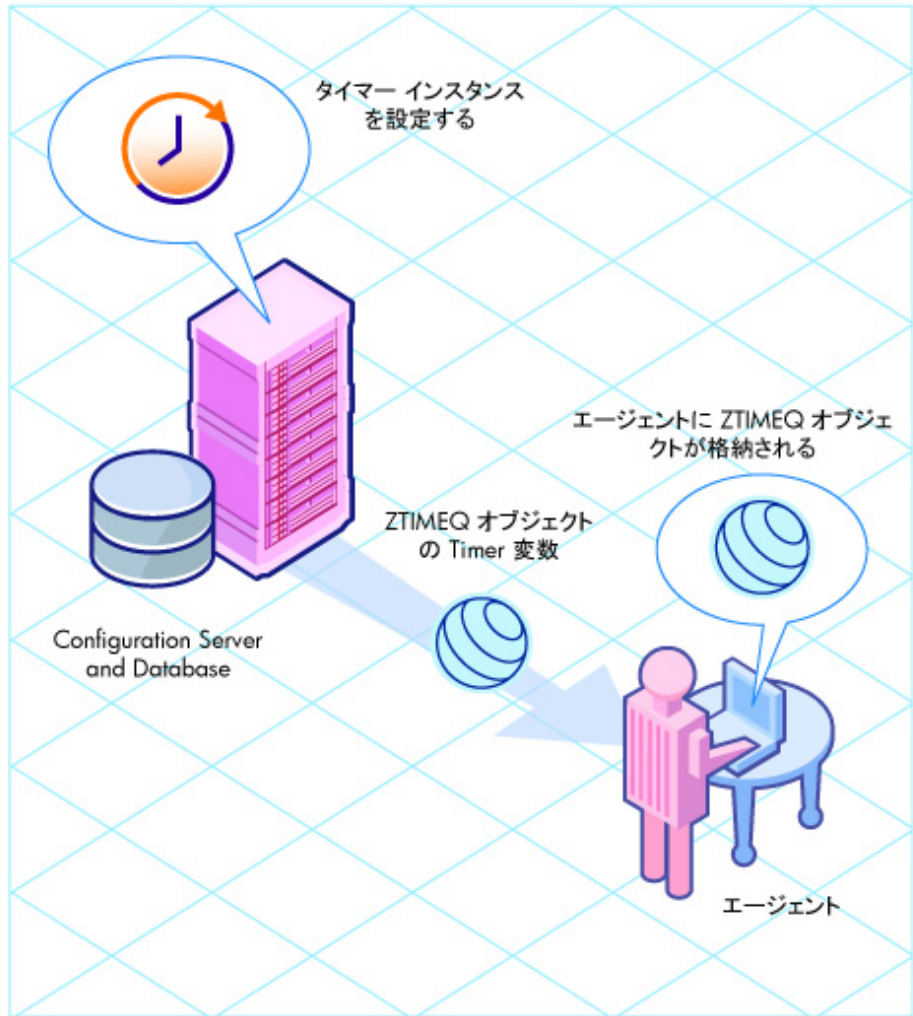
この章では、下記の [HPCA スケジューラ](#) (から開始) および 「[HPCA 通知](#)」 (184 ページから始まる) の配布方法について詳細を説明します。サービスの配布には複数の方法を使用できます。

HPCA スケジューラ

HPCA スケジューラ サービスの RADSCHEM は、HPCA agent コンピュータに **Application Manager** を使用してインストールされ、指定した時間にサービスを配布することができます。スケジューラは、自動的に起動するシステムサービスとして実行されます。

サービスの配布をスケジュールするには、**Configuration Server Database** にあるタイマーを設定します。HPCA agent コンピュータが **Configuration Server** に接続すると、HPCA agent コンピュータの **ZTIMEQ** オブジェクトにタイマー情報が転送されます。

図 6 タイマー インスタンスの転送



ここでは、タイマー インスタンスの作成方法、設定方法、およびサービスへの接続方法について説明します。タイマーを作成および設定する前に、以下の点を検討してください。

- タイマーの期限を何時に設定するか。必ずネットワークのトラフィックを考慮してください。
- タイマーの期限の頻度はどうするか。毎日か。毎月か。毎時か。

- タイマーには複数の期限が必要か。これは、アプリケーションを一度だけインストールするためのタイマーか、あるいは、必須アプリケーションの有無を定期的にチェックするタイマーか。
- タイマーが期限に達したときにどの処理を実行するか。アプリケーションを起動するか、インストールするか、削除するか、更新するか。

スケジュールによる配布戦略

Application Manager エージェントの実装戦略のうち、推奨できるものに、スケジュールによる配布という方法があります。この戦略では、**Application Manager** のインストール時に必須アプリケーションのセットをインストールし、新しい必須アプリケーションを定期的にチェックするタイマーを **HPCA agent** コンピュータに転送します。

次の演習に従って、すべての必須サービスを毎週更新するサンプル タイマーを作成します。このタイマーは、ネットワークの混雑を緩和するために、午後 5 時～午前 7 時の間にランダムに期限が到来します。このセクションの情報を使用して、各企業の **HPCA** 環境に合わせてタイマーを設定します。

タイマーを作成する

Admin CSDB Editor を使用して、**SOFTWARE** ドメインに **Scheduling (TIMER)** インスタンスを作成します。

SOFTWARE ドメインに TIMER インスタンスを作成するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor]** のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - ▶ 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。

この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。
- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **PRIMARY** ファイル、**SOFTWARE** ドメイン、**Scheduling (TIMER)** クラスに移動し、**TIMER** インスタンスを右クリックします。
- 4 **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。**[インスタンスの作成]** ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 タイマー インスタンスの名前（「**Mandatory Apps Timer**」など）を入力し、**[OK]** をクリックします。

Scheduling (TIMER) クラス属性

TIMER クラスの属性 (表 45 で説明) には、HPCA agent コンピュータ上でタイマーを実行するために必要な情報が含まれています。

表 45 Scheduling (TIMER) クラスの属性

属性	利用状況
<code>_ALWAYS_</code>	他のインスタンスへの接続を格納します。
NAME	現在のインスタンスの簡略名。
PINGDLAY	ZNOPING=N の場合、PINGDLAY は ping の間隔 (ミリ秒) を指定します。デフォルトは 2000 です。
PINGCNT	ZNOPING=N の場合、PINGCNT は ping の試行回数を指定します。デフォルトは 3 です。
RETRYINT	コマンドが再試行される間隔 (分) を指定します。 注意： RETRYFLG=N の場合は無視されます。
RETRYLMT	コマンドを再試行する回数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 0 に設定すると、コマンドが成功するまで再試行されます。 注意： RETRYFLG=N の場合は無視されます。
NETAVAIL	ネットワークを使用できるかどうか確認するために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Y を指定すると、TIMER インスタンスを実行する前に、ネットワークを使用できるかどうかチェックされます。ネットワークを使用できない場合は、使用できるようになるまで、タイマーが開始されるたびにネットワークがチェックされます。 ● N (デフォルト) を指定すると、ネットワークを使用できるかどうかチェックせずに、タイマー インスタンスが実行されます。 ● W を指定すると、TIMER インスタンスを実行する前に、ネットワークを使用できるかどうかチェックされます。ネットワークが使用できないまま、時間枠の期限に達した場合、タイマーは、次の時間枠まで待ってから、ネットワークが使用できるかどうかを再チェックします。
RETRYFLG	再試行アクティビティを指定するために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Y を指定すると、タイマーの終了時間を無視して、<code><RETRYLMT></code> の回数までコマンドが再試行されます。 ● W を指定すると、<code><RETRYLMT></code> の回数までコマンドを再試行できますが、期限を過ぎると再試行は中止されます。 ● N に設定すると、コマンドは再試行されません。 注意： 200 以外のリターン コードは成功と見なされ、コマンドの再試行は中止されます。

属性	利用状況
RETRYRC	<p>再試行ロジックに適切に対応するリターン コードを指定します。</p> <p>この変数が存在しない場合、またはこの変数に値が設定されていない場合、RETRYRC のデフォルトは 200 になります。リターンコード 200 は、Configuration Server とのネットワーク接続が失敗したために致命的なエラーが発生したことを示します。この属性を設定しており、リターン コード 200 が再試行の対象となっている場合は、必ずリストに 200 を指定してください。</p> <p>例：RETRY=200, 202, 209</p>
ZNOPING	<p>この属性を使用すると、HPCA Agent コンピュータと Configuration Server との間のネットワーク接続の自動感知を制御することができます。デフォルトは Y です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y を指定すると、スケジューラ サービスが Configuration Server に対して ping を行わないようにできます。この設定は、モバイル ユーザーの場合に特に役立ちます。 • N を指定すると、スケジューラ サービスが Configuration Server に対して ping を行うようになります。 • ZCHDEF 属性に終了期限を指定する場合は、w を指定します。スケジューラは、Configuration Server に対して ping を実行してから、コマンドを実行します。Configuration Server を使用できない場合、ZPENDING フラグは W に設定されます。ZSCHDEF で期限を設定している場合は、その時刻を過ぎると、ZPENDING フラグが N に設定されます。次にスケジュールしている時刻になるまで、スケジューラはコマンドを実行しません。 <p>期限に達したタイマーは、Configuration Server との通信が確立できるかどうかを継続的に評価します。通信が確立されると、タイマーに関連付けられたコマンドラインが実行されます。コマンドラインを実行すると、スケジューラ サービスは、タイマーの期限に再び達したかどうかという通常の評価を再開します。</p> <p>この属性が ZTIMEQ オブジェクトに存在しない場合、スケジューラ サービスは Configuration Server に ping を行いません。</p> <p>Configuration Server に対する ping が成功した場合は、ZRSCCMDL で指定したコマンドが実行されます。また、HPCA Agent の ZTIMEQ オブジェクトにある ZPENDING 属性は N に設定されます。これは、Configuration Server に対してスケジューラ サービスが再び ping を実行する必要はないことを示します。</p> <p>Configuration Server に対する ping に失敗した場合、タイマーはそれ以上処理されません。また、ZPENDING 属性の値は Y のままです。これは、次にスケジューラ サービスが実行される場合、Configuration Server に対する ping が再び実行されることを示します。</p>

属性	利用状況
ZRSCCMDL	<p>タイマーが期限に達したときに HPCA Agent コンピュータで実行するコマンドラインを指定する場合は、この属性を使用します。</p> <p>RADSKMAN を使用して、HPCA 管理する必須アプリケーションを検証および更新します。パラメータのリストおよび例については、接続パラメータ (RADSKMAN) (157 ページ) を参照してください。</p>
ZSCHDEF	<p>この属性を使用すると、タイマーの期限を指定できます。この属性の構文は、頻度によって異なります。頻度は、DAILY、HOURLY、WEEKLY、MONTHLY、INTERVAL、MONTHDAY、NUMDAY、STARTUP、WEEKDAY、STARTUP のいずれかを指定します。</p> <p>ZSCHDEF の設定方法については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
ZSCHFREQ	<p>タイマーの期限の頻度を指定する場合は、この属性を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ONCE と指定すると、タイマーの期限が一度だけ到来します。 ● PERIODIC と指定すると、タイマーの期限が定期的に到来します。 ● RANDOM と指定すると、タイマーの期限がランダムに到来します。 <p>詳細については、指定した期間内の任意の時間帯にアプリケーションを配布する (179 ページ) を参照してください。</p>
ZSCHTYPE	<p>この属性は、ZSCHFREQ=PERIODIC の場合のみ有効です。有効な値は、IMMEDIATE と DEFERRED です。</p> <p>DEFERRED と指定すると、タイマー インスタンスがいつ評価されるかに関係なく、イベントは、初めて発生するときに次のスケジュール時刻まで延期されます。これは、オフピーク時間に行われるようスケジュールされているイベントが、ユーザーの作業中に開始されないように設計されています。</p> <p>例 1:</p> <p>ZSCHDEF=DAILY (&ZSYSDATE,04:00:00) というタイマーがあるとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ZSCHTYPE=IMMEDIATE の場合: <ul style="list-style-type: none"> — 現在時刻が午前 4:00 より前の場合、インスタンス内のコマンドはその日の午前 4:00 に実行されます。 — 現在時刻が午前 4:00 を過ぎている場合、インスタンス内のコマンドはすぐに実行されます。 ● ZSCHTYPE=DEFERRED の場合: <ul style="list-style-type: none"> — 現在時刻が午前 4:00 より前の場合、インスタンス内のコマンドはその日の午前 4:00 に実行されます。 — 現在時刻が午前 4:00 を過ぎている場合、インスタンス内のコマンドは翌日の午前 4:00 に実行されます。

属性	利用状況
	<p>例 2: ZSCHDEF=WEEKDAY (FRIDAY, 04:00:00) というタイマーがあるとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ZSCHTYPE=IMMEDIATE の場合: <ul style="list-style-type: none"> — 現在、金曜日ではないか、金曜日の午前 4:00 より前の場合、インスタンス内のコマンドは金曜日の午前 4:00 に実行されます。 — 現在時刻が金曜日の午前 4:00 を過ぎている場合、インスタンス内のコマンドはすぐに実行されます。 ● ZSCHTYPE=DEFERRED の場合: <ul style="list-style-type: none"> — 現在金曜日ではない場合、インスタンス内のコマンドは次の金曜日の午前 4:00 に実行されます。 — 現在時刻が金曜日の午前 4:00 より前の場合、インスタンス内のコマンドは 1 週間延期され、翌週の金曜日の午前 4:00 に実行されます。 — 現在時刻が金曜日の午前 4:00 を過ぎている場合、インスタンス内のコマンドは翌週金曜日の午前 4:00 に実行されます。
ZSTOP	<p>ZSTOP 属性で式が「true」と評価されると、インスタンスの解決がスキップされます。空白のままの場合、インスタンスは許可され、解決が続行されます。これは、タイマーを受信するサブスクリイバについての条件を設定する場合に便利です。</p>
<p>以下の属性の値は、TIMER クラスの _BASE_INSTANCE_ から継承されるため、編集はできません。</p>	
RUNSYNC	<p>タイマーの同期実行が発生するかどうかを指定します。デフォルト値はYです。</p>
ZOBJPRI	<p>HPCA Agent 接続時に配布されるその他の要素に対する、ZTIMEQ オブジェクトの配布優先度です。値 90 は _BASE_INSTANCE_ から継承されます。 注意：この値よりも優先度の数値が低い要素は、この ZTIMEQ オブジェクトの前に配布されます。</p>
ZSCHMODE	<p>この属性は、Application Self-service Manager に特有で、ZTIMEQ インスタンスが実行される際に使用されます。この Default という値は変更しないでください。</p>
ZSVCOID	<p>現在の Scheduling インスタンスの接続先となる Application インスタンスのオブジェクト ID。</p>
ZCHNNAME	<p>現在の Scheduling インスタンスの接続先となる Application インスタンスを含む Configuration Server Database ドメイン。</p>

属性	利用状況
ZPRVNAME	このタイマー インスタンスを受信しているサブスクライバの接続先となる Configuration Server の名前。 値は <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されます。
ZCREATE	HPCA agent コンピュータで実行されるスケジューラの「作成」メソッドです。 値は <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されます。
ZVERIFY	HPCA agent コンピュータで実行されるスケジューラの「検証」メソッドです。 値は <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されます。
ZUPDATE	HPCA agent コンピュータで実行されるスケジューラの「更新」メソッドです。 値は <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されます。
ZDELETE	HPCA agent コンピュータで実行されるスケジューラの「削除」メソッドです。 値は <code>_BASE_INSTANCE_</code> から継承されます。

タイマーを設定する

ここでは、**TIMER** インスタンスの属性を設定するために使用する構文について説明します。それに続く「指定した期間内の任意の時間帯にアプリケーションを配布する」は、オフピーク時間に必須アプリケーションを配布するために **TIMER** インスタンスを設定する方法を示すサンプルです。

タイマーの期限を指定する (ZSCHDEF)

ZSCHDEF 属性および **ZSCHFREQ** 属性を使用して、タイマーの期限がいつ、どれくらいの頻度で到来するのかを指定します。

- **ZSCHDEF** は、タイマーの期限を指定します。
- **ZSCHFREQ** は、タイマーの期限の頻度を指定します。

ZSCHFREQ 属性の構文は、**ZSCHDEF** 属性の設定に影響を与えます。表 46 (176 ページ) で、**ZSCHDEF** の適切な構文を確認できます。**ZSCHDEF** 属性を設定する前に、構文の書式に関する次の注意事項を確認してください。

- **WEEKDAY** の値は必ず大文字にします。**MONDAY**、**TUESDAY**、**WEDNESDAY**、**THURSDAY**、**FRIDAY**、**SATURDAY**、**SUNDAY** という曜日のみが許可されます。
- **ZSCHDEF** 属性のすべての構文で、**time** の値は必ず 24 時間単位で **HH:MM:SS** 形式で表現します。有効な値は **00:00:00** ~ **23:59:59** です。

- **ZSCHDEF** 属性のすべての構文で、**date** の値は必ず **YYYYMMDD** 形式で表現します。

制限時間パラメータ

limit time パラメータを使用して時間を指定すると、それ以降はコマンドが実行されなくなります。たとえば、

```
DAILY (20070707,18:00:00[,20:00:00])
```

上のコマンドは、2007年7月7日の午後6時～午後8時の任意の時間に実行されますが、午後8時以降は実行されません。したがって、この時間帯にターゲットマシンの電源が起動していない（または、スケジューラが実行されていない）場合、コマンドは実行されません。このコマンドは、次の「午後6時～午後8時」に再スケジュールされます。つまり、これは「毎日」のコマンドなので、翌日の2007年7月8日に実行されます。

ZSCHFREQ=RANDOM

ZSCHFREQ=RANDOM と指定されている *time* パラメータは、*start time* と *end time* という2つのパラメータに置き換えられます。

limit time パラメータを、*end time* のインジケータとして使用しないでください。これらの機能は異なるため、混同すると、**ZSCHDEF** コマンドが正しく機能しません。

ZSCHFREQ=RANDOM および *limit time* パラメータが指定されていない場合：
end time パラメータは日付をまたぐことができます（翌日にできます）。例

```
DAILY (20070707,20:00:00,06:00:00) および
```

```
NUMDAYS (20070707,20:00:00,06:00:00, ,14)
```

これらのコマンドは、2007年7月7日午後8時～2007年7月8日午前6時の間の任意の時間に実行されます。いずれのコマンドにも *limit time* パラメータが指定されていませんが、**NUMDAYS** では有効な引数として3つ目のカンマが必要になり、**DAILY** では必要ありません。

ZSCHFREQ=RANDOM および *limit time* パラメータが指定されている場合：
end time パラメータは日付をまたぐことができません。日付をまたぐように設定すると、**RADTIMEQ** 作成メソッドのログに警告が記録され、*start time* が深夜(00:00:00)に設定されます。

表 46 ZSCHDEF 属性の構文

属性	説明
HOURLY	<p>タイマーは 1 時間ごとに期限が到来し実行されます。システムの日付に基づき、指定した時間から指定した制限時間までの間に、任意のタイミングで起動します。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=HOURLY (&ZSYSDATE,04:30:00)</code></p> <p>注意：<code>ZSCHFREQ=RANDOM</code> の場合、<code>start time</code> パラメータと <code>end time</code> パラメータはアクティブになります。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,start time,end time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=HOURLY (&ZSYSDATE,04:30:00,09:00:00)</code></p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
DAILY	<p>タイマーは、システムの日付に基づき、毎日指定した時間に期限が来て (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=DAILY (&ZSYSDATE,12:00:00)</code></p> <p>注意：<code>ZSCHFREQ=RANDOM</code> の場合、<code>start time</code> パラメータと <code>end time</code> パラメータはアクティブになります。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,start time,end time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=DAILY (&ZSYSDATE,12:00:00,14:00:00,18:00:00)</code></p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
WEEKLY	<p>タイマーは、システムの日付に基づき、指定した時間に 7 日ごとに期限が来て (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=WEEKLY (&ZSYSDATE,08:00:00)</code></p> <p>注意：<code>ZSCHFREQ=RANDOM</code> の場合、<code>start time</code> パラメータと <code>end time</code> パラメータはアクティブになります。</p> <p>構文：<code>&SYSDATE,start time,end time[,limit time]</code> 例：<code>ZSCHDEF=WEEKLY (&ZSYSDATE,08:00:00,12:00:00,14:00:00)</code></p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>

属性	説明
INTERVAL	<p>タイマーは、システムの日付に基づき、指定した時間以降 n 分周期で期限が到来し (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文 : <code>&SYSDATE, time, [limit time], interval</code></p> <p>例 : <code>ZSCHDEF=INTERVAL (&ZSYSDATE, 04:00:00, 06:00:00, 30)</code></p> <p>注意 : INTERVAL は分単位で指定する必要があります。</p> <p>3 つ目の引数を指定するかどうかを問わず、3 つ目のカンマが必要になります。</p> <p>ZSCHFREQ=RANDOM の場合、time パラメータは <i>start time</i> と <i>end time</i> という 2 つのパラメータに置き換えられます。</p> <p>構文 : <code>&SYSDATE, start time, end time, [limit time], interval</code></p> <p>例 : <code>ZSCHDEF=INTERVAL (&ZSYSDATE, 04:00:00, 23:00:00, 06:00:00, 30)</code></p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
WEEKDAY	<p>タイマーは、毎週指定した曜日の指定した時間に期限が到来し (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文 : <code>WEEKDAY, time[, limit time]</code></p> <p>例 : <code>ZSCHDEF=WEEKDAY (TUESDAY, 01:00:00)</code></p> <p>注意 : ZSCHFREQ=RANDOM の場合、time パラメータは <i>start time</i> と <i>end time</i> という 2 つのパラメータに置き換えられます。</p> <p>構文 : <code>WEEKDAY, start time, end time[, limit time]</code></p> <p>例 : <code>ZSCHDEF=INTERVAL (TUESDAY, 04:00:00, 06:00:00, 10:00:00)</code></p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
MONTHDAY	<p>タイマーは、4 つ目のパラメータに指定した番号 (月の週番号) の週の、指定した曜日の指定した時間に期限が到来し (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文 : <code>WEEKDAY, time, [limit time], week of the month</code></p> <p>例 : <code>ZSCHDEF=MONTHDAY (TUESDAY, 01:00:00, , 2)</code></p> <p>注意 : 4 つ目のパラメータの有効な値は 1~5 です。この引数を指定しなければ、タイマーは月の第 1 週に期限が来るようになります。</p> <p>3 つ目の引数を指定するかどうかを問わず、3 つ目のカンマが必要になります。</p>

属性	説明
	<p>ZSCHFREQ=RANDOM の場合、time パラメータは <i>start time</i> と <i>end time</i> という 2 つのパラメータに置き換えられます。</p> <p>構文: <i>WEEKDAY, start time, end time, [limit time], week of the month</i></p> <p>例: ZSCHDEF=MONTHDAY (TUESDAY, 01:00:00, 04:00:00, , 2)</p> <p>重要な注意:日付をまたいで (つまり翌日になるように) <i>end time</i> を指定した場合の結果について、十分考慮してください。詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
MONTHLY	<p>タイマーは、指定した月および年から始まり、毎月指定した日付の指定した時間に期限が到来し (指定した制限時間までに) 実行されます。</p> <p>構文: <i>date, time[, limit time]</i></p> <p>例: ZSCHDEF=MONTHLY (20040215, 01:00:00, 05:30:00)</p> <p>注意: ZSCHFREQ=RANDOM の場合、time パラメータは <i>start time</i> と <i>end time</i> という 2 つのパラメータに置き換えられます。詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p> <p>構文: <i>date, start time, end time[, limit time]</i></p> <p>例: ZSCHDEF=MONTHLY (20040215, 01:00:00, 05:30:00, 07:00:00)</p> <p>重要な注意:この属性は、他の ZSCHDEF 属性とは違う方法で再スケジュールされます。つまり、最終的に実行された日付に基づいて日にちを調整するのではなく、最初にスケジュールされた月を調整します (日にちは変わりません)。</p> <p>たとえば、ZSCHDEF=MONTHLY (20040116, 05:30:00) と設定されており、HPCA Agent デバイスが 1 月 16 日にオフになっており、1 月 18 日までタイマーが実行されなかった場合を考えます。新しいスケジュールは、o MONTHLY (20040216, 05:30:00) ではなく、MONTHLY (20040218, 05:30:00) に自動調整されます。</p>
NUMDAYS	<p>タイマーは、指定した時間に期限が到来し (指定した制限時間までに) 実行され、その後 <i>n</i> 日ごとに繰り返されます。</p> <p>構文: <i>date, time, [limit time], number of days</i></p> <p>例: ZSCHDEF=NUMDAYS (20040803, 18:00:00, 21:30:00, 14)</p> <p>注意:3 つ目の引数を指定するかどうかを問わず、3 つ目のカンマが必要になります。</p>

属性	説明
	<p>ZSCHFREQ=RANDOM の場合、<i>time</i> パラメータは <i>start time</i> と <i>end time</i> という 2 つのパラメータに置き換えられます。</p> <p>構文: <i>date, start time, end time, [limit time], number of days</i></p> <p>例: ZSCHDEF=NUMDAYS (20040803, 18:00:00, 21:30:00, 22:00:00, 14)</p> <p>詳細については、タイマーの期限を指定する (174 ページ) を参照してください。</p>
STARTUP	<p>HPCA Agent デバイスでスケジューラが起動すると、ZSCHDEF=STARTUP と指定されているすべてのタイマー インスタンスがすぐに実行されます。</p> <p>NETAVAIL、ZNOPING、および RETRYFLG などの特殊な条件がチェックされます。</p> <p>すべての STARTUP インスタンスを実行すると、RADSCHEID は通常のタイマー ループに戻ります。通常のタイマー ループで STARTUP インスタンスが実行されるのは、(NETAVAIL または ZNOPING に失敗したか、RETRYFLAG がオンになっており、起動時の実行でリターン コードが 200 だったために) STARTUP インスタンスで ZPENDING フラグが設定されている場合のみです。</p>

指定した期間内の任意の時間帯にアプリケーションを配布する

アプリケーションを一定期間内に配布して、**Configuration Server** の負荷を分散したり、ネットワークの混雑を緩和したりすることができます。

そのためには、タイマーの期限がランダムに到来するように設定し、アプリケーションを配布する時間範囲を **ZSCHDEF** に指定します。期間のオプションについては、[表 46 \(176 ページ\)](#) から始まるで説明しています。

次の例では、必須アプリケーションを毎週配布するようにタイマーを設定します。ネットワークの混雑を緩和するために、午後 5 時から午後 7 時までの間に配布が実行されるようにスケジュールします。

タイマーの期限を指定するには

- 1 **Admin CSDB Editor** でタイマー インスタンスを表示し、**[ZSCHFREQ]** をダブルクリックします。[インスタンス編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 **[Frequency]** ボックスの一覧から、**[RANDOM]** をクリックします。
- 3 **[ZSCHDEF]** をクリックします。
- 4 **[Timer Parameter]** テキスト ボックスで、「**WEEKLY (&ZSYSDATE, 17:00:00, 19:00:00)**」と入力します。

- 5 **[ZSCHTYPE]** をクリックします。
- 6 **[Type (Immediate/Deferred)]** ボックスの一覧から、**[IMMEDIATE]** をクリックします。
- 7 タイマー インスタンスの属性の編集を完了したら**[OK]** をクリックし、変更を確認するメッセージが表示されたら **[はい]** をクリックします。
または
別の属性を編集用に選択します。

コマンド ラインを指定する (ZRSCCMDL)

タイマーが期限に達すると、指定したすべてのコマンド ラインが HPCA agent コンピュータで実行されます。

- ▶ タイマーの動作を確認したい場合、*SystemDrive:\Notepad.exe* などのコマンド ラインを実行するタイマーを作成します。
すぐに期限に達するようにタイマーを設定し、サービスにアタッチします。続いて、サービスを配布します。HPCA agent コンピュータでタイマーが期限に達すると、メモ帳アプリケーションが起動します。

コマンド ラインを指定するには

- 1 **Admin CSDB Editor** でタイマー インスタンスを表示し、**[ZRSCCMDL]** をダブルクリックします。**[インスタンス編集] ダイアログ** ボックスが表示されます。
- 2 **[実行するコマンド ライン]** テキスト ボックスに、プログラムを実行する適切なコマンドラインを入力します。
- 3 **[OK]** をクリックし、次に **[はい]** をクリックして変更を確認します。

このセクションの冒頭で、新しい必須アプリケーションを毎週配布すると記述しました。次の手順では、すべての必須サービスを更新し、セルフ メンテナンスを実行するコマンドラインを指定する方法を説明します。

タイマーをサービスに接続する

タイマーを作成したら、それをサービスに接続する必要があります。タイマーが接続されているサービスを受信した各サブスクリバは、**HPCA Agent** が次に **Configuration Server** に接続したときに **ZTIMEQ** オブジェクトのタイマー情報を受信します。

このセクションの例では、必須アプリケーションを配布するタイマーを作成しました。次に、このタイマーをサービスに接続します。すべてのサブスクリバがこのサービスを受信することを前提としています。



以下の例では、「ProDraw」という名前のサービスがあると仮定します。会社のデータベースのサービスでも、手順は同じです。

タイマーをサービスに接続するには

- 1 Admin CSDB Editor で、**PRIMARY** ファイルの **SOFTWARE** ドメインに移動し、**Application (ZSERVICE)** クラスで [ProDraw] を右クリックします。
- 2 表示されたメニューで、**[接続を表示]** をクリックします。
[SOFTWARE.ZSERVICE 接続] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 **[Scheduling (TIMER)]** を選択し、**[OK]** をクリックします。リスト ビューに **TIMER** クラスのインスタンスが表示されます。
- 4 リスト ビューで **[Mandatory Apps Timer]** をクリックし、ProDraw にドラッグします。カーソルがクリップの形になったらマウス ボタンを離します。
[接続属性の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[コピー]** をクリックします。
- 6 ProDraw サービスを [Mandatory Apps Timer] に接続するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。
- 7 **[OK]** をクリックして確認メッセージを閉じます。

タイマーの配布をテストする

タイマーの作成後に HPCA agent コンピュータを Configuration Server に初めて接続すると、HPCA agent コンピュータの ZTIMEQ オブジェクトである ZTIMEQ.EDM にタイマー情報が転送されます。

次の演習では、HPCA agent コンピュータを Configuration Server に強制的に接続させ、ZTIMEQ オブジェクトを参照します。

HPCA Configuration Server に接続するには

- 1 HPCA agent コンピュータのコマンド プロンプトで、ディレクトリを **RADSKMAN** のロケーションに変更します (デフォルトで、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent)。
- 2 「**radskman ip=<マネージャの IP>,port=<マネージャのポート>**」と入力します。Configuration Server の有効な IP アドレスとポートを指定してください。



RADSKMAN および上記のパラメータの詳細については、[接続パラメータ \(RADSKMAN\)](#) (157 ページ) を参照してください。

- 3 **[Enter]** キーを押します。

HPCA Agent 接続が完了したら、次のセクションの手順に従って HPCA agent コンピュータの ZTIMEQ オブジェクトを参照できます。



さらにテストを行う場合は、コマンドラインを記述したバッチ ファイルの作成を検討してください。ファイルを HPCA agent コンピュータ上の IDMSYS (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent) に保存します。続いて、HPCA agent コンピュータのデスクトップにショートカットを作成します。

タイマー オブジェクトを削除する

タイマーが期限に達すると、次回の Configuration Server への接続中に ZTIMEQ オブジェクトが HPCA agent コンピュータから削除されます。これは TIMER.ZSCHFREQ 属性の期限設定に応じて異なります。

- タイマーの期限が一度だけ来るように設定した場合、次の Configuration Server への HPCA Agent の接続中にタイマーが期限に達するとすぐに ZTIMEQ オブジェクトが削除されます。
- タイマーの期限が複数回来るように設定した場合、次の Configuration Server への HPCA Agent の接続中にタイマーが最後の期限に達すると ZTIMEQ オブジェクトが削除されます。

タイマー オブジェクトを表示する

HPCA Agent を Configuration Server に強制的に接続して ZTIMEQ オブジェクトを取得すると、HPCA Administrator の一部としてインストールされた Admin Agent Explorer からこのオブジェクトを表示 (または編集) できます。

ZTIMEQ オブジェクトは、Configuration Server Database の Scheduling (TIMER) インスタンスごとに 1 つのインスタンスを格納します。そのため、2 つのサービスにそれぞれタイマー インスタンスが関連付けられている場合、ZTIMEQ オブジェクトには 2 つのインスタンスがあります。

HPCA agent コンピュータの ZTIMEQ オブジェクトを参照するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、Admin Agent Explorer を起動します。
- 2 **[ZTIMEQ]** オブジェクトをダブルクリックします。ZTIMEQ オブジェクトが表示されます。

The screenshot shows a window titled "ZTIMEQ (1) - [C:\Program Files\Novadigm\Lib] [6160] [7/8/2004]". The window contains a table with columns "Variable", "Length", and "1 of 1". The table lists various configuration variables and their corresponding values.

Variable	Length	1 of 1
APPSVC	000	
DOMAIN	008	SOFTWARE
IPADDR	011	10.10.10.15
MGRNAME	005	RADIA
NAME	020	Mandatory Apps Timer
PINGCNT	001	3
PINGDLAY	004	2000
REQUEST	015	"Apply Updates"
RUNSYNC	001	Y
SOCKET	004	3464
ZCHNNAME	008	SOFTWARE
ZCREATE	008	radtimeq
ZDELETE	008	radtimeq
ZMODE	006	CREATE
ZNOPING	001	Y
ZOBJCID	012	D0017C0C9251
ZOBJCLAS	005	TIMER
ZOBJCRC	008	00000000
ZOBJDATE	008	20040708
ZOBJDOMN	008	SOFTWARE
ZOBJJID	012	D123CE2BCFFA
ZOBJNAME	018	MANDATORYAPPSTIMER
ZOBJPCLS	008	ZSERVICE
ZOBJPID	012	D0012E9CE805
ZOBJPRI	002	90
ZOBJRCRC	008	FFFFFFFF
-----	---	-----

At the bottom of the window, there are navigation buttons "<<" and ">>" and a "Save/Exit" button.

ZTIMEQ オブジェクトの変数を変更する方法は、次のセクションを参照してください。

タイマーの動作を実験する

タイマーの動作を実験する場合、HPCA agent コンピュータにある ZTIMEQ オブジェクトの ZRSCCMDL、ZSCHDEF、ZSCHFREQ、および ZSCHTYPE 変数を変更すると、さまざまな状況で何が起こるかを確認できます。

ZTIMEQ の変数を編集するには

- 1 編集する変数をダブルクリックします。[変数の変更] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 新しい値を入力します。
- 3 **[保存/終了]** をクリックします。

タイマーが期限に達するかどうかを簡単に判別するには、メモ帳のような任意の実行可能ファイルを実行するように ZRSCCMDL を変更します。タイマーが期限に達するとメモ帳が起動するので、タイマーが期限に達したことを確認できます。

タイマー ログ

タイマー イベントは、IDMLOG ディレクトリ (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Log) に格納されている **RADSCHEM.LOG**、**RADSHIST.LOG**、**RADTIMEQ.LOG** という 3 つのログで追跡されます。

下記の表 47 では、各タイマー ログについて説明します。

表 47 タイマー ログ

ログ ファイル	説明
RADSCHEM.LOG	スケジューラが最後に期限に達したときの結果を記録します。 スケジューラである RADSCHEM はバックグラウンドで実行されます。これは、1 分に 1 回実行され、 ZTIMEQ オブジェクトを検証して、タイマーが期限に達したかどうかを確認します。 このログは、最新の期限の情報のみを保持します。
RADSHIST.LOG	タイマー インスタンスが期限に達したためにディスパッチされたすべてのプログラムを記録します。 RADSCHEM を最後に開始してから実行されたすべてのアクティビティが保持されます。
RADTIMEQ.LOG	RADTIMEQ メソッドが最後に実行されたときに発生したイベントを記録します。 RADTIMEQ は、タイマーがアタッチされるアプリケーションが作成、更新、検証、または削除されると実行されます。アプリケーションに関連して行われたアクティビティと共に、最後の実行でのイベントのみがログに記録されます。

HPCA 通知

HPCA 通知を使用すると、1 つまたは複数の HPCA agent コンピュータを Configuration Server に強制的に接続し、アプリケーションのインストール、更新、または削除できます。

HPCA 通知サービスは各 HPCA agent コンピュータ上でバックグラウンド実行され、Configuration Server からの通知メッセージを待機します。メッセージが受信されると、HPCA agent コンピュータは Configuration Server に接続し、通知処理によって指示されたアクションを実行します。


HPCA 通知では、HPCA agent コンピュータに電子メール通知を送信することもできます。

通知は、以下のいずれかの方法で開始できます。

- Application 9ZSERVICE) インスタンスのショートカット メニューで **[サブ スクライバに通知]** を選択する。この方法は、アプリケーションの更新また

は削除の場合にのみ使用します。通知対象は既存のサブスクリバなので、このような通知はアプリケーションのインストールでは使用できません。

- ドラッグ アンド ドロップ通知コマンドを作成する。この方法は、アプリケーションのインストール、更新または削除の場合に使用できます。このような通知には、アプリケーションを **HPCA agent** コンピュータにインストールしていない場合でも通知を実行できるという利点があります。

 ドラッグ アンド ドロップ通知は、**Configuration Server** が 1 つしかない環境のための機能です。複数の **Configuration Server** が動いている環境では、**Portal** の使用を検討してください。

通知を使用する際の要件

通知を使用するには

- 通知の前に、**HPCA agent** コンピュータを **Configuration Server** に接続する必要があります。これにより、**HPCA agent** コンピュータのネットワークアドレスを格納する **PROFILE** ファイルに情報が記録され、通知に使用されます。

 通知機能では、**CSDB** の **PROFILE** ファイルに情報が格納されているサブスクリバにのみ通知を行います。

- **Configuration Server** 設定ファイルである `edmprof.dat` に **Configuration Server** 通知タスク (**znfytmgr**) が、下のように適切に設定されているか確認します。**Configuration Server** のストール時に、`edmprof` ファイルとこれらの行が作成されます。

```
[MGR_ATTACH_LIST]
ATTACH_LIST_SLOTS = 15
RESTART_LIMIT = 7
VERIFY_INTERVAL = 5
CMD_LINE=(zutilmgr) RESTART=YES
CMD_LINE=(zrexmgr) RESTART=YES
CMD_LINE=(ztcpmgr PORT=3464,NAME=tcpmgr_3464) RESTART=YES
CMD_LINE=(znfytmgr NAME=NotifyManager) RESTART=YES
CMD_LINE=(zrtrymgr) RESTART=YES
```

- ドラッグ アンド ドロップ通知でコマンドを実行する場合、実行するプログラムを **IDMSYS** ディレクトリ (デフォルトでは、`C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent`) に格納します。
- サブスクリバへの通知に電子メールを使用する場合、**POLICY** ドメイン内の **USER** クラスの **USER** インスタンスの **EMAIL** 属性に、サブスクリバの正しい電子メールアドレスが格納されていることを確認してください。

- サブスクライバへの通知に電子メールを使用する場合、**Configuration Server** が電子メールを処理できるよう適切に設定されている必要があります。

ZSERVICE インスタンスから通知を開始する

サービスを更新または削除する場合は、**Application (ZSERVICE)** インスタンスのショートカットメニューで通知を開始します。

通知機能では、**オーディエンス** リスト内の **HPCA agent** コンピュータと通信します。**HPCA** がエージェント コンピュータにアプリケーションをインストールすると、その **HPCA agent** コンピュータがオーディエンス リストに追加されます。

ZSERVICE インスタンスから通知を開始するには

- 1 **[ProDraw]** などの **Application (ZSERVICE)** インスタンスを右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
- 2 **[サブスクライバに通知]** をクリックします。
通知によって、**POLICY** ドメインからサブスクライバのリストが取得されます。
 - アプリケーションにサブスクライバが存在しない場合は、警告メッセージが表示されます。
 - 選択したアプリケーションにサブスクライバが存在しない場合は、オーディエンス リストを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3 オーディエンス リストを作成する場合は、**[はい]** をクリックします。**HPCA Notify Manager** が表示されます。
アプリケーションのサブスクライバのリストが、**[オーディエンス リストの詳細]** 領域に表示されます。
 - デフォルトでは、すべてのオーディエンスに通知されます。
 - 個々のサブスクライバを選択するには、**[すべて削除]** をクリックします。次に、適切なサブスクライバを選択して、**[選択]** をクリックします。
 - 個々のサブスクライバを削除するには、適切なサブスクライバを選択して、**[削除]** をクリックします。オーディエンス リスト内の **HPCA agent** コンピュータの合計数と、選択されている **HPCA agent** コンピュータの数が、**ダイアログ** ボックスの下部に表示されます。
- 4 **HPCA agent** コンピュータを選択したら、**[次へ]** をクリックします。
- 5 **[通知タイプ]** をクリックして、オーディエンス リストのすべてのメンバーに対する通知タイプを選択します。
 - **[電子メールの送信]**
アプリケーションの状態をサブスクライバに通知するには、このオプションを選択します。

ユーザー インスタンスにあるサブスクライバの電子メール属性 (EMAIL) には、有効なエントリが格納されている必要があります。[件名] ボックスおよび [メッセージ] ボックスには必ず情報を入力してください。

— **[ターゲット マシンのアプリケーションを更新します]**

アプリケーションの更新または新規バージョンを HPCA agent コンピュータにインストールするには、このオプションを選択します。

— **[ターゲット マシンからアプリケーションを削除します]**

指定した HPCA agent コンピュータからアプリケーションを削除するには、このオプションを選択します。

通知機能では通常、アプリケーションを削除する際に HPCA Agent の許可を要求しません。そのため、無人の HPCA agent コンピュータからでもアプリケーションを削除できます。

アプリケーションの削除にサブスクライバの許可が必要な場合は、**[クライアントでの削除を要求]** チェック ボックスをオンにします。

- 6 **[次へ]** をクリックして続行します。[通知の詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。

デフォルトでは、通知がすぐに実行され、Configuration Server Database 内の NOTIFY ファイルにオブジェクトが生成されます。オブジェクト名は、通知アクションの日付と時刻に基づいて YYYY_MM_DD_HH_MM_SS という形式で作成されます。

このダイアログ ボックスを使用すると、オブジェクトを格納したり、別の日付や時刻まで通知アクションを延期したりするカスタム ドメインを作成することができます。

— **[カスタム通知ドメインを使用]** をオンにして、CSDB の NOTIFY ファイルに格納される新しいドメインに名前を入力する。

— 通知をスケジュールする場合は、**[延期された通知]** をオンにして [時間 (hh/mm)] ドロップダウンリストとカレンダー コントロールを使用します。

- 7 **[次へ]** をクリックします。[通知の要約] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 8 **[完了]** をクリックして通知を開始します。ステータス モニタを今すぐ起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 9 **[はい]** をクリックして、通知のステータスを表示します。ダイアログ ボックスが開き、サブスクライバ名と通知ステータスが表示されます。

- 10 **[リフレッシュ]** をクリックしてステータス モニタを更新します。

- 11 完了したら、**[閉じる]** をクリックします。

ドラッグ アンド ドロップ通知コマンドを作成する

ドラッグ アンド ドロップ通知コマンドを使用すると、1 人以上のサブスクライバに対して通知をすぐに開始することができます。このような通知には、アプリ

ケーションを **HPCA agent** コンピュータにインストールしていない場合でも通知を実行できるという利点があります。この通知機能を使用すると、ソフトウェアのインストールや必須サービスの更新に加え、**HPCA agent** コンピュータ上の実行可能ファイルを起動することもできます。

ドラッグ アンド ドロップ通知は、通知の前に **HPCA agent** コンピュータが **Configuration Server** に接続している場合にのみ有効です。これにより、**HPCA agent** コンピュータのネットワーク アドレスを格納する **PROFILE** ファイルに情報が記録されます。

- ▶ ドラッグ アンド ドロップ通知は、**Configuration Server** が 1 つしかない環境のための機能です。
複数の **Configuration Server** が動作している環境では、**Push Manager** の使用を検討してください。

次の例では、**HPCA agent** コンピュータのすべての必須サービスを更新するコマンドを作成します。

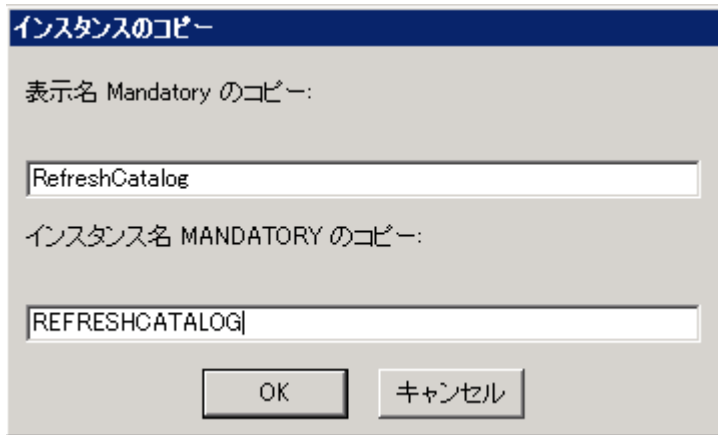
ドラッグ アンド ドロップ通知コマンドを作成するには

- ▶ ドラッグ アンド ドロップ通知でコマンドを実行するには、実行するプログラムを **IDMSYS** ディレクトリ (デフォルトでは、**C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent**) に格納する必要があります。

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。**[Admin CSDB Editor]** のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

- ▶ 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。
この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。

- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[Admin CSDB Editor]** ウィンドウが表示されます。
- 3 **Admin CSDB Editor** で、**PRIMARY** ファイル、**SYSTEM** ドメイン、**Application Manager (ZCOMMAND)** クラスに移動します。
- 4 **[必須]** インスタンスを右クリックし、**[インスタンスのコピー]** をクリックします。**[インスタンスのコピー]** ダイアログ ボックスが表示されます。



- 5 対応するテキストボックスに、「RefreshCatalog」のようなインスタンスの表示名とインスタンス名を入力し、**[OK]** をクリックします。ZCOMMAND クラスインスタンスの一覧に、**[RefreshCatalog]** インスタンスが表示されます。
- 6 ツリー ビューで、インスタンスをダブルクリックします。リスト ビューに属性が表示されます。
- 7 **[ZCMDPRMS]** 属性をダブルクリックします。[インスタンス編集] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 HPCA agent コンピュータで実行するコマンド ラインを入力します。次に例を示します。

```
radskman ip=mgr_ip,port=mgr_port
```

このコマンド ラインは、新旧すべての必須アプリケーションを更新またはインストールします。詳細については、[コマンド ラインを指定する \(180 ページ\)](#) を参照してください。

- 9 **[OK]** をクリックします。
- 10 変更を確認するメッセージが表示されたら **[はい]** をクリックします。
- 11 **[POLICY]** ドメインから **[User]**、**[Workgroup]**、または **[Department]** インスタンスを選択して、**[RefreshCatalog]** コマンドにドラッグします。
- 12 カーソルが指揮棒の形になったらマウス ボタンを離します。

指定したサブスクリプションに通知がすぐに送信され、ZCMDPRMS で指定したコマンド ラインが実行されます。

通知を再試行する

サブスライバへの通知に失敗した場合、以下のような原因が考えられます。

- **HPCA Agent** コンピュータの電源がオフである。
- **CSDB** にあるサブスライバの電子メール アドレスが間違っている。
- **HPCA agent** コンピュータで **CM** 通知サービスが実行されていない。
- **HPCA agent** コンピュータへのアクセスに、標準の通信チャネルを使用することができない。

通知に失敗すると、**NOTIFY** ファイルの **RETRY** ドメインにインスタンスが作成されます。**RETRY** ドメインは、通知が最初に失敗したときに作成されます。

デフォルトでは、**HPCA** によって通知が自動的に再試行されます。このためには、以下に抜粋した例のように **Notify Retry Manager (ZRTRYMGR** タスク) を設定して **Configuration Server** を起動します。この設定は、**Configuration Server** インストール ディレクトリの **bin** ディレクトリにある **Configuration Server** の設定ファイル **edmprof** で行います。

```
[MGR_ATTACH_LIST]
ATTACH_LIST_SLOTS = 15
RESTART_LIMIT = 7
VERIFY_INTERVAL = 5
CMD_LINE=(zutilmgr) RESTART=YES
CMD_LINE=(zrexmgr) RESTART=YES
CMD_LINE=(ztcpmgr PORT=3464,NAME=tcpmgr_3464) RESTART=YES
CMD_LINE=(znfytmgr NAME=NotifyManager) RESTART=YES
CMD_LINE=(zrtrymgr) RESTART=YES
```

▶ **edmprof** ファイルに変更を加えてから、**Configuration Server** サービスを再起動して変更を有効にします。

Configuration Server 設定ファイルの編集に関する詳細については、『**Configuration Server** ガイド』を参照してください。

デフォルトでは、**Notify Retry Manager** は 5 分間隔で **NOTIFY** ファイルの **RETRY** ドメインを検証します(上の **edmprof** ファイルの例で **VERIFY_INTERVAL** の値を確認してください)。**Notify Retry Manager** は、**RETRY** ドメインで検出したすべてのインスタンスに対して通知処理を試行します。

通知の結果を参照する

通知に関する情報は、以下のいずれかの方法で参照することができます。

- **Admin CSDB Editor** の **NOTIFY** ファイル。「**NOTIFY** ファイルのインスタンスを参照する」(191 ページから始まる)を参照してください。

- **Admin CSDB Editor** の **NOTIFY** ファイルからアクセスするステータス モニタ。「通知または再試行の結果をステータス モニタで参照する」 (193 ページから始まる) を参照してください。
- **Configuration Server** のログ。ログ ファイルは、**Configuration Server** の LOG ディレクトリ (デフォルトでは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ConfigurationServer\log) に格納されます。

NOTIFY ファイルのインスタンスを参照する

NOTIFY ファイルは、最初の通知が開始された後で **CSDB** に作成されます。通知処理のたびに、**NOTIFY** ファイル にオブジェクトが 1 つ作成されます。オブジェクト名は、通知処理の実行アクションの日付と時刻に基づいて **YYYY_MM_DD_HH_MM_SS** という形式で作成されます。各オブジェクトには、通知されたサブスクリバごとに 1 つのインスタンスがあります。各インスタンスには、サブスクリバおよび通知処理に関する重要な情報が格納されます。

NOTIFY ファイルのインスタンスを参照するには

- 1 **Admin CSDB Editor** で、**[通知]** をダブルクリックします。

複数のデフォルト **NOTIFY** オブジェクトがあります。オブジェクトには通知処理の実行アクションの日付と時刻に基づいて **YYYY_MM_DD_HH_MM_SS** 形式で名前が付けられます。

カスタム通知ドメイン **REDBOX** も **NOTIFY** オブジェクトです。ただし、この通知には、**[通知の詳細]** ダイアログ ボックスでカスタム ドメイン名が付けられています。

最後に、**RETRY** ドメインがあります。通知が最初に失敗すると、**RETRY** ドメインが作成され、その中にインスタンスが作成されます。

- 2 参照する通知オブジェクトをダブルクリックします。

- 3 **[通知]** をダブルクリックします。

NOTIFY ファイルは複数のドメインで構成され、それぞれが 1 つの通知処理を表します。ドメイン名は、通知処理が開始された日付と時刻を表す **YYYY_MM_DD_HH_MM_SS** という形式で作成されます。

NOTIFY ドメインごとに 1 つの **NOTIFY** クラスがあります。各 **NOTIFY** クラスには、通知対象のサブスクリバごとに 1 つのインスタンスが格納されます。インスタンス名は 8 桁の文字列で、**00000001** から順番に、通知されたサブスクリバ数までの値が付けられます。

各インスタンスには、そのサブスクリイバを識別する属性、通知処理のタイプ、通知処理の結果が格納されます。

4 リスト ビューで属性を参照します。

次の表では、Notify インスタンスの属性について説明します。

表 48 NOTIFY インスタンスの属性

属性	説明
ZUSERID	通知されたユーザー (USER)、ワークグループ (WORKGROUP)、または部門 (DEPT)。
ZCIPADDR	HPCA agent コンピュータの IP アドレス。
EMAIL	サブスクリイバの電子メールアドレス (電子メール通知を使用する場合)。
NTFYTYPE	通知のタイプ。たとえば、E の場合は電子メール通知を示します。
NTFYDATE	通知の日付。
NTFYTIME	通知の時刻。
NTFYMSG	「Succesfully notified」など、通知のステータスを示すメッセージ。
NTFYRC	通知用に生成されたリターン コード。
NTFYCMDL	通知によって実行されたコマンド ライン。
NTFYSUBJ	送信される電子メールの件名 (電子メール通知を使用する場合)。
LOCALUID	コンピュータに現在ログオンしているサブスクリイバのユーザー ID。
NTFYRTIM	通知を実行する時間。
NTFYRNUM	通知を再試行する回数。
NTFYDOMN	このインスタンスが格納されているドメインの名前。
NTFYINS	現在のインスタンスの名前。
NTFYPORT	通知用に登録されているポート。
NTFYPWD	通知で使用する暗号化されたパスワード。
NTFYUINF	通知マネージャから通知処理に渡されたユーザー情報。
NTFYRMAX	通知を再試行する最大回数。
NTFYDLAY	通知の再試行までに待機する秒数。

属性	説明
NTYFYMAC	HPCA agent コンピュータの物理アドレス。Wake-on-LAN で使用されます。
NTYFYMASK	ネットワーク マスク。Wake-on-LAN で使用されます。

通知または再試行の結果をステータス モニタで参照する

ステータス モニタを使用すると、すべてのサブスクリバの通知処理または再試行処理の結果を参照することができます。

通知または再試行のステータスを参照するには

- 1 Admin CSDB Editor で、**[通知]** をダブルクリックします。
- 2 ステータスを参照する通知ドメインまたは **[RETRY ドメイン]** を右クリックします。
- 3 **[ステータスを削除]** をクリックしてステータス情報を削除します。
または
[ステータスを表示] をクリックしてステータス モニタを表示します。
- 4 ステータスが変更された可能性がある場合は、**[リフレッシュ]** をクリックします。
または
[閉じる] をクリックしてステータス モニタを閉じます。

Wake-On-LAN クライアントに対するドラッグ アンド ドロップ通知

HPCA では、ウェイクアップ パケットを送出し、Wake-On-LAN (WOL) 用に設定されている HPCA agent コンピュータの電源をリモートでオンにすることができます。

Admin CSDB Editor を使用すると、ドラッグ アンド ドロップ通知 (DDN) の対象にする WOL エージェント コンピュータを簡単に設定することができます。

- ▶ Wake-On-LAN エージェントに対してドラッグ アンド ドロップ通知を実行するには、**Configuration Server** 設定ファイルに 2 つの設定を追加する必要があります。詳細については、『**Configuration Server ガイド**』を参照してください。

DDN を使用して HPCA Agent を割り当てる

ドラッグ アンド ドロップ機能は単純で使いやすく、WOL エージェントを簡単に DDN の対象にすることができます。Admin CSDB Editor を使用すると、通知インスタンスを USER、WRKGRP、DEPT、および SERVICE に接続できます。


ドラッグ アンド ドロップ機能を使用して WOL 通知用の HPCA Agent を割り当てるには、Admin CSDB Editor を使用します。Admin CSDB Editor にアクセスしたら、通知インスタンスを接続対象のインスタンスにドラッグ アンド ドロップするだけで接続を作成できます。ドラッグ アンド ドロップ接続を行う方法については、『HP Configuration Management Administrator ユーザー ガイド (Administrator ガイド)』を参照してください。

HPCA Admin CSDB Editor の手順の概要

エージェント コンピュータの MAC (メディア アクセス制御) アドレスおよびサブネット値は、PROFILE ファイルの ZCONFIG オブジェクトでレポートする必要があります (ZCONFIG オブジェクト内で、MAC アドレスは LADAPT01、サブネット値は SUBNET01 で示されます)。

ここでは、Admin CSDB Editor で CSDB にアクセスしたときに実行する手順を説明します。

WOL クライアントを DDN 用に設定するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、CSDB Editor を起動します。[Admin CSDB Editor のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。
この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、[新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。
- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[POLICY]** ドメインに移動します。
- 5 **[POLICY]** ドメイン内で、USER1 などの新しい **[USER]** インスタンスを作成します。
- 6 ユーザー ID 「USER1」で、Configuration Server への HPCA Agent 接続を実行します。

これにより、必要なエージェント情報がデータベースに格納されます。

- ▶ DDN を実行するには、Configuration Server の PROFILE ファイルで、ZCONFIG オブジェクトおよび ZMASTER オブジェクトに加えて、ユーザーが指定されている必要があります。

次に、[HARDWARE_SCAN] の値を検証する必要があります。

- 7 [PROFILE.USER1.ZCONFIG] の下の [HARDWARE_SCAN] オブジェクトを開き、[LADAPT01] 属性と [SUBNET01] 属性が存在するかどうかをチェックします。

- ▶ WOL 用 DDN を実行して現在のマシンを起動するには、HPCA Agent マシン (USER1) を終了する必要があります。

次に、Configuration Server Database にドラッグ アンド ドロップ通知用の新しいインスタンスを作成して設定します。

- 8 Admin CSDB Editor で、PRIMARY.SYSTEM.ZCOMMAND の下に新しいインスタンス (DDN_WOL など) を作成します。
- 9 以下のパラメータを指定します。

ZCMDPRMS: **radskman ip=manager_ip, port=mgr_port**
注意 : RADSKMAN の詳細については、「コマンドラインを指定する」(180 ページから始まる) を参照してください。

ZCMDTYPE: **EXE**

ZCMDNAME: **NOTIFY**

- 10 POLICY.USER1 インスタンスを ZCOMMAND.DDN_WOL インスタンスにドラッグ アンド ドロップして、POLICY.USER1 インスタンスを DDN 用に設定します。

これで、ドラッグ アンド ドロップ通知用に新しい WOL ユーザーが設定されました。

正常に設定されたかどうかを確認するには

HPCA Agent マシンでの確認手順


- 1 約 10 分待つてから HPCA Agent ログをチェックします。
- 2 C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Log にアクセスし、RADNTFYD.log をチェックして、以下のエントリの時刻を検証します。
各時刻は、通知を実行した時刻と一致しているはずです。

SyncObjFrmDisk	EDM009461	01.254	13:40:30	Total [0001] pools restored (v161)
EDMNTFYD	EDM000001	01.254	13:40:30	Password verification has not been requested
EDMNTFYD	EDM000001	01.254	13:40:30	Path restricted to EDMSYS subdirectory
EDMNTFYD	EDM000001	01.254	13:40:30	Userid verification has been disabled

```
Pooltab_replace   EDM009453 01.254 13:40:30 Pool [C:\PROGRAM~1\HEWLETT-PACKARD\HPCA\AGENT\
LIB\ZLOCAL.EDM] has [5] variables and [1] heaps of size [1024] each (v153)
Edm_ObjPtr_Save   EDM009443 01.254 13:40:30 Object [ZLOCAL  ] being saved (v143)
EDMNTFYD          EDM000001 01.254 13:40:30 UID:user1
EDMNTFYD          EDM000001 01.254 13:40:30 CMD:radskman mame=rad_manager,dname=software,
ip=208.244.231.61,port=3464,startdir=$machine,ulogon=n,hreboot=y
nvd_exec          EDM000512 01.254 13:40:30 Module Information:Rev 1.105 Oct 30 2000 11:18:08
nvd_exec          EDM000010 01.254 13:40:30 NVD_EXEC CALLED:Program [C:\PROGRA~1\HEWLETT-
PACKARD\HPCA\AGENT \radskman] PARAMETERS[mname=rad_manager,dname=software,
ip=208.244.231.61,port=3464,Zstartdir=$MACHINE,ulogon=n,hreboot=y]
EDMNTFYD          EDM000001 01.254 13:40:31 Closing socket #44

CloseLogFile      EDM000001 01.254 13:40:31 Closing log file on [Tues Sep 11 13:40:31 2001]
```

Configuration Server マシンでの確認手順

- 1 Admin CSDB Editor で、Notify ドメインを右クリックします。
- 2 **[リフレッシュ]** をクリックします。新しいファイル **NOTIFY** が作成されているかどうかを確認します。
 **NOTIFY** ファイルは、最初の通知イベントの発生時にのみ作成されます。
- 3 通知イベントを検証します。

8 HPCA Application Self-service Manager のユーザー インターフェイス

この章は以下を目的としています。

- **Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスをカスタマイズする方法を習得する。
- サブスクライバが **Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスにアクセスする方法、およびコンピュータ上でアプリケーションを管理 (インストール、更新、検証、削除) する権限をサブスクライバに与える方法を理解する。
- サブスクライバの視点から **Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスを使用できるようになる。

HPCA Application Self-service Manager のユーザーインターフェイス

ここでは、HPCA Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスへのアクセス方法および使用方法を説明します。

ユーザー インターフェイスにアクセスする

インストール内容に応じて、Windows の **[スタート]** メニューを使用するか、デスクトップにある **Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスのアイコンをダブルクリックして、ユーザー インターフェイスにアクセスします。

HPCA 管理者の機能

- HPCA 管理者は、**Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスにログオンしているユーザーに対して、セキュリティ（パスワード認証の形式）の設定および有効化を行うことができます。**EDMSIGN** および **EDMSIGNR** という、2 つの HP 特有のセキュリティ方式によって、**Configuration Server** がパスワード認証を使用するようにできます。HPCA 管理者は、**Admin CSDB Editor** の中でこれを規定します。詳細については、『**HP Client Automation Administrator ユーザー ガイド**』を参照してください。
- HPCA 管理者は、**CLIENT** ドメインにある **RADUICFG** クラスを使用して、**Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスの表示を管理できます。詳細については、[表 32 \(118 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザー インターフェイスにアクセスするには

- 1 **[スタート]** メニューに移動し、**Application Self-service Manager** を起動します。[サブスクライバのセキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力します。ユーザー ID とパスワードがわからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
- 3 **[OK]** をクリックします。ユーザー インターフェイスが表示されます。

ユーザー インターフェイスを使用する

Application Self-service Manager のユーザー インターフェイスは、主に 4 つのセクションで構成されています。

- **グローバル ツールバー**
カタログのリフレッシュや、現在のアクションの一時停止または取り消しができます。
- **サイドバー**
Application Self-Service Manager を使用するときにご利用可能なメニューの選択肢を表示します。
- **カタログ リスト**
使用できるさまざまなソフトウェア カタログの一覧が表示されます。
- **サービス リスト**
アクセスできるアプリケーションの一覧が表示されます。

グローバル ツールバー

グローバル ツールバーを使用すると、カタログをリフレッシュしたり、現在のアクションを停止またはキャンセルしたりすることができます。アクションを一時停止すると、**【一時停止】** ボタンを再度クリックして) アクションを再開するか、**【キャンセル】** ボタンをクリックしてアクションをキャンセルするまで、他のアクションを実行できません。

グローバル ツールバーのボタンのうち、現在のアクションにおいて使用できないボタンはグレー表示になります。

カタログをリフレッシュするには

- 選択したカタログをリフレッシュするには、グローバル ツールバーの **【リフレッシュ】** をクリックします。

現在のアクションを一時停止または再開するには

- 現在のアクションを停止するには、グローバル ツールバーの **【一時停止】** をクリックします。
- 停止したアクションを再開するには、**【リジューム】** をクリックします(アクションを停止すると、**【停止】** ボタンがこのボタンに変わります)。

現在のアクションをキャンセルするには

- 現在のアクションをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **【キャンセル】** をクリックします。

サイドバー

サイドバーを使用して、Application Self-service Manager の設定やカスタマイズができます。

以下では、サイドバーの各アイコンについて詳しく説明します。

ホーム

このボタンをクリックすると、ホーム カタログにアクセスできます。

マイ ソフトウェア

このボタンをクリックすると、インストール済みのサービスのみが表示されます。ボタンをもう一度クリックすると、選択したカタログから使用可能なソフトウェアがすべて表示されます。

設定

このボタンをクリックすると、**Application Self-Service Manager** のさまざまな表示オプション、サービス リスト オプション、および接続オプションにアクセスできます。

[設定] セクションの右上隅にある **[OK]**、**[適用]**、または **[キャンセル]** をクリックして、いつでも変更内容を保持または無視できます。

カタログ リスト

[カタログ リスト]セクションには、使用可能なソフトウェア カタログおよび仮想カタログの一覧が表示されます。

カタログを選択するには

- カタログリストで、サービス リスト セクションに表示する **CM Configuration Server** カタログをクリックします。カタログ名を右クリックして表示されるショートカット メニューの **[リフレッシュ]** をクリックすると、いつでもカタログをリフレッシュできます。

仮想カタログ

仮想カタログは、サービスの **CATGROUP** 値に名前を指定して定義したデフォルトのカタログのサブセットです。同じ **CATGROUP** 値のサービスはすべて、1つの仮想カタログにグループ化されます。

CATGROUP 属性を設定するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、**CSDB Editor** を起動します。[セキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。



出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。









この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、**[新しいパスワード]** と **[新しいパスワードの確認]** の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。


- 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。
[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
- 3 **[PRIMARY]** をダブルクリックします。
- 4 **[SOFTWARE]** をダブルクリックします。
- 5 仮想カタログに追加するサービス名をダブルクリックします。
- 6 **[CATGROUP]** 属性をダブルクリックし、サービスに追加する仮想カタログの名前を入力します。
- 7 **[OK]** をクリックします。

サービス リスト

[サービス リスト] セクションには、使用可能なアプリケーションの一覧が表示されます。すでにインストールされているソフトウェアの隣には、チェック マークが表示されます。カラムの見出しは、必要に応じてカスタマイズできます。詳細については、表 50 (205 ページから始まる) を参照してください。

表 49 [サービス リスト] セクションのボタン

ボタン	アクション	説明
	インストール	選択したサービスをマシンにインストールします。
	更新	選択したサービスを更新します。
	検証	選択したサービスのファイルを検証します。
	修復	選択したサービスを修復します。
	削除	選択したサービスをマシンから削除する。
	展開/折りたたむ	選択したサービスを展開したり、折りたたんだりします。
	ダウンロードのみ (詳細)	選択したサービスをインストールせずに、カタログからローカル キャッシュにダウンロードします。このボタンは、[設定] の [サービス リスト オプション] で [詳細なオペレーションを表示] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。詳細については、設定 (200 ページ) を参照してください。
	再設定 (詳細)	選択したサービスのインストールを再設定します。このボタンは、選択したアプリケーションをインストールし、アプリケーションの ZSERVICE インスタンスの RECONFIG 変数を Y に設定した場合にのみ使用することができます。このボタンは、[設定] の [サービス リスト オプション] で [詳細なオペレーションを表示] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。詳細については、設定 (200 ページ) を参照してください。

ボタン	アクション	説明
	元に戻る (詳細)	直前のアクションを元に戻します。このボタンは、[設定] の [サービス リスト オプション] で [詳細なオペレーションを表示] チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。詳細については、 設定 (200 ページ) を参照してください。



サービス リスト セクションのボタンは、選択したアプリケーションに使用できない場合、グレー表示になります。

全般オプション

次の図に示す **[全般オプション]** ウィンドウを使用すると、Application Self-service Manager の表示を変更することができます。

図 7 全般オプション

[全般オプション](#)
[サービスリストオプション](#)
[接続オプション](#)

Ok 適用 キャンセル

表示

メニューを表示 自動非表示オプションバー

カタログリストを表示

オフライン モードのプロンプトを表示

起動パラメータ ファイル名:

色

システムの色を使用

色のカスタマイズ

表示を変更するには

- メニューを表示するには、**[メニューを表示]** チェックボックスをオンにします。
- カタログ リストを表示するには、**[カタログ リストを表示]** チェックボックスをオンにします。
- 各セッションの開始時に、オフライン モードで **Application Self-service Manager** を使用するか確認するプロンプトを表示するには、**[オフライン モードのプロンプトを表示]** チェック ボックスをオンにします。
- オプション バーを自動的に非表示にするには、**[自動非表示オプションバー]** チェックボックスをオンにします。
- 起動パラメータ ファイルを変更するには、テキスト ボックスに名前を入力するか、**[ブラウズ]** をクリックして起動パラメータ ファイルのパスを指定します。

色を変更するには

- システムの色を使用する場合は、**[システムの色を使用]** をクリックします。
- 独自のカスタム色を使用する場合は、**[色のカスタマイズ]** をクリックします。
 - **[色のカスタマイズ]** をクリックした場合、変更したいアイテムのボックスをクリックします。
 - [選択色を設定]。選択した色を変更します。
 - [ボタンの色を設定]。ボタンの色を変更します。
 - [背景色を設定]。背景色を変更します。
 - [作業領域の色を設定]。作業領域を変更します。

サービス リスト オプション

次の図に示すサービス リスト オプションを使用すると、サービス リストの表示を変更することができます。

図 8 サービス リスト オプション

[全般オプション](#)

[サービス リスト オプション](#)

[接続オプション](#)

Ok

適用

キャンセル

サービス リストのカラム名をカスタマイズする

[カラム] 領域では、サービス リストに表示されるカラムをカスタマイズできます。右側のカラムに、サービス リストに現在表示されているカラム名の一覧が表示されます。利用可能な各カラム見出しの説明については、表 50 (205 ページ) を参照してください。

サービス リストにカラムを追加するには

- 1 [使用可能なカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押しながらカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押しながらカラム名をクリックします。
- 2 **[追加]** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスの一覧に表示されます。

サービス リストからカラムを削除するには

- 1 [表示するカラム] リスト ボックスで、1 つ以上の名前を選択します。連続した複数のカラム名を選択するには **Shift** キーを押しながらカラム名をクリックし、連続していない複数のカラム名を選択するには **Ctrl** キーを押しながらカラム名をクリックします。
- 2 **【削除】** をクリックします。選択したカラムが [表示するカラム] リスト ボックスから削除され、元の [使用可能なカラム] ボックスに表示されます。

表示のカスタマイズ

- サービス リストで、現在のサービス アイテムを展開するには、**【アクティブなサービス アイテムを展開】** チェック ボックスをオンにします。
- 各サービスを仕切るグリッド線付きでサービス リストを表示するには、**【グリッド線を表示】** を選択します。
- 現在選択しているカタログを展開するには、**【アクティブなカタログ アイテムを展開】** を選択します。
- サービス リスト セクションで **【ダウンロードのみ】** ボタン、**【再設定】** ボタン、および **【元に戻す】** ボタンを表示するには、**【詳細なオペレーションを表示】** を選択します。

表 50 サービス リストで使用可能なカラムの見出し

カラムの見出し	説明
作成者	サービスの作成者。
圧縮後のサイズ	圧縮後のサービスのサイズ (バイト単位)。
説明	サービスの簡単な説明。
インストール日	サービスがコンピュータにインストールされた日付。
ローカルの修復	ローカルでのデータ修復可能性 (データがローカル コンピュータにキャッシュされているかどうか)。
名前	サービスの名前。
オーナー カタログ	アプリケーションの取得元のドメイン名。
価格	サービスの価格。
パブリッシュ日	サービスがカタログにパブリッシュされた日付。
再パブリッシュ日	サービスがカタログに再パブリッシュされた日付。
サイズ	サービスのサイズ (バイト単位)。 注意：サービスをインストールするためには、コンピュータにはこのカラムに表示されている空き容量が必要です。

カラムの見出し	説明
ステータス	ソフトウェアの現在のステータス <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能 • インストール済み • 更新可能 • 破損
アップグレード日	サービスがアップグレードされた日付。
URL	ソフトウェア ベンダーの URL。
ベンダー	サービスを提供したソフトウェア ベンダー。
検証日	前回、サービスが検証された日付。
バージョン	サービスのバージョン。

接続オプション

次の図に示すように、[接続オプション] では、使用するバンド幅スロットリングのタイプを選択したり、プロキシ サーバーを使用するために必要な設定を指定したりすることができます。

図 9 接続オプション



- スロットリング
 - スロットリングを行わない場合、**[なし]**を選択します。
 - 使用するネットワーク バンド幅の最大の割合をスケールに基づいて選択するには、**[バンド幅を予約]**を選択します。サブスクリイバは、ダウンロード時に予約バンド幅をユーザー インターフェイスで変更できます。
 - 使用するネットワーク バンド幅の最小の割合をスケールに基づいて指定するには、**[トラフィックに適応]**をクリックします。適応バンド幅は、データ ダウンロード プロセスの間は変更できません。設定できるのは、ジョブがディスパッチされる前だけです。
- プロキシ

HPCA は、インターネット プロキシが使用されている場合、インターネット プロキシを検出する機能を備えています。検出されたインターネット プロキシのアドレスは、エージェント コンピュータの IDMLIB ディレクトリにある PROXYINF.EDM に格納されます。IDMLIB のデフォルトのロケーションは、C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent\Lib です。エージェント コンピュータが次回 Configuration Server に接続すると、指定のインターネット プロキシが使用されます。この機能を使用するには、HPCA Agent でインターネット プロキシを使用および検出できるようにす

必要があります。**Application Self-Service Manager** を使用している場合、**[設定]** の **[接続]** セクションでプロキシを設定します。

履歴

サイドバーで **[履歴]** をクリックすると、現在のセッションの履歴が表示されます。

バンド幅

このボタンをクリックすると、バンド幅スライダが表示されます。この値を変更すると、スロットリングの値が動的に変化します。

バンド幅のスライダを使用してバンド幅の設定を調整するには

- スライダをドラッグして、目的のバンド幅スロットリングの量にまで値を増減して調整します。
- バンド幅スロットリングは、**[設定]** の **[接続オプション]** セクションでも調整できます。

ステータス

サイドバーで **[ステータス]** をクリックすると、サイズ、推定時間、進捗状況、使用可能なバンド幅など、現在のアクションのステータスが表示されます。

図 10 ステータス

The screenshot shows a window titled 'ステータス' (Status) with a toolbar at the top containing icons for back, forward, refresh, and close. The main content is divided into several sections:

名前	ステータス
Sales Information バージョン 1.0	サイズ 2.14 MB
Novadigm	圧縮後のサイズ 1.30 MB
http://www.novadigm.com	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 10px; background-color: blue;"></div>	
Redbox Organizer	使用可能
Amortize	使用可能

転送速度	1000.0 kbps	ファイルの総数	8
合計サイズ	1179 Kb	受信ファイル数	2
受信したバイト数	632 Kb	サービスの総数	1
推定残り時間	00:00:01	受信サービス数	0

[ステータス] ウィンドウをドッキングおよびドッキング解除する

[ステータス] ウィンドウは、**Application Self-Service Manager** からドッキングしたりドッキングを解除したりできます。これにより、画面上の任意の位置に [ステータス] ウィンドウを移動できます。デフォルトでは、[ステータス] ウィンドウはドッキングされています。

[ステータス] ウィンドウのドッキングを解除するには

- 1 サイドバーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから **[ドッキング済み]** を選択します。

Application Self-Service Manager から [ステータス] ウィンドウが分離され、画面上の任意の場所に移動できるようになります。

[ステータス] ウィンドウをドッキングするには

- 1 サイドバーの **[ステータス]** をクリックします。
- 2 表示された [ステータス] ウィンドウ上で右クリックします。
- 3 ショートカットメニューの **[ドッキング済み]** をクリックします (チェックマークが表示されていない場合のみ)。

[ステータス] ウィンドウがドッキングされている場合、ショートカットメニューの **[ドッキング済み]** の横にチェックマークが表示されます。

[ステータス] ウィンドウが **Application Self-Service Manager** にドッキングされます。

ユーザー インターフェイスからソフトウェアをインストールする

利用可能なアプリケーションは、サービス リストに一覧表示されます。これらのアプリケーションから 1 つ以上をいつでもインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには

- 1 インストールするソフトウェア名をサービス リストでクリックします。
- 2 **[インストール]** をクリックします。

インストールによっては、一連のダイアログ ボックスが表示される場合があります。複数のダイアログ ボックスが表示された場合は指示に従います。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。




インストールするソフトウェアの名前を右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[インストール]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

インストールの進捗状況が進捗状況バーに表示されます。

- インストールをキャンセルするには、グローバル ツールバーの **[キャンセル]** をクリックします。
- インストールを一時停止するには、グローバル ツールバーの **[一時停止]** をクリックします。アクションを一時停止すると、一時停止しているアクションをキャンセルまたは再開するまで、他のアクションを実行できません。

ユーザー インターフェイス カタログをリフレッシュする

Application Self-Service Manager ユーザー インターフェイスにログインするたびに、カタログはリフレッシュされます。ログオン中、使用が認可されているアプリケーションのリストが変更された場合、またはインストールしたアプリケーションの更新が使用可能になった場合、アプリケーションの最新のリストを取得するには、グローバル ツールバーの **[カタログのリフレッシュ]** をクリックします。

 ソフトウェア リストの任意のアイテムを右クリックして、表示されるショートカットメニューの **[カタログをリフレッシュ]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。


ユーザー インターフェイスで情報を表示する

アプリケーションについて、サービス リストが提供する情報よりも詳細な情報が必要な場合があります。ベンダー、バージョン、サイズ、およびアプリケーションがインストールされた日付を確認するには、該当するカラムをサービスリストに追加するか、展開したサービス ボックスの **[拡張情報を表示]** をクリックします。

メーカーが提供する詳細情報を参照するには、表示されるリンクをクリックします。

詳細情報を表示するには

- サービス リストで目的のソフトウェアを選択し、**[拡張情報を表示]** をクリックします。

 適切なソフトウェアを右クリックし、表示されるショートカットメニューの **[プロパティ]** をポイントし、**[情報]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

サービス リストに戻るには、対応する **[キャンセル]** ボタンをクリックします。

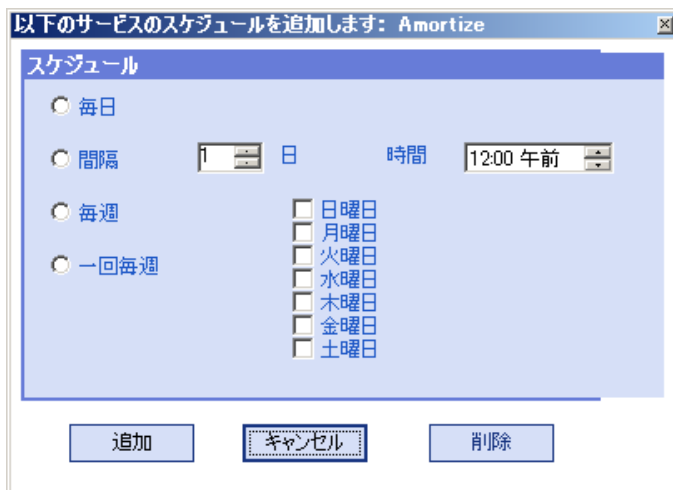
イベントの時間をスケジュールする

展開したサービス ボックスで、インストールされているサービスを選択し **[イベントの時間をスケジュール]** をクリックすると、コンピュータにインストールされているアプリケーションを自動更新するスケジュールを指定することができます。

す。たとえば、ネットワーク トラフィックが比較的少ないオフピーク時間に更新を行うようスケジュールできます。

インストールされているアプリケーションの更新をスケジュールするには


- 1 インストールされているアプリケーションを **Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスで選択します。
- 2 **[イベントの時間をスケジュール]** をクリックします。[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 3 次のいずれかのオプションをクリックします。
 - **[毎日]**
毎日、指定の時間に更新が行われます。
 - **[n 日ごと]**
n 日ごとに更新が行われます。[間隔指定] オプション ボタンの横にある上矢印と下矢印を使用して、更新の頻度を選択します。
 - **[曜日指定]**
毎週、チェック ボックスをオンにした曜日に更新が行われます。複数の曜日を選択できます。
- 4 **[時間]** ボックスの上矢印と下矢印を使用するか、ボックスに時刻を入力して、更新を行う時刻を指定します。
- 5 **[追加]** をクリックしてダイアログ ボックスを閉じ、スケジュールリングによる更新を確定します。

ソフトウェアを検証する

アプリケーションのインストールをチェックするには

- 1 インストールされている検証対象のサービスをサービス リストで選択します。
- 2 **[検証]** をクリックします。
 -  ソフトウェア名を右クリックし、表示されるショートカット メニューの **[検証]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。
 - 検証でアプリケーションに問題がない場合は、アプリケーションの [検証した日付] カラムに検証の日付と時刻が表示されます。
 - 検証でアプリケーションに問題がある場合は、[ステータス] カラムに **[破損]** と表示されます。
- 3 ソフトウェアを修復するには、**[修復]** をクリックします。

ソフトウェアを修復する


アプリケーションに何らかの問題がある場合、それを修復するには、**[修復]** をクリックします。

ソフトウェアを修復するには

- 1 修復する必要があるアプリケーションを選択します (該当するアプリケーションには、最初のカラムに **X**、[ステータス] カラムに **[破損]** が表示されます)。
- 2 **[修復]** をクリックします。HPCA によってアプリケーションの修復に必要なファイルが取得されます。

ソフトウェアを再設定する

サービス リスト セクションの [再設定] オプションを使用すると、コンピュータへのソフトウェアのインストールを再設定することができます。[再設定] オプションを使用すると、選択したソフトウェアを再インストールして、さまざまな設定を調整することができます (たとえば、ソフトウェアのインストール先ディレクトリなど)。

-  [再設定] ボタンは、アプリケーションをインストールし、そのアプリケーションの **ZSERVICE** インスタンスの **RECONFIG** 変数を **Y** に設定した場合のみに使用することができます。

ソフトウェアを再設定するには

- 1 再設定するソフトウェアを選択します。
- 2 **[再設定]** をクリックします。

- 3 インストールによっては、一連のダイアログ ボックスが表示される場合があります。複数のダイアログ ボックスが表示された場合は指示に従います。それ以外の場合は、インストールがすぐに始まります。

ソフトウェアを削除する

[削除] オプションを使用すると、コンピュータからソフトウェアを削除することができます。

ソフトウェアを削除するには

- 1 削除するソフトウェアを選択します。
- 2 **[削除]** をクリックします。
- 3 アプリケーションの削除を確認するメッセージが表示されたら、**[はい]** をクリックします。



インストールされているソフトウェア名を右クリックし、表示されるショートカット メニューの **[削除]** をクリックしても同じ操作を実行することができます。

HPCA Agent のセルフ メンテナンス

HPCA Agent のメンテナンスは、HP テクニカル サポートから入手することができます。メンテナンスには、Configuration Server Database のインポートデッキが含まれています。PRDMAINT ドメインの PRDMAINT クラスに新しいインスタンスが作成されます。PRODUCT_PLATFORM_RELEASE の組み合わせごとに、PRDMAINT インスタンスが 1 つずつ存在します。これらのインスタンスは、HPCA Agent のプラットフォームおよび現在の製品レベルに基づいて接続されます。メンテナンスを HPCA agent コンピュータに公開することを決定した後は、ユーザーのエンタイトルメントにサービスを追加することができます。

同じメンテナンスを要する PRDMAINT のバンドルをオペレーティング システム別に提供する必要性を最小限に抑えるため、ZMASTER.ZOSTYPE 変数で Windows オペレーティング システムのタイプまたはファミリーが識別されます。

使用上の注意

- 1 デフォルトでは、すべてのパッケージが無効になっています。このために、ZSTOP 式が 1 に設定され、配布できないようになっています。一般的な配布を行う場合は、この値を削除します。または、特定のグループに配布を制限する場合は、ZSTOP 式を使用します。

- 2 最初の **REQUIRES** 接続は、想定される **hot fix** 用に予約されています。つまり、テクニカル サポートから直接送られてくるが、その時点では修正またはサービス パックで使用できないものなどが該当します。このパッケージ **_HOTFIX** は、必要な複数の修正や拡張をまとめるために使用され、使用者が管理するものです。2 番目の接続は、ローカルでカスタマイズし、メンテナンスの一部として含めるコード用の接続です。
- 3 メンテナンスの処理方法を指定するには、**CLIENT** ドメインにある **SETTINGS** クラスの **ACTMAINT** 属性を使用します。メンテナンスを直ちにダウンロードしてインストールするか (**I**)、ダウンロードのみを行い、後でインストールするか (**D**)、または別のタイミングでメンテナンスをインストールするかユーザーに尋ねる (**P**) かを選択することができます。

メンテナンスは、**RADSKMAN** パラメータが **mnt=y** である場合にのみ、実行されます。詳細については、**ACTMAINT** (109 ページ) および **mnt** パラメータ (164 ページの表 44) を参照してください。

新しいメンテナンス パックごとに、最新の **PRDMAINT** インスタンスが提供されます。メンテナンスは、すべて適用する必要はありません。

クライアント メンテナンス パッケージを配布するには

- 1 メンテナンス パッケージは、エクスポート デッキの形式で **HP** サポート Web サイトから入手できます。
- 2 ファイルをダウンロードします。少なくとも **xpi** ファイルおよび **xpr** ファイルが必ずあります。
- 3 **CM Configuration Server** のサービスを停止し、**Configuration Server** の **bin** ディレクトリにエクスポート ファイルをコピーします。
- 4 **EDMAMS** ユーティリティを使用して、ファイルをインポートします。

たとえば、**MAINT_RAM_40_RC3.XPI** と **MAINT_RAM_40_RC3.XPR** の 2 ファイルを取得した場合、次のコマンドラインを使用します。

```
ZEDMAMS VERB=IMPORT_INSTANCE,FILE=MAINT_RAM_40_RC3.XPI,  
PREVIEW=NO
```

```
ZEDMAMS VERB=IMPORT_RESOURCE,FILE=MAINT_RAM_40_RC3.XPR,  
PREVIEW=NO
```



さまざまな要因により、コマンド ラインが異なる可能性があります。**EDMAMS** の詳細については、『**Configuration Server** ガイド』を参照してください。

- 5 **Configuration Server** を再起動します。
- 6 **POLICY** ドメインの適切なユーザーにメンテナンス サーバーを割り当てます。



HPCA Agent 接続プロセスのメンテナンス部分を実行するには、**RADSKMAN** コマンド ラインの **mnt** パラメータを **Y** に設定する必要があります。

HPCA Agent はカタログ処理の過程で、**PRDMAINT** ドメインのすべてのサービスを処理し、アービトレーションを実行して適切なメンテナンスを判別し、メンテナンス ステージング ディレクトリにメンテナンスを配布します。このディレクトリのデフォルト ロケーションは、**c:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\Agent_Maint_** です。

バックアップと復元機能

HPCA Agent をインストールすると、**backup** ディレクトリが **IDMROOT** フォルダの中に作成されます。このディレクトリには、**Configuration Server** との **HPCA Agent** 接続を実行するのに必要な **Core** ファイル (最小コンポーネント) コピーが含まれます。

IDMSYS ディレクトリが破損したり、ファイルが削除された場合に、これらの **Core** ファイルを使用すると **HPCA Agent** の復元 (**Portal** 経由) が可能になります。その後、**HPCA Agent** が検証を実施し、不明なファイルや破損したファイルを修復します。

壊れた HPCA Agent を復元する

- 1 **[デバイス別に通知]** または **[サブスクリプション別に通知]** のいずれかの操作を選択します。
- 2 **[通知タイプ]** ドロップダウン リストから、**[カスタム通知]** を選択します。
- 3 次を指定します。

upgrdmaint /restore

これにより、**backup** ディレクトリの中身が **IDMSYS** フォルダにコピーされます。これで **HPCA Agent** が機能するようになるので、**HPCA Agent** ファイルを修復するための完全な接続またはメンテナンス専用の接続を実行するような通知を送信できます。

管理者は、**backup** ディレクトリを更新することもできます。

バックアップ ディレクトリを更新する

- 1 **[通知]** 操作を選択します。
- 2 **[通知タイプ]** ドロップダウン リストから、**[カスタム通知]** を選択します。
- 3 次を指定します。

upgrdmaint /backup

Core ファイルが、IDMSYS フォルダから backup ディレクトリにコピーされます。

このコマンドは、サービス パックや修正パックの配布後に役立ちます。backup ディレクトリは、同期化することで最新のメンテナンスを含めることができます。

HPCA システム トレイ

HPCA システム トレイ アイコンを使用すると、ステータスや統計情報を確認したり、停止操作やキャンセル操作を行ったりすることができます。システム トレイ アイコンは、リスン モードになっており、**HPCA Agent** でユーザーとの対話が必要なときに表示される、ダイアログ ボックスやステータス情報の表示リクエストを受け付けます。

アイコンは、タスク バーのシステム トレイ領域に表示されます。アイコンの上にカーソルを移動すると、**HPCA Agent** の活動状況に応じて次の 3 つの状態のいずれかが表示されます。


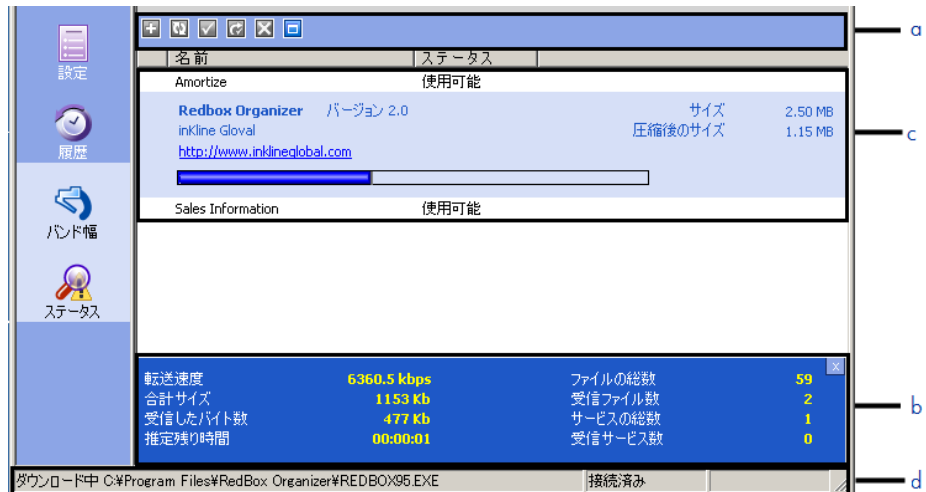
- **アイドル**
システム トレイがリスン モードのとき、アイコンはスタティックです。
- **アクティブ**
HPCA Agent が実行中のとき、またはユーザーの操作が必要なときに、アイコンはアクティブになります。アイコンはアニメーション表示され、アイコン上にカーソルを移動すると、情報ポップアップが表示されます。このポップアップには、実行中のアクティビティのタイプに関する情報が表示されます。重要な通知が発生した場合は、ポップアップが自動的に表示されます。
- **コンソール ビュー**
コンソール ビューを起動するには、アイコンを右クリックして表示されるショートカット メニューを使用するか、アイコンをダブルクリックします。 **図 11** (217 ページ) のように、コンソール ビューが表示されます。

図 11 システム トレイ コンソール



凡例

- a ボタン バー
- b 情報パネル
- c ステータス領域
- d ステータス メッセージ領域

コンソール ビューは、次の部分で構成されます。

- **ボタン バー**
[停止] ボタン、[キャンセル] ボタン、および HPCA が実行中のときにアニメーション表示されるロゴを含みます。
- **情報パネル**
現在処理中のサービスに関する情報、および完了したプロセスの割合を示す進捗状況バーが表示されます。
- **ステータス領域**
転送速度、送信の合計サイズ、受信したバイト数、送信の推定残り時間、送信するファイルの総数、受信したファイルの数、処理されたサービスの数など、現在のプロセスに関する統計が表示されます。
- **ステータス メッセージ領域**
現在のプロセスに関するメッセージが表示されます。
- **バンド幅設定**
Configuration Server のサービスにバンド幅スロットリングを設定している場合、システム トレイ コンソールのバンド幅トグル ボタンをクリックすると、バンド幅設定用のスライダが表示されます。スライダを左右に調整すると、バンド幅スロットリングの値が変更されます。



バンド幅設定用の画面が表示されるのは、バンド幅スロットリングが使用可能な場合（サービスのスロットリングタイプが **Adaptive** または **Reserved** に設定されている場合）です。また、バンド幅のスライダーが表示されるのは、スロットリングのタイプが有効で、**Application (ZSERVICE)** インスタンスの **UIOPTION** 属性を **FULL** に設定した場合です。デフォルト値は **FULL** です。**UIOPTION** を **INFO** に設定すると、エージェント コンピュータで行われているプロセスは表示されますが、すべてのコントロールが無効になり、サブスクリバは変更操作を実行できなくなります。**UIOPTION** を **NONE** に設定すると、ダイアログ ボックスは表示されなくなります。**UIOPTION** は、**Admin CSDB Editor** で設定します。

図 12 システム トレイ コンソールでのバンド幅設定

名前	ステータス
HP Client Automation Settings Migration Manager	更新可能
TPM Enablement バージョン 2	サイズ 83.44 KB
Hewlett-Packard	圧縮後のサイズ 23.08 KB
http://www.hp.com	
ダウンロードがキャンセルされました	

転送速度	0 kbps	ファイルの総数	N/A
合計サイズ	N/A	受信ファイル数	0
受信したバイト数	0 Kb	サービスの総数	0
推定残り時間	00:00:00	受信サービス数	0

必須サービスに対するユーザー アクション

HPCA 管理者は、**[接続の延期]** ウィンドウを使用して、ユーザーのマシンに関してサービス「アクション」（ソフトウェアのインストールなど）が保留になっている場合に、ユーザーにいくつかのオプションを提供できます。この機能によって、ユーザーは、現在のアクティビティに基づいて必要なアクションをすぐ実行するか、より都合が良い時に延期するか決定できます。

HPCA 管理者は、必要なアクションに対して、次のような 2 種類の「デッドライン」カウンタを指定できます。

- 残りの「延期」日数がウィンドウの右側に表示されます。ユーザーは繰り返しアクションを延期できます。ただし、それは管理者が規定した期間のみであり、期限が到来すると、マシン上で自動的にアクションが実行されます。

- ダイアログ カウントダウン タイマーがウィンドウの下部に表示されます。このタイマーは、ダイアログが自動的に却下され「許可」アクションが強制実行されるまでの分数を示します。カウントダウンが 1 分に達すると、タイマーは秒数表示に切り替わり、5 秒ごとにリフレッシュされます。カウンタが 0 (ゼロ) に到達し、ユーザーが何もアクションを実行しないと、「許可」アクションが強制実行されます。

[接続の延期] ウィンドウ

[接続の延期] ウィンドウでは、必要なアクションに関する情報が表示され、ユーザーにいくつかのオプションが提供されます。[接続の延期] ウィンドウのカラムについては、下記の表 51 で説明します。

表 51 [接続の延期] ウィンドウのカラム

カラム	説明
サービス	このカラムには、ユーザーのアクションを必要とするサービスの説明が表示されます。サービスの説明が SERVICE インスタンスで提供されない場合は、サービス名が表示されます。
アクション	このカラムには、ユーザー アクションが実行された結果としてマシン上に及ぶ影響が表示されます。次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> 削除: マシンからサービスを削除 インストール: マシンにサービスをインストール 更新: マシン上の既存のサービスを更新
タイプ	このカラムには、サービスのタイプがリストされます。サービス タイプは次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> OS (オペレーティング システム) パッチ ソフトウェア
再起動	このカラムには、 ZSERVICE 再起動フラグの設定が表示されます。 ZSERVICE 再起動フラグの詳細については、 HPCA agent コンピュータを再起動する (132 ページ) を参照してください。
サイズ (MB)	このカラムには、サービスのサイズが表示されます。

接続の延期のユーザー アクション

保留中のサービスのユーザー オプションは次のとおりです。

- **許可**

このオプションは、[アクション] カラムにリストされているアクティビティをすぐに実行します。

- **キャンセル**

このオプションは、**Configuration Server** への現在の接続を中止します。アクションは、その後の接続において保留状態のままになります。

- **延期**

このオプションは、[延期期間] ドロップダウン リストと共に使用されます。ユーザーは、延期期間を選択することで、サービスに対するアクションの実行を延期できます。

- **[15 分]** を選択すると、**Configuration Server** への現在の接続を 15 分間スリープさせ、**ZTIMEQ** オブジェクトは作成されません。
- その他の間隔 (**[1 時間]**、**[4 時間]**、**[1 日]**、**[1 週間]**、および**[2 週間]**) では、結果的に **ZTIMEQ** オブジェクトが作成されます。**ZTIMEQ** オブジェクトのテストに関する詳細については、**タイマーの配布をテストする** (181 ページ) を参照してください。

アプリケーション: 警告メッセージと延期

Admin CSDB Editor により、アプリケーションの優先度が高いことをサブスクライバに示したり、追加のメッセージを表示したりすることができます。**Application (ZSERVICE)** インスタンスで、優先度を普通または高に設定できます。感嘆符 (!) は、アプリケーションの優先度が高いことを示します。



システム トレイと共に **Application Self-service Manager** を使用して、優先度の高いサービスを管理している場合、警告状態が発生すると、警告を表すポップアップが表示され、システム トレイのステータス ポップアップに警告メッセージが表示されます。

管理者はアプリケーションの配布時に、ネットワークしきい値、ダウンロードするデータのサイズ、日付の設定、または延期数に基づいて延期メッセージを表示できます。**HPCA** のエージェント コンピュータにダウンロードする必要があるデータがアプリケーションにある場合、**HPCA Agent** は、そのアプリケーションが延期に対応するよう設定されているかどうかをチェックします。設定されている場合、**Application Self-service Manager** は、管理者の指定したバンド幅しきい値の設定に対して、現在のバンド幅設定をチェックします。次の場合、配布を延期するかどうかをサブスクライバに確認する延期メッセージが表示されます。

- 現在のネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より遅く、サービスのサイズが下限サイズ (DBT) より大きい。
- 現在のネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より速く、サービスのサイズが上限サイズ (DAT) より大きい。

HPCA 管理者は、「発生数」と「前回の延期日」というアプリケーション延期制限を設定できます。指定した延期の数または日付に到達すると、延期メッセージを表示せずにアプリケーションがインストールまたは更新されます。

HPCA 管理者は、警告を行う「最小バイト数」の制限を設定することもできます。データのサイズが最小バイト数より小さい場合、警告パネルは表示されません。

アプリケーションが延期に対応するよう設定されており、以下の要件をすべて満たしている場合に、HPCA Agent は延期メッセージを表示します。

- 現在のオペレーションに警告モード (DM) が設定されている (インストール、更新、または両方)。
- 現在のネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より遅く、ダウンロード対象のデータが下限サイズ (DBT) より大きい。
- 現在のネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より速く、ダウンロード対象のデータが上限サイズ (DAT) より大きい。
- ZSERVICE インスタンスの UIOPTION 属性が **NONE** 以外に設定されている。
- 延期の日付を指定した場合、DI (Allow Install Deferral up to) または DU (Allow Update Deferral up to) の日付に達している。

または

- DN (Number of deferrals allowed) に達している。

これらの要件を満たし、Application Self-service Manager を使用している場合、延期メッセージがユーザーに表示されます。ユーザーはこれに従い、アクションを延期するか、続行するかを選択できます。

ユーザーが延期/続行の選択を行わないと、DA 属性で特定されたアクションが実行されます (224 ページの [DA](#)) を参照)。

次のセクションでは、警告/延期インスタンスを Configuration Server Database で作成および設定する方法について説明します。


Configuration Server Database における警告メッセージと延期インスタンス

アプリケーション警告または延期を実装するには、CSDB で Alert/Defer (ALERTDEF) クラスのインスタンスを作成し、そのインスタンスを適切な Application (ZSERVICE) クラスインスタンスに接続します。

作成

アプリケーション警告の設定を支援するために、CSDB の SOFTWARE ドメインに Alert/Defer (ALERTDEF) クラスが追加されています。警告を設定するには、Alert/Defer (ALERTDEF) クラスのインスタンスを作成する必要があります。

Alert/Defer (ALERTDEF) クラスのインスタンスを作成するには

- 1 **[スタート]** メニューを参照し、CSDB Editor を起動します。[セキュリティ情報] ダイアログ ボックスが表示されます。
 出荷時のユーザー ID は **RAD_MAST** です。パスワードは必要ありません。この設定は、インストールの過程で変更している場合があります。
この設定は、**[パスワードの変更]** をオンにして、[新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] の両テキスト ボックスに新しいパスワードを入力して変更することもできます。
 - 2 必要に応じて、ユーザー ID とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。[Admin CSDB Editor] ウィンドウが表示されます。
 - 3 **PRIMARY** ファイルの **SOFTWARE** ドメインに移動し、**[Alert/Defer (ALERTDEF)]** を右クリックします。ショートカットメニューが表示されます。
 - 4 **[インスタンスを新規作成]** をクリックします。[インスタンスの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - 5 新しいインスタンスの名前を入力します (「SalesAlert」など)。
 - 6 **[OK]** をクリックします。
- これで、新しいインスタンス (SalesAlert) が作成されました。

設定

インスタンスを作成したら、警告用に設定する必要があります。Alert/Deferral (ALERTDEF) クラスには、Dial Up Sample Defer と LAN Sample Defer という 2 つのサンプル インスタンスが用意されています。この演習では、前に作成した SalesAlert インスタンスを使用します。

Alert/Deferral (ALERTDEF) インスタンスを設定するには

- 1 Admin CSDB Editor で、**SalesAlert** インスタンスに移動します。
- 2 **SalesAlert** インスタンスをダブルクリックします。
- 3 編集する変数をダブルクリックします。

このクラスの詳細については、下記の表 52 を参照してください。

表 52 ALERTDEF クラスの変数

変数	説明
ALERTMSG	「サービスの警告メッセージ」の前の感嘆符 (!) は、メッセージの優先度が高いことを示します。
DM	警告モード 延期警告がトリガされるアクティビティの種類。 <ul style="list-style-type: none">• [インストール] を行う場合は、I に設定します。• [更新] を行う場合は、U に設定します。• (インストールと更新の) [両方] を行う場合は、B (デフォルト) に設定します。
DN	DA (Deferral Action) アクションが実行されるまでに許可される延期の最大回数を指定します。デフォルトは 0 です。
DT	ネットワーク バンド幅のしきい値 (バイト単位)。延期の要件を満たすには、現在のネットワーク速度がこの値より小さくなければなりません。デフォルトは 86000 です。
DBT	遅いネットワークでダウンロード中であり、延期を引き起こすファイルの最小累積サイズ (バイト単位)。デフォルトは 50000 です。 ネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より遅く、ダウンロード中のファイルの累積サイズがこの値 (DBT=n) を超えると、延期が引き起こされます。 DBT=0 の場合は無視されます (ネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より遅い場合にも、延期は行われません)。
DAT	速いネットワークでダウンロード中であり、延期を引き起こすファイルの最小累積サイズ (バイト単位)。デフォルトは 0 です。 ネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より速く、ダウンロード中のファイルの累積サイズがこの値 (DAT=n) を超えると、延期が引き起こされます。 DAT=0 の場合は無視されます (ネットワーク速度がネットワークしきい値 (DT) より速い場合にも、延期は行われません)。

変数	説明
DTO	延期警告のダイアログ ボックスの表示時間 (秒単位)。デフォルトは 120 です。タイムアウトに達した後は、 DA アクション (タイムアウト時のアクション) が実行されます。
DA	DTO (警告タイムアウト) 変数で許可される時間内にサブスクライバが延期警告ダイアログ ボックスに応答しなかった場合に実行されるアクション。 <ul style="list-style-type: none"> ● c (デフォルト) を指定すると、指定のアクションが続行されます。 ● 指定のアクションを延期するには d を指定します。
DI	しきい値となる日付 (YYYYMMDD 形式)。この日付以降は、アプリケーションのインストールを延期するオプションを使用できなくなり、アプリケーションはインストールされます。
DU	しきい値となる日付 (YYYYMMDD 形式)。この日付以降は、アプリケーションの更新を延期するオプションを使用できなくなり、アプリケーションは更新されます。
名前	現在のインスタンスの簡略名。
DEFOPTNS	この属性を使用して、このクラスの他の属性の値が解決されます。デフォルトは、 &(DM),&(DN),&(DT),&(DBT),&(DAT),&(DTO),&(DA),&(DI),&(DU) です。 この値は変更しないでください。

この演習では、優先度の高い警告メッセージを追加します。これを行うには、**ALERTMSG** 変数をダブルクリックします。

- 4 テキスト フィールドに、表示したいメッセージを入力します。
- 5 次の属性をクリックして、適切な値を入力します。
- 6 属性の編集を完了したら **[OK]** をクリックします。[インスタンスの編集の確認] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 7 **[はい]** をクリックして、変更を確定します。

SalesAlert インスタンスに警告メッセージが設定されました。

接続

Alert/Defer (**ALERTDEF**) インスタンス (**SalesAlert**) の作成および設定が完了したので、Application (**ZSERVICE**) インスタンスに接続する必要があります。

- **Admin CSDB Editor** を使用して、警告メッセージを関連付けたい **Application (ZSERVICE)** インスタンスに **SalesAlert** インスタンスをドラッグ アンド ドロップします。

Admin CSDB Editor の使用方法の詳細については、『**Admin ユーザー ガイド**』を参照してください。

用語集

Admin Agent Explorer

Administrator とともにインストールされる **Administrator Agent Explorer** を使用すると、ローカル オブジェクトを表示または編集したり、新しいオブジェクトを作成したりすることができます。また、**Administrator Agent Explorer** を使用して、ファイル サーバー上やローカル エリア ネットワーク (LAN) で接続された別のコンピュータ上にあるオブジェクトを参照することもできます。

Admin Client Explorer

「**Admin Agent Explorer**」を参照してください。

Admin CSDB Editor

HPCA Administrator とともにインストールされる **Admin Configuration Server Database Editor** を使用すると、**CSDB** のコンテンツを操作することができます。

Admin Packager

Administrator Packager を使用すると、データのパッケージを作成し、**CSDB** にこれを格納 (つまり、転送) できます。

Admin Screen Painter

HPCA Administrator とともにインストールされる **Admin Screen Painter** を使用すると、カスタム ダイアログ ボックスを開発できます。

Agent

HPCA Agent (Application Manager および **Application Self-service Manager)** は、エージェント コンピュータ上で実行されます。**Configuration Server** と通信して、エージェント コンピュータの要求状態についての情報を取得し、この情報をエージェント コンピュータの実際の状態と比較します。**HPCA Agent** は続いて、要求状態と実際の状態を一致させるために調整を行います。

Application Manager

Application Manager とは、必須サービスを管理する **HPCA Agent** です。**HPCA** 管理者は **CSDB Editor** を使用して、エージェント コンピュータ上で **CM Application Manager** が管理するサービスを指定します。ユーザー インターフェイスはありません。

Application Self-service Manager

Application Self-service Manager とは、オプションのサービスを管理するために使用される **HPCA Agent** です。**HPCA** 管理者は **Admin CSDB Editor** を使用して、サブスクリバが使用できるサービスを指定します。

サブスクリバは、**Application Self-service Manager** ユーザー インターフェイスから使用可能なデータをインストールして管理します。

Configuration Server

Configuration Server は、アプリケーションをエージェント コンピュータに配布します。サーバー上で実行されて、**Configuration Server** がエージェント コンピュータに配布するデジタル資産を管理するために必要とする情報を格納する **CSDB** を管理します。

Configuration Server Database

Configuration Server Database (CSDB) は、エージェント コンピュータで次のようなデジタル資産を管理するために必要なすべての情報を格納します。

- **HPCA** によって配布されるソフトウェアまたはデータ。
- **CM** で管理されるコンテンツに関する、各エージェント コンピュータの「要求ステート」
- 各サブスクリバがどのパッケージをサブスクライブするかを決定するポリシー。
- **HPCA** 管理者用セキュリティおよびアクセス規則。

CSDB を操作するには、**Admin CSDB Editor** を使用します。

Inventory Manager

Inventory Manager とは、ポリシー駆動型の管理ツールです。ソフトウェアやハードウェアに関する情報を自動的に検出し、その結果を **Web** ベースのレポートにまとめます。**Inventory Management** クライアントは、**WbEM (Web-based Enterprise Management)** コンシューマです。

null インスタンス

クラスの **null** インスタンスは、そのクラスにインスタンスが存在しない場合に使用します。解決の過程で、あるクラスの、存在しないインスタンスへの接続が試行されると、**null** インスタンスが使用されます。これにより、無効な接続を解決パスが処理できるようになります。

Proxy Server

Proxy Server は、環境内で使用すると、必要なリソースをエージェント コンピュータに配布することにより、**Configuration Server** の負荷を軽減できます。**Proxy Server** は、各エージェント コンピュータを要求ステートに保つために必要となるリソースを含む、複数のデータ キャッシュを維持します。

Screen Painter

「[Admin Screen Painter](#)」を参照してください。

Software Manager

「[Application Self-service Manager](#)」を参照してください。

System Explorer

「[Admin CSDB Editor](#)」を参照してください。

WbEM (Web-based Enterprise Management)

WbEM (Web-based Enterprise Management) とは、**DMTF (Distributed Management Task Force)** による、エンタープライズ コンピューティング環境で管理情報にアクセスするための標準技術を開発するイニシアティブです。

WMI (Windows Management Instrumentation)

WMI (Windows Management Instrumentation) とは、**Windows** プラットフォームを対象に **Microsoft** が実装した **WbEM (Web-based Enterprise Management)** です。**WMI** は、**WbEM** の **CIM (Common Information Model)** をサポートします。

ZCONFIG

ZCONFIG オブジェクトには、エージェント コンピュータの基本的なハードウェア情報 (プロセッサ、オペレーティング システム、ドライブなど) が格納されます。

ZMASTER

ZMASTER オブジェクトには、**HPCA Agent** を実行するために必要になるエージェント コンピュータについての情報 (サブスクライバの **ID**、エージェント コンピュータの **IP** アドレスなど) が格納されます。

ZSTOP

ZSTOP 式を使用すると、特定の基準に基づいてインスタンスの解決を停止できます。たとえば、特定のオペレーション システムのエージェント コンピュータのみに **ZSERVICE** インスタンスを配布する **ZSTOP** 式を作成することができます。

ZTIMEQ

ZTIMEQ オブジェクトは、HPCA Agent にタイマーが配布されるときに、Scheduler (TIMER) インスタンスの情報に基づいて作成されます。

アプリケーション

ソフトウェア、データ、およびサービスとも呼びます。

アプリケーションとは、サブスクリバのコンピュータ上で HPCA が管理できるコンテンツのタイプです。サブスクリバのコンピュータ上で管理するデータのパッケージを作成するには、HPCA Administrator Packager を使用します。

インスタンス

クラス インスタンスとも呼びます。

インスタンスとは、クラスの特定のオカレンスを保持する CSDB オブジェクトです。リレーショナル データ テーブルでの行、または従来のフラット ファイルでのレコードと似ています。インスタンスの属性には、そのクラスの特定のエンティティを記述するデータが含まれています。

エージェント オブジェクト

エージェント オブジェクトとは、エージェント コンピュータ上のファイルで、サービスおよびハードウェアの設定についての情報を格納します。

エージェント コンピュータ

エージェント コンピュータとは、HPCA Agent ソフトウェアがインストールされたコンピュータ (ワークステーションまたはサーバー) です。

オーディエンス リスト

対象者リストとは、HPCA 通知で使用されるアプリケーションのサブスクリバのディレクトリです。

オブジェクト

オブジェクトとは、エージェント コンピュータ上にある拡張子が .EDM のファイルに格納される変数を含むデータ構造です。1 つのオブジェクトは、1 つまたは複数のインスタンスから構成できます。各インスタンスには、同じ変数セットが含まれます。変数に保持される値は、インスタンスによって異なります。

オブジェクトを表示、編集、または作成するには、Admin Agent Explorer を使用します。

オプションのサービス

オプションのサービスは、**Application Self-service Manager** のユーザー インターフェイスを介してサブスクライバに提供されます。各サブスクライバは必要に応じてインストールするかどうかを決定できます。**Application** インスタンスの **ZSVCMO** 変数を **O** に設定すると、サービスがオプションになります。

解決

解決は、**Configuration Server** がサービス リクエストへの応答として 1 つの作業ユニットを完了させると発生します。作業のユニットは、**CSDB** の内容とサービル リクエスト自体に含まれるパラメータで定義されます。

つまり、**CHPCA** の作業は、**CSDB** にどのような情報が格納されており、あるアクションの実行を求める **HPCA** へのリクエストにどのような情報が付随しているかによって決まります。

たとえば、**HPCA Agent** 接続が、**Configuration Server** にオブジェクトを送信することによってサービス リクエストを送信したとします。続いて **Configuration Server** は各リクエストに対応するため、解決を実行します。サービス リクエストの処理を制御するパラメータは、入力オブジェクトに含まれています。

管理インストール ポイント (AIP)

管理制御ポイント (**ACP: Administrative Control Point**) とも呼ばれます。

AIP は、サーバー シェアまたはローカル ディレクトリ構造で、**Windows** インストールに対応するアプリケーションのセットアップを実行するために必要なすべてのファイルを格納します。

クラス

「インスタンス」を参照してください。

クラス インスタンス

「インスタンス」を参照してください。

クラス接続変数

クラス接続変数により、**HPCA Agent** 接続プロセスにおいて、クライアントの配布モデルの解決に使用されるパスが特定されます。解決プロセスの一部です。

クラス接続は解決され、クラス接続変数の属性の名前が **_ALWAYS_**、**INCLUDES**、**REQUIRES** であるか、属性名がシステム メッセージの現在の値と一致する場合には、クラス接続変数に指定されたターゲット インスタンスを使用して解決が続行されます。

クリーンなコンピュータ

クリーンなコンピュータとは、オペレーティング システムをインストールしたばかりで、何も変更されていないコンピュータです。

コンポーネント クラス

コンポーネント クラスとは、設定クラスのインスタンスによって指定されるコンテンツを構成するアイテム (ファイル、レジストリ エントリ、リンク、アイコンなど) を特定するために使用されるクラスのタイプです。通常、このクラスのインスタンスには、**FILE**、**REGISTRY**、または **DESKTOP** などの配布可能なデータが関連付けられています。

Admin CSDB Editor の **Class Editor** を使用してクラス タイプを「コンポーネント」に設定します。

サービス

ソフトウェア アプリケーション、アプリケーション、またはソフトウェアとも呼びます。サービスは、**HPCA** で管理されるコンテンツを定義する関連パッケージのグループを表します。

式変数

式変数には、解決時に実行される 1 行の **REXX** コマンドが格納されます。**ZSTOP** という属性の式が **true** と評価されると、現在のインスタンスの解決が終了されます。呼び出し元インスタンスでは、解決が、式変数を含むインスタンスを呼び出した変数の次の変数に対して続けられます。

システム ファイル保護 (SFP)

システム ファイル保護により、保護されたシステム ファイルが置換されることを防ぎます。保護されているファイルをプログラムが置換または移動しようとすると、ファイルのデジタル署名が確認され、ファイルが有効化かどうかは判別されます。

シンボリック置換

CSDB インスタンスおよび **HPCA agent** ジョブは、値を含む変数から構成されています。変数の値には、ほかの変数の値を参照する指定を含めることもできます。解決プロセスの過程で、**HPCA** は 1 つ目の変数の参照を 2 つ目の変数の値で置換することができます。

シンボリック置換で処理する参照は、先頭のアンパサンドを使用して指定します。

たとえば、**Configuration Server Database** の **SYSTEM.PROCESS.ZMASTER** インスタンス内の **_ALWAYS_** 接続変数の 1 つに、**POLICY.USER.&(ZMASTER.ZUSERID)** という値が含まれているとします。参照 **&(ZMASTER.ZUSERID)** は、**ZMASTER** オブジェクトの **ZUSERID** 変数を参照しています。この変数には、サブスクライバが **HPCA** ソフトウェア管理 Web ページを訪問するときに **HPCA Client** の **HPCA** ログオンダイアログボックスに入力するユーザー ID が格納されます。ユーザー ID に入力されたユーザーが **JDOE** である場合、シンボリック置換によって **_ALWAYS_** 接続変数の有効な値が **POLICY.USER.JDOE** となります。

置換は永続的なものではありません。つまり、**CSDB** の値は変更されません。現在の解決プロセスに対して **CSDB** インスタンスから派生する領域内のオブジェクトの値のみに、置換される値が含まれます。

参照が修飾されている、つまりピリオドを含む場合に限り、括弧が必要になります。参照が修飾されていない場合、括弧はオプションとなります。

たとえば、次のような置換指定は適切です。

&(ZMASTER.ZUSERID)

&(ZUSERID)

&ZUSERID

次の指定は不適切です。

&ZMASTER.ZUSERID

シンボル

シンボルとは、グローバルメモリの変数の名前で、先頭にアンパサンドが付きます。

スケジューラ

HPCA 管理者は、**Application Manager** とともにインストールされるスケジューラ サービス (**radsched.exe**) を使用して、指定の時間にサービスを配布できます。

セッション

セッションは、**Admin Packager** で実行されるパッケージ手順で、**HPCA** パッケージを作成します。

設定クラス

設定クラスは、コンポーネント クラスのインスタンスをグループ化することによって、サブスクリバのコンピュータ上で管理されるコンテンツを指定します。通常、設定クラスのインスタンスには、配布可能なデータが関連付けられていません。別の設定クラスのインスタンスなどを介して、1 つまたは複数のコンポーネント クラスに接続されます。例：ZSERVICE、PACKAGE、VGROUP、VERSION など。

Admin CSDB Editor の **Class Editor** を使用してクラス タイプを「設定」に設定します。

属性

フィールド、属性、またはプロパティとも呼びます。

属性とは、クラス内にある単一の説明的なデータ アイテムです。クラス テンプレートには、そのクラスに属する各属性の定義 (名前、データ タイプ、説明、長さなど) が含まれています。クラス インスタンスには、属性のセットが含まれており、それぞれの属性には値が含まれています。

属性プロパティ

属性プロパティは、**Configuration Server** および **HPCA agent** コンピュータ上での属性の処理方法の一部を制御します。クラス テンプレート定義されている各属性には、**Configuration Server** プロパティのセットとクライアント プロパティのセットが含まれています。

タイマー

「スケジューラ」を参照してください。

通知

通知は、**Configuration Server** に接続してアプリケーションをインストール、更新、削除するよう 1 つまたは複数のエージェント コンピュータに強制したり、特定のサービスのサブスクリバに電子メールを送信したりします。

転送

Admin Packager によって作成されたパッケージを転送すると、**CSDB** にパッケージが格納されます。

ドメイン

ドメインは、「like」クラスをグループ化することにより、CSDB 内のファイルを論理パーティションに分けます。3つの例として、POLICY ドメイン、SOFTWARE ドメイン、SYSTEM ドメインがあります。

- POLICY ドメインには、ユーザーを個別に特定するか、ほかのユーザーのグループと関連付けて特定するクラスが含まれます。
- SOFTWARE ドメインには、アプリケーションの定義と配布に必要なクラスが含まれます。HPCA 管理者は、ほとんどの作業を PRIMARY ファイルの POLICY ドメインと SOFTWARE ドメインで行います。
- SYSTEM ドメインには、管理制御およびプロセス制御の定義が含まれます。

バージョン グループ

バージョン グループとは、HPCA が配布および管理するアプリケーションの 1 つまたは複数のバージョンの集合体です。バージョン グループを使用すると、適切なサブスライバにアプリケーションの新しいバージョンを公開し、配信時または事前設定された時間にアクティブにすることができます。

バイト レベルの差異計算

バイト レベルの再計算とは、リソースの更新または修正を含むパッチをパッケージ化するプロセスです。パッチの算出は、CSDB 内のリソースの既存のコピーと、現在パッケージされているリソースとを差異計算することによって行われます。

パッケージ

パッケージとは、個別のユニットとしてまとめられるデータのことです。

パブリッシュ

関連するデータのセットを、HPCA で管理可能な 1 つのユニットにバンドルすることです。

必須サービス

必須サービスとは、エージェント コンピュータで必要とされるサービスです。Application インスタンスの ZSVCMO 変数を M に設定すると、サービスが必須になります。

ファイル

ファイルは CSDB の階層の最上位に位置し、類似のドメインをグループ化します。このレベルの例として、PRIMARY ファイルがあります。

PRIMARY ファイルは、配布モデルの定義および管理に使用します。これは、**Configuration Server** によって配布され、**HPCA** の初回インストール時にインストールされる、あらかじめ設定されたファイルの 1 つです。このほかに、**NOTIFY** ファイルや **PROFILE** ファイルがあります。**HPCA** 管理者のほとんどの作業は、**PRIMARY** ファイルで行います。

ベース インスタンス

ベース インスタンスには、クラスに属する属性のデフォルト値が格納されます。そのクラスに新しいインスタンスを作成すると、新しいインスタンスの属性はベース インスタンスに指定されているデフォルト値を継承します。

変数

変数とは、変動する値を保持する、名前の付けられた格納場所のことです。変数の値は、クライアントの解決済み配布モデルの一部であり、メッセージングやシンボリック置換を介して解決プロセスに影響を与えます。

ポリシー

ポリシーは、各サブスクライバやコンピュータがどのソフトウェアにアクセスできるかを決定します。**POLICY** ドメインのクラス インスタンスは、ユーザーを特定します。**POLICY** クラス インスタンスへの接続は、これらのサブスクライバに対して管理するコンテンツを特定します。

無人状態

無人状態のコンピュータとは、現在人が使用していない（利用中ではない）コンピュータのことです。

メソッド

メソッドとは、呼び出し元のコンテキストで意味のある関数を実行するプログラムです。

メソッドは **REXX** で記述することも、呼び出し元のプラットフォームで有効に実行できる実行可能ファイルを生成する言語で記述することもできます。**HP** の提供する **REXX** ランタイム環境は、**REXX** メソッドを解釈します。

クライアント メソッドはエージェント コンピュータ上で、**Configuration Server** メソッドは **Configuration Server** コンピュータ上で実行されます。

メソッド変数

メソッド変数は、解決プロセスの一部として実行されるメソッドまたはプログラムを特定します。

Configuration Server メソッドの場合は、実行するメソッドとそれに渡されるパラメータを特定する、**SYSTEM** ドメインの **PROCESS** クラスのインスタンスへの参照を格納します。**Configuration Server** メソッドの格納場所は、実行可能なメソッドの場合は **Configuration Server** の bin サブフォルダで、**REXX** メソッドの場合は、**REXX** サブフォルダです。

HPCA agent メソッドの場合、**HPCA agent** コンピュータ上で実行されるメソッドの名前を格納します。クライアント メソッドを実行するメソッド変数の名前は、**HPCA agent** メソッドを実行する対象のイベント (ソフトウェアのインストールや削除など) を特定します。**HPCA agent** メソッドは、**HPCA agent** コンピュータの **IDMSYS** にあります。

要求ステート

要求ステートは、**HPCA** が特定のエージェント コンピュータのために管理するコンテンツを統合したものです。各エージェント コンピュータの要求ステートを示すモデルが **CSDB** に格納されています。要求ステートのモデルは、**Admin CSDB Editor** を使用して作成され、管理されます。

リソース

ファイルとも呼ばれます。

リソースとは、パッケージにバンドルされる単一のコンポーネントです。リソースには、ファイル、デスクトップリンク、レジストリ キーのセットなどがあります。

利用中

利用中のコンピュータとは、ユーザーがログオンして使用しているコンピュータのことです。

索引

\$

\$MACHINE, 35, 159

\$USER, 35, 159

.

.NET

インストール, 45

.NET Framework セットアップ ウィザード, 45

.NET ベータ, 45

—

ALWAYS 属性, 98, 146, 170

A

ABORT 属性, 104

ACTDATE 属性, 144

Active Directory, 70

ACTMAINT 属性, 109

ADAPTIVE スロットリング, 95, 108

ADAPTIVE 属性, 149

ADDDONE 属性, 67

ADDFAIL 属性, 67

ADDLOCAL 引数, 31, 40, 54

ADDNUM 属性, 67

ADDSKIP 属性, 67

ADINFO

オブジェクト, 107

属性, 107

ADMIN ドメイン, 22

Agent, 定義, 226

エージェント コンピュータ, 定義, 229

AIP, 29

Alert/Defer クラス, 222

ALERTDEF クラス, 222

ALERTDEF クラス インスタンス

作成, 222

接続, 224

設定, 222

ALERTMSG 変数, 223, 224

alog パラメータ, 74

ALWAYS_D 属性, 107

ALWAYS_S 属性, 107

APP_VER 属性, 114

APPEVENT オブジェクト, 110

Application Manager, 40

Application Self-service Manager, 40

APPMGMT ドメイン, 22

args.xml, 30, 33, 35, 129

ARNOREMOVE 引数, 31

ask パラメータ, 160

askconfirm 引数, 34

ASKOFFL 属性, 118

AUDIT ドメイン, 22

AUTHOR 属性, 147

autofix 属性, 164

B

BANDWIDTH 属性, 68, 95, 108
BNBNDWTH 属性, 118
BNHISTORY 属性, 118
BNHOME 属性, 118
BNMYSOFT 属性, 118
BNPREFER 属性, 118
BNSTATUS 属性, 118
BOOTDRVI 属性, 64
BOOTDRV 属性, 63
BTNCANCL 属性, 120
BTNDEL 属性, 120
BTNDWLD 属性, 120
BTNINST 属性, 120
BTNPAUSE 属性, 120
BTNRECFG 属性, 120
BTNREPR 属性, 120
BTNUNDO 属性, 120
BTNUPDT 属性, 120
BTNVRFY 属性, 120
BWSTRTUP 属性, 118
BYTERCVD 属性, 68
BYTESENT 属性, 69

C

cacert.pem, 36
CACHE 属性, 150
CACHELIM 属性, 150
CACHELOC 属性, 150
cat パラメータ, 158, 161
CATALOG 属性, 147

catexp パラメータ, 161, 164

CATGROUP 属性, 200

CDFCFG クラス, 90, 104

CFG オブジェクトを常にダウンロードする, 107

CFG オブジェクトを常にアップロードする, 107

channelname 引数, 34

Client Explorer. (HPCA Admin Agent Explorer)

CLIENT ドメイン, 22, 90

LOCATION クラス, 116

NTFYSEC クラス, 116

RADHWCFG クラス, 112

RADUICFG クラス, 117

CLISTATS オブジェクト, 110

CMDLINE 属性, 68, 70

CMETHOD 属性, 107

COLNAMES 属性, 119

COLORBAK 属性, 119

COLORBTN 属性, 119

COLORSEL 属性, 119

COLORSET 属性, 119

COLORWK 属性, 119

COLTYPE 属性, 119

COMPDN 属性, 70

COMPSIZE 属性, 152

Configuration Server

COP ロール

エージェントセルフメンテナンス, 92

説明, 23

定義, 18

Configuration Server Database

インスタンス

定義, 21

- クラス
 - 定義, 21
- 構造, 21
- 属性
 - 定義, 21
- ドメイン
 - 定義, 21
- 内容, 21
- ファイル
 - 定義, 21
- connect.bak, 35, 73
- connect.log, 60, 73
- context パラメータ, 162
- CONTROL 属性, 143
- cop パラメータ, 163
- COP パラメータ, 101
- Core 設定クラス, 90, 106
- COUNTRY クラス, 82
- CPU 属性, 113
- CREFRESH 属性, 68
- CTYPE 属性, 70
- CURRAPP 属性, 67
- CURRINS 属性, 67
- CURVERS 属性, 144
- CUSTIMG 属性, 119
- CUSTOM, 35
- CUSTTEXT 属性, 119
- CUSTTITLE 属性, 119
- CUSTURL 属性, 119

D

- DA 変数, 224
- DAT 変数, 223

- DATA タイプ, 92
- datauri パラメータ, 164
- DBT 変数, 223
- default_catalog 引数, 34
- default_catalog_only 引数, 34
- DEFOPTNS 変数, 224
- DEFROLE 属性, 109
- del パラメータ, 165
- DELDATE 属性, 153
- DELDONE 属性, 68
- DELFAIL 属性, 68
- DELNUM 属性, 67
- DELSKIP 属性, 67
- DEPT クラス, 82
- DESCRIPT 属性, 147
- DESCTEXT 属性, 105
- DESCTXT2 属性, 105
- DETPROXY 属性, 109
- DHCPSR0n 属性, 64
- DHCPSVR 属性, 64
- DI 変数, 224
- DIAGS
 - クラス, 98
- DIAGS クラス, 90, 111
- DISCOVER 属性, 38
- DISKFREE 属性, 109
- DM 変数, 223
- DN 変数, 223
- dname パラメータ, 158
- DNAME パラメータ, 71
- DNSDMN01 属性, 64

DNSDOMN 属性, 64
DNSHNM01 属性, 64
DNSHOSTN 属性, 64
DOMAINS 属性, 105
DSCAN00n 属性, 114
DT 変数, 223
DTO 変数, 224
DU 変数, 224

E

EDMSIGN, 198
EDMSIGNR, 198
EMAIL 属性, 185, 192
ENABLE 属性, 104
ENABLED 属性, 69, 94
ENDTIME 属性, 67
EQUISORT 属性, 106
ERRCOUNT, 69
ERRORMSG 属性, 67
ERTYPE 属性, 148
EVENTS 属性, 148
EXASETUP 属性, 107
EXBEXIT 属性, 108
EXBOUTBX 属性, 107
EXBSETUP 属性, 107
EXITCODE 属性, 67
EXPCITEM 属性, 120
EXPSITEM 属性, 119

F

FILEMISS 属性, 69
FILERCVD 属性, 69

FILESENT 属性, 69
FILTER 属性, 96
flushu パラメータ, 162
Forced カラム, 119

G

GATEWY01 属性, 64, 114

H

HAL Statistics, 114
HAL_VER 属性, 114
HALCOMP 属性, 64, 114
HALDATE 属性, 64, 114
HALFNAME 属性, 64, 114
HALFVER 属性, 64, 114
HALINAME 属性, 64, 114
HALLANG 属性, 64, 114
HALPNAME 属性, 64, 114
HALPVER 属性, 64, 114
HALSIZE 属性, 64, 114
HARDWARE_SCAN オブジェクト, 195
HDLOCAL 属性, 114
HDREMOTE 属性, 114
HPCA Admin Agent Explorer, 25, 182
説明, 226
HPCA Admin Configuration Server Database
Editor. (HPCA Admin CSDB Editor)
HPCA Admin CSDB Editor, 24, 198
HPCA Admin CSDB Editor, 説明, 226
HPCA Admin Packager, 24
HPCA Admin Publisher, 25
HPCA Admin Screen Painter, 説明, 25

HPCA Administrator, 24, 182
HPCA Administrator Publisher
説明, 226
HPCA Administrator Screen Painter, 説明, 226
HPCA agent
バージョン, 60
HPCA Agent
インストール, 43
 コマンドライン, 39
 シンクライアントへ, 47
 ログオンスクリプト, 42
インストールプログラム, 28
インストールの変更
 インストールウィザード, 53
 コマンドライン, 53
削除
 インストールウィザード, 46
システム要件, 28
修復
 インストールウィザード, 52
 コマンドライン, 52
デフォルトポート, 47
下位機能の選択, 44
モジュール, 73
ログ, 73
削除
 コマンドライン HPCA Agent
 サクジョ
 コマンドライン, 46
HPCA Agent インストールウィザード, 43
HPCA agent 接続, 定義, 19
HPCA Agent のログ, 73
HPCA Agent モジュール
 RADCONCT, 73
 RADPINIT, 73
 RADSKMAN, 73

HPCA Agent, 定義, 18
HPCA Agent 上のキャッシュ場所, 150
HPCA Application Manager
説明, 226
HPCA Application Self-service Manager
説明, 227
ユーザーインターフェイス, 198
 アクセス, 198
 サイドバー, 199
 セキュリティ, 198
ユーザーインタフェース
 カタログリスト, 200
 サービスリスト, 201
ユーザーインターフェイス
 イベントの時間をスケジュール, 211
 パスワード認証, 198
ユーザーインタフェース
 ソフトウェアのインストール, 209
 ソフトウェアの検証, 212
 ソフトウェアの再設定, 212
 ソフトウェアの削除, 213
 ソフトウェアの修復, 212
Software Manager. HPCA Application Self-service Manager:説明
HPCA Application Self-Service Manager
ユーザーインターフェイス
 グローバルツールバー, 199
ユーザーインターフェイス
 カタログのリフレッシュ, 210
 情報の表示, 210
HPCA Application Self-service Manager のユーザーインターフェイス, 198
HPCA Application Self-service Manager で情報を表示する
 ユーザーインターフェイス, 210
HPCA Configuration Server, 198
COP ロール
 すべて, 93

- データ ダウンロード, 93
- レポート, 93
- COP ロール
 - サービス解決, 92
- 説明, 227
- HPCA Configuration Server Database
 - 説明, 227
- HPCA Core, 17, 27
- HPCA Inventory Manager
 - 説明, 227
- HPCA Policy Server, 80
- HPCA Portal, 116
- HPCA Proxy Server
 - 説明, 228
- HPCA Satellite, 17, 27
- HPCA インフラストラクチャ, コンポーネント,
23
- HPCA システム トレイ メニュー
 - コマンド, 121
 - テキスト, 121
- HPCA システム トレイ, 108, 216
- HPCA システム トレイのアイドル状態, 216
- HPCA システム トレイのコマンドライン引数,
108
- HPCA スケジューラ, 156, 167
- HPCA 通知, 156, 184
 - 説明, 184
- HPCAE-MgmtAppsxx.msi, 29, 30, 52
- HPCA システム トレイのアクティブ状態, 216
- HPCA システム トレイのコンソール ビュー,
216
- HPCA システム トレイのコンソール ビュー
情報パネル, 217
 - ステータス メッセージ領域, 217
 - ステータス領域, 217

- バンド幅設定, 217
- ボタンバー, 217
- HPCA スケジューラ
 - 説明, 167, 232
- hreboot パラメータ, 132, 160
- HTTP オブジェクト転送, 35
- |
- identification 引数, 34, 43
- IDMDATA パラメータ, 60
- IDMLIB ディレクトリ, 32, 33, 58, 60, 63
- IDMLIB パラメータ, 60
- IDMLIB ディレクトリ
 - 開始, 37
- IDMLOG, 35
- IDMLOG パラメータ, 60
- IDMROOT パラメータ, 60
- IDMSYS ディレクトリ, 32, 107
- IDMSYS パラメータ, 60
- ind パラメータ, 160
- INITIAL 属性, 143
- initmeth.rex メソッド, 101
- Install.ini, 29, 33, 41, 100
 - Args セクション, 33
 - Objects セクション, 37
 - Properties セクション, 30
 - PROPERTIES セクション, 36
 - 準備, 30
- Install.ini の Args セクション, 33
- Install.ini の Objects セクション, 37
- Install.ini の Properties セクション, 30
- Install.ini の PROPERTIES セクション, 36
- INSTALLDIR 引数, 31, 43

INSTDATE 属性, 153
Inventory Manager, 40
IP パラメータ, 158
IPADDR01 属性, 64, 114

J

JOBID 属性, 68, 70
jobid パラメータ, 160

L

LADAPT01 属性, 64, 114
LASTAXSD 属性, 69
LICENSE ファイル, 22
Local AIP Extension, 40
local パラメータ, 162
LOCALUID 属性, 70, 159, 192
LOCATION インスタンス, 97
LOCATION クラス, 91, 97, 100
log パラメータ, 74, 160
log 引数, 35
LOGNAME 属性, 74
logonpanel 引数, 35
logsize パラメータ, 161
logsize 引数, 35
LREPAIR 属性, 149
LSCRIPT 属性, 107

M

MACHFREQ パラメータ, 162
MACHNAME 属性, 68, 70
managerurl 引数, 35
Mandatory Applications Timer, 181

MBLCONFIG クラス, 82
MCELIGBL 属性, 151
MEMORY 属性, 113
merge パラメータ, 165
mname パラメータ, 158
MNAME パラメータ, 71
mnt パラメータ, 163, 165
MSIDRVR, 57
MSIEXEC, 52
MULTICAST クラス, 82

N

NAME 属性, 69, 94, 98, 104, 106, 112, 113, 121, 144, 145, 148, 170
Name 変数, 224
NETAVAIL 属性, 170
NETLOC 属性, 97
NETLOC01 属性, 114
NETTTL 属性, 96
NETWORK 属性, 114
NEXTVERS 属性, 144
Notify Retry Manager, 190
NOTIFY ファイル, 191
 ファイル構造, 191
NOTIFY ファイル
 説明, 22
NT ユーザー グループ情報のクエリを行う, 107
NTFYCMDL 属性, 192
NTFYDATE 属性, 192
NTFYDOMN 属性, 192
NTFYINS 属性, 192
NTFYMSG 属性, 192

NTFYPORT 属性, 192
 NTFYPWD 属性, 192
 NTFYRC 属性, 192
 NTFYRNUM 属性, 192
 NTFYRTIM 属性, 192
 NTFYSEC クラス, 91, 116
 NTFYSUBJ 属性, 192
 NTFYTIME 属性, 192
 NTFYTYPE 属性, 192
 NTFYUINF 属性, 192
 NTGROUPS
 オブジェクト, 107
 NTYFYDLAY 属性, 192
 NTYFYMAC 属性, 193
 NTYFYMASK 属性, 193
 NTYFYRMAX 属性, 192
 null インスタンス, 定義, 227
 NVD.INI ファイル, 35
 NVD.INI ファイルの [NOVAEDM] セクション,
 60
 NVD.INI ファイル
 ロケーション, 60
 NVDARG, 55
 NVDENABLEIP 引数, 31, 36
 NVDENABLEPROXY 引数, 32
 NVDENABLESHORTCUT 引数, 32
 NVDENABLEUSER 引数, 31
 NVDINSTALLPATCH, 40
 NVDINSTALLPBR, 40
 NVDINSTALLPLUSHP, 40
 NVDINSTALLRAM, 40
 NVDINSTALLRIM, 40
 NVDINSTALLRLAE, 40
 NVDINSTALLROM, 40
 NVDINSTALLRSM, 40
 NVDLOCALNOTIFYONLY 引数, 33
 NVDMAINTDIR 引数, 32
 NVDNOTIFYINTERACT 引数, 33
 NVDOBJ, 55
 NVDPOSTCAPATH 引数, 33, 56
 NVDPRECAPATH 引数, 33, 54
 NVDRADTRAYSTART 引数, 33
 NVDRAMCONNECT 引数, 32
 NVDRAMSHORTCUT 引数, 32
 NVDRAMSTARTMENUSHORTCUT 引数, 32
 NVDREDIRECTORINTERACT 引数, 33
 NVDSCHEDULERINTERACT 引数, 33
 NVDSHORTCUT 引数, 32
 NVDSTARTMENUICON 引数, 32
 NVDSTARTWMICFGMGR 引数, 32

○
 OBJRCVD 属性, 69
 OBJSEND 属性, 69
 OS Manager, 40
 OS 属性, 105, 113
 OWNER 属性, 148

P
 PACKAGE 属性, 145
 Patch Manager, 40
 PATCH ドメイン, 22
 PATCHMGR 属性, 105

PDACONFG クラス, 82
PERIPHER 属性, 114
Personality Backup and Restore Utility, 40
PINGCNT 属性, 170
PINGDLAY 属性, 170
plusHP, 40
PlusHP, 40
PNLOUTBR 属性, 118
POLICY ドメイン, 22
 アクセス, 81
 デフォルト クラス, 82
 COUNTRY, 82
 DEPT, 82
 MBLCONFG, 82
 MULTICAST, 82
 PDACONFG, 82
 STAGER, 82
 USER, 82
 WORKGRP, 83
port パラメータ, 159
PRDMAINT ドメイン, 22, 213
PREFACE オブジェクト, 62
PREFACE オブジェクト
 属性, 70
preload パラメータ, 165
PRICE 属性, 147
PRIMARY ファイル, 22
PRINTER 属性, 114
PRIORAPP 属性, 67
PRIORERR 属性, 67
PRIORINS 属性, 67
PRIORITY 属性, 69, 95
PROCESS クラス, 100
PRODUCT 属性, 96

product パラメータ, 164
PROFILE ファイル
 オブジェクト, 72
providername 引数, 35
PROXADDR 属性, 38
Proxy Server, 24
 説明, 24
Proxy Server の使用, 120
PROXY 属性, 69, 95
PROXYADD 属性, 120
PROXYDSC 属性, 120
PROXYINF オブジェクト, 32
PROXYINF.EDM, 58
PROXYPRT 属性, 120
PROXYUSE 属性, 120
PUBDATE 属性, 147
Push Manager, 188
PUSHBACK 属性, 95, 106

R

RAD2XUI 属性, 109
RADALERT クラス, 90, 103
RADCONCT, 73
RADEXECD, 116
RADHWCFG
 クラス, 98
 サンプル ダイナミック スキャン, 113
 デフォルト ハードウェア スキャン, 113
 ハードウェア設定, 113
 ベース インスタンス, 113
RADHWCFG クラス, 91, 112
Radia ユーザー インターフェイス ダイアログ
 ボックス, 109

RADIA.MSI, 41
 RADNTFYD.log, 195
 RADPINIT, 73
 RADSCHED, 167, 184
 RADSCHED.LOG, 184
 RADSETUP
 インスタンス, 100
 オブジェクト, 100, 101
 ディレクトリ, 107
 RADSETUP_COP 属性, 38
 RADSHIST.LOG, 184
 RADSKMAN, 73
 COP パラメータ, 101
 コマンドライン, 157
 デフォルト ロケーション, 181
 radstate, 74
 冗長モード, 75
 モード
 ?, 75
 a, 75
 b, 75
 c, 75
 d, 75
 e, 75
 i, 75
 m, 75
 o, 75
 r, 75
 s, 75
 u, 75
 v, 75
 RADSTATE
 コマンド文字列, 112
 属性, 112
 プログラム, 111
 RADSTATE のコマンド文字列, 112
 RADTIMEQ, 184
 RADTIMEQ.LOG, 184
 RADTRAY 属性, 108
 RADUI 2.x の有効化, 109
 RADUICFG
 クラス, 98
 RADUICFG クラス, 91, 117
 RALF, 47
 RCS からデータをダウンロードする, 106
 RCS タイプ, 92
 RCSDATA 属性, 106
 rcsuri パラメータ, 164
 REBOOT 属性, 148
 REBOOTD 属性, 64, 113
 REBOOTT 属性, 64, 113
 RECONFIG 属性, 149
 redirect タグ, 35
 redirect 引数, 35
 REMOVAL 属性, 149
 REMOVE 引数, 40, 46, 54
 REMUNINS 属性, 109
 rep パラメータ, 165
 REPDONE 属性, 68
 REPFAIL 属性, 68
 REPNUM 属性, 68
 REPSKIP 属性, 68
 REQACTDT 属性, 143
 REQACTTM 属性, 144
 RESERVED スロットリング, 95, 108
 resolutionmanager 引数, 36, 44
 resolutionport 引数, 36, 44
 RETRYFLG 属性, 170
 RETRYINT 属性, 170

RETRYLMT 属性, 170

RETRYRC 属性, 171

ROLE 属性, 69, 92, 93, 94

ROLLBACK 属性, 143

root_catalog_name 引数, 36

RSM UI 設定クラス, 91

RSTROPT 属性, 109

RSTRSIZE 属性, 151

rtimeout パラメータ, 161

RUNDLG 属性, 148

RUNSYNC 属性, 173

S

SAP インスタンス

優先度の設定, 98

SAP クラス, 91, 92

ROLE 属性, 93

SAP 優先度, 98

SAPPING 属性, 106

SAPPRI 属性, 98, 99

SAPSTATS オブジェクト, 62

属性 SAPSTATS オブジェクト
ゾクセイ, 68

SAP インスタンス

設定基準, 97

SCANTYPE 属性, 64

SCHEDOK 属性, 147

Screen Painter. (HPCA Admin Screen Painter)

sendcat パラメータ, 165

SENDRPT 属性, 110

SETTINGS

クラス, 98

SETTINGS クラス, 90, 106

setup.exe, 29

ロケーション, 41

SHWADVOP 属性, 120

SHWCATLG 属性, 118

SHWCOLEX 属性, 120

SHWGRID 属性, 120

SHWINFO 属性, 120

SHWMENUS 属性, 118

SHWSCHEV 属性, 121

SIZE 属性, 152

SMINFO オブジェクト, 62

sname パラメータ, 159

SOFTWARE 属性, 105

SOFTWARE ドメイン, 22

SOURCE 属性, 144

SPEED 属性, 69

sslmanager 引数, 36

sslmgr パラメータ, 165

sslport パラメータ, 165

sslport 引数, 37

STAGER クラス, 82

startdir パラメータ, 159

startdir 引数, 37

STARTIME 属性, 67

STATSTRT, 119

STATUS 属性, 69, 144

STREAM 属性, 69, 95

STRTCHNG 属性, 118

STRTFILE 属性, 118

STRUPMSG 属性, 118

SUBNET01 属性, 64, 114
SYNOPSIS オブジェクト, 62
SYNOPSIS オブジェクト
属性, 67
System Explorer. HPCA Admin CSDB Editor
SYSTEM ドメイン, 22, 100

T

TCMDTXT0n 属性, 121
THROTYPE 属性, 69, 95, 108
TIMEOUT 属性, 69, 95, 105, 108
[Timer Parameter] ツクス, 179
TIMER 属性, 170
TIMERCON 属性, 144
TMNUTXT0n 属性, 121
TYPE 属性, 69, 92, 94
TYPE=DAT, 93
TYPE=RCS, 93

U

UI クラス接続, 98
UI 再起動での接続を無効にする, 107
uid パラメータ, 159
UIOPTION 属性, 37, 150, 218, 221
ulogon パラメータ, 163
Universal Resource Identifier. (URI)
upd パラメータ, 165
UPDDDATE 属性, 147
UPDDONE 属性, 67
UPDFAIL 属性, 67
UPDNUM 属性, 67
UPDSKIP 属性, 67

UPGDATE 属性, 153
UPGRDMAINT, 109
URI
作成, 96
例, 97
URI 属性, 69, 94
[URL] カラム, 206
URL 属性, 147
USEDEFS 属性, 108
USELSAP 属性, 106
USEPROXY 属性, 38
User クラス, 82
USER クラス, 83
USEREXEC 属性, 68, 71
userfreq パラメータ, 163

V

VENDOR 属性, 147
ver パラメータ, 165
VERCON0n 属性, 144
VERDATE 属性, 153
VERDONE 属性, 68
VERFAIL, 68
VERIFY_INTERVAL, 190
VERNUM 属性, 68
VERSION 属性, 147
version インスタンス
バージョングループへの割り当てを解除する,
140
Version インスタンス
削除, 139
作成, 138
バージョングループへの割り当て, 139

VERSKIP, 68
VGROUP インスタンス, 136, 141
VGROUP インスタンス
作成, 138

W

Wake-on-LAN, 193
Wake-On-LAN, 193
Wake-On-LAN, ドラッグ アンド ドロップ通知
用の設定, 194
WbEM (Web-based Enterprise Management),
定義, 228
Web URL 名, 147
Windows CE, 49, 50
Windows Terminal Server, 28, 39
Windows WES, 50
Windows XPE, 48, 50
Windows インストーラ ログ, 41
WMI (Windows Management Instrumentation),
定義, 228
WMISCAN 属性, 114
WOL. (Wake-On-LAN)
WORKGRP クラス, 83
WTSSRVR 属性, 113

X

XML タグ, 34

Z

ZAVIS 属性, 152
ZBITARCH 属性, 152
ZCHNNAME 属性, 173
ZCIPADDR 属性, 192
ZCMDNAME パラメータ, 195

ZCMDPRMS 属性, 189
ZCMDPRMS パラメータ, 195
ZCMDTYPE パラメータ, 195
ZCONFIG オブジェクト, 62, 72, 97, 100, 194
定義, 228
ZCONFIG の属性, 113
ZCONFIG オブジェクト
属性, 63
ZCONTEXT 属性, 68, 71, 125, 126
ZCREATE 属性, 146, 174
ZDELETE 属性, 147, 174
ZDISCONN 属性, 150
ZDOMNAME 属性, 71
ZDSTSOCK 属性, 37, 55
ZEXTSEC 属性, 116
ZGATEWAY 属性, 64, 114
ZGRPINFO 属性, 107
ZHDFPU01 属性, 113
ZHDW00C 属性, 114
ZHDW00S 属性, 114
ZHDW00T 属性, 114
ZHDW00 属性, 114
ZHDW01C 属性, 114
ZHDWARCH 属性, 64
ZHDWBIOS 属性, 65, 113
ZHDWCDDR 属性, 65, 114
ZHDWCOMP 属性, 65, 113
ZHDWCPU 属性, 65, 113
ZHDWCPUN 属性, 65, 113
ZHDWCPUS 属性, 65, 113
ZHDWCTYP 属性, 65

ZHDWD00 属性, 65, 114
 ZHDWD00C 属性, 65, 114
 ZHDWD00F 属性, 65, 114
 ZHDWD00S 属性, 65, 114
 ZHDWD00T 属性, 65
 ZHDWD01 属性, 65, 114
 ZHDWD01C 属性, 65
 ZHDWD01F 属性, 65
 ZHDWD01S 属性, 65
 ZHDWD01T 属性, 65
 ZHDWDF_A 属性, 65, 114
 ZHDWDLST 属性, 65, 114
 ZHDWDNUM 属性, 65, 114
 ZHDWFPU 属性, 65, 113
 ZHDWIPAD 属性, 65, 114
 ZHDWKYBD 属性, 65, 114
 ZHDWLANA 属性, 65, 114
 ZHDWLANG 属性, 65, 113
 ZHDWMEM 属性, 65, 113
 ZHDWMEMF 属性, 65, 113
 ZHDWMOUS 属性, 65, 114
 ZHDWNET1 属性, 66, 114
 ZHDWNNET 属性, 66, 114
 ZHDWOS 属性, 66, 113
 ZHDWOSCL 属性, 66
 ZHDWOSDB 属性, 66, 113
 ZHDWOSOG 属性, 66, 113
 ZHDWOSOW 属性, 66, 113
 ZHDWPA00 属性, 66, 114
 ZHDWPA01 属性, 66, 114
 ZHDWPPAR 属性, 66, 114
 ZHDWPPRN 属性, 66, 114
 ZHDWPSE 属性, 66, 114
 ZHDWSVCP 属性, 66, 113
 ZHDWVIDO 属性, 66, 114
 ZHDWVIE 属性, 66, 114
 ZHDWVMSI 属性, 66, 114
 ZHDWVRES 属性, 66, 114
 ZHDWXPAG 属性, 66, 113
 ZHWCPU01 属性, 66, 113
 ZHWFPU01 属性, 66
 ZIGNDURI 属性, 117
 ZIGNRURI 属性, 117
 ZINIT 属性, 146
 ZIPADDR 属性, 37
 ZMASTER オブジェクト, 42, 72, 73
 定義, 228
 ZMASTER.EDM, 42
 ZMGRNAME 属性, 71
 ZMODEM 属性, 66
 ZNETLOC 属性, 100, 114
 ZNOPING 属性, 171
 ZNORSPNS, 95
 ZNTFPORT 属性, 37
 ZNTFYSEC 属性, 37, 116
 ZOBJPRI 属性, 173
 ZOBJRRC 属性, 66
 ZOBJRSTY 属性, 66
 ZPENDING 属性, 171
 ZPRVNAME 属性, 174
 ZREPAIR 属性, 147

ZRSCCMDL 属性, 171, 172, 180, 183
 ZRSTATE オブジェクト, 112
 ZRSTATES オブジェクト, 112
 ZRTRYMGR タスク, 190
 ZSCHDEF 属性, 172, 174
 HOURLY, 176
 INTERVAL, 177
 MONTHDAY, 177
 MONTHLY, 178
 STARTUP, 179
 WEEKDAY, 174, 177
 WEEKLY, 176
 構文, 176
 時間形式, 174
 制限時間パラメータ, 175
 日付形式, 175
 ZSCHDEF 属性
 DAILY
 ZSCHDEF ゾクセイ
 DAILY, 176
 NUMDAYS
 ZSCHDEF ゾクセイ
 NUMDAYS, 178
 ZSCHFREQ 属性, 172, 174
 ZSCHFREQ=RANDOM, 175
 ZSCHMODE 属性, 173
 ZSCHTYPE 属性, 172
 ZSERVICE クラス, 126, 222
 ZSERVICE 属性, 145
 ZSYSACCT, 130
 ZSERVICE.REBOOT 属性, 132
 ZSTATUS オブジェクト, 73
 ZSTOP 式, 94
 ZSTOP 属性, 173
 ZSTOP00n 属性, 94
 ZSTOP00n 属性, 143, 145
 ZSTOPnmm, 145
 ZSUBNET 属性, 114
 ZSVCCAT 属性, 149
 ZSVCCSTA 属性, 152
 ZSVCMO 属性, 146
 ZSVCMODE 属性, 126, 131, 151
 設定, 128
 ZSVCMODE の EMU 値, 127
 ZSVCNAME 属性, 146
 ZSVCOID 属性, 173
 ZSVCPRI 属性, 146
 ZSVCSTAT オブジェクト, 73, 110
 ZSVCTTYP 属性, 146
 ZSYSACCT 属性, 130, 151
 編集, 130
 ZTIMEO 属性, 38
 ZTIMEQ オブジェクト, 167, 171, 180, 181
 ZTIMEQ.EDM, 181
 削除, 182
 配布の優先度, 173
 表示, 182
 表示する
 変数を編集する, 183
 変数
 編集する, 183
 変数を編集する, 183
 定義, 229
 ZTIMEQ.EDM, 181
 ZTRACE 属性, 38, 112
 ZTRACEL 属性, 38, 112
 ZUPDATE 属性, 147, 174
 ZUSERID 属性, 38, 66, 68, 71, 192

ZVERIFY 属性, 147, 174

ZVRFYPWD 属性, 116

ZVRFYUID 属性, 38, 116

あ

アウトボックスのフラッシュ前スクリプト, 107

アクティブディレクトリ情報のクエリを行う, 107

アクティブなカタログ アイテムを展開, 205

アクティブなサービス アイテムを展開, 205

[圧縮後のサイズ] カラム, 205

[アップグレード日] カラム, 206

アプリケーション

定義, 229

アプリケーション バージョン, 114

アプリケーション警告, 222

アプリケーション警告メッセージ, 220

アプリケーション サイズ

圧縮あり, 152

圧縮なし, 152

アプリケーションの延期, 220

アプリケーションのコンテキスト, 151

アプリケーションの説明, 147

アプリケーションのターゲット タイプ, 146

アプリケーションの延期

アプリケーションノエンキ, 222

い

イベント レポート メソッド, 148

イベント, スケジュール, 211

イベントの時間, スケジュール, 211

イベントの時間のスケジュール, 210

インスタンス

定義, 229

インスタンス, 定義, 21

インストール

HPCA Agent

インストール ウィザード, 43

コマンドライン, 39

シンクライアントへ, 47

ログオンスクリプト, 42

ソフトウェア

HPCA Application Self-service Manager

ユーザー インタフェース, 209

インストール アプリケーション イベント, 132

インストール ウィザード

インストール

HPCA Agent, 43

修復

HPCA Agent

インストールウィザード

シュウフク

HPCA Agent, 52

インストール プログラム

HPCA Agent, 28

[インストール] ボタン, 120, 201

インストール ウィザード

削除

HPCA Agent, 46

変更

HPCA Agent, 53

インストール延期を許可, 221, 224

インストールされた .NET, 45

インストール時に切断, 150

[インストール日] カラム, 205

インストール延期, 224

インターネット プロキシ, 58

インターネットプロキシ URI, 95

インターネット プロキシの検出, 58
インターネット プロキシの検出, 58, 109, 207
インターネット プロキシを使用する, 58

え

エージェント セルフ メンテナンス
COP

 HPCA Configuration Server, 92

エージェント オブジェクト, 定義, 229

延期

 アプリケーション, 222

 インストール, 224

 更新, 224

 最大回数, 223

延期アクション, 223

延期オプション, 224

エンド ツー エンドなライフサイクル管理, 17

お

オーディエンス リスト, 186

オーディエンス リスト

 作成, 186

[オーディエンス リストの詳細] 領域, 186

[オーナー カタログ] ラム, 205

オブジェクト

 定義, 229

 プロパティ設定の上書き, 55

オプションのサービス, 定義, 230

か

解決, 定義, 19, 61, 230

[価格] カラム, 205

[拡張情報] ボタン, 120

拡張情報を表示, 210

カスタマ サポート, 8

仮想カタログ, 200

カタログ

 仮想, 200

 選択, 200

 リフレッシュ, 199

カタログ グループ名, 147

カタログ リスト, 200

カタログ解決後スクリプト, 107

カタログ処理, ローカル, 131

カタログでサービスを表示, 149

管理アプリケーション. (HPCA Agent)

管理インストール ポイント

 定義, 230

管理対象デバイス定義, 19

簡略名, 148, 224

き

[キャンセル] ボタン, 120

く

クライアント. (HPCA Agent), (HPCA Agent)

クライアント オペレーション プロファイル, 38,
163

クラス

 定義, 230

クラス, 定義, 21

クラス接続, 98

クラス接続変数, 定義, 230

クリーンなコンピュータ, 定義, 231

グリッド線を表示, 205

グループ

 サービスへの接続, 86

作成, 83

グローバル ツールバー, 199

け

警告アプリケーション, 222

警告管理クラス, 90, 103

警告タイムアウト, 224

警告メッセージ, 223

警告モード, 221, 223

[検証] ボタン, 120, 201

[検証日] カラム, 206

権利の制限, 2

こ

更新アプリケーション イベント, 133

更新延期, 224

更新延期を許可, 224

[更新] タン, 120, 201

コマンドライン

インストール

 HPCA Agent, 39

 サイレント インストール, 43

コマンドライン

削除

 HPCA Agent, 46

修復

 HPCA Agent, 52

変更

 HPCA Agent インストール, 53

コンソールの情報パネル, 217

コンソールのステータス メッセージ領域, 217

コンソールのステータス領域, 217

コンソールのバンド幅設定, 217

コンソールのボタン バー, 217

コンポーネント クラス, 定義, 231

コンポーネント コンテキストの設定

 HPCA Admin CSDB Editor, 125

 HPCA Admin Publisher, 125

さ

サーバー アクセス プロファイル, 91, 93, 106

サーバー アクセス プロファイル クラス, 91

サービス

 許可, 130

 グループへの接続, 86

 定義, 231

 配布, 129, 156

サービス インストール メソッド, 146

サービス グループ, 129

サービス リスト, 201

 [インストール] ボタン, 201

 オプション, 203

サービス, 定義, 19

サービス解決ロール

 COP

 HPCA Configuration Server, 92

サービス検証メソッド, 147

サービス更新メソッド, 147

サービス削除メソッド, 147

サービス修復メソッド, 147

サービス初期化メソッド, 146

サービスの作成の指示, 146

サービスのマルチキャスト有効, 151

サービス名/説明, 146

サービス リスト

 [更新] ボタン, 201

 カラムの削除, 205

 カラムの追加, 204

- [検証] ボタン, 201
- [再設定] ボタン, 201
- [削除] ボタン, 201
- [修復] ボタン, 201
- [ダウンロードのみ] ボタン, 201
- [展開/折りたたむ] ボタン, 201
- [元に戻す] ボタン, 202
- サービス リストからのカラムの削除, 205
- サービス リストへのカラムの追加, 204
- サービスを配布する, 156
- 再試行のステータス, 193
- 最初にカタログをリフレッシュ, 101
- [サイズ] カラム, 205
- 再設定の有効化, 149
- [再設定] ボタン, 120, 201
- サイド バー, 199
- [再パブリッシュ日] カラム, 205
- サイレント インストール, 41
 - コマンドライン, 43
- 削除
 - HPCA agent
 - コマンドライン, 46
 - HPCA Agent
 - インストール ウィザード, 46
- [削除] ボタン, 31, 120, 201
- 削除アプリケーション イベント, 132
- 削除オプション, 46
- 削除動作, 149
- [作成者] カラム, 205
- 作成者名, 147
- サブスクライバ
 - 通知, 184
- サブスクライバ, 定義, 19

し

- しきい値警告サイズ
 - 下限, 223
 - 上限, 223
- しきい値警告サイズ下限, 223
- しきい値警告サイズ上限, 223
- 式の解決メソッド, 145
- 式変数, 定義, 231
- 事後設定解決スクリプト, 107
- システム アカウントでのインストール, 151
- システム トレイ アイコン, 121
- システム ファイル保護
 - 定義, 231
- システム要件
 - HPCA Agent インストール, 28
- 事前設定解決スクリプト, 107
- 自動適応, 149
- 修復
 - HPCA Agent
 - インストール ウィザード, 52
 - コマンドライン, 52
- [修復] オプション, 52
- [修復] ボタン, 120, 201
- 修復アプリケーション イベント, 133
- 周辺機器のスキャン, 114
- [使用可能なカラム] リスト ボックス, 204
- 詳細なオペレーションを表示, 205
- ジョブ
 - 定義, 156
- シンクライアント, 47
 - Windows CE
 - HPCA Agent, 49
 - Windows XPE

- HPCA Agent, 48
 - サイレント モード, 48
- インストール
 - HPCA Agent, 47
- 診断クラス, 90, 111
- 診断クラス接続, 98
- 進捗表示, 150
- シンボリック置換, 定義, 231
- シンボル, 定義, 232

す

- スクリプト
 - ブレインストール, 54
 - ポストインストール, 56
- [スケジュールされたイベント] ボタン, 121
- スケジュール配布, 169
- [ステータス] カラム, 206
- [ステータス] ウィンドウ
 - ドッキング, 209
 - ドッキング解除, 209
- [ステータス] ウィンドウのドッキング解除, 209
- [ステータス] ボタン, 208
- ストリーミングを有効にする, 95
- すべての SAP に対して ping を実行, 106
- すべてのロール
 - COP
 - HPCA Configuration Server, 93
- スロットリング, 207

せ

- 制限時間パラメータ, 175
- 製品フィルタ, 96
- セカンダリ SAP 優先度, 106

- セキュリティ, 198
- セッション, 定義, 232
- 接続オプション, 206
- 接続後スクリプト, 108
- 接続の延期設定クラス, 90, 104
- 設定クラス, 定義, 233
- [設定] ボタン, 200
- [説明] カラム, 205
- 前回の SAP を使用する, 106
- 選択優先度, 95
- [全般オプション] ウィンドウ, 202

そ

- 属性
 - 定義, 233
- 属性, 定義, 21
- 属性プロパティ, 定義, 233
- ソフト リポート, 133
- ソフトウェア
 - 検証, 212
 - 再設定, 212
 - 削除, 213
 - 修復, 212
- ソフトウェア, 配布, 156
- ソフトウェアの検証, 212
- ソフトウェアの再設定, 212
- ソフトウェアの削除, 213
- ソフトウェアの修復, 212
- 存続時間, 96, 110

た

- ターゲット デバイス, 定義, 19

ダイアログ処理, 148
対象者リスト
 定義, 229
ダイナミック スキャン, 114
ダイナミック スキャン インスタンス, 115
タイマー
 作成, 169
 設定, 174
 セルフ メンテナンス, 181
 テスト, 183
 トラブルシューティング, 181
 配布のテスト, 181
 ログ, 184
 ロケーション, 184
タイマー, 定義, 233
タイマー期限, 179
タイムアウト アクション, 224
タイムアウト時のアクション, 224
[ダウンロード] ボタン, 120
ダウンロード再開しきい値, 151
[ダウンロードのみ] タン, 201

ち

チェックポイントの再開, 109
著作権, 2

つ

通信タイムアウト, 108
通信のトレース, 112
通知
 オーディエンス リスト
 作成する, 186
 開始, 186
 再試行のステータス, 193

定義, 233
要件, 185

通知セキュリティ クラス, 91, 116
通知タイプ, 186
[通知の詳細] ダイアログ ボックス, 191

て

[停止] ボタン, 120
ディスク スペース容量の下限, 109
ディスクに占めるキャッシュの割合の上限, 150
データ ダウンロード ロール, 93
COP
 HPCA Configuration Server, 93
データ収集
 WMI, 114
データを収集する WMI, 114
適応クライアント オートメーション, 17
テクニカル サポート, 8
デバイス, 定義, 18
デフォルト SAP を使用する, 108
デフォルト ポート, 47
 HPCA Agent, 47
デフォルトの SAP ロール, 109
[展開/折りたたむ] ボタン, 201
転送
 定義, 233

と

ドキュメントの更新, 4
ドキュメントの変更点, 4
ドキュメントへの更新点, 4
ドッキングされた [ステータス] ウィンドウ, 209
ドメイン

定義, 234
ドメイン, 定義, 21
DDN. ドラッグアンドドロップ通知
ドラッグアンドドロップ通知, 185
Wake-On-LAN, 193
作成, 188
トラフィックに適応, 207
トレース レベル, 112

な

内部認証オプション, 116
[名前] カラム, 205

ね

ネットワーク バンド幅しきい値, 223
ネットワーク ロケーションクラス, 91
ネットワークしきい値
速度, 221
ネットワーク情報, 114
ネットワークの存続時間, 96, 110

は

[バージョン] カラム, 206
バージョン グループ, 135, 136
編集, 142
バージョン グループ エディタ, 137
バージョン管理されたアプリケーション, 準備,
137
バージョン グループ
サービスへの接続, 142
作成, 138
定義, 234
配布の準備, 140

バージョンのアクティブ化アプリケーション イ
ベント, 133

バージョンの説明, 147

ハードリポート, 133

ハードウェア スキャン オプション, 112

ハードウェア スキャン設定クラス, 91

ハードウェア クラス接続, 98

バイト レベルの差異計算
定義, 234

配布

テスト, 157

方法

HPCA スケジューラ, 156, 167

HPCA 通知, 156, 184

配布先, 定義, 20

配布戦略, スケジュール済み, 169

配布方法

HPCA スケジューラ, 167

HPCA 通知, 184

配布元, 定義, 20

パスワード認証, 198

パッケージ

定義, 20, 234

パッケージ, 定義, 19

パッケージの転送, 233

パブリッシュ, 定義, 234

[パブリッシュ日] カラム, 205

パラメータの追加, 164

バンド幅

スロットリング, 207

予約, 207

バンド幅スロットリング, 108, 208, 217

バンド幅チェックポイントの再開, 109

バンド幅のスライダ, 208

バンド幅の設定, 調整, 208

バンド幅の割合, 95, 108

バンド幅を予約, 207

ひ

非管理動作, 149

必須サービス, 定義, 234

必要ディスク容量, 44

必要なカラム, 119

[表示するカラム] リスト ボックス, 205

ふ

ファイル

定義, 234

ファイル, 定義, 21

フィルタ式, 96

複数のリポート イベント, 135

プッシュバック, 106

プリンタのスキャン, 114

プレインストール スクリプト, 30, 33, 54

プロキシアドレスを検出, 120

プロキシ サーバーのアドレス, 120

プロキシ サーバーのポート, 120

へ

ベース インスタンス

定義, 235

変更

HPCA Agent インストール

インストール ウィザード, 53

コマンドライン, 53

[変更] オプション, 53

変数, 定義, 235

[ベンダー] カラム, 206

ベンダー名, 147

ほ

放棄動作, 149

法定の通知, 2

権利の制限, 2

著作権, 2

保証, 2

[ホーム] ボタン, 200

保証, 2

ポストインストール スクリプト, 30, 33, 56

ポリシー, 定義, 19, 235

ポリシー ベースの管理, 17

ま

[マイ ソフトウェア] ボタン, 200

マシン/ユーザー コンテキスト, 124

マシン接続でのリポート, 134

マシン接続とユーザー接続の両方でのリポート,
134

マシン設定, 126

む

無人状態のコンピュータ

定義, 235

め

メソッド, 定義, 235

メソッド変数, 定義, 235

MAC. メディア アクセス制御

メディア アクセス制御, 194

メンテナンスのアクティブ化, 109

も

[元に戻す] タン, 120, 202

ゆ

ユーザー

グループに割り当てる, 84
作成, 83

ユーザー アカウントでのインストール, 151

ユーザー インターフェイス オプション, 117

ユーザー, 定義, 19

ユーザー接続のみでのレポート, 134

ユーザー設定, 126

[ユーザーの設定] ウィンドウ, 34

よ

要求ステート

構成要素, 20

要求ステート, 17

要求ステート, 定義, 18, 236

用語, 18

要素のキャッシング, 150

り

リソース, 定義, 236

リポート

イベント, 132
修飾子, 132, 133

タイプ, 132, 133

複数のイベント, 135

リポート修飾子, 135

リポートなし, 133

リモート ドライブ, 114

リモート通知アンインストールを許可する, 109

[履歴] ボタン, 208

れ

レポート ロール

COP

HPCA Configuration Server, 93

レポート オブジェクトの送信, 110

レポートするイベント, 148

ろ

ローカル ドライブ, 114

ローカル AIP, 有効化, 57

ローカル カタログ処理, 131

ローカル修復, 149

ローカルでスケジュールを更新, 147

[ローカルの修復] カラム, 205

ログ, タイマー, 184

ログオン スクリプト, HPCA Agent をインストールする, 42

ロック ファイル アプリケーション イベント, 133